

# 地名研究会報

田平

第13号

昭和61年9月7日

I. 第13回例会 昭和61年6月1日(日)

(出席者) 池田信夫・江之口汎生・片岡八郎・木場武則・鷲島逸郎・下野敏見・西園一俊・平田信芳・二見剛史・本田親虎・松田 誠・山口静也・山崎盛隆(計13名)

II. 豊藩名勝考読会 P. 41~P. 46

(問題となった地名および事項) 川内

川内(せんだい)

平田 木場先生、どうですか。「川内」と書いたのは、いつ頃のものが古いのですか。

木場 中世の頃から「川内」と書いたのが出て来ます。正式に「川内」と表記が決まったのは享保年間でしょうが。

平田 川内という地名については、以前、国府所在地に「センダイ」という地名が多いことを指摘したことがあります。奥州仙台・駿河国千代・尾張国

千代・美作国千代・伯耆国千代川などがその例になります。国府の別名とするには、まだ、その決め手をつかめずにいるのですが。最近、いろいろ本を読む中に、中世に「千台御前」という女性の名前がよく出て来ることに気付きました。国府の所在地近辺には有力者がいたですから、千台という名の女性が持った土地があっても不思議ではないなと考えたりもします。そう解釈すれば、所有者の名から

「センダイ」という地名が起ったとも考えられます。地名の由来としては、あり得ることで、国府周辺には「千台」という名の有力な女性がいたでしょうから。国府の所在地と、それが偶然に一致するのか、また「千台」という名の女性名がいつ頃流行するものかを、今後調べてみようとは思っているのですが。

山崎 「センダイ」は、どんな文字ですか。

平田 千台です。川内を「センダイ」と読むようになったのは、巣山(すやま)に川内山称名寺とい

う寺があったことが知られていますが、戦国時代には「センダイ」という地名はあったと思われます。川内を山号にひっかけて「センダイ」と読むよう

なり、それが一般的になったと考えられるのです。

山崎 その寺はどこにあるのですか。さっき云われた国府? 鹿児島県の川内ですか。

平田 今の話は、薩摩の「センダイ」です。巣山というのは、川内の入口の左の方ですね。

木場 そうですね。山称名寺の跡に玉竜山福昌寺が移転している)。

山崎 その寺のことは何か判りませんか。(川内山称名寺の跡に玉竜山福昌寺が移転している)。

本田 中世文書は、ほとんど「千台」じゃないのですか。

木場 いやいや、川内と書いたのもあります。あれは何だったですかね。

平田 20年ぐらい前に調べてそのままなんですが入来文書だったか新田神社文書だったか、中世文書に「千台郡」という表記が出て来ます。私的な郡の呼称です。例えば、宮里郷なのに宮里郡司と云ったりしていますから、千台郡という云い方が起っても不思議ではないのですが。

本田 入来文書にも、入来郡という表現がありま

す。

平田 ああ、そうですか。

### 屋形ヶ原（やかたがはら）

平田 薩摩国府に関係している屋形ヶ原。屋形という云いかたが、いつ頃から出て来るのかということもよく判らないのですが、そんなに古いものではないと思うのです。

本田 屋形ヶ原は、シラスの台地でしょう。あの岡に、なぜ屋形を作ったのでしょうかね。

平田 屋形ヶ原に、ある時期の屋形があったとは思います。二町四方でちょっと狭い所なんですが、土師器とか須恵器の破片の散布が少しは見られました。トレンチを入れなければならぬ所だと思っていましたが、転動になり、いつの間にか壊されてしまい、惜しいことをしたなと思います。

本田 あのような水の便の悪い所に、住みますかね。

平田 シラス台地の上で、確かに水の便の悪い所ですが、うしろの岡の所に水があったのかも知れません。

### 霧島神社

二見 霧島神社が方々にあったというのは、どうしたことなんでしょうか。

平田 霧島神というは大隅国の有力神でしょから拡がっているのでしょうか。江之口さん、この前、霧島神のことを云つてたけど、その辺は？

江之口 霧島は、いわゆる現在どこにでもある霧島神社と、本来の霧島とはやっぱり違うようです。本来の霧島というのは、以前、一度話しましたが、要するに噴火を鎮めるための鎮魂のための信仰で、現在あっちこっちにある霧島というのは山伏が弘めたものではないかと見てゐるのですが。なにも霧島ばかりではないわけですから。

江之口 もどへ戻りますが、私も地元ですから、

「センダイ」に興味をもっております。資料だけ集めて5年ぐらいそのままで正確なことは云えませんが、現在判っているのは鹿児島のセンダイ（千台）が一番古いようです。正確じゃないのですが1200年代に千台が出て来ます。それが現在判っている限り全国で最古の記録になります。新田宮がその昔の千台の宮だということを書いた文章がありますが、それが最も古くて、その次は尾張でしたか。尾張の稻

沢市に千代という所があります。そこは面白いんですね、神社が千代（センダイ）神社、郵便局は千代田（チヨダ）郵便局、千代（センダイ）と千代（チヨ）と千代田（チヨダ）の三つがあり、現在も併記されています。またその辺は伊勢の御領（荘園）；御厨があった所で、最初は千代（チヨ）で出て来ます。先程、平田先生も云われたのですが、どうも最初から「センダイ」だったのではなくて「チヨ」のようです。この「チヨ」というのは引っ掛かるのですが。これが千台よりも約百年ぐらい後、1300年代の史料になると思います。埼玉県に江南村という所があって、そこにも千代（センダイ）があります。

これもだいぶ古かったような気がします。そういうことで、今のところで判っているのは、鹿児島の「センダイ（千台）」が一番古いということ。どうもいろいろな所の「センダイ」を追求してみてやっぱり「チヨ」がスタートではないかなというような感じを持っています。以前、各地の資料を集め手元にはあるのですが、そのまま放ったらかしです。頭の中もちょっと正確ではないのですが、「センダイ」にはそういうような歴史的な意味があるようです。

平田 今を補足しますと、国府の所在地に千代（センダイ）とか千代（チヨ）という地名が多いのです。「チヨ」と呼んだ場合には、国衙の「庁」とみられ、その意味で千代は国衙の「庁」から來ている地名ではないかというのが、今までの歴史地理学

者の考え方です。この前、川内での巡検の時に話をしましたが、鹿児島県にある帖佐の「帖」とか、志布志の帖とか、これも「庁」に由来するとみなすと検討を必要とする地名になると思うのです。それから川内（センダイ）というのは音訓みの地名です。音訓みの地名というのはどんなに古く遡ってもせいぜい奈良時代までで、それ以前にはいかない。音訓みの地名というのは、新しいとみなしてよい。だから、先程、「チヨ」が本来で、それを音訓みにして「センダイ」というようになったんじゃないかという解釈が普通のようですが。もっとも「庁」も音訓みですが。たださっき云いましたが、中世の古文書に「千台」という女性名がたくさん出て来るようにちょっと引っ掛かっています。

江之口 先程の補足ですが、稻沢の場合、千代御園（チヨミソノ）という形で最初は出て来ます。そして確か稻沢市史の中に、千代（チヨ）氏文書というものが収録されています。千代氏という人物が出て来るようにです。静岡県にも千代（センダイ）氏という苗字があり、今は知りませんが昔は市会議員をされた方が居たようです。そこにも千代氏文書というのがあって、静岡市史の史料集の中に出ていたようです。そこのはあまり古くないのですけども。千代

と書いて「センダイ」と読みます。

平田 確かに「センダイ」という地名は難しいですね。

江之口 簡単に解いてしまうと面白くないから、やはり夢を残して、結論を出さない方が無難だと思います。

平田 夢を残しますか。

二見 「センダイ」は、現在、川内と書きますよね。「内」がついているのは、なにかアイヌ語と関係があると聞いたことがあるのですが。

江之口 山田秀三先生などが東北のアイヌ語地名の研究をされていますが、こちらはそういう必要はないと思います。あくまで字は仮字であり、標識ですから、「内」だからといって、どういうことでもない。東北方面では別（ベツ）とか内（ナイ）というのはアイヌ語として見れば、確かにそう云えると思います。ただ、こっちはどうでしょうかね。そのような考え方が、即、こっちにも通用するというようなのは、ちょっと難しいのではないかと思います。

平田 他にありませんか。なかったら、後半に時間を余計に取りましょう。後半は枕崎の地名についてです。

### 枕崎の地名あれこれ

山崎 盛隆

枕崎の山崎です。よろしくお願ひします。電話を頂きまして、題名だけはすらーと行ったんですけど、それから一ヶ月間あっちこっち駆けずり回って資料を少し集めてきました。下手に講釈するよりも先ず資料を提供するのが先だと考えたからです。市役所で字の実測図を貰いましたが、読み方の判らないのが多いですから、さらに資料を探しました。図書館に『枕崎の字と地番』というのがあります。

したが、それにも振り仮名がないんですから、振り仮名はないかと探しましたら、電算室にあるということでした。電算室から振り仮名を貰ったんですけれども、これがただカタカナだけで、漢字との対がないんですから、図書館の資料やらと併せて振り仮名を打ってみました。ノートで30数ページになりました、コピーしたら、B-4で15ページになったんですから、資料を何枚でしょうかと聞いたら

ちょっと多かったので準備するのをあきらめました。これくらいの人数なら焼いて持って来ればよかったですと思って、さっさから後悔しております。

最初、地図を見て頂いて、それをもとに話を進めたいと思います。私の話は独断と偏見と仮説だらけですから、最初からそのつもりでお聞き下さい。

(枕崎) 枕崎については小川先生が以前発表されておられるので、私は鹿児島水産高校が昭和10年に出した『枕崎の史と伝説』という非常に良い冊子をもとに話したいと思います。もちろん市史などにも出ては来ますが、枕崎の伝説・地名を紹介したものとしては、これが一番よくまとまっていると思います。ちょっと読んでみます。「枕崎の湾内の近瀬」という瀬の所に、神様が枕に乗って流れて来られました。その枕が着いたあたりを土地の人たちは枕崎と呼びました。それ以来、枕崎という地名が付いたということですね。この地図で枕崎字を云いますと枕崎港とあって、その右に錨の印があり、港町があります。港町の所に四角の黒い点がありますが、この道路一帯を、字「枕崎」と言います。水上警察署付近の直線道路 100メートル～200メートルの海岸一帯だけが、字「枕崎」になっております。市街地の古老の方々も「枕崎へ行たっくって」というような表現をされます。私はちょっと農村の方に住んでいますが、農村の方から枕崎といえば市街地を意味しますが、市街地の中でもやはり「枕崎へ行く」と表現しています。港町の付近へ行く時には、「枕崎へ行たっくって」というように云っていたということです。ですから、大字枕崎の中に、枕崎があつたということにして、まあ意味としては、小さな瀬という意味だらうと思います。それあたりから枕崎という地名が出て来たのだろうと思います。

(耳取) いつも出て来るのが耳取。地図ではちょっと坊之津の方になっております。向って左側；西側に、耳取岬と書いてありますが、これは新し

い耳取岬で、本来の耳取岬はそのすぐ北にあります。宗前岳（ソウゼンダケ）へ坊之津の方から通じている所がありますが、ちょっと 1センチばかり上方に通っている道路。ここが本来の耳取岬です。耳取岬というのは、まあ、「縁取り」というか「山の縁を削ったかなんかして、道路を作った」その土木の工法というか、そういうところから耳取岬になっているんじゃないかなと思います。たとえば砂取場という地名がありますが、それと同類で、ちょっと削ったりした場所に出来た地名じゃないかと思います。この地図で云えば、番屋山（バンヤヤマ）を縁取りするというか、耳をちょっと削って岬を通したというような感じの名前だらうと私流に考え、そう解釈しています。

(春日) 春日といえば普通は信仰地名ですから、春日神社があったわけです。昔、栗野小学校におられた校長先生がまとめられたものがあり、南日本新聞にも出ていましたが、この春日神社がよく判りません。その先生に電話をして確かめてみましたが、正確に春日神社があったという場所は特定しておられません。一般的に春日といえば藤原氏の氏神で、春日神社があったからということになるのでしょうか。あるいは一条院との関係で一時あったからといふことなんだろうと思うんですけども、枕崎の春日の場合は、実際に神社があったかどうかというところまで突きとめておりません。

(宗前) 宗前岳というのが上方にありますが、これは馬の神様「ソウゼン」が付いた地名です。宗前集落というのがあったのですが、何年か前に転出してしまいました。宗前姓というのは市内のあちこちにあります。宗前岳には牧場に関する地名がいろいろあるわけで、宗前岳の裾野を流れている川が馬追川。その東の方に、牧園とあります。それこそ道の北の方になりますが、ここら付近まで牧場があったような話です。小字で云えば馬籠（マゴメ）とか

いろいろ馬に関する名前は、結構残っているようです。

(大堀・大塚) 大塚というのはちょっと判りませんでした。大堀は、堀があったことは確かで、それがこの宗前岳と関係があるのかどうなのか。これ以上、馬が出ないという意味で堀があったのかどうか、地元の郷土史家の方に聞いてみたのですが、その人の記憶としては、堀があったのは憶えているけれども、それは集落に風を入れないための防風林というか、なにかそういう感じで堀があったんじゃないだろうか、馬とは関係ないのではないだろうかという話でした。

(塩屋) 塩屋は、どこにでもある塩屋です。昔、八軒釜があったといわれます。これは、『鹿籠名勝記』という枕崎の資料にあります。昔は釜で炊く方法があり、その後、潟山（ガタヤマ）とか平田潟とかに、塩田法というものが出来たわけです。この地図でいければ、花渡川をのぼって行くと、潟山とか桜木があります。枕崎高校の前のグランドなどは、私なんかの小さい頃は、塩浜グランドと云っていました。この川の一帯に○○潟や○○塩田があったわけです。これは、塩屋と云って、釜を炊くものとは違った製塩法です。製塩法によって潟山・平田潟・塩浜という地名が出来たのだろうと思うのです。

(木場) 木場もどこにでもある地名ですが枕崎の場合、この国見岳を背景にして出て来た地名だらうと思っています。

(山下) 山下。現在私が住んでいる所ですが、桜馬場という所に○○学校の印があります。ここに小学校・中学校があります。これも城山から来ているんだろうと思います。

(湯穴) 湯穴というのはよく判らないのですが、冷泉が現在もあることは確かです。地元の人はなんとなく、冷泉があるからとみています。冷泉というのは山の方からすーっと水を引いて来たものです。

その水も鉄錆が出るようなすごい色をした水なんですけども、それから来た地名だらうと感じております。

(木浦) 西鹿籠で北の方に行きますと、道野があって、すぐ上に上竹中（カミタケナカ）という所があります。ここは、もともと二つの集落がありました。手前の方が木浦（キウラ）で、ちょっと上が鳥越（トリゴエ）という集落なんです。あまりにも戸数が少ないもんですから、最近まとめて上竹中と云っておりますけども、実際は木浦と鳥越です。木浦と鳥越は、この字図の真ん中付近、道路が分れている所にあります。街道下（ケドシタ）とあって、その下に樟脳小屋ヶ谷（シユノゴヤダイ）があります。大正から昭和の始めにかけて樟脳を焼いていたということです。この付近で樟脳を焼いていたのは、地元の中年以上の人は知っているわけで、この樟脳小屋という字は樟脳が出来た所ではなくて、実際はその隣の小字になります。ですから、この樟脳小屋という字が出来たのは、それよりまだ昔のことだろうと思われます。樟脳を焼いていたことについて、いろいろ市史を調べたり、市史を書いた人やら古老やら聞いてみたんですけど、結局は判りませんでした。まあ地元では、昔、ここで樟脳を焼いていたから、そういう地名が出来たんだろうというふうに漠然と思ってる古老の人はいるわけです。そして、大正の頃は樟が足らなくて坊の方へ行ったり、あっちこっち材料を他所まで買いに行って焚きよったそうです。この木浦という小字は、もともとは、ここにありますように木浦木の1とか2とか3となっていますが、この木浦木と樟脳小屋はなんか結び付くんじゃないかと思って聞いてみると「キラッ」という話です。これもこじつけですけども、樟脳をたいていたことに由来するのではないかと思うのです。大島で美人のことを「キラムン」と云いますけど、キヨラかなるものというか、キヨラかな

木というような感じが、樟にあったのではないか。木浦と云っても、これは木にかかる形容詞で、まあキヨラかな木というか、清浄な木というか、そう云った意味の地名、こちらにそういう木がたくさんあったことを示す地名じゃないだろうかと、自分勝手に感じてるわけです。

本田 ちょっと、途中で質問してよろしいでしょうか。入来に清浦（きよら）という地名があるんですね。入来文書では「きよらかわち」と、仮名で書いてあります。この地図と入来の清浦を比べると、同じような地形です。川があるでしょう。真ん中に谷川があって、非常によく似ている。それで、私は入来の清浦も鹿籠の木浦も「キヨラ」じゃないかと思うのです。室町中期の文書には「きよらかわち」とあり、江戸時代のものは木浦川、今は清浦と書きます。福岡ですかね、「教良」という地名があるのは。

平田 キヨウラとかキヨウラギというのがありますね。

本田 京良木とか経良木。京都の京を使ったり、お経の経を使ったり、「キヨウラ」という地名は全国的に多いのでしょうか。だから、同じじゃないかと思うのですが、どうですか。

山崎 ああ、そうですか。

（花渡川） 枕崎の中心を流れているのが花渡川ですが、これについては、まあ俗説というか『鹿籠名勝記』なんかは、桜之城とか桜馬場とあったからだと思います。桜之城のすぐ脇のシラスの崖の下を通ってる川だから、桜の花ビラが渡って、花渡川と呼んだのだという非常に風雅な名前なんです。これはまあ、「街道川」だろうと思って、以前も街道川と云っていたんですけど、今度この『史と伝説』を見てみたら、「花渡川、ともかくは、街道の方言、ケドに沿うた川」という意味から起ったものであろう。そして、桜ヶ城・桜馬場という地名がある

のに縁を借りて、かくのごとき字を当てたものであろう」と、ちゃんとあるんですね。ですから、難儀して考えることはなかったと思っているんです。まあ、これはやっぱり街道川で、街道（ケド）に沿った川という意味だろうと思います。現在、国道270号線とか云っているこの道路は、今でも花渡川に沿っているわけです。

今まで述べたのが、西鹿籠です。

（金山ゆかりの地名） 東鹿籠に行きますと、北の方に金山に関する地名が数多くあります。田布川は小川先生のでは田生川と書いてありますが、私にはタブ川という地名は難しすぎて、よく判りません。東鹿籠の真ん中の下の所に諏訪岡とありますその隣にダンゴ木ノ平とかダンゴ木ノ迫とかあるんですね。諏訪岡の右には、本製場とかあるんですけど、そのそばに団子、団面には正しく書いてくれてあるんですけど、角川の小字一覧とか図書館にある『字と地番』などは団子樋などと書いてあるんですね。ですから電算室の振り仮名はダンゴヒサシと、こっちの方を読んでしまってあるもんだから、なにかおかしくなって来ております。正しいのは団面に載っているもので、ダンゴの迫とか、地元ではダゴン平と呼んでいます。実際は「ヒ」が聞えるか聞えないぐらいですが。「ヒ」というのは金の鉱脈がある所を云うんだそうです。金山に行って聞きましたら、「諏訪ビ」とか「ヒ」に一つ一つ名前が付いているんだと云うことでした。「ダンゴヒ」というのは、「ヒ」が団子みたいにたくさんかたまって採れる所で、「本製場」というのも、金の製錬かなにかした所らしいのです。ここが、まあ云えば、一番、金がたくさん出て、鹿籠金山を支えた所というか、なにかそういうふうに理解しているようでした。

金山のすぐ上に木口屋（キグチヤ）という集落があるんですけども、これは金山に入る出入りの人を調べる所で、ヒグチヤ；口屋の意味。これが東の一

方の入口です。西の方は金山のすぐ西の集落の所にあるんですが、こちらは口屋馬場（クッチャンババ）といわれる所があるということでした。この『史と伝説』には、両方に口屋があり、このヒグチヤの方には大きな木があったもんだから、片方の方は木口屋にしたんだというようなことが書いてありました。この金山に大山祇神社というのがありますと、ここに元禄年間の、その時の結衆で奉納した太鼓があります。それを見ると、やはり口屋検査川上とか口屋改とか、口屋という文字が出て来るんですね。ですから、そういう口伝えも間違いないなと思っています。それにも口屋という文字も出て来ました。

（山口・宇都・小園） 山口は、ウシキ山に行く山口なんでしょうけど、この松下とか、ここらは。ああ、松下は載っていないか。宇都はまあどこでもある宇都地形の宇都だろうと思います。小園（コゾノ）は判りません。

（宝寿庵） 宝寿庵（ホウジュアン）というのが、なかなか判らなくて、なんか庵があったんじゃないかなと思って昔から気にはとめておったんですけど、『史と伝説』を見ますと、昔、宝寿園屋敷というのがあったんだと、寺の跡ではないかといわれている、というような伝説が載っていました。年配の人聞いてみると、そこの畑に行って座ったら、その日のうちに、なんか腹が痛くなって、その人は亡くなつたそうです。ですから、そこにはなにかあったんだが、ということでした。この宝寿庵というのは、今の私の所、南方神社というのですが、その別当寺というのが宝寿山神護院というものです。ですから、南方神社の別当寺の山号が宝寿山（ホウシュザン）神護院（シンゴイン）ということになります。

（鹿籠） 肝腎な鹿籠ですけれども、鹿籠というのはここにありますように、「嘉吉村」というのが

貞久の時の譲状に出て来て、これが最初だといわれております。東鹿籠、この地図では4枚目ですね、東鹿籠の字の南の方、向って一番左側の花渡川に沿った所、ここに「船小屋（フナゴヤ）」という所があります。城山のずっと南側に、船小屋とか船小屋前という地名がありまして、これから国道を川辺の方へちょっと行きますと小園（コゾノ）があります、小園の下に船落シ（フナオトシ）という字があります。船落シ・船小屋というのは、まあ、対の字だと思います。小園の上の岡というか、森あたりで船を造って、中州川（ナカスガワ）という川の方へ落して、船小屋の方へ持って来たんだというような伝えになってるわけです。

鹿籠というのは水夫（カゴ）で、やっぱり水夫というか、その水車のことなんだろうと自分勝手には思ってるんですけども。だから、水車の集団が昔あったとすれば、今の沿海の漁業というのにも結構は繋がって来たんじゃないかなというふうに感じてるんですけども。

籠原（カゴハラ）というのは、別だろうと思います。籠原の東の方に、籠原洞穴なんていうのがあるみたいで、籠原（カゴバイ）の方は岩の洞穴から出た名前なんじゃないかなというふうに思っています。

（亀沢） この亀沢がなかなか。亀（龜）沢という名前から行けば、昔、粘土でもこねておって、まあ沢があって、ということなんんですけども。とにかくここまで入江があったことは、この字絵図から見てても判ります。大字枕崎の所にも西亀沢とか、亀ヶケ川内とか、亀ヶ沢津牟田とあります。この側に宮ノ岳塩入とか平田堀・平田堀塩入とかあり、この村近まで塩田であったり、波打ち際であって、津・沢津になっていた、そういう所なんだろうと思います。このカメというのは、なんのカメかは、ちょっと判つておりませんけれども、最近まで亀沢というのは、

沼地というか、そういう所が残っている所です。

(内侍田) 今、この図面で気が付いたんですが、この図面は正しくなってるんですけども、図書館のやら角川なんかは内侍田と書いたりもんだから、電算室の振り仮名は「ウチマチダ」です。(笑)。これも市役所の古い人に聞いたりしても、いや、内侍田だと云って聞かんもんだから、地元の人に云つたら、「いや、あんたあ内侍田というけど、自分たちは内侍田(ナイシデン)と云うんだと。あれは間違いなんだよ」と云ってくれて、ほっとしてるんです。この内侍田は、すぐ側に妙見神社があります。宮脇なんかも出て来るんで、その関係だろうと思っています。

(妙見) 妙見という字もあるんですが、その側に星ヶ崎という地名もあるんですね。苗字も星崎さんという方がおります。妙見は北斗七星というか、神仏混淆で星の信仰でもあって、星ヶ崎と妙見がなにか関係があるんだろうかと、小字を見ながら考えています。

(遊行橋) この星ヶ崎の上には遊行(ユウコウ)橋というのがあるんですけど。

平田 それは遊行(ユギョウ)でしょう。

山崎 ユギョウですか。

平田 遊行上人に因む地名。

山崎 これをユゲ橋といふ人もいるし、インキヨ橋といふ人もいるんですね。インキヨ橋といふのは大きな橋に対しての小さな橋で、隠居橋といふうに理解している人もいます。私は、ユゲ橋と聞いた時には、弓削橋かと思ったのですけど、地元ではユゲ橋とは云わないとのことだったので追求はしていません。

(美初) 美初はなにか、新聞のコラムでは、金山の鉱夫が地元の女に見始めたからだというような話が出ましたけども、私の感じでは、尻無川の上流が美初川で、水沢目；水の沢がざわめくというところ

から来た地名で、それが美初川と書かれ、美初川から見初めという話が出て来たんだろうと思います。ここには滝があって、滝ノ元とか、滝に関する小字もあります。音の出る川だったので水染川というような地名が付いて、それが今の集落名になったんだろうというふうに思います。美初という小字はないようですけれども、これは川から来た集落名だと思います。

(瀬戸) 大字別府の方の地名、地図で云えば東の方ですけど。まず、瀬戸。瀬戸と書いた道路の所に堀切というか川。道路をはさんでる図があるので、これだろうと思うのですが。

(下山・板敷・俵積田) ちょっと北の方に、下山という所、下山岳(サガヤマダケ)という山がありまして、ここは伝説がいろいろあります。下山岳といふのは、宣化天皇を祀ってるんですけれども。昔別府の海岸、唐浜(カラハマ)という所に宣化天皇が沖縄に行っての帰りかなんかに遭難して漂着し、その時、板につかまってたと。そして、あがって来て、海岸付近に住んだという話。それから、唐の人が板敷に住んだというのもあるし、もう一つはその宣化天皇が俵積田(タワラツミダ)のちょっと西の方の御殿(ゴッデン)という所に住んで、亡くなつた時に下山岳に靈を祀ったという話。下山岳からちょっと下った所が下山集落です。伝説は二つとも同じもんなんでしょうか。

下山にあるのは今嶽神社。板敷はそういうふうに標示した人が板につかまっていたとか、板に座つたとか云つて、板敷の名が付いたという話です。そして、宣化天皇が来て、この俵積田の西の方に御殿を築き、その御殿の所にお米を三百人分、俵を積んだので俵積田という名前が出たんだと、そういう伝説があります。

板敷・豊留というのは、もともと枕崎の中では、ちょっと生活習慣が違つてると云つてられて

いる所で、石垣を高くめぐらすとか、言葉が違うとか、結婚する時も自分の集落内でするとか、まあ、いろんなことが云われております。中に、鎌倉屋敷という古い五輪塔があって、そこらも、平氏だけれども源氏の追手を逃れて、鎌倉屋敷というふうに名前をかえてここに逃げてたんだとか、いろいろな話があります。ある意味では非常に興味深い所です。

昔、遭難した人たちが板敷に住みついたことは間違いないだろと思ひます。それが宣化天皇であったか、唐から来た人か、そこらは判らないわけですけれども。あれは誰ですかね、まあ、沖縄だろうという話があり、私もそこらなんだろうと思っております。沖縄の人が石垣をめぐらすとか板敷の生活というか、なにかそんな生活習慣があり、地元の人にとっては珍しい習慣があったのかも知れません。

(豊留) 板敷の中に、豊留と板敷とあるんです。今は亡くなられたんですが、地元の郷土史家の方で、図田帳の中目、これなんと読むのか判りませんけども、これがここじゃないかと云っています。もともと板敷といふのは、いろんな伝説といふか、いろんなものがあるもんだから。この中目、チュウトミかなんか読みはちょっとはっきりしませんが、これはここじゃないだろかという人がおります。こっちの方に詳しい方がおられたら教えて頂きたいと思って出てきました。

(今嶽) 下山岳を今嶽ともいいますけど。下山の西の茅野(カヤノ)に行った時に、あの山はなんて云うのですかと聞いたら、今嶽(イマダケ)だと云つたことがあったんですね、地元の人が。それで今嶽といふのは、茅野の方から見たら、今嶽といふか、険しい山に見えるわけですね。下山の方から見ると、むしろ烏帽子岳といふか、険しい山には全然山の形が見えないわけですね。ですから、今嶽といふのは、西側の人が付けた名前だろかというふうに

思っております。今嶽という山の名をこれ以外に知ってる人がありましたら、教えて頂きたいと思いました。

(門と苗字) 楠とかなんとかやり出したら、また長くなるので、一旦ここで。ああ、ちょっと。84門を市史から抜いて来たのがありますけど、それを説明します。最初、門の名前があって、カッコを入れてあるのは苗字です。その門の乙名どんですかね、そこだけは苗字を変えたといいます。カッコが二つ続いている所は大体そういう所です。例えば、先程の板敷で云いますと、板敷門の人たちは板敷を名乗っているけども、そこの名頭の人だけは板元という姓をとて、あとは板敷をとった。俵積田も、積山というものがそれで、あの人は俵積田という姓になつたという、そういう感じです。一番下に清水(シミズ)屋敷と書いてありますけど、昔は「キヨミズ」と云つたそうです。清水(キヨミズ)姓を名乗っている人しか知らないようでした。

#### (質疑応答)

平田 枕崎に住んでおられて、ずっと枕崎の地名を調べておられる山崎さんから、いろいろ説明を頂きました。珍しい名前を聞けて有難かったと思います。なにか質問がありましたら、遠慮なく出してください。

江之口 集落地名を書いたこの地図。水流と思うのですが、この地図のルビを見ると「いる」のようですが、これはこう読むのですか。

山崎 あー、これは間違いでしきうね。「いる」となっているみたいですね。

江之口 「つる」で良いのですか。

山崎 そうですね。「つる」ですね。

江之口 それと、木浦。これは、集落地名としては、木浦地といふのがあるわけですね。

山崎 木浦(キウラ)と云います。木浦地とは云

いません。地元の人は、普通「キウラ」と云います。苗字も木浦ですから。

江之口 それから、この花渡川というはどうも引っかかるのですが、まぁ、川は大体川の上に道路が出来るのは当り前で、それが単なる地名の由来とは。もう少し考えなければいけないのではないかと、私は思うのですけども。もしそれであれば、あっちこっちにケド川というのはあっても良いような気がするわけです。いかがなものでしょうか。

平田 うーん、「ケド」は説明があった通り街道でしょうね。川の名前をね、皆、道路沿いの川を街道川と付けたとは限らないんで、その人たちが街道沿いの川と、たまたま名前を付けたかも知れないのですよね。だから、あっちこっちに付いても当然じゃないかというのは、ちょっと云えないんじゃないかな。

山崎 枕崎の川は、この花渡川と、宗前の方のこっちは馬追川になっているわけです。川笠（カワオロ）で、それこそ馬追いをしたんだから馬追川。そして、岩戸に流れて来るのを尻無（シナシ）川といいます。水が伏流するというやつですね。途中から尻がわからなくなるというので、尻無川。それに先程云いました尻無川の上流の美初川です。

江之口 一般に「ケド」といえば、牧場に関係してますよね。高城川の地名も、ケドグチとかケドとかなりそういうのは出て来るみたいで。

平田 牧場の入口という解釈が従来のものです。

木場 やはり牧場の関係じゃないですかね。

平田 他にありませんか。

二見 平田先生の説にも関係するのですが、美初なんてのは。

平田 見初めたというものでしょう。それから溝辺が出て来たと、従来云われていたこと。

二見 豊玉神社がこの近くにも、知覧の方なん

しょうけど。信仰とか伝説にかかわる大きなそういう見初の意味はないでしょうか。

平田 神話に關係して、神様がある女性を見初めたという伝説にもとづく見初・見染という地名はあり得るでしょうが、見初が溝辺に変ったとなると、非常に飛躍になるわけです。

二見 この美初川には、そういう伝説みたいなものはないでしょうか。

山崎 先程云ったように、金を掘りに来た鉱夫が地元の娘さんを見初めたという話はあります。しかし、そういうのはこれ（地名）を見ての後の人こじつけだ、と思います。そういったこじつけでは、取るに足りないというふうに感じてるんですけど。

二見 ものの名前（地名）に付くぐらいだから、偶然ではなくて、昔からなにか理由があってのことと思うのですが。

山崎 うーん、だから、音がしどとったからで、そういうロマンチックなものでなくて、現実的な生活感覚から、水沢目（ミズサワメ）というか、水がサワサワと音がしてる川だということで付いたんで、これを付けた人はそんなに教養のある人が名前を付けたわけないから、別に難しく考えなくても良いというふうに思っているわけです。

平田 見染・見初という地名は、全国を拾えば割合あるんですね。

二見 これは衣扁？

平田 そうですね。

山崎 先程の質問ですけど、今嶽はどこかないでしょうかね、他に。

平田 うーん、今嶽というのは。

江之口 地名索引には載っていませんかね。

（『日本地名索引』——佐賀県に今岳、福岡県に今竹の地名あり）

平田 結局、御嶽信仰で、古い所から新しい峯に信仰の場所が移ったら、そこを今嶽というふうな名

前の付け方をするんでしょうね。そうでなきゃ、山の名前に「今」という意味は——

山崎 私は形から來てるんだろうと思ったんだけど。

平田 だろうか？

山崎 いや、判りません。だから、他にも当ってみないと。ただ、この二つだけから思っただけで、二つだけからというより、むしろ、一つだけから思って、一つの問題によいと思ったので。

平田 今嶽という地名は山の名前に多いんじゃないの？

山崎 えー、だから、多いはずだから教えて頂けないだろうかと思って来たのです。多いのではなくて少ないのかなと思って来たのです。多いのなら、出て来そうなもんだけ。

平田 いや、昔は高い所にお詣りに行つたけど、それを身近な方に神様を移して、そっちの方に行くようになって、新岳とか今岳とかの呼び名が付くはずで、そういうふうな区別ならば、自然の信仰対象としてあり得るなど——

山崎 山の奥のやつを里宮にもって来るというのはあるけど、あっちの山をこっちの山というのは。

平田 そうですか。神主さんが云うのだから間違いないな。（笑）

江之口 やはり、民俗学的な見方からすれば、信仰の場所が變るというのは、ちょっと、ないでしょうね。

平田 ない。じゃー、「今」という形があり得るのは、どんなこと？

江之口 それが本当に、いわゆる「今」の「今」なのか。なにか、もっと別なものか。そういう意味ですね。他の転化か、あるいは「今」にはもっと別な意味があったかも知れないと、そのように考えるのです。

平田 あるいはな。屋久島の方では、宮之浦岳に

岳詣りをするんですよ、宮之浦の衆が。高いでしょ、あそこは。あまり高すぎるので、少し手前の同じような所にお詣りをして、岳詣りをしたつもりにするんですよ。その場合には今岳になるんですよ。

江之口 そういうのは、たとえば富士信仰とか、まああっちこっちにあるわけですね。いわゆる山の高い所から、里へ。紫尾山もそうですし、霧島神社も大概そうです。噴火して降りて来るもんですからある程度は。しかし、その今と古いのと、ちょっとどうかな——

本田 そういう場合があるということです。

江之口 場合はあると思います。なにせ、人間はふゆいごろですから、山の高い所に登るのより、里で済むのであれば、それに越したことないので。

本田 村の例でも、古い本郷牛田があって、今の牛田牛田がある。

江之口 はい、ですよね。村とか村落というふうな場合は、「今」というのはそれで説明するんですけども、山となると違って来るんでしょうね。

平田 本宮（モトミヤ）・今宮（イマミヤ）、本山（モトヤマ）・今山（イマヤマ）。あり得ることだよね。その辺、下野先生、どうですか。

下野 先程云われました屋久島のこと。屋久島では本田先生がおっしゃったように、実際そうなっているわけですが、しかし、今宮とは云わないようです。そういう場所を、前岳あるいは山口、守所（モリショ）などと云うようです。そこで、今村とか今給黎とか、さらに今恵比須という表現もありますから、新規のものを云うわけですが、先程から云われるよう、同型の信仰が一つの村里に近い格好の所に、その意味は別に使うのですが、特にまぁ、あり得るとすれば、同質の今岳に求めている例は実際にあります。土地を実際に踏んで調べてみないと私も本当は云えないのですけど。あるいはですね、

異形のものがある時代に乱れただけまして、そこに新しい信仰が発生することもあり得ます。もちろん一応こう実態は踏まえておく。その代り、原話を細密に抑える必要があると思います。歴史時代に入つて来ますから。まぁ、その辺は山崎先生の方が知つてらっしゃるわけですから。

それから、質問と意見があるのですが。意見の方は、湯穴というのがありますが、たとえば山口県にもですね、石で作った洞穴のサウナ風呂があります。これは昔からあります。県の有形文化財に指定されています。それから、種子島には十数ヶ所に岩穴風呂というのがありまして、通称「イワナ」と云っています。それは、崖を掘り進め、人が5～6人、入れる程度に掘り抜けまして、そして焚火をするんです。そのオキ火が残り、5～6人真っ裸で中に入ります。入口はふさぎます。汗びっしょりになるんです。豈も何枚か入れておきます。まぁ何分間か入り、汗びっしょりになった時に出て来る。私たちの村は健全無比だと、大健康新いのだと云うことでした。種子島にあるぐらいですから、他の人で、もし知つておられたら。枕崎は種子島に近いので、枕崎あたりにも昔あったのが種子島にも残っているのだということも出来るわけです。ただし、先程指摘されました冷泉云々のこともありますから、一概には云われないと云います。

質問はですね、私が話を聞き洩らしたかも知れませんが、鹿籠のいわゆる中心地というのは、どこですか。

山崎 鹿籠の中心地は、城山があった所です。この図で行けば、桜馬場という所に学校の印が二つあります、ここが、小字で云えば、城山です。そして、鹿籠駅。鹿籠という駅がありますけど、この所が、さっき云いました船小屋になるわけです。だから、この船小屋のこれが、やっぱり、さっき云つた水主（カコ）とかかわりがあり、城山の所に水夫

集団というか、なにか居たんだろう。中心がここで、鹿籠はこれからだろうというふうに感じているわけです。

下野 大変良い意見ですね。慶島という漢字ですけども、隼人町の鹿児島、時代が下つての鹿児島市。違つた意見もあるとは思つてますけども、そう考えますと——

山崎 鹿児島なんかも、湾内用の小さな船が多く入つて来る海上交通の中心で、その水夫集団というのが清水町かどこか向うに居つて、そのあたりを「かこ島」と云つたんだろうと、自分では思つてゐるわけです。まぁ、いろんな説が「かご」についてはありますけど

平田 以前、何号でしたか、鹿児島を取扱つています。水主（カコ）もあるわけですが、先日、磯公園裏の山道を登つて行きました、「カゴの木」というのがあるのに気付きました。よく見ると、幹が鹿のように、まだら模様になつてました。それをカゴの木と云つてますから、「カゴ」はやはり、鹿の児という意味が根強いんじゃないかなと思つた。「カコ」と「カゴ」はやっぱり、少し違うでしょうからね。

時間がありませんが、私の意見を述べておきます。妙見が北辰信仰と一致することは、去年の隼人研究会で説明しましたし、ある程度まとめておりますから、コピーを差上げします。これは妙見菩薩で、星神信仰にもとづくものです。それから布川（タブガワ）というのは櫛（タブ）の木の川じゃないでどうか。桜川とか桂川とかのように単純に考えた方が良いのでは。

山崎 屋久島のタブは、その櫛ですよね。なにかそんな。

平田 だろうと思います。

山崎 木で云えば、先程の木補の樟ですね。樟は樟脳にする。大塚に楠という苗字がありまして、そ

この先祖は、あそこに岩崎寺というのがあるんですが、その寺の坊さんから還俗して船大工になったそうです。先祖には船左衛門とか船藏とか「船」が付く名前が多く、現在、90歳の人も昔は船大工をしたと。船には樟は使わないんですかと聞いたら、いや、船は、樟は使わない、と。まぁ最近といふか今の話でしょうけど、そこは松や杉だという話でした。樟というのを、なにか神聖視して、さっきの樟脳小屋の「キヨラ」とか、神話に出て来る磐椿船ですね、なにかそんな関係があつて楠姓の人が船大工をしているのかと思って、こっちが欲しい答えが欲しかったんですけど、出て来ませんでした。以上で終ります。ありがとうございました。

#### （会のあり方について）

江之口 私が一番気になるのは、地名を取り扱つたものに、純粹に地名学としてのものでなくて、こじつけと見られるものが、ちょっと多すぎるような気がするんです。最初はまぁそれで良いかも知れませんが、もっと基本的な研究というのも必要じゃないかなと思つたりもするんですから、やはり一人で考えるよりも、たくさんの人から色々教えてもらつたり訂正してもらった方が判り易いので、それが疑問に思つてゐるのを持ち寄つたらと思います。

平田 はい、会でこんな地名を考えたいとか、疑問点・テーマなどを連絡してください。

#### （付記）

今岳（いまだけ） 伊万里市大坪町にある山。標高 260m。伊万里市街地の東方にあり、山頂がとがつていて、敵を射る意味になぞらえて、射魔岳と神号し、のち今岳となつた。（角川『佐賀県地名大辞典』）

#### いま（今・以真・伊万）

- ①「新しい意」。本・元・古などに対立する概念
- ②形容詞イマシ（忌）の語幹で、「忌むべき所。タブーがある所」を示すケースもあるか。
- ③イ（接頭語）・マ（間）、またはヰ（井）・マ（間）の語形もあるか。

楠原・溝手編『地名用語語源辞典』

例会の希望曜日アンケートは、25人の回答。日曜日（13）・土曜日（10）・月曜日（2）で、従来通り日曜日を例会とします。

次回は現地検討会を考えています。希望地区を提案してください。

枕崎の地名あれこれ

枕崎	伝説、昔神様が枕に乗って流れて来られた所	木浦	木浦木門 樟脳木屋ヶ谷、キラッ
耳取峠	伝説、罪人の耳を切取った所 寒風に耳が取れるほどになる所	花渡川	桜之城、桜馬場
	山の縁取りを通る形で峠を作り、古代土木工法	大字 東鹿籠	
春日		金山	夢宝堂、本繁場、田子舎
宗前岳	蒼前神、東北・関東・中部で祀られる馬の神。 勝善相染。馬恩馬前で葦毛四白の馬。	木口屋	(伝) 金山に出入する人を監視した。
馬追川	川苔があった。	山口	
牧園	牧苑	宇都	
大塚	門なし	中村	
大土塚	"	瀬戸口	
塩屋	塩屋 12村有、新浦共12軒釜共云。 枕崎釜、折口中之釜、神園釜、折口上之釜。 小湊中之釜、同所用之釜、白沢津東西釜。	宝寿庵	(伝) 宝寿庵屋敷、畠の大石にかけた人が急死。
湯山	塩田法	籠原	
平田湯		鹿籠	鳥津五代貞久 正平14年(1359)4月の譲状 松浦文房に薩摩国河辺郡内嘉古村を譲り渡す 舟木屋、船泊シ
塩浜		龜沢	龜ヶ沢津、龜沢津牟田、西龜沢津、官脇沙入
木場	園見岳の裾	美初	美初川、尻無川の上流
山下		瀬戸	
水流		下山	今嶽、
湯穴	冷泉、門なし	俵積田	御殿に倉庫があり貯米を貯蔵。
		板敷	唐人が難舟して板につかより漂着。
		豊留	建久12年岡田帳の加世田別府百町内、公頃七十五町内 山田村二十町、千与富四十町、村原十五町



# 鹿籠八拾四門一覽

明和四年門名(幕末門名)(幕末頭名の異姓)

星ヶ崎門(星ヶ崎) 島之中屋敷(島中) 上溝直門(上溝)  
下溝直門(下溝) 上桐原門(上桐原) 潬戸口門(漬戸口)

鹿籠原門(籠原) 重留門(重留) 中村門(中村)

城森門(城森) 中原田門(中原田) 寺瀬戸口門(寺瀬戸)

下之園門(下園) 上竹原門(上竹) 堂園門(堂園)

上之原門(上原) 鍛治屋園門(加治屋) 下竹原門(下竹)

土屋屋敷(土屋) 小園門(小園) 中之園門(中園)

万田屋敷(万田) 山之口門(山口) 上之園門(上園)

宮原屋敷(宮原) 今門(今門) 中野門(中野)

宝毒庵区 → 与市園門(与市園) 大園門(大園) 有之木園門(有園)

下迫田門(下迫) 神之門(神門) 上大園門(上園)

下大園門(下園) 上迫田門(上迫) 沖之園門(沖園)

道之野屋敷(道野) 木浦木門(木浦) 山下門(山下)

竹中屋敷(竹中) 津留門(水流) 清水屋敷(清水)

竹中区

→ 通山区  
神之浦屋敷(神浦) 通山屋敷(通山) 牧園屋敷(牧園)(牧野)

石峯門(石峰) 牛野屋敷(牛野)(牛山) 岩尾崎門(岩尾崎)(岩尾)  
小湊区 →  
島野屋敷(島野) 田中門(田中) 湯野門(湯野)

小川門(小川) 吉留門(吉留) 迫門(迫) 味園門(味園)

浜之園門(浜園) 浜田門(浜田) 折口屋敷(折口) 入伍門(入佐)  
柳崎中西区 |  
南門(南) 新留屋敷(新留) 岩下屋敷(岩下)

木原区 →  
大工園門(大工園) 下木原門(下木原) 上木原門(上木原)

俵積田門(俵積田)(積山) 西之原屋敷(西之原)

俵積田区 →  
福永屋敷(福永) 永留屋敷(永留) 板敷門(板敷)(板元)

板敷区 →  
豊富門(豊留) 白沢津西門(西白沢津)(西田)

白沢区 →  
白沢津東門(東白沢津)(小島) 茅野門(茅野)

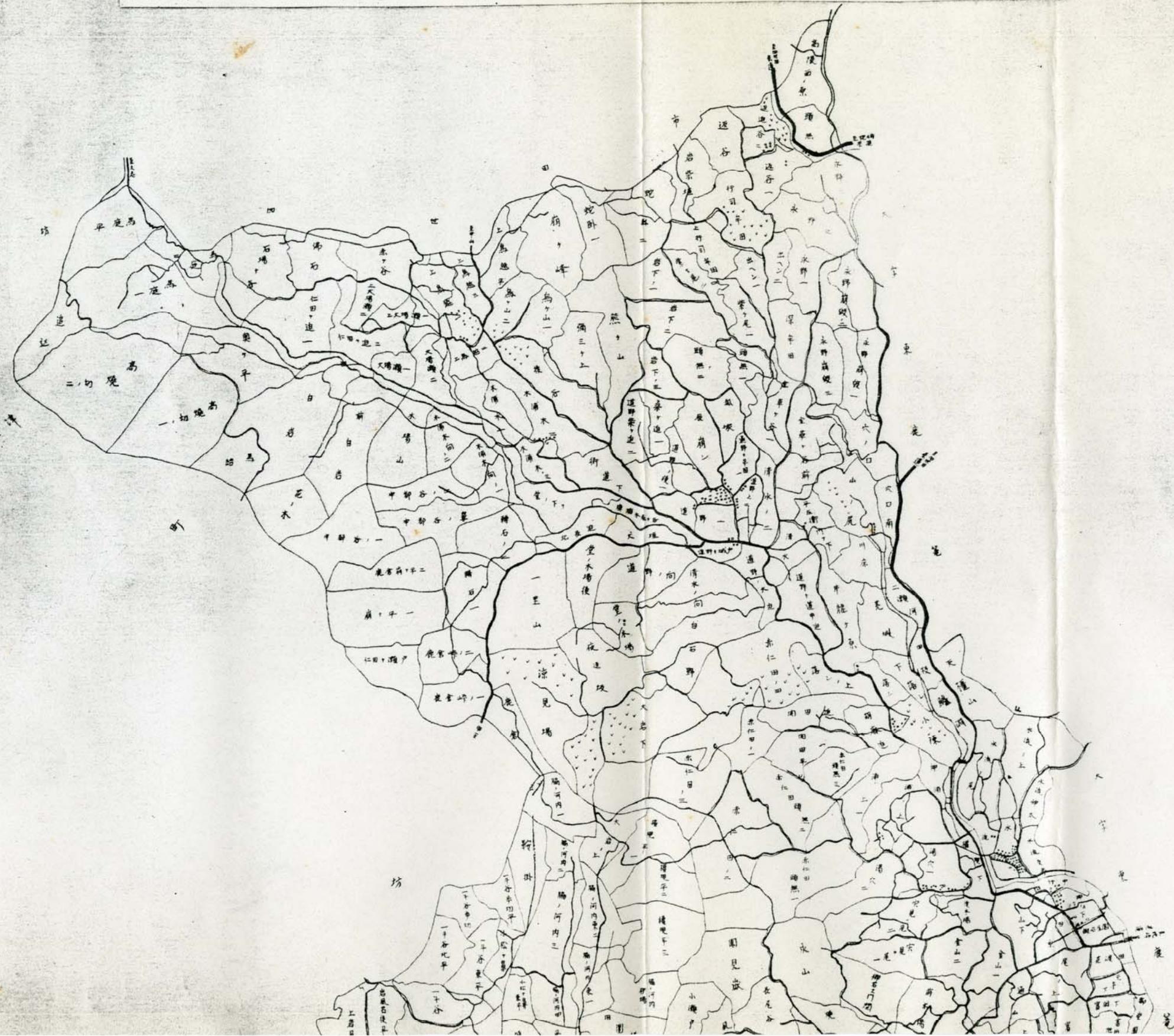
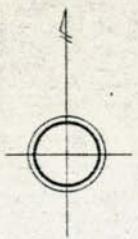
松崎区 →  
松崎屋敷(松崎) 下り山門(下山) 馬向ヶ水門(馬向ヶ水)

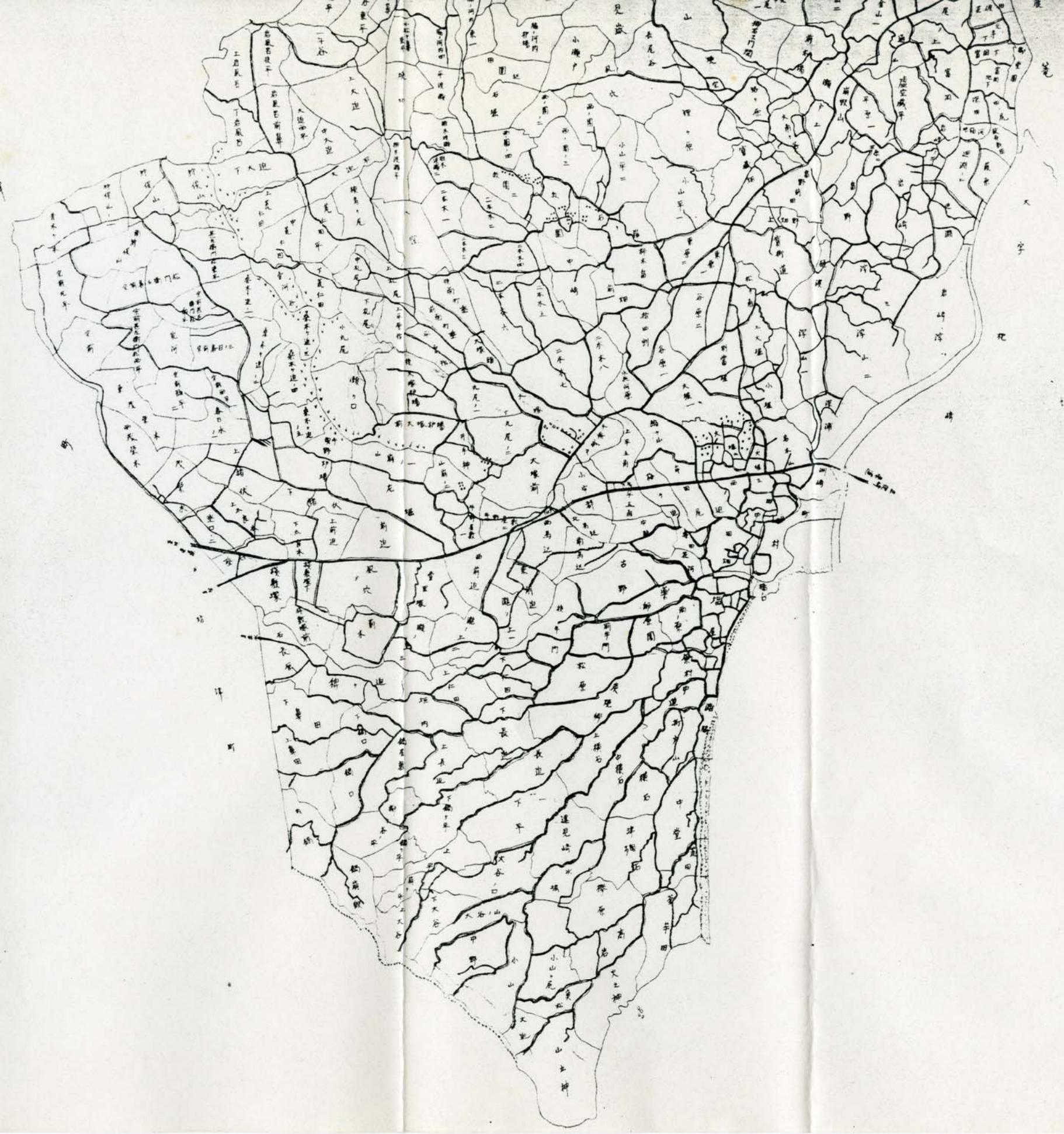
真茅区 →  
真茅門(真茅) 山崎屋敷(山崎) 中原門(中原)(中島)

中原区 →  
福元屋敷(福元)

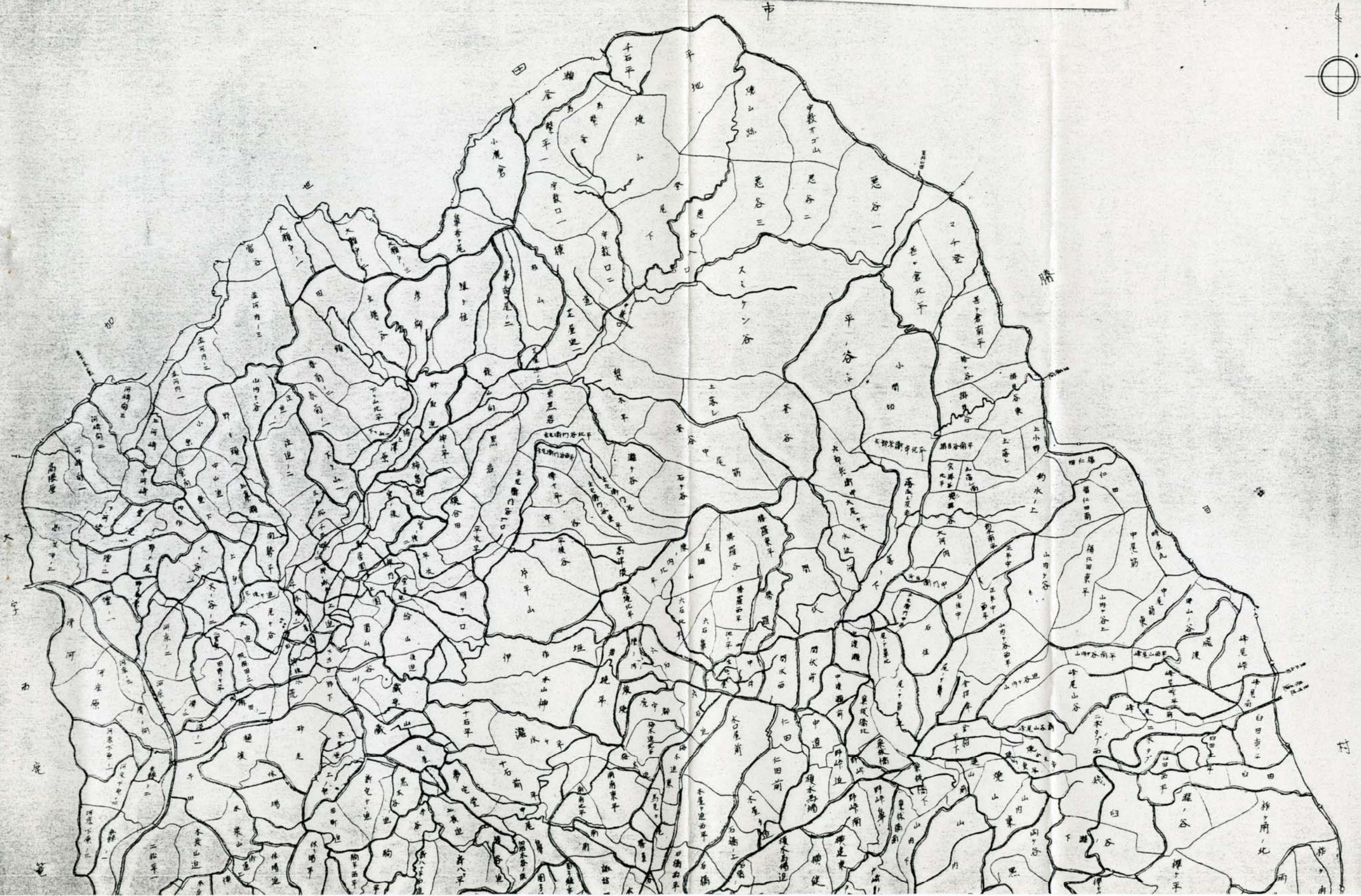
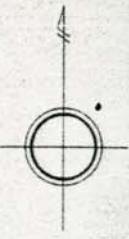
岩崎屋敷、迫之園門、今釜屋敷の三は幕末には消えてい。

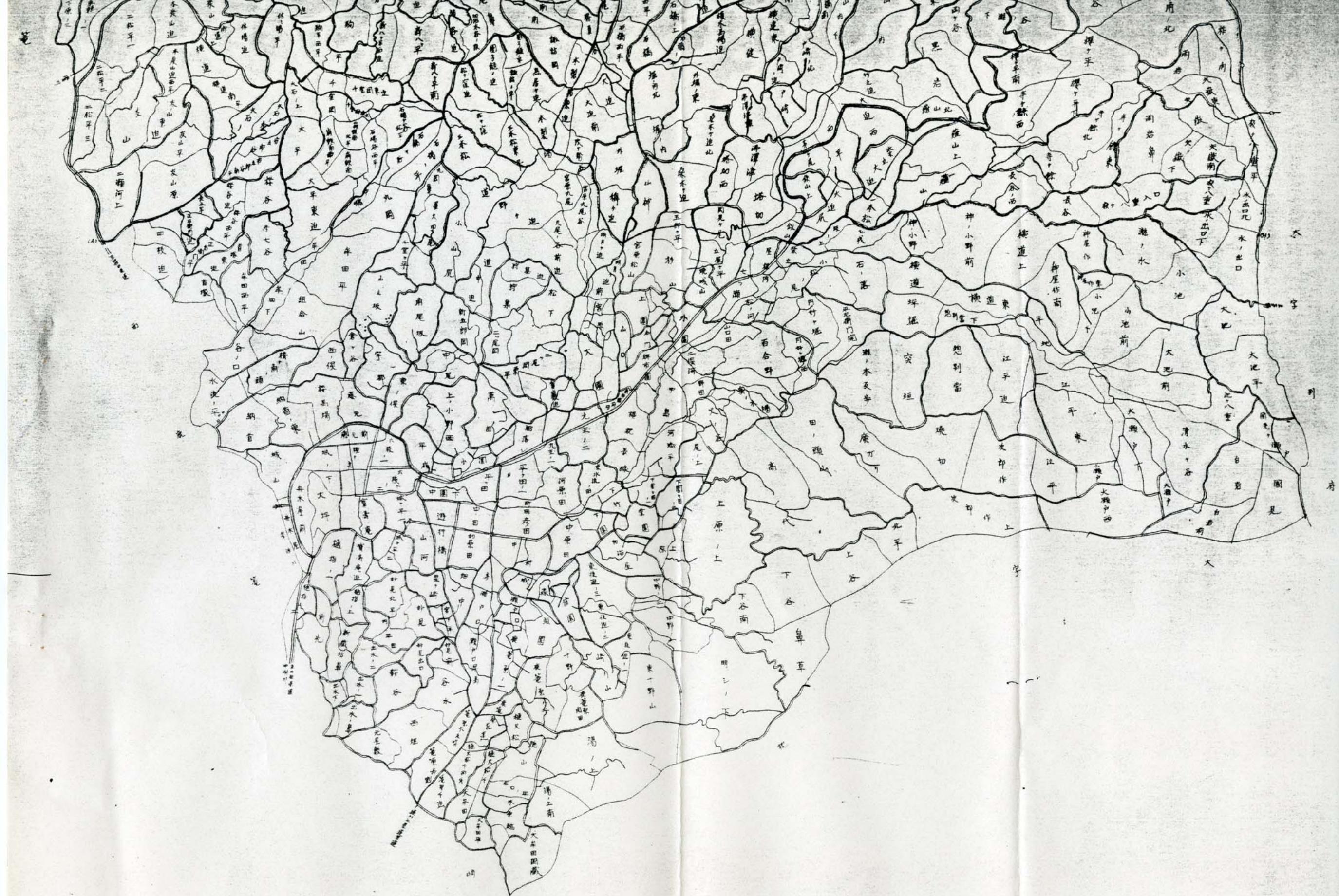
# 大字西鹿籠実測図





# 大字東鹿籠実測図





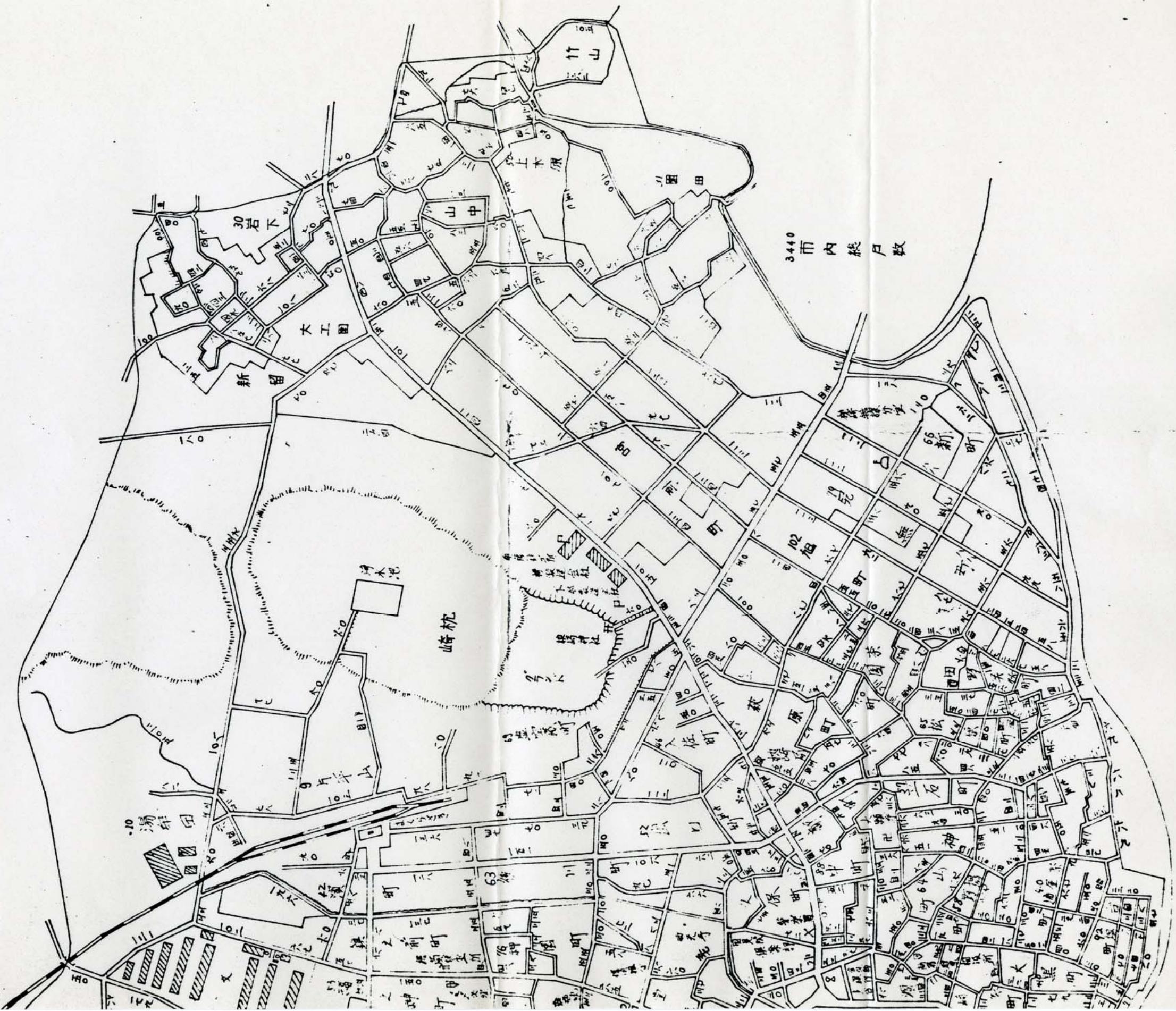
# 大字枕崎



奇實測圖



区画整里前における桿崎の市街図  $S = \frac{1}{5000}$





# 大字別府実測図





# 地名研究会報

第14号

昭和61年11月30日  
鹿児島地名研究会

I. 第14回例会 昭和61年9月7日(日) 於教職員互助組合会館  
(出席者) 江之口汎生・小川亥三郎・片岡八郎・霧島一浩・下野敏見・富永清志・永山修一・永山徹弥  
西園一俊・平田信芳・二見剛史・本田親虎・本田碩孝・松田誠・松浪由安・脇元東明(計16名)

II. 覧藩名勝考説会 P. 47~P. 49

(問題となった地名および事項) 加紫久利・鰐淵

## 加紫久利(かしくり)

平田 今日の範囲で問題になりそうな地名は、鰐淵・加紫久利でしょうね。桐野先生が見ておられませんが、西目村霧野というのはどこですか。出水の方? 米之津の方?

江之口 出水には入らんのじゃないですか。港ですよ。

平田 山門を論ずれば邪馬台問題を発言したい人が出て来るでしょうが、ここでは取扱うのはやめましょう。

江之口 加紫久利には、いろいろ説があったごたっどん。

平田 加紫久利ですか。

江之口 加紫久利。川内に計志加里(ケカリ)。

平田 それから花熟里(ケジュクリ)。

江之口 ええ、花熟里。そして、ここにまた加紫久利と。

平田 栗野町には勝栗がありますね。これは時代が新しいのでしょうが。菱刈とか、ケシカリとか、ケジュクリとか。「リ」は古代の郷里制の「里」かも知れないので。古いことばでしょ。おそらく古代隼人のことばなんでしょうけど。これは、あんまり無理な解釈はしない方がいいと思います。判らないのだから。どういう解釈があるの? 加紫久利は。

1

江之口 藤井先生は豊前か豊後からのいわゆる古代の移民の影響だと言っておられます。それから今日は見ておられませんが、中村先生は肥後との関連があると言っておられるようです。カジクヤリという地名が肥後にあるわけです。

平田 なんという所が?

江之口 加自久也里。

平田 カジクヤリ?

江之口 はい、それくらいしか知りません。

平田 指摘があったように、出水市の加紫久利は吹上町の花熟里、川内市の計志加里と同じタイプの地名として考えなければならんでしょうね。非常に起源が古く、現段階では意味がわからない、薩摩に残る古代地名の典型的な例だという理解でいいんじゃないですか。

永山 伝説みたいのがありますよね。弘法大師がそこを訪れて水をくれというたら、そこにいた娘が水をやったので、水は豊かで花の熟する里になった、と。花とは稻の穂のことだ、と。花が熟する里と書きます。あくまでも、これは伝説ですから。

平田 それと似たような伝説は、たくさんあると思うのです。

永山 実際に、どこから「ケジュクリ」は来たのか。「クリ」というのはあってもよいでしょうね。

鰐淵(さばぶち)

江之口 鰐淵はどうですか。出水でもいろいろと  
もめちゃったんだん。

平田 どういうふうに。

江之口 いろんな説があって、はっきりしたこと  
が判らんです。

平田 柳田国男の本を読んだ時に、サバ神という  
説明があって塞之神と同じというのがあったけど。  
それから来ているのでは。

江之口 全国的に見れば、多いですよね。沙婆郷  
というのが、古代にあたりするみたいでしょ  
うか。サワカサビか、どっかそこらあたりじゃなかろうか  
いと思つちよいわけやっどん。断言はできません  
けど、そのままには。

平田 周防国のある所は沙婆(サバ)ですね。やっぱり、  
サバの神というサエの神と同系統の  
神を祀ってあった淵という考えが一番良いでしょ  
うね。

江之口 道はサエの神で良かっどん、淵となれば  
どうしてもミヅチとか、そういう形になって来なければ。

平田 淵にサバ神が祀ってあっても構わないの

じゃないの。

片岡 鹿児島で泥がはねあげられることを、サバ  
が飛ぶといいますが、ぬかってからサバ淵と  
いるのは。

江之口 淀というのは、皆、そんな所じゃないで  
すか。全国にありますよ。サバ～という地名は。

本田 実際、泥田ではどこでもサバが飛ぶ。

片岡 出水郷土誌に出ていた話を言ったわけです  
が。こじつけか知らんけど。サバをとって、ぬかっ  
て、だから鰐淵だと。ちょっと読んだような気がす  
るもんですから。

江之口 「里の字」にも出てましたね。

平田 下野先生、その辺はどうですか。民俗の方  
では。サバ神について、ご存知のことを教えてくだ  
さい。柳田国男集の中で読んだことがあるもんです  
から。

下野 いや、知りません。

平田 他に問題にするとすれば木牟礼のムレで  
しうね。牟礼という地名は九州に多いです。  
石牟礼・花牟礼etc. そのうち、どなたか「牟礼」  
を集めてやられる方があるでしょうから。後半の方  
に時間をかけましょう。

「センダイ」という地名

江之口汎生

ちょっと補足をお願いします。2枚目の下から9  
行目、備考欄の所、空欄にしてあります。指宿市  
池田に仙台松があります。それから、市来町大里に  
川内平(せんべい)という所がありますので、それも加  
えておいてください。鹿児島県内にも「センダイ」  
が他にあるということです。それから、5枚目の  
7番に、屋形ヶ原を入れてあります。その下の備考  
欄の所、「按に和名抄薩摩国司府」とありますが、  
「司」をとってください。国府が正しいのです。それ  
から6枚目17番、「公文所」があります。その説  
明の所に「正宮公文施行」とありますが、「公文所

と考えて、6月例会には全然考えずに出でてきて、い  
ろいろ不確かなことでしゃべったと思います。あん  
まり無責任なこともと思って、もう一回調べ直した  
のがこの資料です。

私が知っている「センダイ」というのを、場所別に、  
どういう文書がどういう形で出ているかという  
ことをまとめてみました。見て貰えば、大体判ると思  
います。南から北の方にA・B・Cというふうに  
区分してやっています。鹿児島県のセンダイは、  
建長八年で、これは現在のところ、「センダイ」の  
一番古い例になります。全国的にもですね、古い例  
になります。

それから、岡山県久米町の千代。話題の大井荘の  
あった所だといわれています。神代川(カタガワ)とか、  
宮家(ミヤ)とか、領家とか、坪井とか、倭文  
(シブリ)郷とか、一色(イチキ)とか、里公文(サトケン)と  
か、いかにも荘園のあったような地名がずらーっと  
並んでいます。

C. 鳥取。これは千代川(セタガワ)ですね。去年の  
正月に、向うに行きました、「センダイ」という地  
名について何か拾えないかと、県立図書館やら教育  
委員会やら回ったんですが、やっぱり千代川でしか  
出て来ません。

それから、富山県礪波市の千代(センダイ)。チュー  
リップの産地ですが、出て来る文書というのは、大  
体1500年ぐらいのもので、わりに新しい地名のよう  
です。

E. は石川県門前町の千代。千代(センダイ)川とい  
う小さな川があります。千代(センダイ)神社という神社も  
あります。これも永禄三年ですね。それから、石川  
県小松市の千代(センダイ)。千代(センダイ)城とい  
う大きな城があり、いろいろ戦争があった歴史があるよう  
です。それから、羽咋市の千代。これは「チヨ」で、  
参考のためにあげました。

それから・三重県大台町の千代(センダイ)。

問題はその下の稻沢市の千代(センダイ)。今年の正月  
行って来ましたが、千代(センダイ)という町、千代西町  
(センダイニシマ)という町名があります。千代口(センダイガ)  
というバス停、千代(センダイ)というバス停もあります。  
面白いのは、千代田(チヨダ)という地名もあります。  
千代田(チヨダ)郵便局とあるわけです。それから、  
神社は千代(チヨ)神社だという。この神社その  
ものは、それほど由緒の古いものじゃないよう  
です。しかし、資料にも書きましたように、早くから  
千代(チヨ)荘という荘園があったことが、いろいろな  
古文書でわかっています。ここ古文書は稻沢市  
史料集にまとめられています。初見も川内(センダイ)と  
同じ頃、川内よりも20~30年ぐらいい、おそくなりま  
す。ただ、ここはあくまでも千代(チヨ)という地名で  
出て来ます。しかも時代的にずーっと続いて、わり  
と新しい時代の史料も残っているようです。ただし  
それがいかなる理由で千代(センダイ)になったのか、と  
いうことについては、その途中の文書が出て来ませ  
ん。ですから、どのように変ったかということにつ  
いては、ちょっと今のところ判りません。角川の地  
名辞典のこの分がまだ出ていませんので、それが  
出た時点である程度その辺のことが述べられるの  
ではないかと思います。

静岡市千代(センダイ)。千代さんという家があり、静  
岡市会議員をされているような家だそうです。そ  
こで千代家文書という史料集も出でています。ただし  
それほど歴史は古くありません。

神奈川県の千代。これは「チヨ」です。千代(チヨ)  
文書というのがあります。「序」が後に千代(チヨ)に  
なったんじゃないかという説をとっていますけども、  
それが本当だというふうにはなっていないよう  
です。そういう説があるということです。

埼玉県江南村千代(センダイ)。千葉県三芳村千代(セン  
ダイ)。千台原という地名が文安二年の史料に出て来  
ます。これが鹿児島の「センダイ」に次ぐ古い記録

月五の半午。(付)力子の市河郡の不の子お園間  
西子子子、西子子子(付)力子、(付)川内、(付)川内、(付)川内、  
になります。それで、ある本に、千代村今は千田村  
なり、と書いてあります。千田と千代の関係もよく  
わかりません。

宮城県の仙台。これもせいぜい天文年間。そんな  
に古いものではありません。その下に「千体寺」と  
書きましたが、これは参考のために書きました。調べ  
る段階で千体仏とか千体寺とか、どうもくさいの  
ではないかということで参考のためにあげました。

備考欄。福島県に仙台平とか東京に仙台屋敷とか  
仙台堀とかいろいろありますが、東京都の場合は仙  
台藩の屋敷があった関係で出来た地名です。鹿児島  
県には、さっき言いましたように指宿に仙台松、市  
来町大里に川内平があります。これは現地を確かめ  
ていません。『奈良県史』を見ますと、千代(サヒ)  
で項目をあげてあります。その他に千代(セダイ)とい  
う小字が二・三ヶ所あるというふうに書いてあります  
が、確認はしておりません。境港市に仙台屋敷開  
(セタヤシヒキ)と千代畠(セタイハ)がありますが、海岸  
べりであり良い所ではありません。宝曆の頃、元  
角(サトナ)家の開拓地ということで、そこの家号をセ  
ンダヤシキと呼んでいるようです。それから、丹後  
国府のところですが、千代富保(サドミホ)というもの  
があり、「庁」が関係するのじゃないかということで、  
参考のために出しました。一番下、恵那市に千  
体仏ということがあります。この恵那という所は、市  
史の中で「恵那の地名」というものを出している研  
究グループもあります。『毛呂窪の地名』という本  
を見ますと、千体仏と書いてわざわざ「センダイブ  
ツ」とルビが振ってあるわけです。問い合わせてみ  
たら、「センダイブツ」ということでした。正音で  
なくて、獨音です。これも参考のために、そういう  
ことがあるということで、あげたわけです。

3ページ。これは時代別に並べただけです。次、  
4ページ。各地のセンダイを、どういう説があるか  
ということで、場所別に並べてみました。それから

アキラ出づてえき熱全ねづ会員 3 アキラ  
ハあ。すまほ思ごボヤハナレテテテテテテテテテテテ  
下の方にセンダイ編年一覧というのがありますが、  
これは鹿児島県の川内の文書を全部ピックアップ  
したもので、年代別に並べたものです。この他にも  
あります。並べて気がついたのですが、現在は高城  
の方、大小路の方をセンダイといい、私も全然疑い  
をもっていなかったのですが、ひょっとしたら、川  
内川左岸の方を言っていたんじゃないかなと、今  
思っております。今まで全然そんなことを思いもし  
なかつたのですが、このように並べてみると、ど  
うも左側の方をセンダイと言っているような形跡が  
ありますので、その辺についても後で教えて欲しい  
と思います。

それから、5枚目と6枚目。これは、国府の地名  
の研究というものがいよいよだったもんですから、  
並べてみただけです。これも読んでいただいて、ま  
だ他にもこういう地名があるとか、こいう文書がある  
ということを、教えていただけたらと思います。一  
応、それぞれの項目の一番古い地名というのをあげ  
てあります。これ以外にもあったり、もう少し古い  
のがあるとか、他にもこいう文書があるとか、これ  
に載っていないものがありましたら、情報を頂けれ  
ばと思っています。以上です。

(質疑応答)

平田 せかして、済みません。質問・意見があり  
ましたら。

江之口 皆さんの参考になり、自分自身も情報が  
得られたらということで出しだけですから、ダメ  
があつても結構ですから。

平田 じゃー、意見を言います。センダイはセン  
ダイ、チヨはチヨ、チシロはチシロと、別々にね、  
やっぱり意味があるんでね。それらを一緒にして論  
じていると、混乱すると思いますよ。そんなことを  
感じるのだけど。

江之口 チヨは、あんまり出て来ません。ここに  
書いてあるものだけです。古いものだけ出来るだけ

拾っています。新しいものは別です。チヨもセン  
ダイも、もっと細かく見ていけば、他にあるかも  
知れませんが、古い時代のものは、これ以外には  
ありません。

平田 いや、チヨはチヨの意味があり、センダイ  
はセンダイの意味があり、チシロはチシロの意味が  
あるはずだ、ということです。それが自由に往った  
り来たりというか、変化するという、そういう地名  
のあり方というのは、ちょっと考えられないんじ  
ないか。例えばね、錦江(キンゴ)を錦江(ニシキ)と言  
い変える、きざな言い方というのは、わりと新しい時  
代にはあり得るかも知れないけども、チシロをセン  
ダイと読もうやとかね、チヨをセンダイと読もうや  
というような地名の変え方はないんじゃないかとい  
うことです。データーとして調べるのは必要だけ  
ど、やはりセンダイはセンダイにしぶって考えた方  
がいいんじゃないか。私は、そう思う。

説明はなかったのですが、4枚目、川内の3行目  
と関連する仙台閣説。これは昭和14年、川内中学校  
が出した『川内地方を中心とする郷土史と伝説』の  
中に「川内中学校あたりに仙台閣というお寺があっ

#### IV. 問題提起 始良の地名あれこれ

松田です。内容がないので量でカバーということ  
なんです。レジュメを見て頂きたいと思うんです  
が、これは大字ごとに適当に小字をピックアップ  
して、判っている地名・判らない地名・面白そうな  
地名を書いております。今までの研究会等でいろい  
ろ教えて頂いた知識などを充分活用させてもらいま  
した。このレジュメは、江之口さんと平田先生にも  
一応眼を通してもらったところもあるわけですが、  
概して非常に雑です。まちがいがあっちこっちある  
と思いますので、ご了解願いたいと思います。もう  
ひとつ、この2万5千分1の地図ですが、始良町中  
央公民館に1万分1図があります（谷口純男氏の作

た」の記事があるわけです。以前、その記事を読んだ  
時、おやっ、と思ったんです。「台閣」というの  
を、漢和辞典で引くと、役所という意味。「仙」と  
いうのは仙洞御所とか、地方へ移るというような意  
味がある。そうすると、仙台閣は地方へ出て来た役  
所というような意味になるのかな、と。そういう用  
例が奈良時代に見つかれば、仙台閣が省略されて地  
名として残ったとすると、これは国府の別称になる  
んだがと考えたことがありました。奈良時代の中頃  
に、藤原仲麻呂が紫微中台など中国風の官職名を使  
うので、国府に対してそういう別称を付けたのかな  
との推定をたてたのですが、続日本紀を読んでも、  
なかなか出て来ません。だから、それは、あきらめ  
かけています。

前回、千台という女性名が中世の文書に多いとい  
うことを言いましたけども、チヨもセンダイもやっ  
ぱり目出たい名前。千台にしても、望ましい多い  
台でしょうから。そう言った人名に関係があるので  
はないかなということを考えています。

ここでちょっと休みましょう。

松田 誠

成）。なんとか資料提供が出来ないものかと思って  
縮小してみました。こうだったら、なんとか資料提  
供が出来そうな気がしたわけです。小さいところも  
あって、よく見られたら違ったところが出て来るか  
と思いますが、一応こういうのを作ってみました。

今までの地名研究会での説明は、いわゆる地名考  
というような、一つの地名を徹底的に追求していく  
やり方でした。今日はそういうことじゃなく、始良  
町全体の小字を、広く浅く概観してみようと思って  
おります。

それで、大字からまず入りたいと思います。（地  
図上で指摘しながら）上の方から、北山です。資料

Iの表紙に大字の名前が書いてあります。大山。上名がこれです。木津志がこれです。三十町がここです。下名がここになります。住吉がここです。住吉池があります。寺師というのはここです。これが中津野で、これが豊留です。これが増田。それから、ここが鍋倉。ここがまるくなっていますが、東餅田に西餅田。そして、ここが重富です。脇元に平松。上方のここに船津があります。そしてここに深水という小さな所があります。大体、これで、大字が19、小字が1334というのが、始良町の数です。

この地図を書きながら気がついたわけすけども、ここが豊留。よくいわれる老神神社がある所ですが、ここを中心に半径2kmで円を描いてみました。そうしたら、この円の中に大字が11、含まれるわけです。ここは地名が非常に分化している所になります。ということは、過去において人間の活動が活発だったことになります。地名が分化していくということを考えると、このあたりに何かあったのではないかとも考えたいわけです。その根拠というわけでもないのですが、レジュメの35ページに五味先生の「帖佐考」のコピーをあげておきました。この35ページの一覧表、公田のところに、大山・深水・中河原・山崎・寺師・中津乃・永世・住吉・船津・餅田・神河・松武・恒見・平山・千本・豊富・漆畠とありますけれども、これらは建治二年(1276)の石築地役配分に見える地名です。13世紀の半ば頃存在した地名が、現在も大体この円の中に含まれているということが言えるわけです。

資料に載せませんでしたが、帖佐郷は大隅国府に納めるカマス・ムシロなどを生産していたらしいのです。そういうことを考えると、この地域は13世紀の前後、非常に活発な地域であったのであろうと、想像できます。地図を作成し、大字を検討していく、19という数字は他の市町村より多い数字なので何かありそうだなど、一応考えてみたわけです。

上の方から、大字について、若干説明していきます。木津志。「キヅシ」は南日本新聞の「里の字」では、木の津、港ではないかというようなことで、よく判っていないようです。樋脇に「切通(カツシ)」と読ませる苗字があるそうですが、木材の流通・運搬に関わる地名ではないかと思います。

上名と下名がありますが、始良町郷土史には名田の名残りか、と書いてあります。寺師・増田については始良町郷土史には、説話地名というような感じで、「太陽が照らす、益々繁盛」とか、そんな意味のことが書いてあります。よく判りません。住吉。住吉池のある所で、住吉神社があります。住吉神社は古い時代に勧請されたらしいです。

大山。大きな山と書いてありますが、大きな山はありません。加治木町との境に別府川(ヒガ)があります。別府川が船津の所で分れて、山田川がずっと上まであがっています。この山田川を三国名勝団会では「大川」と書いてあるようです。大川と大山と、それから深水。今の山田川ですが、かつては深い所だったんだそうです。関係ないでしょうか。

それから三十町というのがあるんですが、始良町郷土史には船津から三十町ぐらい距離があるんじゃないかと、そんな意味のことが書いてあります。よく判りません。鍋倉。鍋の倉ですが、それでいいんじゃないかなと思います。納屋町がかつてあって、非常に栄えた所だそうです。生活物資の保管場所みたいなのがあったのだろうと、そんなふうに想像しております。

東餅田・西餅田。餅田が東西に分かれています。一応見たところでは、まあ、まるい。餅みたいに、こう、まるくなっています。そのくらいしか、判りません。

重富。海岸の方から脇元。ここに重富小学校があります。旧麓です。麓に対して、先の方にどんどん開発されて行くと、本村に対する脇が発生し、それ

で脇元。そんな考え方が、なにかの本に書いてあったようです。

平松。これはよく判りませんが、松に付けたいわけです。10号線がここを通っており、並木という小字も残っています。昔は、松並木だったそうです。三国名勝団会によると、義弘公が松をたくさん植えたらしいです。そういうことで、かつては松がたくさんあったのではないかなど、そういうことを考えているわけです。(編集者付記、平松は平山と松武の合成地名とみた方がよい)

ここが船津なんですが、別府川の船着場。そのようなことが始良町郷土史には書いてあります。宮之城の佐志ですか、あのあたりからずっと来て、この川を使って運搬したと、あるいは蒲生の和紙も、この川を利用したと、書いてあったようです。

中津野。レジュメの20ページに、絵を描いておきました。別府川がここで二本に分かれています。山田川と船津川(あるいは蒲生川)と。蒲生に行くと、後川(ウチノゴ)・前川(マエゴ)と、さらにまた、二本に分かれます。二本の川が合流する所が中津野で、その隣が船津です。そこで「津」に注目して、中程にある津すなわち港・船着場。そういうなので、いいかなと思うんですが。もう一つは、やはり二つの川の合流地点との見方、洲になりやすい所だから、中洲が中津になったのではないかと、そういうふうに想像するわけですが、どうでしょうか。

それから北山と豊留というのがあります。大きな字で、いろいろ取沙汰されている地名です。難しいことは判りませんが、和名抄に大分・豊國・答西というのが出て来ます。それと、三代実録に野神・吉多二牧を廃するという記事が出て来ます。この和名抄の大分、それから三代実録の吉多、これを北山に比定する説があるわけです。ちょっと整理したんですが、和名抄の大分については、「鹿児島県史」は

大分の比定地をはっきり示していないようです。「日本地理志料」というのは、和名抄の大分というのを「オオキタ」と読んで、同じ読みである北山に比定しております。平田先生の「古代地名考」には、この大分は始良町だということが書いてあります。それともう一つの三代実録に出て来る吉多ですが、鹿児島県史ははっきりここだと明示しておりません。この鹿児島県史の141ページに書いてあるんですが、下の欄に吉多・野神牧について、北野という所あり、というようなことが書いてあります。もう一つ、三国名勝団会の方は鹿児島県史と逆のことが書いてあります。野神と吉多の取扱いを全く逆にしております。この辺が私には全く判らないところですが、北山はこのように取扱われている所なんです。

これについて、私なりに一応考えてみたのが、レジュメの45ページです。860年の大隅国吉多野神二牧を廃するとあるのを、吉多(キ)と読んでいるわけですが、私は「ヨシタ」と読みたいわけです。和名抄にある「吉」という地名を拾いあげてみました。大和国吉野、摂津国吉野、讃岐国吉原(ヨハラ)長門国吉野、美作国吉野、播磨国吉川(ヨカリ)陸奥国吉名(ヨナ)・周防国吉敷(ヨキ)・伊予国日吉(ヒヨリ)、それから伊予国に喜多(キ)郡、近江国蒲生郡に安吉(キ)郷ということがあります。気が付いただけでも「キ」と読むよりは「ヨシ」と読んだ方が自然じゃないか、「キ」と読むのは一例か二例にすぎない。例外的な読み方ではないかと言いたいわけです。「キタ」でなければならぬのならば、喜多という字を書いた方がぴったりすると思ったわけです。「キタ」と読まないで、「ヨシタ」と読まれる可能性が少しでもあれば、この北山説というのを改めて考え直さなければいけないんじゃないのかの一つの疑問を提起したいわけです。

それと、この北山というのは、そんなに古い地名

ではないと思うのです。1664年の高次帳には北山はありません。そして、1774年の要覧の方には、飯村が北山に変っております。それで、山田郷の北部というような意味で北山があるんじゃないかと思うのです。まぁ、そんなに古い地名ではないような気がするわけです。これは一つの宿題なんですが、北山に北野(ヰル)という小字があります。それと、蒲生町に大字の北があります。これらについては、今後検討しなければいけないと考えています。そういうことで、この北山説に疑問を感じた次第です。

和名抄に答西(ケセ;トウセ)が出て来ます。この答西は帖佐に比定されています。帖佐；テフサ；タフセ。46ページに長堀町、塔畠町。下名に当畠町と西田町。塔畠町と当畠町があるので、答西を帖佐に比定する補強材料になるのではないかと感じております。

それと、辺川(ヘガ)という山田村の飛地があったんです。現在は加治木に入っています。昭和27年の頃、加治木に移管されたらしいのですが、これが山田の飛地だったということで、山田村の痕跡はないかなと感じたわけです。山田村の上名に奈良袂(ナラタブ)・奈良尾(ナガオ)という小字が残っています。加治木の辺川には、上奈良田門・下奈良田門という門がある。そして榎田(ナガタ)という小字が残っています。そして上猪・下猪という苗字があります。そういうわけで、やはり、なんか山田村とはかつてつながりがあったと、榎田という地名で想像されるのではないか。地名が表現しているような気がするわけです。

それから、帖佐には一之坪というのがあります。しかも二つあります。大坪というのが二つあります。六之坪があって、大坪尻があります。それから十窪(トクボ)・八窪。口之坪・十三谷・十六、それから十五窪。一町田、三反田に四反田、七反田・八反田と。帖佐の場合も大体このくらいあります。始良

町にも条里遺構があったんではないかと考える可能性はどうでしょうか。

それから40ページ。シラス地名を大字ごとに分類した表です。これは佐野先生の資料の中の区分に従ったんですが、原・平・段がシラス地名、迫・窪・谷・宇都、そういうのがシラスの侵食地名だと、シラスの低地には平田・水流。始良町の場合はどうだろうかと考えてみたわけです。疑問に思うことがあります。北部の方はシラス台地ですが、北山・木津志・上名など、こいう所に、原・平・段・野が多いです。ところが、平松・西餅田も原が多いのです。北山・木津志は山ですが、こっちの方は低地です。シラス台地にある原と、シラス低地にある原の区別は必要ないのかどうかという疑問を感じました。なんか素人っぽい疑問ですが、そういうふうに感じたわけです。シラス低地の方に川原がありますが、これをシラス地名としたらいけないのかどうかも、一つの疑問に感じました。

今度は、レジュメに従って小字について説明していきたいと思います。まず、1ページ。1ページの写真はいわゆる東餅田・西餅田です。中心の平野部にあたります。右の方の山の下が重富になります。2ページになりますと、この川が別府川です。そして、船津の所で二つに分かれています。右の方が山田川です。まっすぐ行って、蒲生の方に行きます。この辺はコピーが悪いですが、実際は蛇行してます。私の提起した円の中心は、大体この写真の中に入ると思ってるわけです。

3ページの北山。まず、飯村(ヨキ)。これはいろいろな説がそれありますから、こういうことを一応書いたわけです。ホキ。コノホキというのも、シラス地名じゃないかなと感じたんですが。それから九日田(ケサテン)。これは面白いことを聞きました。「いっちょの迫」というんだそうです。その迫に、1枚・2枚・3枚と田圃があり、いっちょの迫の田

圃を全部植え付けるのに9日かかるんだと、それで九日田だと。(笑い)。そんなふうに教えてくれたんですが、私は飛びつきましてですね。

本田 九日田というのは、非常に多いのです。大体、九日というのは、神社の祭りが九日だったわけですから。北九州の博多の辺では「オクンチ」、祭礼のことをオクンチというのだろうと思います。これはどこにでもあります。

松田 吉田にも、その九日田があります。

片岡・永山 神田じゃないかな。

松田 はっ?

平田 神社のお祭りのこと。九日の日にお祭りをする費用を捻り出す田。

松田 そうすると、やはり祭礼田ですか。

平田 そうです。

松田 それから、半次郎(ハジロウ)というのもあります。

平田 そうですね。ずっと説明していって、後でかえるのもいいんですが、質問・意見があったらその都度どんどん出してください。その方が活発でしょうから。

松田 この半次郎。いい名前なんですが、人斬り半次郎で、桐野に関係ないかなと思ったんですが、判りません。それから、岩井田(イケタ)という苗字があります。奥の方ですが、山のこっち、この辺です。(地図で指摘)。ここ岩井田さんに聞いたんですが、炭焼きをしている家で四・五代前に、日置から来たとのことです。

永山(徹) ちょっと。私の家のそばですけど、日吉町の方に、岩井田という部落があります。山の中で、今でも炭を焼いていまして、ほとんどが岩井田という苗字です。そこは知覧と縁があるようです。そのつながりが、なんかあるんじゃないでしょうか。日吉町の岩井田。ほとんど岩井田という苗字です。

松田 岩井田というのを、地形で説明するのはどうかなと思ったんですが、そういうことを聞きました。

平田 岩井田か祭礼の祝かのどっちかですよね。永山(徹) 山の中の祝?

松田 それから、そこに唐炭(トミ)があります。炭山谷をツガンタンと呼んでいます。

次は烏帽子岳(エボダケ)。これは高い山で702.9m。トロイデ型の火山。「烏帽子に似たり」と書いてあります。願成山(カヨウサン)というのがあります。願成寺の周囲かなとも思いました。刑部塚(ケウカツ)は人の名前のようにです。ギョッドンという話が始良町郷土史には書いてあります。馬頭観音もあります。北山ですから、馬にかかるものであります。

4ページ。平四郎(ハイシロウ)。これも強そうな名前なんですが、1287年の文献に平四郎馬というのが出て来るそうです。宍躰(シオトリ)。北山には陣口(ジンク)・狩谷(カニ)・猪之子(イリコ)というのがあります。狩谷があれば、祭りが行われるために、山神があるはずだと、地名研究の何号かに書いてありました。それで、山神を見付けたら、山神宇都という小字がありました。三国名勝団会には鹿・猪・猿が多い所だと書いてあります。たまたま出遭いました岩井田さんという鉄砲打ちの方だったんですが、獅子舞の稽古をする所だと、そんなふうに教えてくれました。

次、槽石(ヤゲイシ)。山の頂上に平たい石があるんだそうです。湯穴(カナ)。鍋倉に湯之谷、平松に湯尻(カツリ)というのがあります。前回の山崎さんの話では、枕崎のは冷泉だと。湯穴というのは冷泉かなと、そのつもりで、今後探そうと考えています。

次、箱石免(ロシム)。墓石免の間違いかなと思ったんですが、これはクィッシュョン=マークです。

下野 あの、冷泉ですね。この前も申しあげたんですけども、種子島では西之表の現和に、冷泉では

ないけど、ちょっとした泉があります。洞穴を設けて火をたき、蒸し風呂にします。そういう所がありますから、湯穴というのは、やはり湯に関係があるんじゃないでしょうか。種子島南部の方では、全くの空蒸なんです。水は使わないで、洞穴で火をたいて、そして入口を閉めるんです。そういうこともありますから、ご参考までに。

松田 箱石免。柴立の神さあがあるそうです。これも始良町郷土史に書いてあったんですが、箱石どんという権現廟があったと。現在は奈良袂にある稻荷神社に合祀されたと。その箱石どんがあったのは、この本丸です。本丸というのは上名に城(ヨウ)という所があるんですが、城の跡です。それから、岩船(イワヅ)。判りません。ナメリ。これは江之口さんの説明ですが、ナメというのは岩盤の露出個所をいうらしいです。粘土のことというのが、なんか書いてあったんですけど、よく滑る所だそうです。溝辺に奈目利、川内にもナメリ、加治木にも滑りがあります。それから、これはなんと読むのかな。

江之口 勘場段(カマンダン)？

松田 カマンダンというんですかね。もう一つ、柵ヶ段(カゲダン)・勘場段(カダン)の二つがあります。ここには砂鉄を探る所があったようです。これは、帖佐の郷土史に詳しい谷口先生に聞きました。江之口さんの話では、なにか鉱山などの勘定場があったのではないか、と。そういうことを聞いてみたら、なんか砂鉄を探る所があたようなんですね。何かあるみたいです。善龜(セガメ)、これは信仰地名。

次、5ページ。伊良ケ谷(イ良ケ)。たくさん出でくるのですが、判りません。険しい所かなと、「イラ」という字で感じたことがあったんですが。

平田 「イラ」という草があって、それがたくさん生えている谷じゃないの?

下野 海に海イラ、山に山イラがいるんですね。私も山に行って大変なことに遭ったことがあるんで

すが、ちょっとした細菌です。それかも知れませんね。

永山(徹) 毛虫のイラもある。

平田 毛虫のイラも?

永山(徹) 先生の言われるイラ草のイラもある。毛虫のイラは、茶園なんかに居ますしょ。

下野 それかも知れんな。

永山(徹) ホジョとか、毛虫とかの言い方がありますけど、イラ。今、先生が言われたようにそれが多い谷。植物のイラが多い。まぁ、そんなことじゃないでしょうか。確かなことは判りませんが、イラと言いますよね。

松田 山奥にあるみたいです。

永山(徹) カヤ草とか毛虫は、この辺には居ますよね。方言なのかな。イラと言っていますがね。

松田 鎧田(アミタ;アンダ)。田の中から馬具が出たんでしょうかね。

江之口 それは、形状じゃないですか。

平田 鎧の形でしょう。袴田とか鎧とか、よく言います。そういう格好をした田圃ということ。眺めると、大体の格好がそなっている。それは、形状地名。

松田 白木田(シキタ)。よく判りません。地名用語語源辞典には、木の名前か、〇〇の木が九州には多い、と。

下野 こういうのは案外、開き田かも知れんですよ。

平田 なるほど。

松田 井田ノ山(イタヤマ)。ここは温泉が出て、マムシの毒に利くんたそうです。ここにも柴立の神さあがあって、金山があったんですかね。その場で手帳に走り書きしたものを、そのまま書きました。そういうのを、岩井田さんから聞きました。

ゼミ。これは、ゼンと言っている。加治木の辺川にもゼンがあるんですが、瀬に関係があるんかなと

と思っています。

二見 漢字はないですか。

永山(徹) 瀬見?

松田 この場合はゼミなんです。始良町の場合は片仮名です。

永山(徹) 瀬を見るじゃないのですね。

松田 ゼンと言っているようです。矢倉。矢倉山といいのがあるんだそうです。

永山(徹) 鎧(タタラ)、廻淵(アリヅチ)。山神宇都、これは水の出る神様で、山神山

(ヤマカンヤマ)と言っている所です。八丈(ハツヨウ)・内ノ山(ウチヤマ)。この内ノ山というのは、木場(コル)と

いう広い地域を表す中で、さらに小さくいう呼称だと聞きました。大平。これは「ウヒラ」です。グミ

ノ木。これはグミの木がたくさんあったというだけ

です。鳥淵(トリガ)。溝辺の県民の森の端っこの方に三重岳があります。その上に鳥淵というのはあるん

だそうですが、そこへオシドリが集って来るそうです。次は女夫石、「メオトイワ」というんですが、

判りません。

平田 ちょっと待って。北山で、質問・意見は

ありませんか。

二見 ナメリとかゼミとか、あるいはグミノ木とか、小字にする時は、全部仮名で書いているんですか。

平田 小字には、仮名で書いてあるものは沢山あります。すべて漢字とは限らないです。

下野 鎧(タタラ)というのは製鉄遺跡と考えられるわけですが、是非調査されて解明されたら意義があるのではないかでしょう。

永山(徹) 海岸のそばですか。そのタタラとい

う所は。

平田 北山ですから、ずっと奥ですよ。

永山(徹) 東市来にタタラ淵があります。

平田 県下には、たくさんあります。

永山(徹) タタラね。山の中にタタラがあるか

なと思って。

永山(修) 山の中にもありますよ。

永山(徹) あの、砂鉄とか、よく一ノ山田半背

永山(修) 木炭はないですか。

松田 よく知りません。

二見 平四郎という所にですね、始良末次、蒲生南三郎ですか。始良というのが出て来たんですが、これはちょっと面白いと思ったんですが。

松田 始良町郷土史には、そんなふうに書いてあります。

二見 始良というのは、それを見ますと、始良の中の地名という感じですよね。始良という地名そのもののいわれは色々あり、もっと別の意味が考えられているわけですけれども、この北山のところに、始良末次という人の名前があるというのは、なんか意味があるのですか。

松田 これは、国分の司空神ですか、一ノ山田半背

平田 守公神社(シユウゴンジサ)ですか?

松田 その末社ですからそんなに思うんです。

二見 よく判らんですか。

松田 いや、教えてください。

山崎 北山神社というのないですか?

松田 はっ?

平田 北山神社というのないのか?

松田 北野神社。

山崎 北野神社というのですか?

松田 それを北山神社と言ってるのではないかと思います。北山神社というのは、活字では時々見ますけど、実際は北野神社。

平田 まだ色々あると思いますが、次の木津志をお願いしましょう。

松田 6ページの木津志ですが、木津志(ヤシ)・切通・流合(カレアイ)。こういうのはすべて、これまでの例会で出て来たかと思います。楠木(タケ)というのを、フノキまたはタブノキ、両方の呼び名が

あったと、ルビが書いてあったと思うんですが。  
菅牟田(カムタ)、これ、「スゲタ」です。江之口  
さんの話では、これは「スカ」「スカムタ」のこと  
じゃないかと、砂地のこと。

平田 それは、菅笠(カスケ)というのがあるから、菅(カスケ)  
・カムタの生えている牟田(カムタ)ということでしょうね。

松田 首里ノ下。「シイガシタ」と呼んでいま  
す。よく判りません。赤仁田(アニタ)。山仁田(ヤマニタ)  
というのもあります。仁田尾(ニタオ)というのもあり  
ます。ここも、なにか金山とかかわっているんじゃない  
でしょうか。豆漬(マメカ)。これは、甲陵高校の  
川野先生が言われる、豆漬。その通りでして、今も  
冬は暖かい水が出るんだそうです。石切場、ここは  
墓石の石が出る所。

7ページ。岩坂(イハラ)。ほんとに岩と石ころだら  
けの所だそうです。五郎坊。これは、姶良町と蒲生  
町に分割されている小字ですが、蒲生町漆の方に、  
上五郎坊・中五郎坊・下五郎坊(カミ・ナカ・シモ)とい  
うのがあります。

下野 五郎(カミ)というのは、御靈信仰に関係があるよ  
うです。坊は寺ですから。御靈信仰の面から眺める  
必要がありますね。

松田 小川内。これは「コゴツ」。「チ」が聞こ  
えない。これは、会報8号の23ページに書いてあります。  
コガワチからコゴチになったもの。名彦山。  
「ナッコヤマ」と、そう聞こえるんですが。岩瀬戸  
・中村ノ下。下堤(ハシシケ)・上堤(カシケ)。

本田 木ヘンは手ヘンの間違いですね。提(ハサウエイ)  
手ヘンが本当ですね。

平田 提(ハサウエイ)、提げるの方。堤じゃなくて。

本田 吉田にも提水流・木提水流がある。中世文  
書は「きさけつる」です。

松田 加治木には「堤(ハサウエイ)」という苗字が。

本田 役場の人が誤記するんですよ。手ヘンを土  
ヘンにしてしまったり。これは完全に書きまちがい

松田 新入塚。「シンノヅカ」といいます。  
それから、内彼後(カヒゴ)・外彼後(オヒゴ)という。こ  
の「ヒゴ」というのは、資料Iの方は、多分、干河  
と書いてあると思いますが、これを小川内さんとい  
う方は、河じゃない「彼」の方だと、さかんに言わ  
れるもんですから、書いておきました。で、これを  
呼ぶのに「ウチコゴ・ソトコゴ」と言っています。

平田 ヒゴじゃないの。コゴね。そしたら、あれ  
だね。コゴチ・ウチコゴ・ソトコゴと、グループに  
なっているな。

松田 コゴが近いです。  
平田 木津志は以上です。なにかありませんか。

山崎 木地師はいないですか。  
平田 えっ?

山崎 木地師はいないですか。盆を作ったり、

椀を作ったりする、そういう人はいないですか。

松田 さあ?  
下野 木津志(カミツシ)というのは、そうですね、地形がで  
すね、右側の方は、東の方に進む所が、堀切になっ  
ています。行ってみれば、すぐ判ると思います。し  
たがって、やっぱり、切通しじゃないですか。

永山(徹) 切通(カミツシ)?

平田 切通(カミツシ)という苗字はあるんですよ。

永山(徹) 木通・切通と二通りあります。

下野 東木津志に行く途中は、谷あいみたいな所  
を通るようになっています。

平田 だいぶ、お疲れのようですが、先を急ぎま  
しょう。次、上名。

松田 濡女(ヌクナ)。さっぱり判りません。

下野 濡女(ヌクナ)はですね、これは洗い髪の鬼がボタボ  
タと落ちる妖怪女で、まだ幽霊ではない。幽霊とい  
うのは死霊が入ってるんですよ。死霊が入る以前の  
山の精気が女性化した山姫的な妖精女です。幽霊に  
なりきっていない。一番古い下層のです。山姫は古  
い神ですが。ですから、相当古い時代に、中世の頃

出来たものに違いありません。山姫が出る所は大体  
そういう所です。

平田 山姥など、こわいのが出て来るんだから。

下野 それは無制限にあります。

平田 どの辺になるの?あとで地図を見ればいい  
な。急ぎましょう。

松田 完磨。これは「シトイ・シットイ」と呼んで  
いる。

平田 実取(シトリ)だろうな。

松田 ここには鎌磨と書く字がある。

平田 カマトギ?

松田 鎌を磨ぐのかなと思ったんですが、ここでは  
「シットイ」と呼んでいる。次は尾奈子。オナゴ  
とも言いますが、オナッコと呼んでいます。次、奈  
良袂(ナラモト)。奈良田の元ですか。稻荷脇、稻荷神  
社の脇です。池平(イハラ)、その通りです。茶セン侯  
(チャセンマ)・渡リ・庵ノ上。庵ノ下があります。遠目  
塚(トウヅカ)。金目迫(キンメカ)という所もあります。  
目木金(メイカ)というのもあります。

遠目塚(トウヅカ)というのが、牧園の宿窪田・万膳、横川、  
菱刈にあります。遠目ヶ尾(トウヅカヘ)というのが、横川・栗野  
・川内に。これはちょっと意味が違うかも知れませ  
んが、阿久根に遠見ヶ丘、湯之元に遠見番山とあり  
ます。なんか面白そうな名前なんですが、判りませ  
ん。荷床。桜荷床(サクラニコ)ですが、島津の殿様が  
ここを通って荷をおろした所だと教えてくれま  
した。

9ページ。篠面野(シメノ)。篠目竹がたくさん生  
えている所だと言われました。左又平(サガシラ)・ウ  
ツラ。ウツラの鳥が多かったと、獵のおじさんの話  
です。隼人町に「うとら權現」というのがあったん  
ですが、宇都良。阿母谷(アムバ)・松木山(クシキヤマ)  
・平左衛門跡。集りを「アッマイ」。現在の塵捨場  
なんですが、やっぱり塵が集った所?

永山(徹) それは意味が違う。

松田 アッマイと言います。岩下越(イシタガ)、そ  
れから徳別当(ドットウ)、山神越(ヤマカガ)、谷川(タ  
ガ)。芋洗川、ビャコンタイと聞えます。ここは獵が  
活発でして、猪と猿が出て来るんだそうです。鍋口  
と書いて、ナベオカと言います。水小路(ミコジ)、葛  
ヶ八重(カラガハ)。ツヅラという植物があるんですね。  
これを煎じて飲めば神經痛によく効くんだそう  
です。即効薬だそうです。花立(ハタケ)、これは境界  
地名か?

平田 上名はそれだけですね。何か意見は?

江之口 ウツラは凹地じゃなかと?

平田 宇都良とかウツラというもの?

江之口 ウトランボとかいうようですが。

二見 目木金(メイカ)というの字にはなかった  
のですか。

平田 最後の花立。江平先生が狩猟と柴立をやら  
れましたが、柴立と花立というのは対比されるよう  
な地名で、分布を調べたら面白そうだなと思うので  
すがね。次、下名で説明されたいことを。

松田 下名では六ノ坪。条里地名ですか? 11ページ  
では素麺田(ソメンテン)、野町の近くなんですが。北  
石(タケシ)、これはホッセンボウだと言っています。  
年号がわからんですが、北真坊と記した石碑があり  
ます。自然石が二つ。イボの神様との話です。  
次、大山、いいですか。

平田 はい、どんどん行ってください。

松田 大山は乱橋(ミルカ)というのがあるんです  
が、現在は道路の下になって橋がないのですが亂  
橋と言っているようです。

平田 大山にも下名もあるんだね。

松田 二つに分割されています。吉丁ヶ岡(キチガ  
カ)、これは元官有林。大山の共有地で恵みの岡と  
いう話です。英ノ口(エングチ)、浜石さんという方が  
おられたので、いろいろ聞きましたら、小川先生の  
親戚の方だったようです。結局、塞之口じゃないみ

子(ヒヤト)熱不岸(ヒタハシ)。大山(ヒタハシ)田舎(ヒタハシ)川谷(ヒタハシ)、(ヒタハシ)熱不岸(ヒタハシ)山(ヒタハシ)、(ヒタハシ)當原(ヒタハシ)。

たいです。イジンドンという所があるそうです。十字路になっており、分れ道であります。源入、ゲニヨと聞えるのですが、わかりません。次は、

平田 はい、そこで、ちょっと。質問・意見はありませんか。

山崎 大山神社はないですか？そこは。

松田 えっ？

平田 大山神社はないか？

山崎 山神社でもないですか？

松田 大山に城光寺というのがあったと書いてはあるんですが、よくわかりません。

平田 大山神社をご存知の方はないですか？

小川 大山祇神社があります。

山崎 あるんですか。

平田 大山祇神社があるそうです。

永山(徹) 金峰町に素麺という苗字があるんですね。この素麺田の素麺。われわれが食べる素麺と別に、なにか意味があるんでしょうかね。皆、その子には「飴、ソメン、冷やソーメン」と冷やかしていましたが、本当、素麺という苗字です。染物は関係ない？あれは紺屋。コンヤ；コウヤ；クヤどんと言いますね。紺屋という苗字もいっぱいあります。この素麺というのは、なにか意味があるのでしょうか？苗字があります。素麺さんという人が

平田 わかりませんね。素麺屋と関係があるかも知れませんが。次、お願ひしましょう。

松田 寺師。拾石(シユコク)ということがあります。面白そうなんですが、わかりません。十六、これは十六大明神というのがあるんだそうです。万徳という小字があり、万徳領の性格というのを聞きたいのですが。同じ正八幡宮領でも万徳というのはちょっと性格が変った領地だそうです。勢力争いと結び付けて考えたかったのですが、よくわかりません。

青木、講田というのは1434年の文書に出て来ます。

大山(ヒタハシ)出水(ヒタハシ)山(ヒタハシ)入井(ヒタハシ)大山(ヒタハシ)來出(ヒタハシ)。市ヶ原(ヒタハシ)

15ページ、住吉。これは住吉神社によるもの。三月田(ヒタハシ)・五月田(ヒタハシ)。これも住吉神社にかかるもので、苗字もあるそうです。住吉神社の三月三日の祭り・五月五日の祭りの費用をその耕作田から出すことになっていると云われました。

火ノ迫。「ヒ」を集めてみました。日影(北山)樋之口・日之口、(木津志)樋口(下名)、樋渡(寺師)、火迫(住吉)、樋ノ口・樋渡(豊留)、樋渡(西餅田)、樋ノ口(船津)、高樋(西餅田)井樋田(平松)。

それから、トウベ。トウベはわかりません。こちらでは「ツベ」というんですが。わかつただけ書いておきました。弁用(ヒヨウ)、これがわかりません。百田(モリ)、1558年の文書に出て来ます。加治木町(ガキチ)というのがあるんですが、どうしてあの辺に加治木町があるのか。それから早馬(ハヤマ)、昔早馬(ハヤマ)神社があった。市之坪、これは条里制ですかね。

次16ページ。増田。御供田(ヨウバン)があります。郷屋(カヤ)というのがあるんですがわかりません。蛭田(ヒタ)というのがどんな所かと思って行ってみたら、やっぱり蛭が多かったのでしょう。現況は、畑になっています。

17ページ、永瀬。岩永見(イカミ)というのがわかりません。源入(ケニユウ)というのもわかりません。善入(セニユウ)というのが寺師に、弁入(ベンニユウ)が国分市下井にあります。戎田(ヒヌテン)というのは、エビス様が見あたりません。

18ページ、深水。恒見田(ケミテン)が出て来ます。耳取(ミトリ)が出て来ます。耳取は本田先生の話で出て来たように冷たい風で耳がちぎられたというような話を聞きました。

山崎 ちょっと済みません。深水は鍛冶屋はいいのですか。

松田 わかりません。

豊留(トヨドメ)。ここに貝柄下(ガイボシ)という地名があります。探そうと思ったんですが、山のちょっと下からちょっと下の所に貝がらがあって、大雨の時に流れて来たんだそうです。それで貝がらの下だと聞きました。

12の中津野。ティコという地名があります。これはわかりません。モッタイ。これは会報の7号にも出て来ます。春花(ハナ)、花(ハナ)が非常に気になります。花熟里(ハヌクリ)や花渡川(ハナガワ)、街道川を言うのでしょうか。奄美の方に花(ハナ)が多い。花徳(ハトケ)・花良治(ハラジ)・花天(ハエン)。花(ハナ)の字がよく書いてあり、植物に関係はないのかなと思ったりするんですが、よくわかりません。

三拾町。卯月(ウツヅ)というのは正福寺の跡です。豆漬(マツケ)があって油田(アラタ)。これは蒲生で聞いたのですが、蒲生にも油田があるがこれは「アラデン」、今は「アラタ」になったんだ、と。確かにそう言されました。辰喰(タケイ)、これはこの前、話があった授食崩壊地名ですか。会報11号。それから女生嶽(ヒョウカツ)。実際に登ってみました。木が多くて見晴らしどころじゃないです。全然見渡すことは出来ないのですが、水口ゆきえという女性が股のぞきをした所だと郷土史に書いてあります。それで女性嶽だと。結局、ニシュダケというのがいいんじゃないかと、いろいろこれについて聞きました。明性嶽(ミヨウカツ)というんだと、したり顔で教えてくれる人もおりました。いろいろ変っています。

22ページ、鍋倉。これはその通りです。小戸越(コトエ)、これが何かわかりそうでどこかに書いていたんですが、えー、鳥越。岩瀬戸・山元・下川畠、これがどうしたことか鍋倉と三拾町とに二分されています。小字が二つに分れるというのはどういう意味があるんでしょうかね。帖佐にはたくさんあります。それから風呂谷(ハラニ)、フロというのは何でしょうか。

24ページ、東餅田。餅田は13世紀に出て来ます。餅井田原で狩をしたと。上九十歩(ヒグシボ)、これがよくわかりません。市来崎、イッゴザキですね。道丁原(ドウジンガワ)というのがあるんですが、願成寺の道場でしょう。並木口というのは松並木の入口。

25ページ、十日町・八日町。えー、西郷というのがあるんですが、これは帖佐西郷と決めていいのでしょうか。それから大ドラというのがあります。現況は田ですが。下木流(ハサガワ)・上木流(ヒサガワ)というのあります。帖佐駅の付近です。九郎太郎、それからクヨ原。帖佐駅の前に石碑があり、垂木どんの墓だと言っています。

26ページの松原。松原の小字は非常にわかりにくいでです。整理してみたら、東餅田に松原・中松原・下松原・下松原町・東松原とあります。西餅田の方に上松原・上松原町。両方に中松原と下松原がある。よそから見ると、わけはわからんです。実際は松原下・松原上というような形で使っているようです。

東という字ですが、ここに例の西ノ妻があり、小瀬戸遺跡もあり、東は西ノ妻に対する東ノ妻じゃないかと考えることが出来るならば面白いのでしょうか。中丸・森・九十歩という小字がちょうど中程に入って来るわけです。東ノ妻と西ノ妻の真ん中ぐらいに「森」が位置するんですが。その当時なにかあったんじゃないかと、いろいろ勘ぐっているところです。

27ページの西餅田。雨乞(アマギ)という地名もあります。雨乞神社というのは、現在、合祀されております。大文字池(タケシタケ)、これはウンモンジイケというのがあったそうですから、雲門寺がなまつのではないかなというわけです。壺屋、これは小字ではないのですが、元立院窯と関係がありそうです。篠目原(シメイ)、さっき篠目竹と言ったのですが、会報8号に知覧では共有山のことを

シノヅヤマということが書いてあります。それから戸越（トヨ）、外越、鳥越。いろいろと書かれます。

西ノ妻。国分守公神社の西ノ妻に由来を求めているようです。それから桜木（サキ）という所、縦貫道のサービス＝エリアの裏側になるんですが、ここに同じ年代に作った山神さあと田之神さあが並んでおります。この田之神さあ、碑文を見ると、山路藤五兵衛というのが出て来るんです。山路藤五兵衛というのは島津義弘に関係のある名前で、同姓同名かなと思ったりします。これに内楠元・中楠元・外楠元という地名が膨ってあります。ここは楠元部落なんですが、その当時、内・中・外という区別があったことがわかります。月形（ツクイ）、わかりません。

山野谷川（サンヤウガ）、現在の海水浴場です。口之坪。クミ迫というのはグン迫と聞えるのですが、グミですか。

平田 グミの木だね。

下野 27ページの真ん中。シノヅ山ですね。「シノッキヤマ」というんですよ。「シノッキヤマ」。ご存知かも知れませんが。

松田 29ページの船津（ハツ）。王子原（オシハ）といふのはちょっと興味がある地名です。吉田の方にも王子權現・王子原というのがあります。宮田ヶ丘（ヒタケガカ）。これは国分寺の瓦を焼いた所。やはり、この円の中に含まれております。そして春花（ハケ）室迫（ムサコ）・井手丸・鉢窪。この鉢窪が条里制にもとづくものだったら、八窪ですね。

30ページの北辰原（オシハル）。これは妙見ですか。日当山の妙見神社といふのは犬飼のイザナギ神社の所にあったんだそうです。『地名を掘る』という本の中に修驗道に関係があるのでないかと書いてあります。妙見菩薩碑というのが実際立っています。慶安2年（1649）の年号が入っています。ここに妙見信仰があったことがわかります。

大坪 小字の発生というものを感じました。大坪

というものが二つに分れます。大の字をとって大平になり、坪をとって八坪という。柳迫が上柳と長迫になる。こんな感じで小字は発生して行ったんじゃないかなと思います。単純な発想ですが。

次、平松。片子嶽（ヘンコタケ）という岩山ですが、辺河嶽とも書いてあるんです。その片子嶽の周囲に、山丸・石丸・鋒丸という地名が囲むようにあります。次の車田（ケルマ）。よくわかりません。

下野 その車田ですが、大口ではマワイ田植えと言つて明治までやっていたようです。車田植えを。一升瓶を真ん中に置いて時計回りに植える。植え終ると畦の所に旦那の奥さんが待っているんですね。赤飯を用意し、畦でご馳走をする。つまり、儀礼的な田植えで、車田植えをする。なぜ渦巻きに植えるか、これが問題ですね。佐渡は現在でも車田植えをする。徳之島ではチンニヤンデラ植えと言います。チンニヤンデラとは、カタツムリのこと。フィリピンもありますし、インドにもあります。結局、雨の神様として竜を祀った。

松田 隼人文化9号にそんなのが書いてあったようです。「国分物語」にも書いてあります。

扇子平（ハラカ）・真方（マカ）・目串（メシ）。目串といふのは斐藩名勝考の93ページ、瀬々串の所が同じ「串」なので見てみましたが、景色のよい所のようです。平松の目串といふ所、景色の良い所ではないかと思います。三国名勝図会を見ると確かにここは景色の良い所だと書いてあります。

最後に33ページ、脇元。一番下に轟というのがありますが、布引（ヌビキ）の轟の所を轟ノ宇都と言います。その下の所を轟と言い、川を轟川と言います。そこに架けた橋を轟橋。トドロキだらけになります。以上で終ります。

（質疑応答）

平田 聞いている方もダレたと思いますが、何か意見はありませんか。

山崎 さっきの鉢窪ですけど、やっぱり字の通り磨鉢状の窪地を言うのだろうと思っています。

平田 そうでしょうね。鉢窪という地名は多いのですよ。磨鉢状にくほんだ所を鉢窪と呼ぶ場合もあるし、蜂の多い凹地というのがあるかも知れない。

松田 実際にここはちょっと低いです。川のすぐ近くなんですが、地形的には低いです。

江之口 これは足利などと同じ系統ですね。やはり窪地だろうと思います。

永山（徹） 伊集院町に八久保とありますが、伊集院中学校の所。あれは山ですけど。そのうしろのくほんだ所ですか。盆地。八久保団地もあります。

江之口 ユとヰの区別ですけど、どこにその区別があるのだろうかと思うほどユとヰは全く同じように使われてあります。井戸のヰと湯のユですね。これはあまりそう区別がないような気がします。

平田 始良のしめくくりをせんといかんですね。始良の小字をインプットしながら驚いたのは「トウセマチ」という地名が上名と下名にあったことです。和名抄にある答西郷。これはトウセとしか読めないので、帖佐はこれの転化と見るのが県史以来の説です。当歎町、これは答西郷の有力比定地になると思いました。大字を探した段階で「トウセ」の地名に該当するものがないので、帖佐または竹子

（カセ） しかたない。これらをどのように解釈すればよいかと考えたんですが、「トウセ」の地名があることがわかりましたので山田郷がその比定地になるだろうと思います。

それから条里地名というのは、県内ほとんどの所にあります。屋久・種子までありますから、これら坪の付く地名は条里地名だと考えてよいと思います。

12月は現地に行こうかと思うのですが、どこか希望はありませんか。私は当歎町という所を見たくてしょうがないのですが。

松田 二ヶ所ある。上名と下名に。

平田 この円を描いた中心部あたりを回りましょうか。

下野 ちょっと、よろしいでしょうか。今日の話は豊富な資料で面白かった。民俗と関係あるところがですね。例えば、北部の山地の方は牧と関係のある地名が多い。狩猟と関係ある地名が多い。中南部の方は「モリ」と関係ある地名が多い。そういうものについて現地をもっと調べてみたら民俗的な面白い説が樹てられるのじゃないでしょうか。

平田 12月は今日話のあった円を歩いてみましょうか。あちらに行ったことがありませんので、いろいろ教えてください。今日はこれで終ります。

- 【A】鹿児島県川内市（センダイ）**
- 1256 建長 8 新田宮所司神官等解文 [右謹按旧貫、天尊瓊々杵尊円寂砌、可愛陵高城千臺] /『神代三陵誌』  
 1337 建武 4 曽木宮里氏文書 [於渋谷東郷託万、種正以下御方、為石上城破却、内集千臺之津之間、馳参]  
 1342 历応 5 阿久根氏文書 [國中以外騒動之間、參越千臺、雖合催軍勢候]  
 1342 康永 4 羽島氏文書 [薩摩國々分寺原田壱丁中間三段、刑部入道千台蘭一所事内光富名半分事] A5  
 1400 \*\*不明 種子島文書 [薩州川内] (時代は南北朝?) (A2~A6はいずれも『日記雜錄』所収)  
 1407 応永14 山田聖栄自記 [久哲(師久)ついに川内平佐の城にて死去]  

**【B】岡山県久米町千代（センダイ）** 《古代大井庄》神代川・八千代・宮家・領家・坪井・倭文郷・一色・里公文》  
 『作陽誌』 [千体仏跡在り仏堂供に亡く今千体を以て地名と為す此の地に石仏觀音あり]  
 1923 大正12 『久米郡誌』 [元弘二年三月後醍醐天皇纏奥の塵埃を御洗淨遊はされたので洗臺と名づけた]  

**【C】鳥取県千代川（センダイガワ）** 《千代橋》

1581 天正 9 石見吉川家文書 [遠国?境といひ、千臺の大川を???] /天正10年刊、大日本古文書9所収  
 1644 寛永21 山県長茂覚書 [西口ハ仙大川有、渡口ハ一城構……] /『石見吉川家文書』所収  
 1675 因幡民談記/因伯叢書No1 [千代川。両郡の堺の川也……もと千谷川と云ひしを。今誤てかく云ふなり]  
 1795 因幡志 [※S・53復刻。内容省略]  
 1796 寛政 8 因益(盜?)物語 [※「千代」。資料未収集]  
 1833 天保 4 旧墨鑒覽 [陰徳記<万治三年頃>ニハ…千臺川…民談記<別記>ニハ…千代川…]  
 関西陰徳太平記・卷64 [袋川ト千臺川トノ間ニ…千谷川ノ水底ヲ泳リテ通路シケルフ…]  
 鳥府志/ 県史第六卷 [上を知頭川と云。片山村の前にて八東川と合流す。下を千代川と云へり]  

**【D】富山県礪波市千代（センダイ）**

1619 元和 5 利波郡家高ノ新帳 [開発字/一六間・千代] /『礪波町村資料(S・7・11刊D)』所収  
 郷村名義抄 [千体仏在之、其辺ニ村立出来ニ付則千体村ト申ス] 『越中志徵・卷二』孫引  
 1646 正保 3 高物成帳 [能登国鳳至郡阿岸郷千代村モ往古千体寺アルニ依テ千体ト云フ後千代ニ改ム]  
 郷村名義抄 [千代・千代ハ油田村ノ西北ヲ占メ北ハ…]  
 1930 昭和?? 油田郷土史稿 [正保・寛文・貞享高辻帳ニハ千代村ト御座候加賀国能美郡徳橋村ニモ千代村]  
 越中志徵・卷二 [正保・寛文・貞享高辻帳ニハ千代村ト御座候]  

**【E】石川県門前町千代（センダイ）** 《千代川(支流)・大口は千代の飛地・千代神社》

1560 永禄 3 " [千体寺跡。今に千体屋敷と申す所有。永禄三年鉄川寺衆徒七尾庁に訴状…]  
 能登志徵・卷六 [郷村名義抄ニ往古千体寺ト申ス寺アリ…千代村ト何比ヨリ書替申候哉相知不申候。正保・寛文・貞享高辻帳ニハ千代村ト御座候]  
 1644 正保 " [永禄三年の鉄川寺衆徒訴状に「阿岸千体寺」…阿岸川(千代川)の主邑で觀音堂。千代村能登誌に千代村に秦澄作の觀音堂あり千体寺の本尊なるべし]  
 門前町の城砦跡・館跡 [千体寺。千代部落の東はずれに千代神社があるが一帯は昔真言宗の寺院があ  

**【F】石川県小松市千代（センダイ）** 《千代城》

1562 永禄 5 加賀能日跡緒 [千代領に徳田志摩守居住之跡…城跡有] /『能美郡史』『千代町史』所収  
 紓帶編 [千代村の城跡。此村内平地に砦の跡あり] (同上) 所収  
 1562 永禄 5 三州志故虛考・卷三 [千代古城。明智軍記に永禄五年の秋…千代などと云う處に要害を構へ…]  
 能美郡史 [得橋郷千代本村東ニ在リ景周遊此地<sup>ノ</sup>巡城述不詳…] (同上) 所収  
 小松市史 [千代城跡。字千代なる小野町の中間平地に在り、永禄中朝倉氏築城す]  
 東は能美郡国府村…小字の千代出や小野町は供に千代からの枝村…]  

**【G】石川県羽咋市千代（チヨ）**

1499 明応 8 能登志徵・卷一 [明応8年『一宮衆徒田畠等目録』に百刈、(在邑知院)千代町鼻未進分]  
 1526 大永 6 " " [千代町村・一宮年貢帳に千代町三郎二郎百刈、千代町六郎次郎百姓千代町]

**【H】三重県大台町千代（センダイ）**

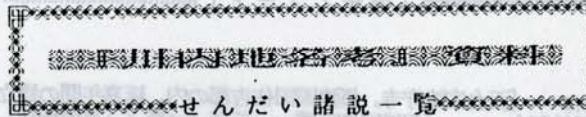
1554 天文23 旦那壳券写(米良文書) [天文23年旦那壳券写(米良文書)にせんたいの地名] /『三重県の地名』  
 1704 宝永元 新田畠申改検地帳 [宝永元年新田畠申改検地帳] " " /『三重県の地名』  
 1709 宝永 6 本田畠地詰検地帳 [宝永六年本田畠地詰検地帳] " " /『三重県の地名』  
 1594 元禄 3 元禄郷帳 [元禄3年郷帳] " " /『三重県の地名』  
 1619 元和 5 [元和5年からは紀州領]

**【I】愛知県稻沢市千代（センダイ）** 《千代・千代西町・千代口・千代田 チヨ・千代神社 チヨ・

1285 弘安 5 尾張国千世氏荘付注進案 [一・千世氏名田畠/田拾参町壱段三百歩] 『一宮市史・資料編 No350』所収  
 1337 建武 4 性海寺田畠注文状写 [一所 陸田六段 千代] 『性海寺文書』所収 /『圓融寺文書』  
 1353 文和 2 良禪・頼忠起請文 [千代荘内重枝次郎丸]  
 1353 文和 2 尾張国諸郷保料足用途注文 [千世氏庄直納御貢納帳]  
 1361 延文 6 貞行寄進状案写 [尾張国中嶋郡手(千カ)代氏庄内永吉田地事] 『妙興寺文書』

1365	(不明)	『神鳳抄』	[千与氏御園・七丁四反]	* (12~16は『愛知県の地名』所収)
1841	天保12	『字絵図』	[中島郡国府庄千代村・千代大明神・村除]	『近世村絵図解説図-S57刊』所収
J】 静岡県静岡市千代 (センドイ) 《千代氏・千代山・千代川》			[千代家は名主をつとめた名門でその祖先は遠く慶長年間にさかのぼる。]	
昭和40	『千代家文書』解説		[千代家は名主をつとめた名門でその祖先は遠く慶長年間にさかのぼる。]	
1603	慶長14	駿河志料 (文久元・刊)	[慶長14年検地のとき浅間領なりしが正徳中羽島村と俱に替地となれり]	
1840	天保??	駿河雜誌	[千代村、服織主郷名知レズ、或云フ古ハ仙代ニ作ル]	
		駿河千代遺跡発掘報告書	[通称千代山に存在する。……千代山は安部山系より突出した丘陵である]	
		修訂駿河国新風土記	[千代。山崎ニ並ビテ安部川通リニアリ村名ノ義未詳千代シノノ義ニヤ]	
1912	大正元	服織村誌	[千代村。服織主郷名知レズ、或云古ハ仙代ニ作ル……]	
K】 神奈川県小田原市千代・千代台 (チヨ) 《千葉 ヨウ=千代説<皇國地誌>・国分寺》				
1227	嘉禄 3	将军藤原頼經袖判文	[相模国柳下郷……千葉 ヨウ郷]	
1286	弘安 9	伊豆走山東明寺文書	[相模国千葉 ヨウ郷内……]	
1590	天正18	豊臣秀吉禁制状	[相模国西郡……千世]	
		所領役高帳	[式百十貫文、西郡千代上下]	
1970	昭和45	郷土の地名	[千代には八世紀の大伽藍跡があり初期国分寺の遺構と考えられている]	
1979	昭和54	神奈川県史／資料編 20	[千代廃寺跡……土師器杯出土。出土瓦などから奈良後期～平安期にわたる]	
1981	昭和56	わか町の歴史・小田原	[国分寺に類するものと推定される。……足柄郡の中心があつたことを物語る]	
L】 埼玉県江南村千代 (センドイ)				
1592	文禄元	武徳編年集成	[一・百三拾石五斗九升二合武州せんたいの郷] / 『新編武蔵風土記稿』所収	
1595	文禄 4	文禄檢地帳	[武州男倉之郡千代村・御縄打水帳也/地引/小塗陣正] / (同上)	
		『埼玉県地誌』	[千代(ヒタ)千代は篠場庄忍領に属し……静簡院原台地の川合の意であろう。]	
M】 千葉県三芳村千代 (センドイ) 《千代原ヒタハラ・千田村・千田城・》				
1445	文安 2	房総志料	[……安西を攻んとて白浜を發し千臺村に屯す。按、千臺今千田に作る]	
1615	元和元	『角川』		
1644	正保??	正保高帳 『角川』	[安房国村高帳と同。勝山領、戸数四十一・千代村] / 『房総叢書9』所収	
1793	寛政5	房陽郡郷考 『角川』	[房総遊覽誌(弘化乙巳=千代)里見九代記(文安2?=千臺)房総里見軍記(同=千臺)] [房総里見誌(同=千代)坂東八館譜(同=千臺)房総志料続編(同=千代)安房誌(不明=千代=千臺)安房志(明治41=千代)などがあるが同一内容の為省略]	
N】 宮城県仙台市 (センドイ) 《島津氏居城説・国分氏・千葉介常胤五男胤道》				
1537	天文 6	伊達植宗書状	12月26日条に「今度義宗為合力各々千代」 / 『伊達正統世繼考・卷八下』所収	
1600	慶長 5	貞山家治記録	12月24日条に「公千代城へ御出御普請御縄張始メアリ。文字ヲ仙臺ト改メラル	
1601	慶長 6	仙臺橋擬宝珠銘	[仙臺橋下/河水千年/民安国泰/執与堯天/藤原政宗/門土川島豈前守奉造]	
1695	元禄 8	仙臺鹿の子	※資料未収集	[仙臺橋下/河水千年/民安国泰/執与堯天/藤原政宗/門土川島豈前守奉造] [其後島津某居住して陸奥守と号す、後島津薩摩へ城府を移して此の城荒る]
1723	享保 8	仙臺萩	[其後島津某居住して陸奥守と号す、後島津薩摩へ城府を移して此の城荒る]	
1772	安永元	封内風土記	[仙臺城。伝云、古昔千葉介常胤五男胤道宮城郡国分荘領、……或説曰人皇二七代	
1772	安永元	" "	繼体帝始此城築千代号。三二代用明帝千体仏此府安置千代改千体号其後島津某之居	
1772	安永??	残月臺本荒萩	※省略。『仙臺萩』『封内風土記』などと同内容	
1899	明治32	増補仙臺鹿の子	[……西南は御裏林続き山を限りて川内といふ。其中に追廻山の根大工町など]	
1915	大正 4	東藩史考	[十二月。公改メテ千代ニ城ク(マ)城ハ本ト国分盛氏世々之ニ居ルト云フ]	
1931	昭和 6	宮城県通史	[石巻日和山、つつじヶ岡、国分千代城の三個所を予定して幕府に願出千代城	
1938	昭和13	仙臺大橋の変遷	※大手門に通ずる重要な橋。慶長6年十二月竣工『郷土研究第八卷第1号』	
		仙台市史七・別編5	[『仙台の社寺と教会』で仙臺大明神・光禪寺・虛空蔵堂・千体仏堂等を記載]	
		宮城県地名考	[ゆるやかに傾斜した段丘地帯を米ヶ袋と称し……昔は仙台ヶ原と呼び……]	
□ 910	延喜??	千体寺 セタジ	[天台宗津守寺。摂津国国住吉郡の内。延喜年間の建立と伝えられる。]	
□ 1275	建治 3	千代田納所ヨダ	[伊勢国朝倉郡(今四日市)の内。建治三年の神祇權小副大中臣降有申狀に見える]	
□ 1394	応永元	千体寺 セタジ	[山城国愛宕郡岡本郷の内。応永元年往来田古帳に「賀茂別雷神社領/河成」とある]	
□ 1596	慶長??	京都西京区桂川右岸	京都西京区桂川右岸。桓武天皇女の宮殿が「朝原」と呼ばれ、のちに千代原に転訛した。『府地誌』説	
【ビ】	福島県に仙台平が、東京都に仙台……がある。また千葉県市原市山木にも千台原ヒタハラの小字あり。			
【ビ】	鹿児島県 ( ) の小字に「仙台松」あり。瑞兆地名か?		『角川鹿児島』	
【ビ】	『奈良県史14地名284P』に千代 ヨロで記載。出自は幡磨國風土記の「大和千代村主」。他に仙台の小字あり。			
【ビ】	境港市千代畠 (センドイバタ) <旧竹内村の小字。砂地の浜で小字も現存>			
【ビ】	境港市仙台屋敷開 (センドイヤシキヒラキ) <旧渡村。宝曆の頃元角家の開拓地。同家の屋号はセンドヤシキ			
【ビ】	丹後国田敷帳 (時代不詳) に「千代富保ヨミノ」がある。与謝郡のうち。			
【ビ】	京都左京区に有名な歌枕となった「千代の古道」がある。			
【ビ】	大阪住吉区に千体寺セタジ。大阪茨城市に千体寺セタジがあるが由来等詳細は不明]			
【ビ】	岐阜県恵那市毛呂窪中田組に「センドイブツ」あり。千体仏ありと伝える1860年頃 (『毛呂窪の地名』67P)			

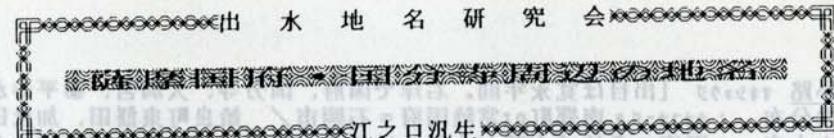
□ 910	延喜??	千体寺 セタジ	[天台宗津守寺。摂津国国住吉郡の内。延喜年間の建立と伝えられる。]	
K1	1227	嘉禄 3	将军藤原頼經袖判文	[相模国柳下郷……千葉 ヨウ郷] / 『神代三陵誌』
A1	1256	建長 8	新田宮所司神官等解文	[右謹按旧貫、天尊尊々杵尊ノ痕跡、可愛陵高城千臺]
O1	1275	建治 3	千代田納所ヨダ	[伊勢国朝倉郡(今四日市)の内。建治三年の神祇權小副大中臣降有申狀に見える]
I1	1285	弘安 5	尾張国千世氏莊坪付注進案	[一・千世氏名田畠/田拾参町壱段三百歩] 『一宮市史・資料編 No350』所収
K2	1286	弘安 9	伊豆走山東明寺文書	[相模国千葉 ヨウ郷内……]
A2	1337	建武 4	曾木宮里氏文書	[於渋谷東郷町万、種正以下御方、為石上城破却、内集千臺之津之間、馳參]
I2	1337	建武 4	性海寺田畠注文状写	[一所・陸田六段 千代] 『性海寺文書』所収
A3	1342	暦応 5	阿久根氏文書	[國中以外騒動之間、參越千臺、雖合催軍勢候]
A4	1342	康永 4	羽島氏文書	[薩摩國々分寺原田壱丁中間三段、刑部入道千台箇一所事内光富名半分事]
I3	1353	文和 2	良禪・頼忠起請文	[千代莊内重校次郎丸]
I4	1353	文和 2	尾張國諸郷保料足用途注文	[千世氏庄直納御貢納帳]
I5	1361	延文 6	貞行寄進状案写	[尾張國中嶋郡手(千カ)代氏庄内永吉田地事] 『妙興寺文書』
I6	1365	(不明)	『神鳳抄』	[千与氏御園・七丁四反] * (12~16は『愛知県の地名』所収)
O2	1394	千体寺 セタジ	[山城国愛宕郡岡本郷の内。応永元年往来田古帳に「賀茂別雷神社領/河成」とある]	
A5	1400	**不明	種子島文書	[薩州川内] (時代は南北朝?)
A6	1407	応永14	山田聖業目記	[久哲(師久)ついに川内平佐の城にて死去]
M1	1445	文安 2	房総志料	[安西を攻んとて白浜を發し千臺村に屯す。按、千臺今千田に作る]
G1	1499	明応 8	能登志微・卷一	[明応8年『一宮衆徒田畠等目録』に百刈、(在邑知院)千代町鼻未進分]
G2	1526	大永 6	" "	[千代町村・一宮年貢帳に千代町三郎二郎百刈、千代町六郎次郎百姓千代町]
N1	1537	天文 6	伊達植宗書状	12月26日条に「今度義宗為合力各々千代」 / 『伊達正統世繼考・卷八下』所収
H1	1554	天文23	旦那亮券写(米良文書)	[天文23年旦那亮券写(米良文書)にせんたいの地名] / 『三重県の地名』
E1	1560	永禄 3	" "	[千体寺跡。今に千体屋敷と申す所有。永禄三年鉄川寺衆徒七尾庁に訴状……]
F3	1562	永禄 5	加賀志微・卷七	[千代古城。明智軍記に永禄五年の秋……千代などと云う處に要害を柵へ……]
F3a	1562	永禄 5	三州志故處考・卷三	[得橋千代本村東ニ在リ景周遊此地巡観城述不詳……]
C1	1581	天正 9	石見吉川家文書	[遠國?境といひ、千臺の大川を? ? ?] / 天正10年刊、大日本古文書9所収
K3	1590	天正18	豊臣秀吉禁制状	[相模国西郡……千世]
L1	1592	文禄元	武徳編年集成	[一・百三拾石五斗九升二合武州せんたいの郷] / 『新編武蔵風土記稿』所収
H4	1594	元禄 3	元禄類	[武州男倉之郡千代村・御縄打水帳也/地引/小塗陣正]
L2	1595	文禄4	文禄檢地帳	12月24日条に「公千代城へ御出御普請御縄張始メアリ。文字ヲ仙臺ト改メラル
O2	1596	慶長??	京都西京区桂川右岸。桓武天皇女の宮殿が「朝原」と呼ばれ、のちに千代原に転訛した。『府地誌』説	
N2	1600	慶長 5	貞山家治記録	12月24日条に「公千代城へ御出御普請御縄張始メアリ。文字ヲ仙臺ト改メラル
N3	1601	慶長 6	仙臺橋擬宝珠銘	[仙臺橋下/河水千年/民安国泰/執与堯天/藤原政宗/門土川島豈前守奉造]
J3	1609	慶長14	駿河志料 (文久元・刊)	[慶長14年検地のとき浅間領なりしが正徳中羽島村と俱に替地となれり]
M2	1615	元和元	『角川』	『開発序/一六間・千代』 『礪波町村資料 (S・7・11刊)』 所収
D1	1619	元和 5	利波郡家高ノ新帳	[元和5年からは紀州領]
H5	1619	元和 5	" "	[西ロハ仙人川有、渡ロハ一城構……] 『石見吉川家文書』 所収
C2	1644	寛永21	山県長茂観書	不申候。正保・寛文・貞享高辻ニ千代村ト御座候]
E2a	1644	正保??	" "	
M3	1644	正保??	正保高帳 『角川』	
D2a	1646	正保 3	高物成帳	
C3	1675	因幡民談記/因伯叢書No1	[千代川。両郡の堺の川也……もと千谷川と云ひしを。今誤てかく云ふなり]	
M4	1695	元禄 8	仙臺鹿の子	※資料未収集
H2	1704	宝永元	新田畠申改換地帳	[宝永元年新田畠申改換地帳]
H3	1709	宝永 6	本田畠地詰換地帳	[宝永六年本田畠地詰換地帳]
N5	1723	享保 8	仙臺萩	[其後島津某居住して陸奥守と号す、後島津薩摩へ城府を移して此の城荒る]
N6	1772	安永元	封内風土記	『仙臺城。伝云、古昔千葉介常胤五男胤道宮城郡国分荘領、……或説曰人皇二七代
N6a	1772	安永元	" "	繼体帝始此城築千代号。三二代用明帝千体仏此府安置千代改千体号其後島津某之居
N6b	1772	安永??	残月臺本荒萩	※省略。『仙臺萩』『封内風土記』などと同内容
M4	1793	寛政5	房陽郡郷考 『角川』	[安房国村高帳と同。勝山領、戸数四十一・千代村] / 『房総叢書9』所収
C4	1795	寛政 8	因幡志	※S・5 3復刻。内容省略
C5	1796	寛政 8	因益(盜?)物語	※「千代」。資料未収集
C6	1833	天保 4	旧墨鑒覽	[陰德記<万治三年頃?>ニハ…千臺川…民談記<別記>ニハ…千代川…]
J4	1840	天保??	駿河雜誌	[千代村。服織主郷名知レズ、或云古ハ仙代ニ作ル]
I7	1841	天保12	『字絵図』	[中島郡国府庄千代村・千代大明神・村除] 『近世村絵図解説図-S57刊』所収
N7a	1899	明治32	増補仙臺鹿の子	[…西南は御裏林続き山を限りて川内といふ。其中に追廻山の根大工町など
J4c	1912	大正元	服織村誌	[千代村。服織主郷名知レズ、或云古ハ仙代ニ作ル…]
N7b	1915	大正 4	東藩史考	[十二月。公改メテ千代ニ城ク(マ)城ハ本ト国分盛氏世々之ニ居ルト云フ]
B2	1923	大正12	『久米郡誌』	[元弘二年三月後醍醐天皇醍醐の塵埃を御洗淨遊ばされたので洗臺と名づけた



鹿児島地名研究会  
江之口汎生  
S61.9.7

- ◆鹿児島県川内市  
川内音より説  
千台説  
千台閣説  
世牟多以説  
国府関連説  
五代賀連説  
スメル語Cende説  
アイヌ語セム・ナイ説  
アイヌ語セム・タイ説  
◆岡山県久米町千代《中世大井庄》  
洗台説  
千体仏説  
◆鳥取県千代川  
千体仏説  
千谷川説  
クメール語説  
アイヌ語セム・ナイ説  
◆富山県礪波市千代《江南村の小字にも「阿岸」あり》  
千体仏説  
チシロ説  
◆石川県門前町千代  
千体寺説  
◆石川県小松市千代  
チシロ説  
◆愛知県稻沢市千代  
チシロ説  
◆静岡県静岡市千代《仙代に作る》  
チシロ説  
アイヌ語センナイ説  
◆神奈川県小田原市千代  
庄説  
◆埼玉県江南村千代  
川台説  
◆宮城県仙台市  
千体仏説  
川内先行説  
チヨ説  
アイヌ語セブ・ナイ説  
アイヌ語セム・ナイ説  
朝鮮語ゼンジングダンギイ説
- 往古は川より北國府乃方を川内といひ川より南を川外といひ事疑ひなきを……／地理纂考  
天孫瓊々杵尊伊坂砌可愛陵高城千台宮者今新田八幡宮是也／新田神社文書  
昔村近に大きな「千台閣」があった伝承から／南日本文化誌  
新田は志牟多で川添い八個郷を世牟多以と言う。／神代三陵志  
六例が同府所在地で共通する。／平田信芳・川内の由来  
後ダイ←→先ダイ／松岡静雄・記紀論究神代編  
「みそぎ」の義／前波仲子氏説  
広い川の義／最上宏・鹿児島県地名考  
挟った崖地の義／古代地名語源辞典  
天皇の體奥の塵埃を洗ったので／久米郡誌  
千体仏跡あり、今千体を以って地名と為す／作陽誌  
在原業平弘法大師が仏像を川に流した／千代川史・郷土読本  
一国数郡の谷々皆此川に会合して……／陰徳太平記・因播誌  
センは「供物」、ナイは「川」の義／坪井文学博士・因播の地名  
セムは「玄闇」ナイは「河」の義／山柳晴次郎・歴史以前の因伯  
此所に往古千体仏之在、則千体村と申す／郷村名義抄  
思ふに上代千代・百代とて田地の名を呼べるに／越中志微・卷二  
往古此所に千体寺と申す寺之有、今千体寺屋敷と申す所之有／郷村名義抄  
邑名はもと田地の歩数より……後に音読みして／加賀志微・卷七  
旧の呼称はチシロなるを今は字音に呼は誤るに似たり／尾張地名考  
村名の義未詳。もししくは千代はチシロの義にや／駿河国新風土記  
川内市はセンナイ(即ち状の川)から発祥……これらと共通する……／静岡の町名の由来  
千代と呼ぶ地名は全国に分布し大体国庁跡に多い……／郷土の地名  
千代の名は静簡院原台地の川台の意であろう。／埼玉県地誌  
城ノ側ニ千体仏アリ因リテ千体ト号ス後文字ヲ千代ト／貞山公家治記録  
仙台地方をセンダイと呼んだ……川内の地名がそれで／宮城県地名考  
根岸一帯の地を「百代の里」と呼び……／金徳淳・わしが郷土20号所収  
「広い川」の義／藤原相之助・わしが郷土12号所収  
「崖の川」の義／中目 覚・宮城県地名考所収  
「霞ノ野」の義／土佐林義雄・宮城県地名考所収

- \*\*不明 高城由来記  
\*1190 建久? 国分氏系図  
1256 建長8 新田宮所司神官等解文  
1337 正武4 曾木宮里氏文書  
1342 历応5 阿久根氏文書  
1345 康永4 羽島氏文書  
1380 \*\*不明 種子島文書  
1407 応永14 山田聖業自記  
\*1469 文明? 旧記  
1485 文明17 文明記  
1595 文禄4 北郷氏由緒記  
1595 文禄4 反地目録  
1599 慶長4 御知行目録
- 中古通称川内高城、天明五年官命改称高城郡高城、按上古作千台、享保五年改作川内  
□建久年中川内國分城主、天満宮別当職  
□右譲按旧貫、天尊瓊々杵尊伊坂砌、可愛陵高城千臺】／『神代三陵志』  
□於渋谷東郷籍五万、種正以下御方、為石上城破却、内集千臺之津之間、馳参  
□國中以外騒動之間、參越千臺、雖合催軍勢候  
□薩摩国々分寺原田壱丁中間三段、刑部入道千台閣一所事内光富名半分事  
□日破田/薩州・千台/八十町 (種子島頼時の忠死に氏久より子息の清時に賜下)  
□久哲(師久)ついに川内平佐の城にて死去]  
□文明六年八月の撰云々、川内高城(仁)給黎……  
□祁答院衆川内衆川ヲ渡シテ風口ト小松ヶ尾廻所ヘ陣取テ責ル程ニ城ヲ去渡テ城衆東郷ヘ  
□薩州千台平佐所々賜之……  
□川内平佐村、同天辰村、同宮里村、同高江村、入来院之内塔之原村、市来之内川上村  
□高城郡千台宮内、同(千台)大小路



- ※薩摩国の歴史 [白雉四年(653)薩麻之曲……／13郡35郷]  
\*大宝二年(702)／……於是發兵征討、遂校戸置吏焉  
<和銅6(713)割肝坏、贈於、大隅、始羅四郡、始置大隅国>『続日本紀』  
【平585】\*国府は高城(太加木)郡【合志・飽田・宇土・託萬・新多・爵木】  
<桑原郡。大分・豊國・稻積・仲川・大原・答西・広田・桑善>

- 【1・千代 チョウ・チヨ [府 ⇒ 千代 ⇒ センダイ ⇒ 千台]  
\*類例：豊後国府(五丁=御府)肥前国府(丁の坪=府の坪)周防国府(国府)  
因幡国府(府)相模国府(千代台)常陸国府・(府・府の馬場)  
\*備考：可愛陵高城千台 建長八年1256『新田宮所司官等解文』  
：薩摩国々衙并領家米事 明徳二年1391『入來院家文書 206号』

- 【2・国衙 コカ [日本史総覧で2例。当地では地名としては伝わらない]  
\*備考：安元2=1176、嘉祐4年=1238、正和五年=1316、元亨元年=1321、明徳二年1391などに出る。『新田神社文書二』『入來文書』その他

- 【3・国府 コケフ・コウ [日本史総覧で14例。当地では川内高校北西裏一帯の俗称地名]  
\*備考：次男左兵衛尉師久分/国府太郎蔵志所 寛元元1243『新田神社文書二』

- 【4・古府下・上古府下 [コボシタ・カミコボシタ。明治23年の『鹿児島県地誌』ではコフ]  
\*備考：文政6年1823の『高城村麓検地帳に』「古府下」「古府園」が出る。

- 【5・府中 [当地には記録・伝承共に無し『日本史総覧』では大隅の他6例]

- 【6・国司/田 コクシテン [730目・高海人~1387守・吉原義直まで63名記録。館原=国司原]  
\*国司田 永利町山田 /奈良時代の薩摩国司の誰かが、事力の労力かり出しによ  
って水掛りの未墾地を開拓し……『川内市史・上巻』  
\*司野 東郷町司野 /能因歌枕・今云司野原。往古薩摩国司居處の墟なるを以  
て司野と呼へり……『寢蕃名勝考』  
\*国司山 鹿屋市古江 /陽候史麻呂ヤコヒトマロが隼人鎮圧の途上、襲われた場所  
\*国司殿 鹿屋市永野田 「国司どん」はその墓と云う。(共に地元の伝承)  
◆国司：古江/国司ノ上：花岡/国司園：浜田/下国司園or国司ノ園：高須  
/国師畠：福山町福沢

- 【7・屋形原 ヤカタケハラ [最近まで国府跡とされた。文政4年1821知行目録に下々畠とある]  
\*出自：燈油井田寄進、千葉御館御成就(建久9年1198)『新田神社文書二』  
国司原在水引郷境内、旧高城管領之、古薩摩国府、而此地国司官舎之遺跡  
也、地形高広、平坦斗絶、今呼曰屋形原、在地頭東方廿町許、又隣邑東郷  
有国司城、及司野、水引邑有元明帝勅願泰平寺、聖武帝国分寺、村上帝天  
満宮、蓋皆係国府之方城『地誌備考』※『寢蕃名勝考』  
\*備考：按に和名抄薩摩國司府なし、此館原と司野と蓋國司の城館なるへし↑

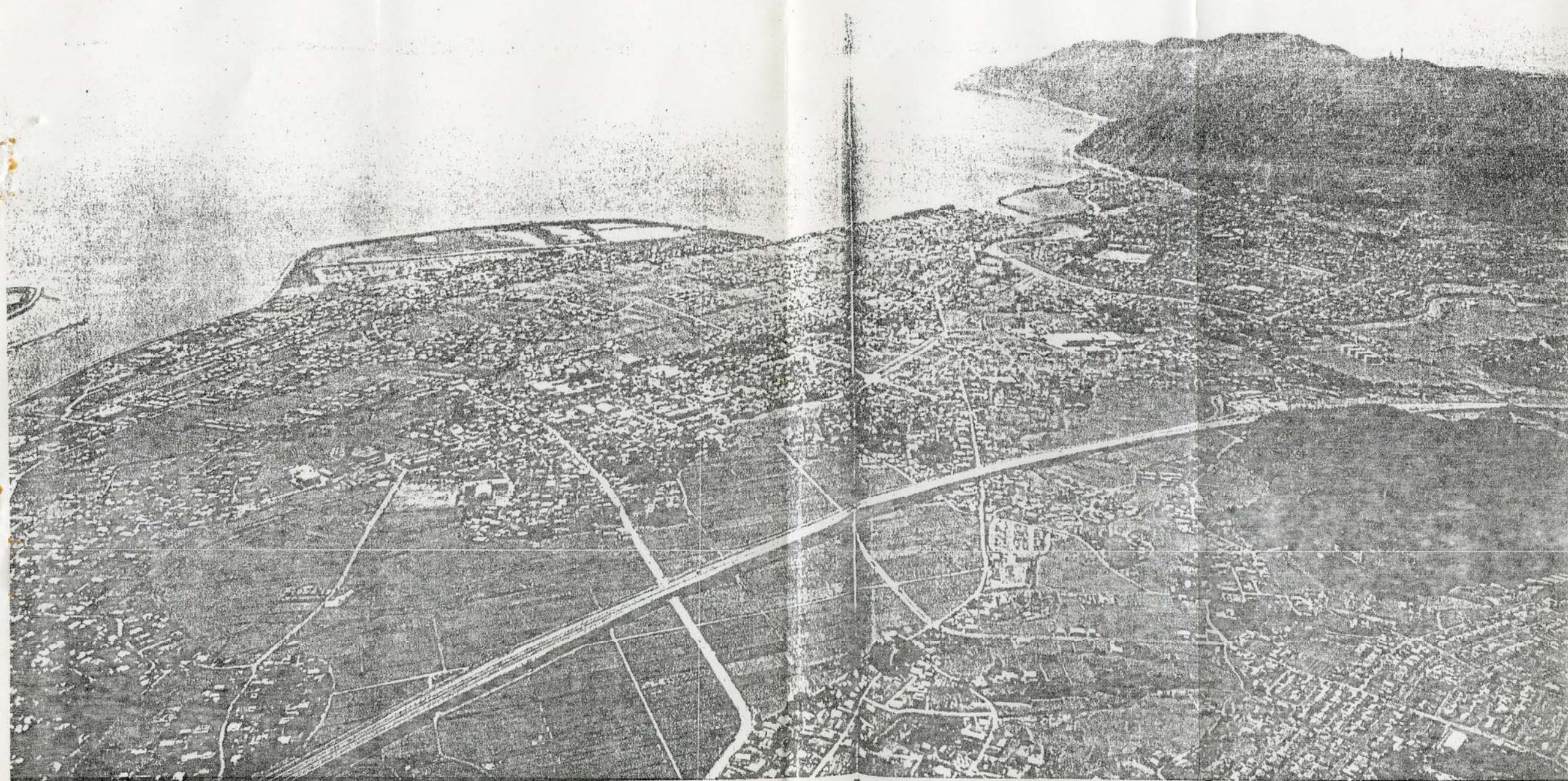
- 【8・国分寺 ココナシ [僧寺の位置は確認されたが、尼寺の場所については全く不明。]  
\*出自：<出舉雜稻/肥後国国分寺料八万束/当国六万束/薩摩国二万束>『弘  
仁式820?』「建立の詔」天平13年=741より約80年遅れ  
\*国分氏：執印康友二男「友久」国分城主、天満宮別当職。建久1190頃『系図』

- 9・大小路 オショウジ** [出自は寛永年間。右岸で国府、国分寺、天満宮、泰平寺がある。]  
 \*分布：オコオジ・南郷町or常陸國府=石岡市／始良町東餅田、加世田市津貫  
 \*由来：国府の条坊「大路・小路」によると言う 『角川地名大辞典』
- 10・西原 ニシハル** [国分寺の西邊に当り平安末期おぼしき層塔がある。]  
 \*出自：<八日尼寺薬師講僧腊役>元弘七1321年『天満宮国分寺神事次第No79』  
 \*備考：西原はニシハルで尼寺跡か？また祭原サイバルで催馬樂を舞う所か？
- 11・兵庫原 ヒヨウガハル** [想定国府域、方六町の西邊。東手・矢蔵川の出自は寛喜31232年]  
 \*備考：「ヤグラ」なら矢倉・市来町大里／矢倉石・加治木町日木山等類例多し
- 12・石走 イシハシリ** [国府域の中心地と考えられ発掘調査で焼土、輪口、鐵継等を検出]  
 \*分布：野走or砂走・吉田町本名/石走・市来町大里/猿走・蒲生町北/※糸走  
 \*出自：貞和7=1352薩摩國三番在應職國領蘭貳ヶ所/北蘭、石走 『入來文書』  
 \*由来：《石走の棧道》一方は絶崖、一方は海渚にて……『三国名勝図繪卷45』  
 \*備考：《石走神社》西ノ村領小城田、渡唐天神也、旧時ハ石走渡唐ノ天神ト号ス、元和元年六月二九日雷火ニアイテ……『肥後國地誌・補遺』
- 13・阿蘇田 アソテン** [高城川左岸で赤土。権現山と西尾山の間／阿蘇平=指宿市小牧]  
 \*出自：<奉寄進、五代院蘭一所阿蘇谷> 応永3年=1396『水引執印文書』  
 \*由来：<崩岸也、久豆礼、又 阿須也？> 1801頃『享和本新撰字鏡』  
 \*備考：薩摩守護職、阿蘇惟時、阿蘇領泉/給黎、阿蘇領、知覽友雄 1333頃  
 :《阿蘇社》祭神・武磐命or阿蘇姫 (加世田市川畑/小湊/川原田)
- 14・田所 タドロ** [俗称、国府の東方約1キロ、中郷町の小字「蘭畑」を言う。]  
 \*備考：田所二郎吉忠 宝治3=1247/田所入道蓮道 元徳2=1332/田所市中  
 原氏女 中座市平氏女 元亨3=1323共に『新田文書一』No71・104・113
- 15・宅満島 タクマンジマ** [消滅。国府の東方約八百M。『和名抄』高城郡託萬郷の遺称地]  
 \*宅満寺：真言宗大乘院末。開山は天文15年=1546、泰平寺中興の有鏡和尚  
 \*備考：託間氏/たくまのかくきやうのやしき=延文51361→通称・託間屋敷
- 16・細工所 サイクショ** [可愛山の西側一帯で吉枝名。八講田、橋口、当房を含む。昔は蘭]  
 \*出時：永仁3=1295・苅崎当坊蘭/嘉元年間1305頃・苅崎當時細工作蘭壹所  
 \*備考：宝永年間の石塔に「薩州宮内土器田村」とあり、近くに「土器手」の小字もあり、新田神社の細工所があったか？ 『川内市史・石塔編』
- 17・その他《日駒ヒコマ》** 古代の駅馬・伝馬制に因む地名か。  
 『権現原・権現脇』紫尾神は貞觀8=864年、尾賀熊野三所権現は寛正年間1460建立  
 『栗野迫ケレウコ』近くに暮橋、中村町に栗屋田クリヤダがある。栗屋殿所=弘安51282も  
 『東郷』『建久岡田帳』=1190年頃に<仲郷>と共に出る「東ノ国府」の義か  
 『原田』寛元元年1242『五大主領状』の<原田一丁>が初見。国分寺前方一帯  
 『八計田』可愛山北側。法華八講の田で永仁3年1297初見。台明寺文書にも=1242  
 『大都カド』……往古は金堂ありしとて今大堂と呼ぶ『三国名勝図繪・卷13』  
 『新田神社』『延喜式』に出す創建は長和2頃1013か。守公・早風の両神社を収祭  
 『国分寺天満宮』応永3年=963村上天皇勅願所。北野・太宰と三大天満宮のひとつ  
 『百次モツギ』延喜式の「田後駅」で駅路ムツギの転訛か。=田崎  
 ※『書言字考節用集』駅路ムツギ・ムマヤヂ/元禄11=1698・刊  
 ※『倭訓栞』ムマヤヂ=駅路の義なり。ムツギともいふ……/1850頃・刊  
 ※向太宰府路次(ムツギ)国國 建暦2=1212『新田神社文書二』No15  
 『政所』永万元年=1165や仁治2年1241等に出る。『新田神社文書一』No107  
 『公文所』貞応2年=1224の文書に<正宮公文施行>とあり五大院or新田神社関係  
 『古郡田』暦応2年=1339の文書に<光富名古郡田蘭等>とあり郡薩摩術跡か？  
 (公文所=地誌備考27P)(古郡田=川内市史・続古文書編No40)

地名の研究	柳田国男	門書書入	1300	77	9
地名の知識	池田末則	門書書入	1800	84	11
地名学入門	池田末則	門書書入	420	74	5
日本地名	藤岡謙二郎	一般	700	77	5
地名を考える	藤岡謙二郎	一般	1800	78	12
古代地名発掘	山口恵一郎	一般	1800	79	2
地名の由来	池田末則	一般	600	79	2
現代「地名」考	吉田茂樹	一般	2000	79	9
統・山口県地名考	高橋文雄	一般	1700	80	12
神は細部に宿り給う	谷川健一	一般	?	81	3
袖ヶ浦町史研究	高橋文雄	一般	1200	81	4
地名にみる生活史	谷川健一	一般	500	81	7
地名の由来	山口市町名覚え書	教育委員会	900	81	8
横浜の町名	横浜市市民局	一般	?	82	3
地名の話	谷川健一	一般	1200	82	4
五日市の地名をさぐる	五日市民話民俗の会	一般	1500	82	10
峠のエンサイクロペディア	永谷誠宏	一般	?	82	11
高砂市地名調査報告書	銀河書房	一般	1300	82	12
岩手の地名ものがたり	高砂市	一般	2900	83	2
危険地帯がわかる地名	熊谷印刷出版部	一般	2550	83	3
大利根町地名考	小島俊一	一般	2000	83	3
秋川市地名考	小川豊	一般	500	83	3
さいたまの地名	教育委員会	一般	1500	83	4
地名と日本人	秋川市	一般	1300	83	6
日本山岳伝承の謎	谷川健一	一般	980	83	8
南島の地名 第一集	千葉徳爾	一般	2200	83	9
新・地名の研究	教育委員会	一般	2000	84	3
世田谷の地名 上	世田谷区	一般	900	84	12
くまもと地名散歩	熊本日日新聞社	一般	2000	85	3
恵那市の地名	市崎恒新	一般	1800	85	3
沖縄の地名の由来	月刊沖縄社	一般	1600	85	6
地名が語る日本語	南雲堂	一般	2500	85	7
地名の探究 第二集	新人物往来社	一般	1000	85	12
南島の地名	南島地名研究センター	一般	1400	86	1
阿久根の地名	市立図書館	一般	2000	86	2
地名を掘る	小田治	一般	1920	86	3
八日市市地名と景観	市史編纂委員会	一般			
日本地名学 上	八日市市	一般			
日本地名学 下	原原書房	基礎文献			
鹿児島県地誌 上	鹿児島県	基礎文献			
鹿児島県地誌 下	鹿児島県	基礎文献			
アイヌ語地名解	千葉徳爾	基礎文献	1000	76	3
新訂・入来文書	教育委員会	基礎文献	1000	76	12
地名用語語源辞典	市崎恒新	基礎文献	1600	82	7
アイヌ語地名の研究	鏡味完二	基礎文献	2500	67	8
奈良県史(14)地名	池田末則	基礎文献	4800	83	9
日本歴史地名体系	金井弘夫	基礎文献	6000	82	12
地名関係文献解題辞典	吉田東伍	基礎文献	7500	85	11
角川日本地名大辞典 全50巻	高梁川流連議会	1.5万冊	81	2	
日本地名索引	柳田国男				
大日本地名辞書 1~8	藤田祐介・他				
高梁川 36特集・地名考	池田末則				
地名研究年報 1	金井弘夫				
地名学研究 上・下	吉田東伍				
地名と風土 1~4	高梁川				
日本古代の地名	柳田国男・他				
地名と日本史(歴史公論)	藤田祐介・他				
地名・町名を守る	谷川健一				
地名の世界(月刊地理)	大和書房				
地名語源辞典	谷川健一・他				
日本地名伝承論	柳田国男				
地名の語源	高梁川				
フォクロア (5) 地名	大和書房				
統・地名語源辞典	吉田茂樹				
日本地名語源辞典	吉田田末則				
古代地名語源辞典	高梁川				

\*\*\*多くの文献の中から参考になると思われる「単行本」だけをリストアップした。  
 \*\*\*上記に漏れたもので重要な文献、及び各種「機関誌」に発表された「論文」は別に記す。  
 \*\*\*本の選定はむつかしいが、独断と偏見の「非難」を覺悟で敢ベスト10冊を選んでみた。

# 活力あるみどり豊かな文化のまちづくり KAGOSHIMA AI



## ● 気候

姶良町の年間  
温は一七・一度  
低水点下四・七  
は短いうえに冬  
さは年間を通じ  
していります。し  
の北部山岳地帯  
とも二度から三  
ります。

降雨量は年間  
の三分の一は六  
す。自然条件と



## ● 位置と

面積	役場の位置
東西八・八km 南北八・八km	鹿児島県姶良郡 東緯一三〇度三 南緯三十一度三

姶良は東北部の山々で加治木町、摩町・祁答院町と岳・牟礼ヶ岡の山町・蒲生町と境をkm、南北二四kmの六七%の山林原野つており、約一八%田で中部以南に集中域の地質は平下数十mまで砂層が分布し、周辺分層安山岩の層のおおつています。化石等を含むものは相当奥地まで海のと思われます。

## ● 地勢

姶良は約二五分で利田児島市の衛星都市で、ますますその近距離で、加えては約二五分で匡清て、ますますその

は、都市化の影響や労働  
より兼業化が進み、農地  
用が多くなっています。

の組織化・農地の集団化・  
難な状況にあり、加えて国  
をとりまく諸情勢は極め  
があります。

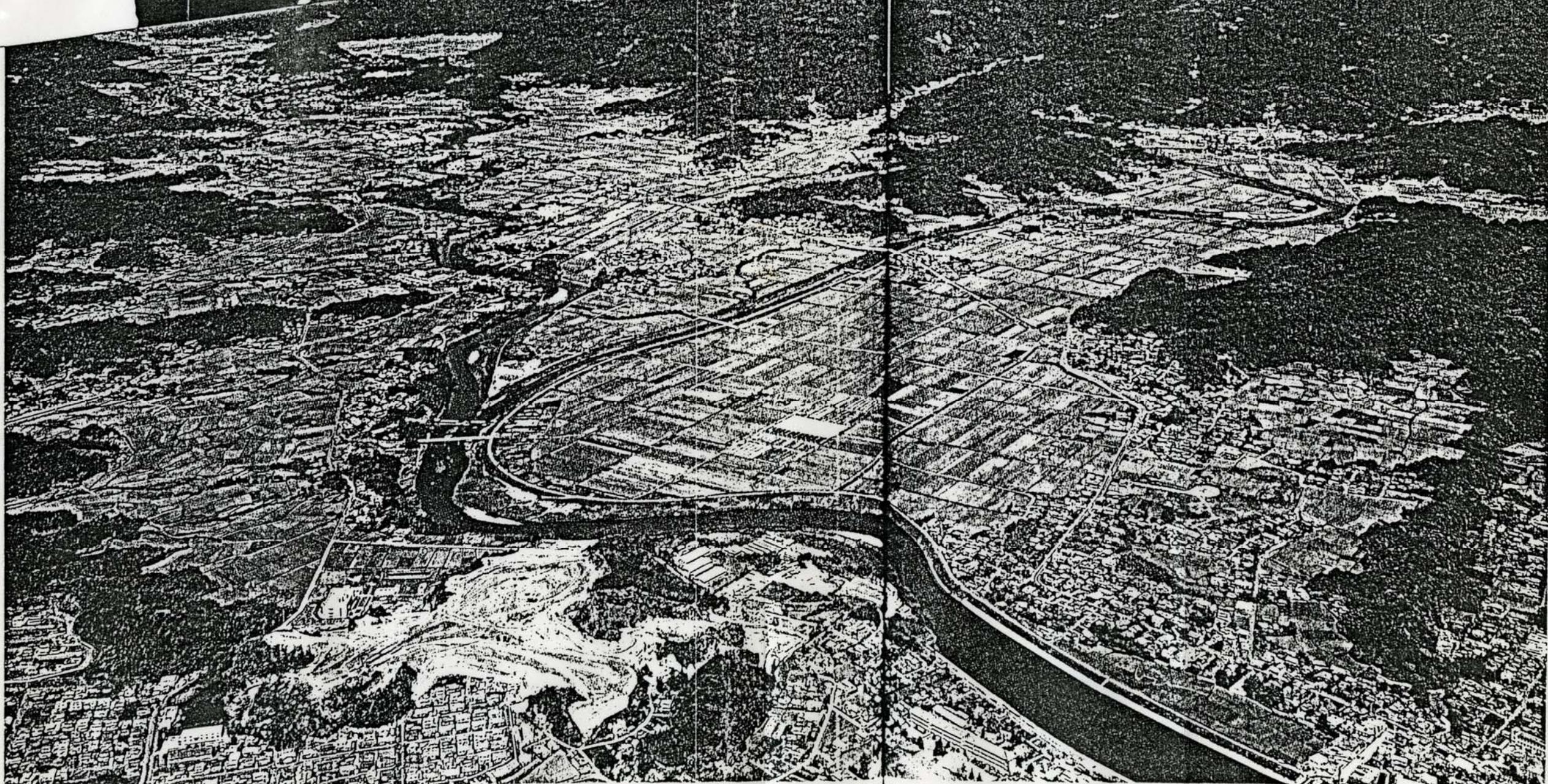
ら温暖多雨の気象条件に  
費地鹿児島市に隣接し、  
めた周辺市町の開発構想  
市近郊農業・観光農業地  
かもるので生産基盤の  
高度利用、経営規模の  
に促進し、水稻・畜産・  
地野菜等を柱とする営農  
とともに、農業の担い  
の育成・確保に努めます。

## あいら

を始めて七年目になります。現在  
ヘクタールと生産牛・豚・野菜の経  
営親と共に進めております。

両親と共に進めております。  
へが姶良町は主に水田地帯ですが、鹿  
嶋市のベッドタウン化により農地転用  
進み農業をやりづらくなつてきています。  
このようなかてなんとか農業だけ  
生活していこうとがんばつていてここ  
です。幸い仲間も十数人いますので、  
月を合わせて姶良町農業発展のためがん  
ばっていこうと話し合っています。  
決して楽な毎日ではありませんが、今  
後水稻を中心とした他の作目を組み合わせて、  
おもしろい、ゆとりある農業を目指して  
いきます。

農業後輩者 今村君雄



# I. 北山

ニミ  
曾

- 中曾内斬(北山)。斬内(下名)。曾岩(着花一其状斬の如し(三国名勝図会))。P.92
- 曾氏=平山氏の支流、中斬の斬城(今は古城の如く)に居り一帯を治める(郷土誌)
- 曾とんの墓(中斬)=曾家三代目美作守武義の五輪塔墓(元永6年、1402)。
- 曾大明神=鍋倉宇都に曾大明神社正平耳中建立(今ハナシ、三国名勝図会)。  
曾姓の後守武秀(初代)が氏神として祭る。
- 中央を川が流れ両側は山があり、細長い谷間に田もあり、山寄りに集落があるので、この場合 谷を意味する斬か?

木キ

- ホウキ ハラ ホキヤマ(北山)。木キコベ(上名)。
- ホキ=崖のこび、シラス台地を浸食する谷の最先端部の急崖の部分、山の険しい所をホキと言ってる。ホッとは急崖がぞそりした谷の先端部(シラス地盤の風景)
- ホッ=山崖、崖を意味する古語「ホキ」に由来(地面がえぐられた深い谷にねむつている所である(加古木風土記))。

岸田頭

- 岸田頭、岸田下、小岸田の三小字は隣接している
- 岸田ヒは湿田のこと(地名研究会報第1号P.3、以下会報と書く)

九日田

- (→)の追の各段の田をすべて植付け終れるまで九日かかる田をいう。
- 九日田(吉野町名)。

長師谷

- 長い段々があるという。(岩井田氏談)

半次郎

- 半次郎という人物の所有する田だろ(岩井田氏談)。

岩井田

- 岩井田姓あり、日置地方から炭焼きのために4.5代前に移住してきたといふ。
- 唐炭(ヒズミ)、炭山谷(すみやまたに)の小字あり。

鳥帽子岳

- 高さ 702.9m
- 鳥帽子峰トハ其形状ニ固リテ云ハルナリ(地理纂考)。トロ行型の火山。

頼成寺

- 頼成寺所有の田か。

刑部塙

- 中村刑部少輔に墳ある場か。ジョーダンの説。馬頭観音。享保17年(1732)。

森ノ口

- 森の入り口(岩井田氏談)。

平四郎

- 足宮侍守公神結番事の五番に始末次蒲生南三郎、平四郎馬ヒあり(伊勢守P.4)。  
(鎌倉文書弘安10年(1287))。

完蹄

- ゼンヒツ、狩谷、猪ノ子。完野村(東郷町)。
- 狩谷があのば祭りが行われるために山神があるはすた(会社子守)があり、山神宇都という小字があのようだ。
- 猪・鹿・猿がタリヒコ(名勝図会)。猿子舎のけいもをする所(岩井田氏談)。

櫛石

- カシラシ、豈16疊ぐらの平たい石があまひう。

湯穴

- 湯ノ谷(鍋倉)。湯尾(平松)。

箱石免

- ハニシバム、はいしめん→はいしめん(墓石免)?、芝たて神さまがあるという。
- 免=多分神社寺院の地租免より起つたのではないか(地名研究下巻)。
- 上名の城(じゆう)にて中城ヒヨビ本丸には箱石とんと称する權現廟があつたが、現在奈良秋の稻荷神社に附祀する(佐野町の史跡、P.23)。

岩船

- イワボシ、△字状の地形のヒコに岩石があるか?

ナメリ

- ナメリ(溝辺町有川)、ナメリ(川内市草道)、滑り(加古木町西別府)。
- ナメとは粘土のことらしいが、カマ土はないと言う。よくおでる所という(岩井田氏談)。  
参考 滑のヒ、岩盤の露ぬ場所(江口先生の教示)。
- うさきの免ともある(郷土誌)。

兔耳

- 山畠の方言で大山名地に多い。

木場

- 新兵衛木場、伏木場、秋木場(北山)。上木場、下木場(木津丸)。木キコベ(上名)。
- 大木場、鍋木場(下名)。上木場、下木場(寺跡)。
- 木場=切替畠、焼畠、又は中世の山間地域の開発地をいう。

勘場段

- カバガタン、勘場段ヒモイ。カバガタン(北山)。
- 砂鉄を採取するヒコがあつた(谷口祐男先生談)。
- 小川が 墓界になつてゐるといふ(岩井田氏談)。必 勘定場か(江口先生の教示)。  
(金糸山等)

錢井戸

- 錢戸(福山町福丸、福賀町琴浦)、錢戸(御器院町黒木)、信仰地名(平田先生の教示)。

## 伊良ヶ谷

- イラガ谷(国分市上之段)。上伊良ヶ谷、下伊良ヶ谷(国分市郡田)。伊良ヶ道(加納西)  
イラノ谷(福山町佳例川)。  
※険しい所か。

## 鎧田

- 鎧川原(寺師)。鎧田(溝辺町有川)。
- 田の中から馬糞が出土(石のむか?)

## 白木田

- 白木田(上名)。白木山(加納町西別府)。白木(蒲生町白男)。白木(溝辺町  
草<sup>くさ</sup>)
- 白木は白色の幹の木で九州に多い(地名用語源辞典)とあるので、白木が付近にお出  
で?

## 井田ノ山

- 温泉が出て、またの毒にあくいう。茎たて神である。金山がある(岩井田氏談)。

## 日影

- 日影(蒲生町白男)。川影(牧園町猪窓田)。

## セミ

- センヒ呼んでいる(岩井田氏談)。
- 瀬見(加納町辺川)。セミ(薩摩町求名)。  
七鬼かれ。
- 瀬のあるところ(地名用語源辞典)とあるが加納町の場合守曾(守利)沿いでナメド  
セミ。

## 矢倉

- 矢倉山あり。

## 鎌

- 川づたりにあり。山もねでいるという(岩井田氏談)。

## 巡回

- 小川が渓にはなっている所か。

## 山神守都

- 水の出る神様という(岩井田氏談)。山神山(まつかみやま)と俗に呼ぶ。

## 八丈

- 岩山ではないといい(岩井田氏談)。

## 内ノ山

- 木場というない地域を示す地名の中に小字内ノ山あり。

## 大平

- うひらヒ呼ぶ。

## グミノ木

- グミの木がたくさんあった所という(岩井田氏談)。

## 鶴洲

- 三重瀬の上にあり。オシドリが集まっていた(岩井田氏談)。

## 女夫石

- 「めおといわ」と聞える。

## 荒木段

- 「アラツ」ヒ格に呼ぶ。山が荒れている(岩井田氏談)。

## 木津先

## 2. 木 津 先

- 藩の中では暮しやすい土地柄だったという。豊富な山林資源を利用。木材  
木炭の生産が盛んだったという。一帯は島津家のイシシギ守の獵場、美36  
公の坐った石などがありといふ。木の津(港)というか走かない(59.4.20  
山伏歸(せんぱいきつ)は享保の頃、上堤(ごの)の浦(うら)に居た金田貢方  
等が伝えたものといふ(御土送 P.734)。

- 木通(きずし)という姓あり(本郷駅町)(小浜守比古先生談)。

- ※室町期~戦国期に「きづ名」という名田名がある(角川辞典 P.238)。

- 木材運搬に觸れる地名か。

- 城へ行くための切通があった(小川内氏談)。

- 「ながえ」又は「ながえあつ」と聞える(小川内氏談)。

- 川の流れが合流するところか。

- 串良町の流域橋は合流地点にある。佐世市の米津支流の足立川と流合川  
との合流地点を流合という(里の字)。

- 流合(はぎの)(川内市域上)。※「合流地点が流合」(会報第6号 P.32)

- 洪水のとき、水に洗われるようなどころ(会報第6号)。

- 楠木山神、楠木郎(木津先)。楠木(下名)。楠木の下(西飯田)。

- 松野に土佐藩落人に伝える楠木家あり(御土送 P.240)。

- 楠木門(延宝年向 1673~1681)。「フキヌロ」「タブノキ」。

- 管田(北山)ヒの廻保?

- 管野(木津先)豆漬の手前のところにあり。※スカ(弓)地)岸田(はまの杜  
ニギヤマ)。

- 「いいがした」と呼んでいる。修羅→首里か?

- 山仁田(木津先)。仁田尾(北山)。

- 仁田は山水から浸出でシメジメしている所という(阿波松の地名)。

- 昔はオヤシを作っていた所で今も冷たい水が湧きでている。冬は暖かい水。

- 墓石になる石を取る所。

### 3. 上名

岩坂	・岩を石の多い所という(付近の人々語)
五郎坊	・この字は始良町と蒲生町に分割されている(下五郎房, 中五郎房, 上五郎房(鶴町漆))。 ・人名ではないらしいという(小川内氏談)。
小川内 名彦山	・こご(ち)と俗に言う。 ・なつ子山と俗に言う。 <small>※ 小川内 → 小川内 (会報号P23) (中世文) (近世)</small>
高峯山	・もと城跡神社が建てられて山の名(小川内氏談)。
岩瀬戸	・岩と岩との間に小さな川が流れていて瀬戸になっているという(小川内氏談)。
中村ノ下	・中村次郎助という人が表彰されている(1870年)
下堤	・しもさけと俗に言う。
上堤	・かんさけと俗にいい。少し大きな区域を表している(小字3つや4つ分位)。
新入塚	・しんのづかと俗にいう。
内彼後	・うちこごと俗に呼ぶ。(内皮後ではないという(小川内氏談))。
外彼後	・施形的には宇都枕になつた最も奥まつた高目の所にあるので昔は川内白 たつたのが小川内(こご)に発達し、やがて造田されたのではないか。 現在内彼後が上位にあり、下位の田が外彼後である。

瀬戸 カニ 尾奈	・完跡(((おとり)), 実口(じんぐつ)(北山)。※「しつヒ」と俗に呼んでる。 ・金唐(国分布川内)。
奈多 ナラ	・「あは」ニと俗に呼ぶ。 ・この付近は飛野にはいるが鉄が採れぬい(1828年)。
稻荷脇	・秦家尾(上名)。秦家追(寺跡)。
池草	・平尾(ナラオ)と解されるならば坂の脇で土地の状態を窺うことがあるというが現場は坂がある。
茶セニ侯	・稻荷脇(鍋倉)。※稻荷神社の脇であろう。
渡り	・昔池があつたので名づけられたところ。この付近は下部火山灰層がはりつめていて、この層から下には水を通さないので、夏・冬、いつも泉からヨコユニと長い水がでる(御土流やヨリ)。この近くの稻荷神社のあるところに清水(ミズモリ)という小字もあり。
庵ノ上	・茶園ヶ道(鍋倉)。
遠目塚	・鈴渡(北山)。伏木渡、馬渡(木津丸)。樋渡(下名)。極渡(寺跡)。 樋渡(豊窓)。馬渡(三拾町)。上渡口、中渡口、下渡口、馬渡(東側田)。 樋渡(西側田)。渡瀬(船元)。
荷床	・庵ノ下(上名)。 ・金目追、目木金(上名)。遠目塚(牧園町猪窓田、万膳、横川町中)。 蓼刈町前目。遠目ヶ尾(横川町上)、栗野町米永(川内市西方)。 ・阿久根市官国民宿舎付近の「遠見ヶ丘」及び湯之元の「遠見巣山」は遠見ヶ丘制度に由来する(ゆくよ里の字)。
	・稻荷床(上名)。 ・昔島津氏が通行したとき荷を下ろしたところという(範津の古考證)。(5)

豆次	豆漬の意でさう(マメツギヒマメツケ)
篠面野	(のめ竹が多く生えていた所)という(飛野の古老説)。
石掛	岩の崖があり、石垣みたいになつている所)という(飛野の古老説)。
左卫平	左エビラ(蒲生町白鳥)。 荷床と隣接しているので鳥との関係と見てこれが左エビラと解せが。
ウツラ	うずらという鳥が多かつていう(岩井田氏説)。 後世宇都良(牧園町才脇)。宇都良(国分市郡田)。宇都良宇都良口(川内市城上)。 草人町小浜にうづら権現あり。
阿母谷	「あぼんたり」と俗称。阿母口、阿母谷、阿母峠(極端町市比野)。
格木山	「くのきやま」と俗称。
平左衛門跡	「へいざえもんやま」と俗称。
集り	「あんまり」(現在産り捨て場)と俗称。
岩下	「いわしたごえ」と俗称。
徳別当	「とべとう」と俗称。
山神跡	「やまかんごえ」(いはん神さがいる)と俗称。
谷	「たいたご」と俗称。
芋洗川	「いもあらい」と隣玉。今イシヒ穂が多くて困っているという。
鍋口	「なべおり」と俗称。
水小路	「みっこし」と俗称。 小路は小さな路地ということながら本集では集落の意味(19.12.12里の字)。
大平	大平(下名)。
葛ヶハエ	俗に「つづじの」と呼んでいた所か(岩井田氏説)? 「つづじの」という植物は神経痛によく効くといふ(岩井田氏説)。
花立	境界地名か(江口先生ご教示)。

千下名	
権税子	?
星ヶ山	慶長年間義弘公が朝鮮より連れ戻った陶工金治に生身地の星山を姓とし、その一族の居住地ともいふ。もともと当時集団が住んだのは星ヶ山地区ではなく北側にある丘陵の中腹ならしい。(里の字)。
呂木	上呂木、下呂木(下名)。ロキ(寺跡)。※櫛木(平田先生ご教示)。
官下	城光寺の下か?
門口	近くに城光寺の小字があるから門の入口の意と思われる。
脇	城光寺の脇の意か?
脇/宇都	?
陣/尾	龍/尾、若尾、木峯(下名)。平尾、奈良尾、永尾、高尾、宮尾(上名)。 堂/尾(木津丸)、鷹尾(寺跡)。松尾、陣/尾(三拾町)、別府/尾(北山)。 ・...尾 ⇒ ① 生の意味で松尾などは松の生えていまと云々。② 峯の意味で高尾などは高峯。③ 国の意味で陣/尾などは陣の岡崎味。(会報第1号、名勝考P.21)。
六/坪	市/坪(住吉、東餅田)。大坪大坪尻(東餅田)、大坪(船津、平松)。
(80)	ナス保(下名)。鱗窓(舟井)。
	六/坪は渠下=4ヶ所あるという(国錦城跡、隼人町日吉町)(「会報第1号P.5」)。
	整理整頓でなく、それ以前の名田の坪という(御土志P.27)。
	山田小学校の後、星ヶ山との間の水田で、長坪姓、伊姓あり。
兩社	兩社(下名)と兩社年田(守津跡)は隣接しており前者は山手、下の方が後者。(現況地図)
	靈社とも書く(御土志P.29)。※靈社の場合御靈社ヒナ(江口先生ご教示)。
飛矢	飛松(北山)、飛屋(寺跡)、飛山、下飛山(平松)。
	下飛田門、下飛の姓あり。

## 尾當

現況は中川原から豊畠へ越える山道があり、小さな曲がりくねた道があり。  
小曲(エカツリ)なら理解できる。

## 上船

下船(下名)、船ヶ宇郡(寺跡)。三者とも隣接地。(現況比較的山間部)。

## 乱橋

亂橋(大山)、躰橋(永瀬)。

## 木流田

この付近は俗に鶴田となつてゐる。

## 中入

大字の上名と下名で二分割している。

## 西田町

昔はこうじ屋、タコ屋、カジ屋、ソメモン屋などがあつた。水野町。

西田町にはフヤミがあつたという(谷口武夫氏談)。

## 素麺田

ソメモン屋と関係ないか。

## 北石

場所は大山にあり(下名が入り込んでゐる)、土手の上に

自然石2基、墓石1基あり。

「はっせんばう」と呼び、1体の神社である。(谷口武夫氏談)。

## 麻苧道

アサウサコ  
・麻苧迫(隼人町西光寺)、麻苧坂(隼人町松永)、麻生栗(横川町上)。

オ(麻苧)。

## 籠作

現況、田。

## 越下

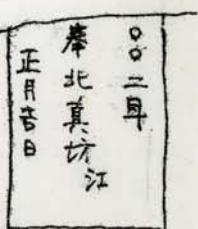
現況、山。

## 辻ヶ宇郡

久延(隼人町小浜、入率町浦之名、吉田町本城)。

## 築ヶ平

柳ヶ平 又は ヤナヶ平(魚取りのヤナ)(平田先生ご教示)。



## 大山

老人ホームの裏山の中腹から見ながらかたくさん生え(谷口武夫氏談)。  
大字界はなぜか大山の区域に下名がはいり込んでいる。  
山王社あり、常光寺あり(御上法 P.778)→常光寺との関係?

## 鍋田

大字の下名を大山で二分割している。

## 亂橋

大字の下名を大山で二分割している。

## 野の首

大字の上名の野首が4分割され、その名は大山野首となる。

## 西鍋

東鍋、鍋田(大山)、鍋田(下名)。

## 古し橋

乱橋(葛川町南津)。

新潟整理前は曲がりくねた川や道が多かったというので、入り込んだ川に橋があるのだろう。現在は舗装道路になって、その下を小さな川が流れている。橋はなくはしても橋の呼名が地名として残されている。しかしほとんどの人は知らないようだ。

乱橋という小字は山手の方にある。

## 堂園

昔(んこうじ(んこし))という寺があったらしい。

昔、まだ山田川が大きく湾曲していたころ、堂園湖(とせんぶら)といって水は青々として深かい所があり、おぼれて死んだ人もあったという。深水の由来はこの山田川の大きく湾曲した深くよじんだ所に見出せそうだ。又堂園湖の上の山を「いすみ山」と呼んでいたそうだ。(高房彦秋氏談)

## 猫岳

猫岳(加治木町木田)、猫追(牧園町才賀)。

## 高曾

高くそびえるオホのヒコではなないか。

フマンの「ソ」の本來の意味は「青、青空」(金報第12号P.8)。

## 櫻間伏

中間伏、御間伏(蒲生町白男)、高間伏、下高間伏(蒲生町漆)。

間伏名(国分市川内)、マブシ谷(国分市上之段)、間伏道(葛川町市山)。

間伏田(川内市田海)。※獲物を追お為のワナ(江口先生ご教示)。

山間部の道にぬけている所(ゆんすいぬけいよところ)に、3つの入り江状の田がある。(谷口武夫氏談)。

## 5. 大山

大寺

- かくれ食ひがあり。鮮人の墓あり(御土志 P.1PP)。
- 下寺はないという(谷口武夫氏談)。

吉丁ヶ岡

- き、ちよがおかと俗にいう。
- 昔官有林であり。大山の共有地も見ており。いわゆる恵みの岡ではないどうか(谷口武夫氏談)。

小坂元

- 小坂という姓あり。

鎌口

- 上名と下名との境で十文字みたににおいており。塞ノ神さあはないようだが分水道になっている。近くには「いじんびん」という跡あり(浜石氏談)。
- 山田城の戦の時、さやく口で一斉に切り込みのため抜刀せさせ(御土志 P.141)。

明方

- 山のオ木になつている所という。

瀬入

- 「げんに」を聞える。 \*源八入道?

諏訪追

- 諏訪屋敷という所もあるようだ(御土志 P.141)。

寺師

捨石

鳥居宇都

川内口

十六

才德

(あむ  
青木)  
講田

## 6. 寺師

- 照込し→テラシ (御土志 P.31 - 村々が明るく照らしきられる所)。  
※「テル」は可能でも運用形の「テラシ」は地名にはなさず(江之先生ご教示)。

- 十石追(西餅田、船津)。
- 捨石早、捨石原、捨石追(牧園町持松)。十石追(吉田町本名)。

- 大王神社の鳥居が。

- 「こうぐつ」と俗に呼び。寺師川の上流(つまり寺師川への入口に当る)。

- 十六大明神社、天正7年(1579)の棟札あり(三国名勝圖会)。
- 十六の官を勧請して増田へ十六大明神と呼んだ(御土志 P.31)。  
※十六之坪(保里地名)(平田先生ご教示)。

- 達久田陪(達久8年(1197))。大隅國在原石築地役支配注文(寛治2年)  
(佐佐郡5町3反大)

- 承享6年6月2日付 本田重程寄進状  
奉寄道正八幡宮宝前 大隅國帖佐御寺師村内水田八段向田・二段青木  
以上一町事 (隼人町御土志 P.465)。

## 7. 住吉

- 住吉
- ・住吉神社に因るか。又住吉村には霧島神社天正二年の棟札あり。
- 三月田
- ・小字は残っていないが、三月田、五月田の姓はある。これは住吉神社の三月三日の祭、五月五日の祭の費用をその耕作田から出すようになつており、これを姓として残されたものである（津戸ローレル）。
- 火ノ迫
- ・吉元氏系図に吉元政家家臣日野追佐渡守に住吉の地を分け与えた（御土送）。
  - ・白影（北山）。桶之口、火ノ口（木津志）。桶口（下名）。
  - ・桶渡（寺師）。火道（住吉）。桶ノ口、桶渡（豊留）。桶渡（西銅田）。
  - ・桶ノ口（船津）。高桶（西銅田）。并桶田（平松）。
  - ・桶（ひ）= ①木門、流水を堰たてる所を意味する。  
②「ヒ」、水路より高い所にある水田に水をひく所に「ヒ」を使う。（竹をニコに割て）（阿久根の地名）。
  - ・桶ノ下 = 溶池より水を引き井桶の下の意。ヒノチヒという（地名研究、長崎県）。
  - ・火ノ口 = 山清水を寛ぐる桶の口と考ふ。山中にある（地名研究、沖縄 P.3）。
- トウベ
- ・香華田の二と（御土送 P.61）。現況田。
  - ・「ツベ」と俗に呼ぶ。
  - ・トウベ（蛇神）である（大分史民俗稿 P.365）。
  - ・タフ（倒立）。ヘ（辺）で崩壊地形を表す。
  - ※トベ（トベイ）→莫奈江東の稻穀へ雨露（地名研究会編「山の地名」（肥後筑紫）P.13）には「南保川」。
  - ?
  - ・弁済使（べんざい）？ ※弁入（国領下井）。
- 百田
- ・百田（大山）。※百とは数が多くめでたし意（千台 13号 P.199）。
- 加治木町
- ・加治木松田（国領野口松木）。加治木町（国領木松木）。加治木追（隼人町嘉例川）。
  - ・加治木堀（大崎町野方）。加治木町（鹿兒島市金生町通川の下）。
  - ・早馬禪社が昔あった。
  - ・県下に7ヶ所あるという（今報第8号 P.4）。※市江亭（東條田）。
- 算馬  
市之坪

## 8. 増田

- 増田
- ・和銅6年(708)正月元旦 鈴木三郎政氏の歌に「あさ玉の耳のせめに朱ぶりよろづの宝令を増すなり」があり、此より「増す」と「本姓」の二つの意味を兼ねて地名を増田と名づけたとある（御土送 P.31）。
  - ・三舟の三舟小学校は三叉小学校と船津小学校との統合による。
- 供田
- ・御供田（寺師、増田、永瀬、三拾町）。西供田（増田）。京田原（平松）。
  - ・上京田、下京田（深水）。
- 程田
- ・程田 = 読経料として寺へ寄付された田。あるいは私有田、私蟹田が錯綜して不明瞭にかつて田地を競田（きょうでん）といつた。（？）
  - ・「正文在官内社可澤氏、奉寄進
- 正八幡宮御宝前 帖佐濱益田村内 御供田六段 蒲生米丸内四段以上一町右為志者天下泰平國土豐饒殊心信大施主平氏宗子孫榮昌武運長久  
号正宮御供田限盡未來際奉寄進者也不可有社家知行相違仍寄進狀如件
- 永享六年二月一日 1424 平氏宗（花押）  
平田氏
- ?
- ・蛭がタカツのそどうか 現況は畠になつてゐる。三舟小学校うら。
- 蛭田
- 田中
- ・田中門あり（下名、上名）（資料 B P.11）。
  - ・大島守有久モ帖佐之内田中門四町八段持領ストアリ。忠國公御代ナレバシ（地誌備考）

## 9. 永瀬

- 宮ノ前
- 今の公民館付近は昔、永瀬鎮守の森の跡だったという。神木は1千本で周囲5mくらい、高さ30m(5丈)だったという(西内藤市民)。
- 十三田
- 茶碗置構?
- ?
- 石永見
- 「うは」と俗に呼ぶ。
  - 苧(オ)はかわらし、麻の一種、「からむし」から取る繊維でナフ・布にする。
- 源入
- 源入(大山)。善入(寺跡)。笄入(国分寺下井)。
- 戎田
- エベスさんか見当かない。※信仰地名
- 屋根添
- 屋敷添(豊留)。
  - 永瀬には元屋敷という所や屋敷墓という古い墓があり又小屋敷新屋敷という姓もあるようだ。屋根添は屋敷添の誤伝ではあるまいか?
- 野添
- 上野添、中野添、下野添(永瀬)、野添(下名)。

## 10. 深水

- 深水
- 深水村馬場ノ下を流れる深水川があつたという。
  - 「ずっと昔は、つぐし(たまり池)になっていた所で深いところがあつたと祖父に聞いたことがある。それで深木とゆうとごわんじ(古老談)。  
※深見名一餅倉期へ戦国期に見える名田名。弘安年間(1281)の守公神侍置図に深見あり(角川文庫P.559)
  - 「うわりでん」と呼んだ人もある。
- 上京田
- 恒見田
- 餅倉期に現れる恒見名あり。柏佐郡恒見8丁7反大(建久四年帳)。柏佐西郷に恒見7丁(石塚地役配特集)。  
※常見屋敷(大山)、恒見門(三拾町村、船津村、増田村)
- 何江川原
- 「おかえこら」
- 筆なし
- 袴田
- 何が詫びごとの折、ここまできて筆かなくて(まゝ)ので筆なしという(元深水区長(1881)古老談)
  - 元応三年正月廿八日、曾野郡塙枝名正八幡宮大船若狭田字袴田五段、には引ひが、これにより、深水の袴田も140ヒビ定て(ヨミ)。
  - 必袴の形をした田(平田先生ご教示)。
- 耳取
- 火取、東火取、火取(溝辺町)。鷹取(福山町福沢、国分寺敷根)。  
耳取(国分寺上三段)。耳取、鳥取(加治木町西別府)。(地会報1号P.14)本  
先生。228.8
  - 北風があたって寒くて耳がひきされた所という(元深水区長(1881)古老談)。
  - 耳取峠(枕崎市)=耳が取られるような冷めた風が吹き上からヒコから起つた地名。又貿易品をねじつた罪人を坊津が護送するとき、ここで耳をじり取つたのでこの名が出来たといつ(40.2.25「由来」県立図書館新館より接写)。
- ※ケモノ道?(江之口先生ご教示)。
- ※牛世の時点では耳取は古跡地(会敷寺2号P.16)→陣尾敷掛の小字が付近にあり。(高城)

## 11. 豊留

- 川原  
・野辺川原、豊留川原、室田川原、向江川原、小森川原。
- 樋之口  
・樋之口と樋渡が隣接している。
- 貝柄下  
・山のちよつんがら、ちよと下のあたりに貝がらが生るときがある。  
大雨などの時に下の方に流れあちてくるといふ。だから「貝柄下」と呼ばれるようになったのだろう。

## 12. 中津野

- 
- 中津野  
・中洲→中洲野→中津野と変ったのだろう?
- 川原  
・宮下川原、松木川原、蓮木川原、中津野川原。
- 宮下川原  
・宮下川原の中に土反田がはいり込んで2分割し、一方は中津野、一方は三拾町に属しているようだ。
- 上水流  
・上水流の中に川原がはいり込んで2分割し、一方は船津、一方は三拾町に属しているようだ。
- テイコ  
・弟子?
- モッタイ  
・モタエ(国分市福島)、馬渡(有明町蓬原)。  
・モタイ→モッタイ→物袋(モッテ)(会報や7号P.6)。  
・餅井田(もちゐ田)→餅田(モッタ)→モッタイ。  
・「康安元年7月且付の正八幡官領帖佐村供田評付注文-御供田外、  
一なかつゝむらの内きょうてんもたる五反、七月廿一日作人住吉屋百姓  
源三大夫」。  
※モタイ(モタエ)→古代の鹽の産地?(平田先生ご教示)。
- 麦ノ瀬  
・棕ノ瀬又は麦ノ瀬(舟津)。麦ノ瀬(加治木町西別府)。
- 春花  
・小字には  
・山花(北山、山田、平松)。奥山花(平松)。  
・向花(国分市)、花倉(鹿児島市龍ヶ水)、春花田(隼人町野久美田)。  
花渡川(枕崎市)、花野川(鹿児島)、花棚(鹿児島)、花畠里(吹上町)、花天花富  
(浦河内町)、花良治(喜界町)、花徳(徳之島)。

### 13. 三拾町

三拾町

- 十九町村、拾町村、十二町(指宿)。拾町村(頼姓)。十町(間麻町)、五拾町村(末吉町)。東五拾町村、西五拾町村(都城)。五町村(高岡)。  
※舟津から当地までの距離が30町くらいであったことの名(角川辞典 P.318)。
- 昔水流寺というお寺があり摩崖仏もあるという(谷口純男先生談)。

水流寺

正福

- 昔正福寺というお寺があるといつ(谷口純男先生談)。
- 正福田(西餅田)。正福姓なり。

卯月

- 卯月寺の跡(帖佐由来記 P.35)。

千塙原寺

- 千塙?
- 若宮神社との関係か。

陣尾

- 陣尾(下名)。
- 平山一族の高城氏は三拾町を領して高城に居城した(御土志 P.85)。  
とあるのでこの関係か。

豆漬

- 豆付、豆打ヶ迫(三拾町)。豆次(上名)。豆漬(北山、木津志、平松)。
- 上名の豆次(御土志 P.37)。北山の豆漬(付近の人には「豆」)の両方とも昔、マメオヤシをつけていそといつ。後者は12月13日につけるといつ。
- 平松の豆漬は岩剣城の西の谷に温泉があるといつて、ここに關係か。
- 蒲生町の油田は昔は「あぶらでん」と呼び、今は「あぶらだ」と呼ぶといつ。

油田

- 辰喰(西餅田)。(会報第11号)。※侵蝕崩壊地名

辰喰

- 兩者とも小川沿りにあり、低地で活用性が良いようだ。現況は竹やぶ・藪地等である。高橋川沿りにある。
- 吾平町に童喰池(タッパンイケ)という池あり、昔話に童が1313年重ねて食てあはれた伝説があるといつ。(鹿児島の伝説、P.141)

女生獄

- 「にしうだけ」と俗に呼ぶ人もある。(アキのものと深山長治は「古老説」)。
- 宝曽耳内水口ゆえは女生獄に登り、「まごのどゑ」をした(御土志 P.291)。
- 岳獄といつのは、それが単なる山の意でなく、宗教的な意味をもつた山。つまり靈山をさすのであって、かつては山頂ないし、山麓には神を祀る場が設けられてゐるのである(「山伏の歴史」 P.20)。とあるが、關係ないか。

### 14. 鍋倉

鍋倉

- 鍋松、鍋田(木津志)。鍋口(上名)。下鍋、鍋木場、鍋田(下名)。東鍋、西鍋、鍋田(大山)。鍋田(寺師)。鍋谷(三拾町)。

諏訪前

- 鍋田 = 炊飯器具などを購入する販売店にあてるために耕作した田(里の字)。
- 鍋(なべ)(諏訪町) = 台地から見てちょうど鍋の底のような地形であるから(里の字)。  
※鍋田 = 平田ヒ同義(江之口先生ご教示)。
- 諏訪前(西餅田)。諏訪ノ尾、諏訪迫(大山)。諏訪原(平松、船津)。諏訪免(永瀬)。  
※諏訪神社との關係。

龜泉院

- 下龜泉院、上龜泉院(西餅田)。= 当寺院の所持地をう。

本屋地

- 本御屋地(平松) = 元文4年(1734年)にあり殿の屋敷地のことを。
- ヤシは湿地か草地になつてゐる所(61.5.5朝日新聞(唐餅先生))。
- 文禄4年(1595年)義弘公が帖佐に移り、御屋敷をつくろ(帖佐古記録 P.7)。

日吉

- 日吉神社ヒのつながりと思ふ。

○○谷

- 湯谷、大谷、風呂谷、桺谷。

○○岩

- 岩渕、岩崎、岩瀬戸、岩子(鍋倉)。岩根、岩瀬戸(三拾町)。
- 岩井田、岩山段、岩船、岩塚(北山)。岩坂、岩瀬戸、岩塚(木津志)。
- 岩下、岩元(上名)。岩崎(下名)。大岩(大山)。岩下、岩元(寺師)。
- 岩崎(住吉)。小岩崎(中津野)。岩根川畠、岩根前田(西餅田)。
- 岩下(平松)。

○○石

- 石ケ道、石原田(北山)。石切場(上木津志)。石峯、石掛、石堂(上名)。
- 北石、大石ヶ迫(下名)。石場(大山)。石原田(住吉)。石永見(永瀬)。
- 石塚、南石塚(東餅田)。石丸(平松)。

○○下ヶ原

- 松尾(下)、八幡(下)、琴師(下)、滝(下)、坂(下)(鍋倉)。

(本丸下) (八幡神社下) (米山琴師下)

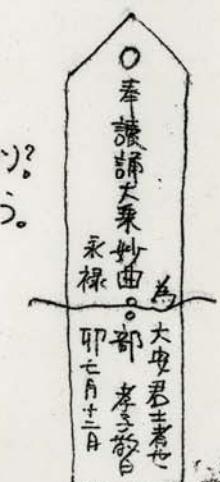
米山琴師

- 越後の米山に百日参籠(帖佐由来記 P.37)。
- 文明7年(1475)の頃、米山琴師建立(御土志)。

町口	・町の入口
小戸越	?
岩瀬戸	・鍋倉と三拾町を二分割している。
山元	・" " "
下川畠	・" " "
垂ノ内	<ul style="list-style-type: none"> <li>タレンツッ = タレンフッ(垂ノ口)か。</li> <li>垂ノ口(加治木町本町) → 「昔 市場の入口に「タレ」といいて長さ9尺位の丸太2本を立て、シメナワを張った。それで市場の入口を「タレンツッ」という。(かご(まの民俗探求) P.161)。ヒカリ場所的には納屋町もあり一応考えられる。</li> <li>垂ノ口(加治木町本町) → 元和年間のころ諸大心がそろはないと世は危ないという御掲書を町に上げたところから名が出来た(47.9.5「変わった地名 特別篇」新南ゆき)</li> </ul>
宇都	・鍋倉宇都の呼称があった。宇都窯(1601~1608)で金海が開く。
嵐谷	・嵐谷(下名)。嵐谷口, 嵐谷元(隼人町小浜), 津嵐谷(隼人町喜例川)。嵐谷谷(牧園町三体堂), 嵐谷元(横川町下), 嵐谷坂(吉松町中津川), 嵐谷元(吉松町川添), 嵐谷之元(菱刈町下手)。
?	
納屋町	<ul style="list-style-type: none"> <li>小字ではない。※野町=納屋町。浦町=十日町。</li> <li>藩制時代、ここに蒲生, 山田, 薩摩田, 佐志, 宮之城等の米穀が集められた。(鹿島大百科事典 P.689)</li> </ul>

餅田	130	15. 東餅田
		<ul style="list-style-type: none"> <li>餅田(上名, 下名, 寺師)。餅原, 下餅原(東餅田)。</li> <li>餅原は餅田原の略か。</li> <li>「餅井田原で鷹狩をした」(郷土誌)。</li> <li>餅田(もつてん)一隼人町喜例川松永朝日(隼人町御土佐 P.582)。</li> <li>「建治三年八月 藤原義祐正官政所職并帖佐餅田村領所職に神す」(同)</li> </ul>
上九十歩	?	<ul style="list-style-type: none"> <li>下九十歩(東餅田)。</li> <li>久重門(ひさけいかど)(豊富村)より 上久重歩?</li> <li>九十歩(坪)?</li> <li>上中重, 中中重, 下中重(西餅田)。六十步(吉田町西佐多浦)</li> </ul>
東糸禪寺山野	文明年間 1425	<ul style="list-style-type: none"> <li>南糸禪寺山野(東餅田)。</li> <li>鍋倉にある糸禪寺(文明7年ごろ建立)の領地。</li> <li>「島津豊後守季久が千本村十二町、餅田原の山野を糸禪寺領とする(三国名勝図会)。</li> </ul>
え江 畦		<ul style="list-style-type: none"> <li>水の流れ込んだところ。川がえぐったところ(会報第6号 P.21)。→山野海岸付近。</li> <li>あさひ園地の東側にある松原下墓地の東側にエゴというところあり(近く小川あり)。「平山了清が弘安年間(130末)に帖佐松原、ハ幡江湖に着いた」(郷土志 P.48)とあるが、あるいはこのエゴに当るかも(れない)。</li> <li>現況田。(会報第9号 P.12)。※赤崎。</li> </ul>
市来崎		
願成寺		<ul style="list-style-type: none"> <li>慶長元年(1596)義弘公造営。</li> </ul>
上大門口		<ul style="list-style-type: none"> <li>下大門口(東餅田) *願成寺の大門か。</li> </ul>
道丁原		<ul style="list-style-type: none"> <li>西道丁原, 東道丁原 = 道場原であろう。※願成寺の範囲内と思われる。</li> </ul>
並木口		<ul style="list-style-type: none"> <li>並木の入口。「松並木が18丁あった」(角川地名辞典 P.620)。</li> <li>国道10号線は並木であったという(谷口乾昌先生談)。</li> </ul>
古川		<ul style="list-style-type: none"> <li>上古川, 下古川(東餅田)。※今古川門あり。</li> </ul>

- 十日町
- 市名残りか。
  - 「山本日記(蒲生所御土志)の中に四日市とあるが八日市の誤りであろう」(角川地名辞典 P.620)という。
  - 八日町窓(1602年ごろ)を芳仲が開いている。
- 西郷
- 建治二年八月大隅国在庁石集地役配行にある帖佐西郷の一部か。
  - 西郷榜あり。
- 大ドラ?
- 現況田 \*寛徳寺墓地西側。
- 小倉畠
- 「頼成寺墓地に永禄12年(1569)小倉与四郎の墓あり」(御土志)にあるが如何?
- 下木流?
- 下水流と見間違いやう。
- 市之平
- 市之平(住吉)。 \*系里造構?
- 中丸
- 「義弘公は頼成寺一帯を城として構えにも整えていたので、中丸という名もはじめたのだろう。建昌城まで軍用道路もあった」(御土志 P.776)。
- 九郎太郎くろうたろう
- 祝九郎太郎(大隅藩主内半松木の坪付帳)に隣接しないどう。
  - 九郎太郎(栗野町幸田)→昔九郎坊、太郎坊という兄弟の修驗者が住んでいた。  
この二人はすばらしい武芸の達人であった。(約5.6里の字)の如く修驗者の名では?
- 上鍬かき
- 黒島神社に奉納あるといふ「かき引ヨ」と關係ないか。
  - 上鍬垣もある。
  - 近くの日豊本線踏切は「地蔵橋踏切」という。
  - クワを入れても土が固くてクワが欠けて(ほう火ぬき)石ころがタリヒコか?
- クヨ原  
(供養)
- 帖佐駅前に島津忠将の供養碑あり、俗に垂れひんの墓といふ。
  - この付近は桜鏡地という(各口先を説)。



## 松原

### まちりい松原の小字

東餅田	西餅田	平松	備考
塙入	塙入	汐入	
松原			
	上松原		
	上松原町		
中松原	中松原		
下松原	下松原		
	下松原町		
	東松原		

\*現行は松原下、松原上が通っているようだ。

## 東

### 東餅田

小字ではないが東という部落がある。一方西餅田に西ノ妻がある。東ノ妻の名残りとされるならば、両者の中間に何があるはず。今のところよくわからぬがそこには、森、小倉畠、九十木、中丸等の小字があるようだ。

諏訪前

- ・建昌城(1454年季スが築城。瓜生野城、胡麻ヶ城といふ)の付近だから、城の周囲には諏訪神社が建立されたらしい。諏訪勝といふ姓あり。

雨乞

- ・内雨乞、雨乞前。
- ・雨乞神社は明治43年に五社神社に合祀される。その以前は南方神社付近にあったといふ(谷口氏も男先生談)。
- ・雨乞門。雨乞姓、あり。

寺下

- ・寺下、寺前。※雲門寺付近である。

大文字池

(1834年造)

- ・大文字池 ← ウモノジケ ← 雲門寺池
- ・雲門寺跡は建昌城跡の東幕にあり廢仏毀釈で消え。

壺屋

1704年

- ・小字にないが羽迫のあたり、元立院窓跡あり(寛文元年1661に始まり)4代で廃室になり竜門可焼へ合流)。

篠目原

- ・篠目山(鍋倉)。篠面鋸(上名)。
- ・知覚では共有山のことを「シス山」という(会報第8号)。

戸越

- ・小戸越(鍋倉)、露越(増田)、山田越(寺師)、越下、越上、柳木越(下名)、鳥越(上名)、大道越(北山)。
- ・鳥越と隣接している。
- ・飛鳥越(くじえ)→(名勝考P.21、「千台」13号P.198)。

西ノ妻

- ・西ノ妻(国分市歸口)。
- ・国分市の守公神社の西ノ妻に由来を求めている(郷土誌P.86、守公神御侍靈事)。
- ・妻は茶室制の端を意味するといふ。

上桜木

- ・高速道路サービスエリアの裏側にあり、ここには正徳二年造立の山の神ヒ田の碑がある。
- ・田ノ神石碑 → 山路後藤兵衛、宇都宮佐左衛門、中原仁右衛門、村岡三左衛門、内橋元利兵衛、中橋元才右衛門、外橋元八右衛門など刻む。これで橋元が三つに分立していることがわかる。

月形

拾石追

- ・春花村に月形門、月追門あり。(資料2 P.11)。

萩峯城付近

- ・拾石平、拾石原、拾石追(霧島町高千穂)。

大丸

- ・萩峯城の一角。

池島

- ・池島権現を貢久が建てた(岩剣神社に合祀)。あるいは間に關係か?

月木前

- ・上木田、中木田、下木田と關係か?

- ・月木、月ノ木(国分上井、府中)。※楓の木(平田先生之著示)。

青木水流

- ・青緑の樹(大樹→青木)。

- ・青木といふのは木か青々と茂っている様子を表わす(60.1.13里の字)。

山野

- ・柏木山野、下田中山野、上田中山野、太良山野(西飾田)。
- ・東経禪寺山野、主税山野、中主税山野、西主税山野、東生税山野。
- ・南主税山野、北主税山野、浜山野、南浜山野(東飾田)。山野田(平松)。

山野

- ・山野 ← 散野(部落共同の原野)。又は山林・原野 = 山野。

- ・山野とは「元村(本の村)の近傍に未開地を開いた地区、即ち先村からの分派にあたること」が予想される(「日本地名」新人物往事社 P.85)。

口ノ坪

- ・県下に16ヶ所あるといふ(会報第8号 P.4)。

- ・口ノ町(蒲生町北)、口ノ尾、口ノ町(加賀津町西別府、反土)。

郡道

- ・郡道といふ。

上龜泉院

- ・下龜泉院。※銀倉にみる龜泉院の領地と思われる。

高木通

- ・現在の高木通部落バス停を流れる水路は今水にて南東に広がる田畠にそぞれている。今は三面コンクリート張りの水路だが、昔はいまの県道から約400mのところに石積みの上を松杉の丸太をくりぬいたものをつなぎ合せて、その中を水が通りようにしてあった。ところ、この種のかかったところを下から見ると非常に高く見えないので高木通といふようになった(47.10.27 变化した地名、井上国富也新聞)

17 船 津

船 津

- かつて船着き場があつたところから名が出来たといふ。戦前は上流の蒲生町まで川舟が往来、特産の和紙、原料などを運んでいた(昭和11年)。

興玉神社

- 一の宮神社と九玉神社を合祀。

一町畠

- 地主の言ふによるとこの田・畠の名前は古く、面積には關係ないと言つた。

諏訪原

- 付近に諏訪神社が見当しなかったので一の宮神社かも知れぬ!?

王子原

- 現況は田。
- 熊野系の王子神社は「若一王子神」から出たものであるといふから、熊野神社又は王子神社に關係はないだろうか。
- 王子權現社(吉田町東佐多浦王子原)。

官田ヶ丘

- 多数の布目瓦が出土するので布目瓦をつくった所ではないかといい、又三船鉢窯の粘土は良質で今も瓦を製造している(御土産 P.38)。

春花川  
(川)

- 春花橋のある川は俗に若松川と呼んでいるようだ。これは平山了清後平氏は土着・土豪化して子孫に若松・餅田・中津野・平頭・平松などの地名をもつ姓(シメ)であるので、この若松氏は多分この春花橋付近ではないか。

室 追

- 室前(西餅田)。
- ムロ木は窟のこと、岩室など、岩穴→竜穴→竜神→請雨の神。又ムロ木でムロ樹の生育地をいう(「奈良の地名」P.481)。

井手丸

- 井手→井堰のこと(阿久根の地名)。

鉢 窟

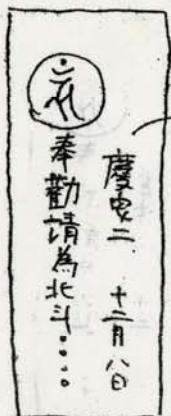
- 鉢窓(加佐町小山田、蒲生町白男)。鉢追(蒲生町添)。
- 猪窓(鶴島町永木)。鉢窓、鍋窓(草人町小浜)。土取窓(草人町見次)。
- ハケ窓(草人町西光寺)。八窓、湯窓(牧園町宿窓田)。魁窓(牧園町三体堂)。川窓(牧園町万勝)。梨窓、舟窓、湯窓(牧園町下中津川)。
- 鉢窓(夢洲町徳立)。

- 現況田で周囲より少々低地でもある。※ 8坪か?

ホクシンバラ  
北辰原

- 北辰(三拾町)。北石(下名)。北枝、星原、上星原(平松)。
- 妙見田(室賣一御土産 P.127)。
- 北枝(蒲生町北、みひえ来)。

- 昭和60年10月12日隼人文化研究会での「星ヶ峰考」(平田信芳先生)以後 北辰が追れてきるようになった。勝元の天王御中主神社につけてる。1.5角本新開タリに記載がある。①俗軒・妙見様で息災延命・幸運・増益の神。②重富地区の妙見信仰を示すものとして西ノ妻に妙見菩薩碑がある。
- 日当山の妙見は犬飼滝近くのイサナギ神社にあるという(さつち告)。
- 修驗道の名跡よりもう(地名を堪る) P.266)。
- 9月29日例祭が多いとあるが重富は9月19日である。



大坪

- 「小字の連けいフレー」について



\* 大坪から派生して大平、鉢窓の小字が出来た。  
\* 柳迫から派生して上柳、永迫の小字が出来た。どうしよう?

18 平松

- 京田原
- 三国名勝図会に義弘公が下京田30石を住吉神社に寄進する。下京田はこの京田原に該当するか？
- 新開
- 新開（上名、西餅田、平松）。内新開、小新開（平松）。
  - 平松の新開、小新開、内新開は同時期に発生したうか、角田井せき造成以後か（寛文4年（1664）、享保18年（1733））
- 稻荷橋
- 稻荷神社（諏訪神社とも呼ぶ）あり。諏訪勝のせりあい。弘治2年建立。
- 片子獄
- 辺河獄である。又は片甲峯（三国名勝図会）。
  - そばを鬼川が流れている。
- 丸
- 山丸、石丸、鋒丸が片子獄を中心にしてある。次郎丸（平松）、柳ヶ丸（鍋倉、寺師、大山）、脇丸（寺師）、丸山、大丸（北山）、桑ノ丸、丸山（木津志）、榆ヶ丸（上名）、丸山（下名）、大丸（大山）、小丸（増田）、深ヶ丸（鍋倉）、大丸、井手丸（舟津）。
- 車田
- \*会報第5号に「丸丸」。  
車田はあらゆる田の先頭を切って田植え、田刈り作業が行なわれた田である。
  - 地形を表すか（車内、車地地）（江之先生ご教示）。\*車田は経路の走点としての役割を果したのは今後の課題（歴史文化1号）
- 古屋敷
- 島津朝久の居館跡（御土志 P.110）。
- 池島
- 天文年間 池島・原口に陣取子（帖佐ちと記録 P.7）。
  - 義弘公は木崎原戦の敵味方戦死者のため六地蔵を飯野郷池島村三角田に建ててある（御土志 P.218）というが、重富の池島、及び三角という小字など、縁はないだろうか？
- 扇子平
- 扇子畠（扇子上支徳）。
- 真才
- 下真才。 \*曲田？
- 目串
- 前方自度して佳観で目奇とはうか？ \*酒呑公庫（名勝考 P.93）。
- 化粧宇都
- 化粧田七の隣邊か（江之先生ご教示）。

- 城下
- 諏訪行ヶ城の下。
- 城宇都  
諏訪行ヶ原
- 諏訪行ヶ城の付近にある宇都状の地形を指しているであろう。
  - “ ” “ ”。
- 永迫
- 稻宿神社付近と楠元橋付近にあり。
- 六ヶ所前
- 六ヶ所大明神が岩剣神社に合祀されている。
- 山草院
- 昔山草院というお寺があった。後三祖院紹隆寺となって重富高澤家の菩提寺となる。（谷口純男先生談）。
- 狩集
- 小字になっていない。（会報第5号 P.16）。
  - 狩集 = ①狩の集まるところ（会報第5号）。②狩のための集合地（阿波の地図）。
  - 地名研究会第5回例会「狩集と柴立」（江平望先生）の中に猪・鹿等と狩集との関係が述べてあるが、岩剣神社内に鹿の供養碑（寛政8年）が建立されている。（会報第5号 P.20）。
- 葦刈
- 現況は山の下。
  - 葦刈たうが 葦川（アシカワ）になりやすい。
  - 庶民は葦刈（葦を刈るところ）と受けとめ、為政者は葦河原（葦が生えていた河原）と理解することもある（会報第8号）。
- 井料
- 井桶田（平松）。井田、岩井田、井野（北山）、井ノ原（下名）、井料（大山）、市井川（三拾町）、井手丸（舟津）、井料（澤木）。
  - 「いめん、井領田、井耕田、井田など、井せきを作らず、用木神修の費用を出すために設けてあるのである」（ ）
- \*井料 = 井料田、中世の地名で井は「井せき」の井である。

## 19. 脇元

脇元  
(達治2年)

- ・ 葦に対する野町にて發達し、葦の門戸にての役割を担うので、海岸に立地 (「ものかた」、「地名をさむ」NHKアーツ P.96)。
- ・ 寄進田 正若官八幡大菩薩御宝前  
大隅国蒲生院内脇本河木田五反、同島五反御祭田寄進中領所也  
※ 蒲生忠清

○○原

- ・ 中原、白金原、西溝原、東溝原、蟹原、榎原、前ヶ原 (脇元)。
- ・ 触田原、東原田、西原田、諏訪原、上原、原口原、京田原、星原、上星原、大園原、平松原、西中原、蟹原、永池原、後原 (平松)。
- ・ 元文4年製作の平松・脇元・舟津・春花・觸田村の鳥瞰図 (佐治行福社センター蔵) には、平松・脇元は火田と書かれている。

旧塙屋

- ・ 戦前はここで築塙が行われていた。

赤、崩

- ・ 白崩 (阿久根) → 地層が崩れて白く見えたりとう (シラス層) (阿久根町)
- ・ クエ(崩) → クエルは崩れの意味。クエは日本語の標準音 (会報第9号)。

笠

- ・ 俗に坂下と呼んでいた所。

ヒロコ  
車

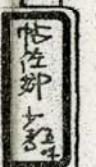
- ・ 布引の滝のあるところを「轟ノ宇都」と呼び、その下の方を「轟」(轟川)と呼び、そこを流れている小川を「轟川」と呼び、かけた橋が「轟橋」という。

(31)

(32)

## 大隅国正八幡宮領帖佐郷小考

五 味 克 夫



中世の帖佐郷は古代和名抄本巻之四西那とあるのに當り、現在の姶良町の中に含まれている。建久八年の國出帳に、  
は「帖佐郡二百七十一大」

正宮領

本家八幡

為半不輸、

正社

高物者弁濟於國衙也、

御供田九丁七段

寺田廿六丁六段

小神田六十四丁九段半

大般若三丁

経講浮免十四丁二段 聖朝府国御祈禱料國方所當弁田  
万徳五丁三段大 丁別十疋

恒見八丁七段大 丁別十九疋三丈

大隅國正八幡宮領帖佐郷小考

三一

大隅國正八幡宮領帖佐郷小考  
五味克夫

## 大隅國正八幡宮領帖佐郷小考

III

宮吉五丁 丁別八疋

正政所十丁 丁別十五疋

權政所五丁 丁別十五疋

公田六十八丁四段半 丁別廿疋 村々十箇所」

とある。

またそれから約八十年後の建治二年八月在庁、守護代連署注進の石築地役配符案によれば<sup>(2)</sup>、「帖佐西第一百四十丁九段三百歩除貢進田五丁」であり、以下内訳の記載がある。(左表) しかしその数字ははじめの総計から既に正確ではなく、伝写の際の誤脱を勘定に入れてもなおかなりの計算の開きがみられる。当初から不正確なものであつたとみるべきである。しかし数字が不正確であつても全てが誤りであるとして捨てかるべきでなくやはり総数は示しているものとして史料として用いるに足るものといわなければならない。そして前記図田帳の記載と比較してその内容の検討も許されるべきである。まず総田数については「百七十一丁大から」<sup>(1)</sup>「百四十丁九段三百歩と若干増加して」<sup>(2)</sup>いる。内訳は図田帳で御供田、寺田、小神田、大般若田、経講浮免田の不輸田小計百十八丁四段三百歩と園方所当弁田の万徳、垣見、宮吉、正政所、權政所、公田の応輸田小計百二丁五段反三百歩とに分れている。石築地配符案で公田百四十三丁五段とあるのは宮吉五丁、井神田寺田分が加えられており、万得七十五丁半にも神田寺田宮吉が加えられている。宮吉五丁とあるのは図田帳のそれと同じであり、公田の中恒見七丁とあるのは岡田帳の八丁七段大であるのに僅かに下廻れる。宮吉を加えるとあるのは公田の中寺師、中達乃、住吉、神河と万得の藤畠の五所である。<sup>(万徳と万得とは同名で、万得とははじむ紙田行賈の手口)</sup> 万得寄進され、その後も付加された正八幡宮領で半不輸領である<sup>(3)</sup>。後に掲げる南北朝期、暦応二年の正八幡宮講衆殿上等申状の中、「一、百日大般若同最勝講供料麦廿四石事」に「右供料者去保安年中奉為大善薩御崇敬、知足院禪定殿下以帖

主	名	石築地	定	田	除減通川	参考	面積	主
公山	加宮吉5丁井神田寺田定	5丁0段	23丁75段240	11丁4段(240)	11尺46	正宮留守別部左門出賀用	143丁5段	11丁9段240
大山	加神田寺田定	5段	7丁4段	"	7尺4	"	7丁9段	"
深山	"	5段	(8丁6段)	8尺6	"	"	9丁1段	"
中河	"	5段	7丁8段20	7尺64	"	"	9丁7段	(9丁2段20)
原	加神田寺田宮吉定	5段	9丁1段20	9尺14	"	"	10丁7段	10丁7段240
峯	"	5段	(12尺06)	(12尺06)	"	"	12丁7段	12丁5段240
寺	"	5段	7丁2段20	7尺(24)	越前故松覺禪	"	13丁7段	13丁7段120
中	"	5段	13丁4段30	13尺45	舟濟使平左近入道門伝	"	13丁9段180	加神田宮吉定
寺師	"	14丁1段300	14丁1段300	14尺15	古明寺住僧紫心房	"	14丁1段300	加神田寺田定
乃世	"	14丁1段300	26丁4段20	26尺44	御家入朝所義祐	"	27丁4段120	加神田宮吉定
世吉	"	9尺5	9尺5	9尺5	船渡所助道	"	9丁5段	加神田寺田宮吉定
津	"	1尺5	1尺5	1尺5	郡司榮綱	"	1丁5段	1丁5段
水	"	7尺	7尺	7尺	留守別部左門出賀用	"	7丁	7丁
住	"	"	"	"	"	"	75丁	180
船	加神田寺田定	"	"	"	"	"	75丁	180
神	"	"	"	"	"	"	31丁8段180	加神田定
松	"	"	"	"	"	"	10丁7段	"
便	"	"	"	"	"	"	11丁9段	11丁9段
得	"	"	"	"	"	"	27丁6段	加宮吉定
山	"	"	"	"	"	"	15丁4段	"
平	"	"	"	"	"	"	3丁	9丁4段
千	"	"	"	"	"	"	1丁	9丁4段
豊	"	"	"	"	"	"	2丁	2丁
本	"	"	"	"	"	"	"	"
官	"	"	"	"	"	"	"	"
寺	"	"	"	"	"	"	"	"
田	"	"	"	"	"	"	"	"
法	"	"	"	"	"	"	"	"
業	"	"	"	"	"	"	"	"
寺	"	"	"	"	"	"	"	"
堂	"	"	"	"	"	"	"	"
新	"	"	"	"	"	"	"	"
三	"	"	"	"	"	"	"	"
味	"	"	"	"	"	"	"	"
最勝寺	"	"	"	"	"	"	"	"
龍	"	"	"	"	"	"	"	"

大隅國正八幡宮領帖佐郷小考

III

田のつく小字を大字ごとに分類した一覽表

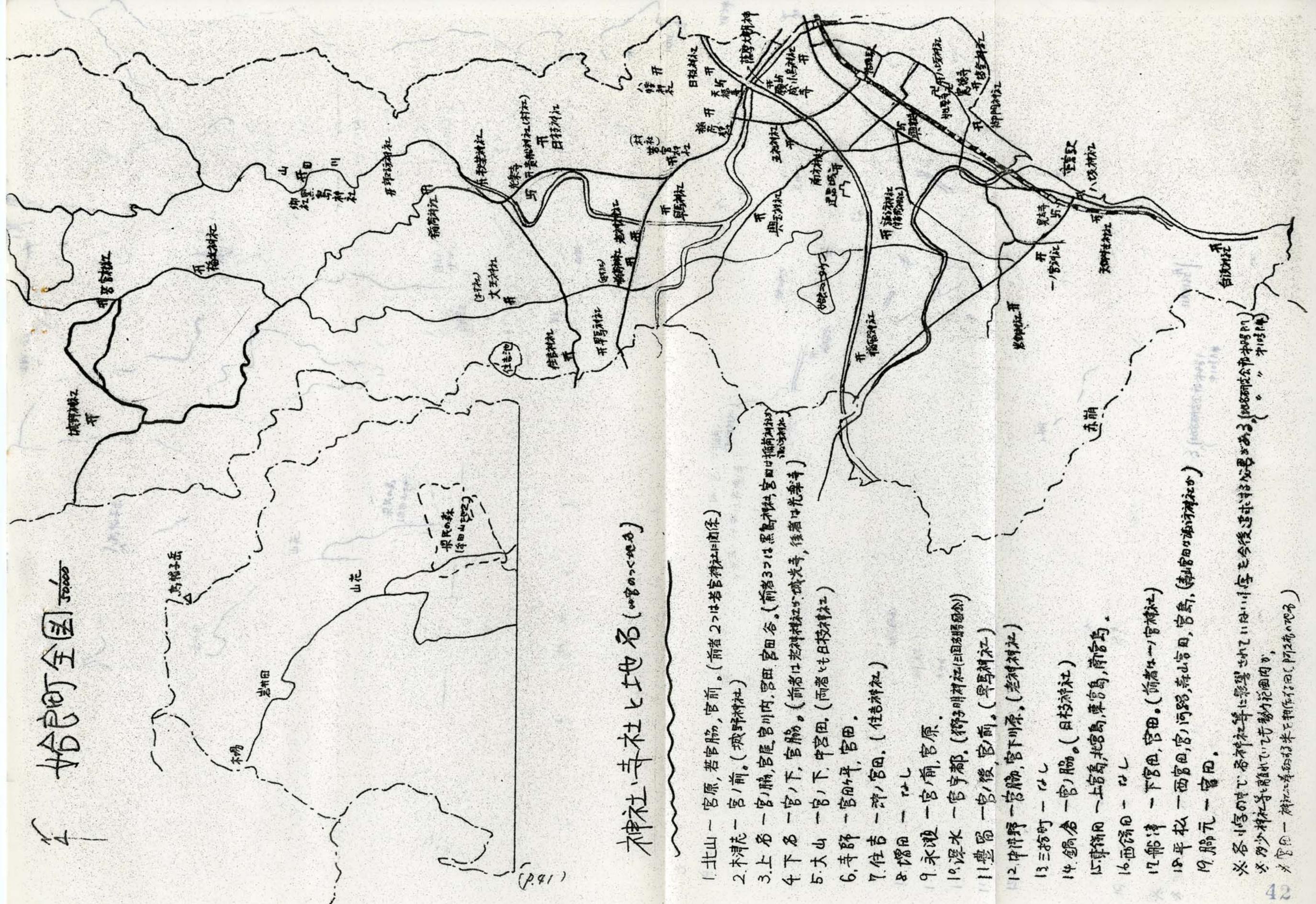
(×:自然地名、宗教地名など、小字の意味が判り難いものや複数あるもの)

大字	①北山	②木津志	③上名	④下名	⑤大山	⑥寺師	⑦住吉	⑧増田	⑨永瀬	⑩深水	⑪豊留	⑫中津野	⑬三拾町	⑭鍋倉	⑮東餅田	⑯西餅田	⑰官島町	⑱池島町	⑲船津	㉑平松	㉒脇元
	小牟田 荒田 牟田下 牟田山 牟田頭 鎮守田 頼成田 大官田 九日田 大次郎田 樺田 白木田 早井田 若管半 前才鑓 石原永	管牟田 山仁田 赤仁田 樺田 鍋田 下池田 後永田 畑ヶ田 園田	官田 七夕田 餅田 敷田 官田各 白木田 桔田 下永田 西池田 須田木 最上田 東池田	水流田 平田 敷田 田田 官田各 白木田 桔田 下永田 西池田 須田木 最上田 東池田	大牟田 寺田 五反田 御供田 講餅田 米麵田 次米麵田 一町官 八反 五反 鍋蓑 小原酒 前山田 西田	平田 蒲牟田 御供田 講餅田 米麵田 次米麵田 一町官 八反 五反 鍋蓑 小原酒 前山田 西田	士夕田 元日田 沖官田 田田 塚田 久木田 百前園 五百反 八反 五反 鍋蓑 小原酒 前山田 西田	迫田 平田 西供田 二反田 蛭固酒田 百前園 五百反 八反 五反 鍋蓑 小原酒 前山田 西田	戎田 十三田 早田屋 田田 塚田 久木田 百前園 五百反 八反 五反 鍋蓑 小原酒 前山田 西田	上京田 下京田 櫛柳田 前柳田 前恒見田	原油田 田田 柳柳田 前柳田 前恒見田	原油田 田田 柳柳田 前柳田 前恒見田	兩社牟田 五反田 前佃田 佃原田	平田 御供田 油柒田 一町田 四反田 高井田 小池田 前黑量田 鏡田	松木田 園田 御供田 油柒田 一町田 四反田 高井田 小池田 前黑量田 鏡田	上森应田 下森应田 鶴年田 中下牟年田 南牟年田 北牟年田 上一町田 下一町田 七反田 西七反田 堂 西浜田 北浜田 南浜田 東浜田	荒田 正福田 六反田 上澤田 下脚山野 上脚山野 春田 松木田 岩布崎田 小松田 横原田 上木月田 中木月田 下木月田	官田 下官田 袴田 早前田 青木田	川原田 平田 西官田 轟山官田 車田 七反田 六反田 一町田 松木田 角原田原 東原田 西原田 脇田 前田 池和古河 池田 杉園田 蟹田 山野田 井桜田	官田 坂田 田尻	

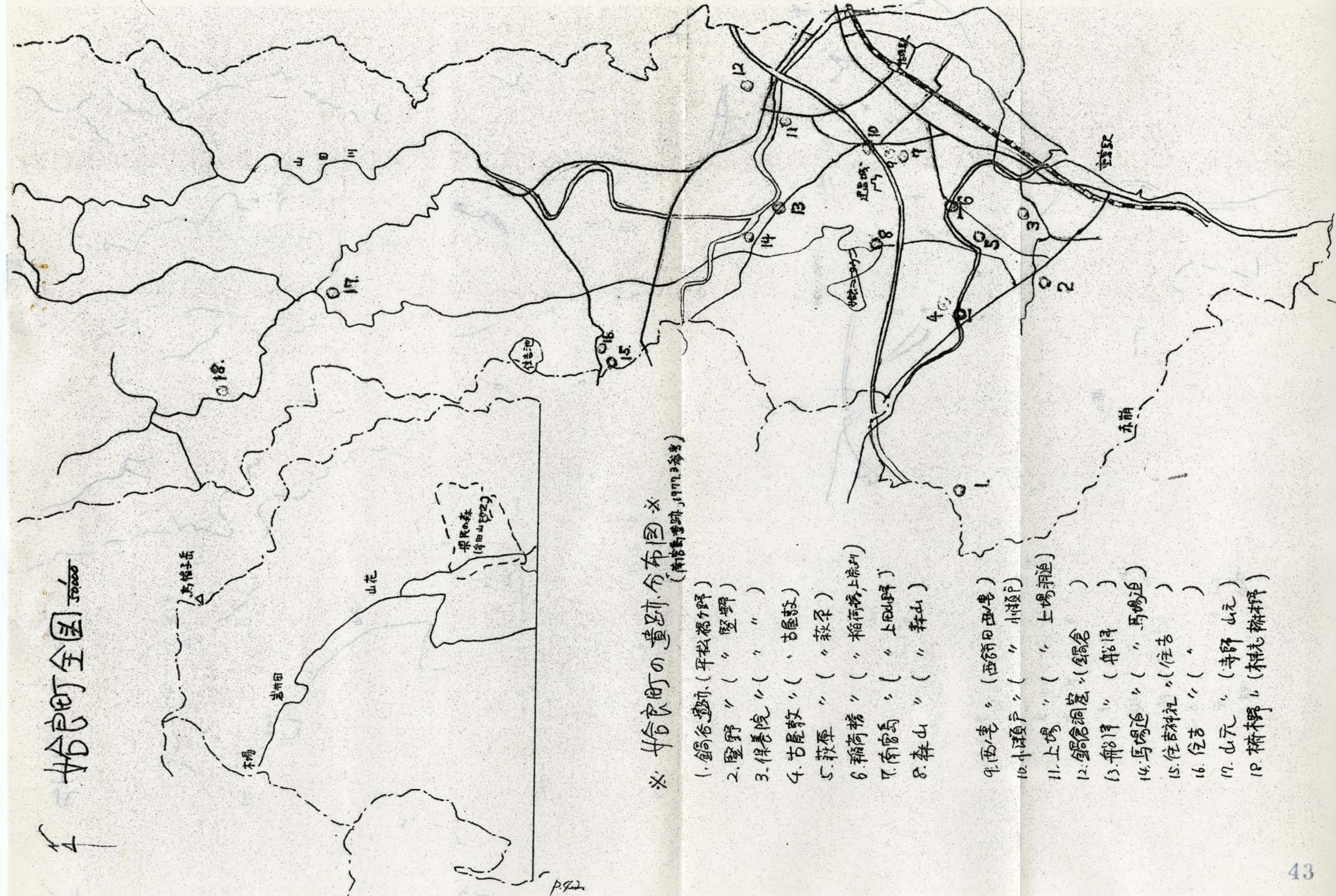
\* シラス地名を大字ごとに分類した一覧表（「霧島山麓の地名」(佐野武則先生)レジメNo.4の部分により作成）



# 合戸町全図 [1:20,000]

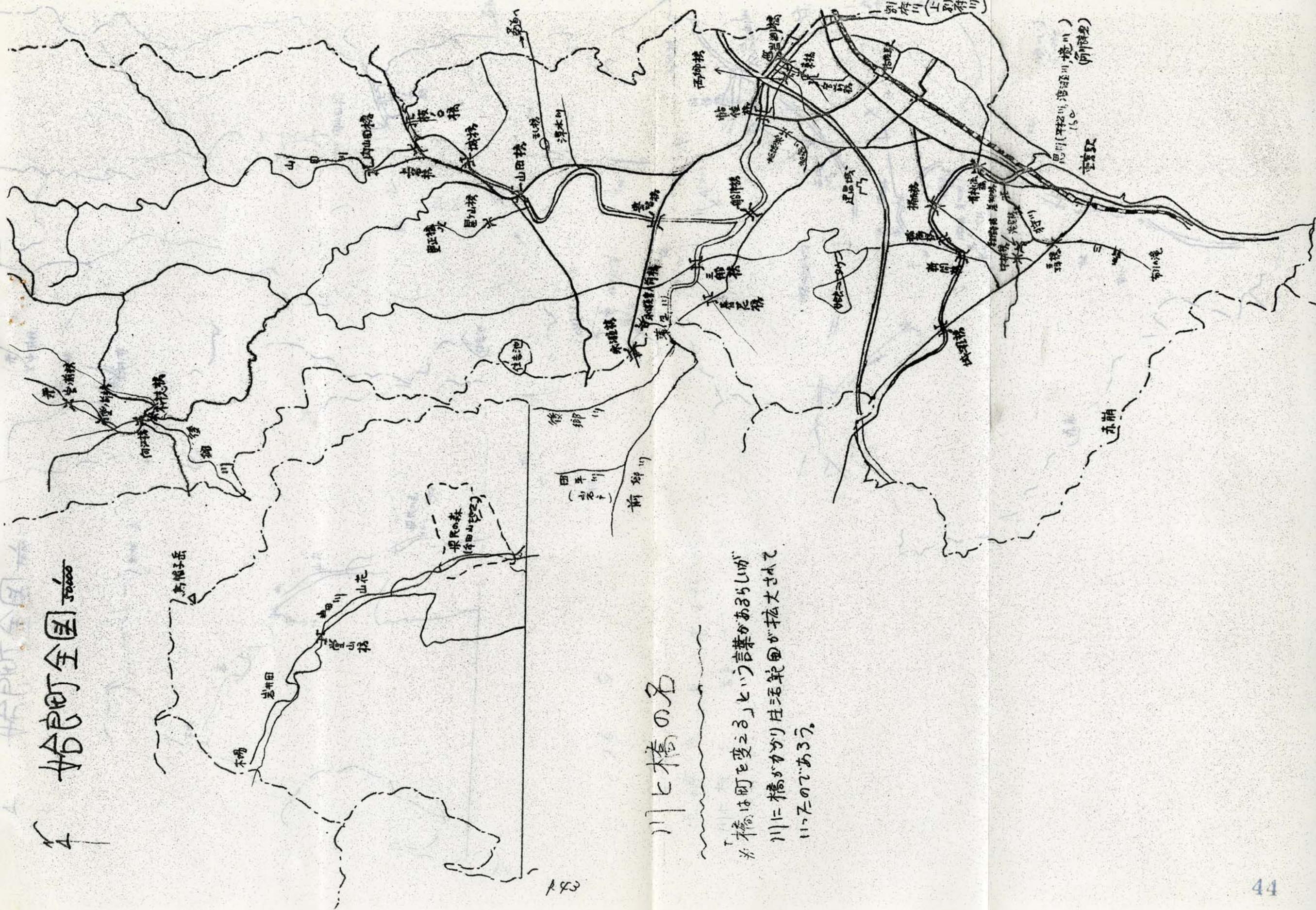


# 大曾町全圖



# 木曾町全圖

4



## 「木曾の橋」

木曾は町を変えるといふ言葉があるらしい  
川には橋がかかるは三石範囲が拡大されて  
いるのである。

辺川

現在・加治木町西別府に属しているが、S.27耳以前は山田村の飛地であった。山田村の痕跡がある。

山田村には奈良袂、奈良尾という地名があり。一方 辺川には下奈良田門、上奈良田門があって、猶田(ならた)という小字があり、下猶、上猶という姓あり。このように、山田村と辺川とのつながりは、「ナラタ」という地名で残されていきと言えよう。

北山

・860耳(貞觀2) 大隅国吉多・野神2枚を廢す、について。

吉多をキタと読んで、北山北野(三国名勝図会)に比定されているようだ。始安町郷土誌も同様である。私は吉多はヨシタと読まれる率が大きいのではないかと思うようになった。むずかしいことは知らないが、和名抄の語呂がそんな感じである。以下戻づいただけ拾い上げてみた。

大和國一吉野(与之乃)。

攝津一住吉(須ミ与之)。

讚岐一吉原(与之波良)。

長門一住吉(須ミ与之)。

美作一吉野(与之ノ)。

播磨一吉川(与加波)。

下野國一吉名(与之名)。

周防一吉教(与之岐)。

伊予一日吉(比与之)、吉原。

喜多郡(岐多)

蒲生郡一安吉(阿支)。

このように「吉」は「ヨシ」である、「キ」は岐・喜・木・吉である。もし吉多が「キタ」ならば「喜多」の方がピッタリである。そして岐刀をキタと読みたい。(名勝考P.141)

北山は寛文4年(1664)薩隅日並疏畠高辻帳にはなく、安永7年(1778)三州御治世要覽にはあるので、飯村→北山村であろう。北山は山田の北部という意味で、どんなに古い地名ではないと思われる。一方北野という小字、及び蒲生町大字北の由来を探りたい。

・和名抄の大隅国桑原郡「大分」もオオキタと読んで、北山に比定している(日本地理志料)。※名勝考P.138に参照。

トウセツ  
塔敷町  
トウセツ  
当睦町

・和名抄 桑原郡一大原、大分、豊國、答西、稻積、廣田、桑善、仲川。

・県史は「答西をタフセヒと読まれる故、後世の帖佐御と考ふれる」とする。  
・答西(溝辻?)と比定されている(「国分物語」P.53)。

・「たふげ」を「トウケ」(トウケ)と読んでいた(金報本1号、峰)。

始安町に塔敷町(上名)、当睦町(下名)、桜井町(三拾町)がある。  
難解らしいことはわからないが、語呂が似ているので一考した。

・せまら→中世、土地の広さの単位・田畠の一区画(地名用語源辞典)。

・マチ(町)→区画のことで、畠にはこの名が入り、ヘマチという名のついた水田は比較的広い(平地で自然)の地形によじて、畦畔を方形に区画することができるため、また地形にある水田のようだ(新地名研究)。

・「名寄帳の水田で「せまらハ」などとてあるのは、段々にはてたりして一筆の田がハ枚に分かれていますことを示す。島で「四重」というのも段々島で一筆の島が四枚に分かれていることを示すものと思われる(市町村郷土誌 P.275)。とあり、これが類推すると

当睦町→十畠町→1筆の水田が十枚に分かれているか?

九十束 → 九重木 → 1筆の畠が九枚に分かれていますか?  
(東語用)

・二せまち(平松水田坪付帳山ノ門)

・「〇〇町」の呼称は見出し(「平台」14号 P.98)。

・長坂町、塔敷町(上名)、当睦町、西田町(下名)、加治木町、芳元町(住吉)、桜井町、吉野町(三拾町)、吉錦町(増田)、納屋町、小原町(鍋倉)。

上八日町、中八日町、下八日町、十日町、十日町頭(東餅田)、町(船元)。

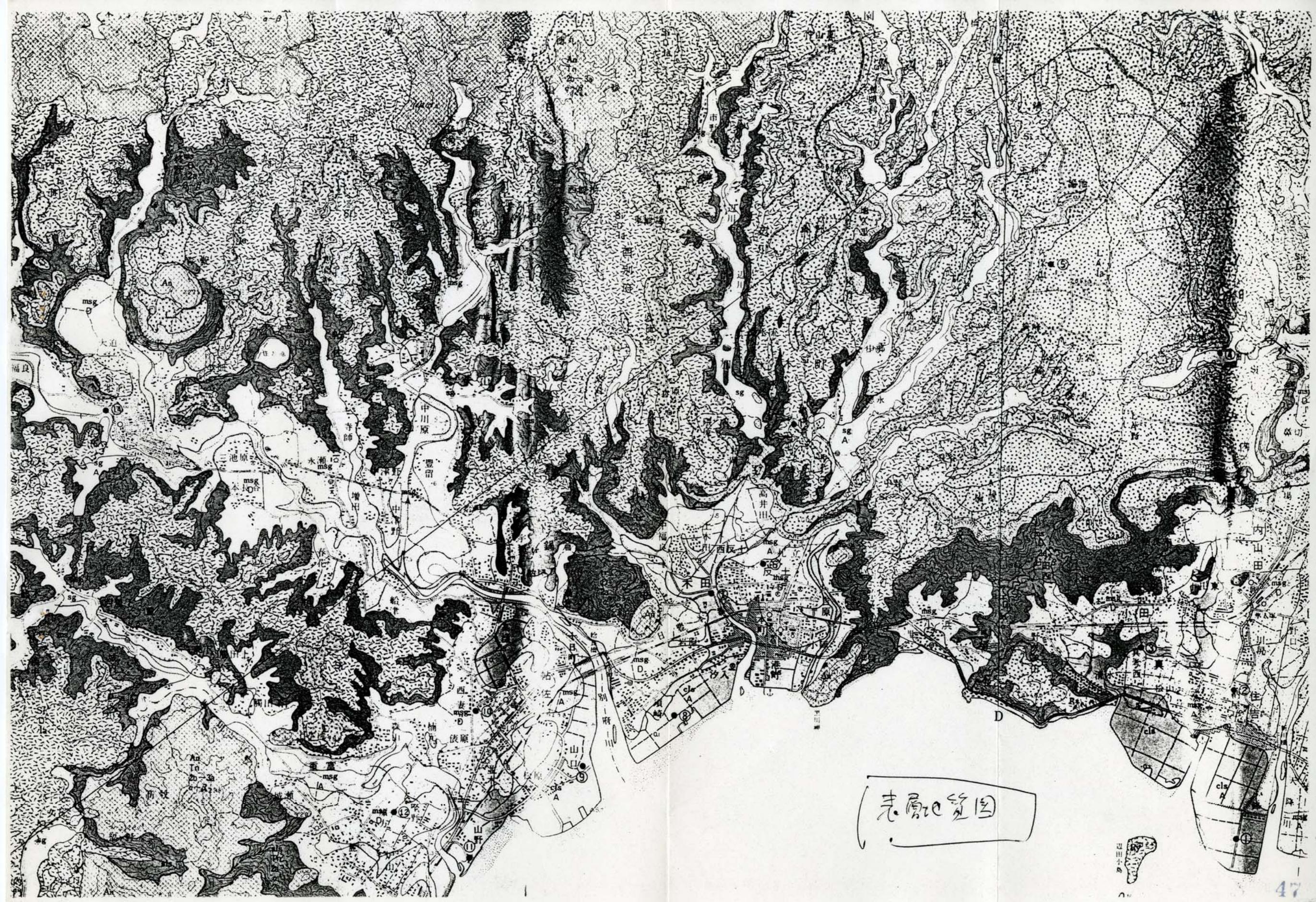
\*八日町、十日町は八日市、十日市。

\*納屋町、西田町は野町(郷土誌 P.306)。

\*当睦町で「十畠」という広さを表しているかと尋ねると5~6反以上はあらということ。

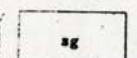
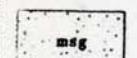
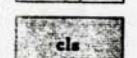
・前原百畠町(加治木町西側)、百畠町(宮之浦や舟木)、二畠町(平田町西光寺)、新畠町、口町(蒲生町)。

(44)



## 志戸地図(2)

## 凡例 Legend

砂・砾  
Sand and gravel泥・砂・砾  
Mud, sand and gravel粘土・砂  
Clay and sand

昭和四十七年調査

未固結堆積物  
Unconsolidated sediments

土地今後計画図

7016年

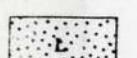
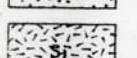
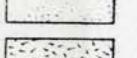
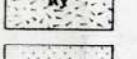
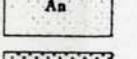
ST191

(2) 土地計画

主な年

1973

行政地図

火山性岩石  
Volcanic rocks泥岩  
Mudstone凝灰岩  
Tuffシルト岩  
Siltstoneローム  
Loamシラス  
"Shirasu"溶結凝灰岩  
Welded tuff流紋岩質岩石  
Rhyolitic rocks安山岩質岩石  
Andesitic rocks玄武岩質岩石  
Basaltic rocks岩石の種類の境界  
Boundary of rocks走向・傾斜  
Strike and dip

●

ボーリング地点  
Location of columnar sections

△

採石場  
Quarry

♨

温泉  
Hot spring

M

中生代  
Mesozoic

Tp

古第三紀  
Paleogene

Tn

新第三紀  
Neogene

D

洪積世  
Diluvium

A

沖積世  
Alluvium地質時代  
Geologic time

## 大山

小字数 58 山大原加治木 303-315-33

《 資料 1 》

## 姶 良 町

大字 19

( 小字数 ) 1334

大山	58	永瀬	22
上名	152	鍋倉	44
北山	169	西餅田	119
木津志	67	東餅田	123
三拾町	67	平松	122
下名	111	深水	18
住吉	32	船津	45
寺師	86	増田	22
豊留	24	脇元	26
中津野	27		

『鹿児島県地名大辞典』(角川)の「小字一覧」および『姶良町郷土誌』にもとづいて作成。

「加治木 303-315-33」は『日本地名索引』の位置座標。

1986年8月

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
明方	あけがた	姶良町大山	山大原加治木	さゝのゆち 口入光
池田	いけだ	姶良町大山	山大原加治木	まやハジ 山大
石場	いしば	姶良町大山	林山大穂田山	いわるじさ
	いづみかど	山田郷大山村	出水門	地誌備考資料
	いまむらかど	山田郷大山村	今村門	地誌備考資料
井料	いりょう	姶良町大山	山大原加治木	さひくて 馬入前
	うきめん	山田郷大山村	浮免	地誌備考資料
後田	うしろだ	姶良町大山	山大原加治木	うぢ枝の子 游宇で田間
	うちかどやしき	山田郷大山村	内門屋敷	地誌備考資料
江ノ尾	えのお	姶良町大山	山大原加治木	えゆ六
大岩	おおいわ	姶良町大山	山大原加治木	おじゆ六
大内添	おおうちぞえ	姶良町大山	山大原加治木	式口セ六 不動
大寺	おおてら	姶良町大山	林山大穂田山	おゆきラコ六
大牟田	おおむた	姶良町大山	山大原加治木	こうア六
大山	おおやま	姶良町の大字	山大原加治木	建治2(1276)
大山	おおやま	姶良町大山	山大原加治木	るまく次
小倉ヶ迫	おぐらがさこ	姶良町大山	林山大穂田山	ちくちみ六
叶松	かないまつ	姶良町大山	山大原加治木	金松?
	かみづるやしき	山田郷大山村	上水流屋敷	地誌備考資料
	かみはたかど	山田郷大山村	上畠門	地誌備考資料
川添	かわぞえ	姶良町大山	山大原加治木	ひすぐ六
吉丁ヶ岡	きっちょうがおか	姶良町大山	林山大穂田山	さゆ六
源入	げんにゅう	姶良町大山	山大原加治木	さみゆ六
	こさかかど	山田郷大山村	小坂門	地誌備考資料

小坂元	こさかもと	始良町大山	さ	姓字小	山 大	
五反田	ごたんだ	始良町大山				
桜ノ下	さくらのした	始良町大山	大	姓	ル	姓
桜間伏	さくらまぶし	始良町大山				
英ノ口	さやのくち	始良町大山	山大	姓	ル	姓
椎山	しいやま	始良町大山	山大	姓	ル	姓
	しもづるかど	山田郷大山村	下水流門	地誌備考資料		
菖蒲ヶ迫	しょうぶがさこ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
諏訪迫	すわさこ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
諏訪ノ尾	すわのお	始良町大山	山大	姓	ル	姓
園田	そのだ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
菌田ヶ宇都	そのだがうと	始良町大山	山大	姓	ル	姓
高岡	たかおか	始良町大山	山大	姓	ル	姓
高曾	たかそ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
高付	たかつき	始良町大山	山大	姓	ル	姓
竹下	たけした	始良町大山	山大	姓	ル	姓
	たにぐちかど	山田郷大山村	谷口門	地誌備考資料		
建迫	たてざこ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
建堀	たてほり	始良町大山	山大	姓	ル	姓
大丸	だいまる	始良町大山	山大	姓	ル	姓
	つねみやしき	山田郷大山村	常見屋敷	地誌備考資料		
佃	つくだ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
寺田	てらだ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
堂ヶ宇都	どうがうと	始良町大山	山大	姓	ル	姓
堂園	どうぞの	始良町大山	山大	姓	ル	姓
	とみたかど	山田郷大山村	富田門	地誌備考資料		
中道	なかみち	始良町大山	山大	姓	ル	姓
中宮田	なかみやた	始良町大山	山大	姓	ル	姓

永崎	ながさき	始良町大山	さ	姓字小	山 大	
鍋田	なべた	始良町大山				
	にしかど	山田郷大山村				
西鍋	にしなべ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
猫山	ねこやま	始良町大山	山大	姓	ル	姓
畠田	はたけだ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
	はたなかかど	山田郷大山村				
	はまいしかど	山田郷大山村				
東鍋	ひがしなべ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
東村	ひがしむら	始良町大山	山大	姓	ル	姓
百田	ひゃくた	始良町大山	山大	姓	ル	姓
仏ヶ宇都	ほとけがうと	始良町大山	山大	姓	ル	姓
前田	まえだ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
松ヶ迫	まつながさこ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
乱橋	みだればし	始良町大山	山大	姓	ル	姓
	みやたかど	山田郷大山村				
宮ノ下	みやのした	始良町大山	山大	姓	ル	姓
柳ヶ丸	やなぎがまる	始良町大山	山大	姓	ル	姓
山口	やまぐち	始良町大山	山大	姓	ル	姓
吉ヶ元	よしがもと	始良町大山	山大	姓	ル	姓
六反田	ろくたんだ	始良町大山	山大	姓	ル	姓
六反	ろくたん	始良町大山	山大	姓	ル	姓

## 上名

小字数 152

加治木 303-315-23

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
赤穂木段	あかほぎだん	始良町上名	山大門	山大門自傳
集り	あつまり	始良町上名	山大門	山大門
阿母谷	あぼたに	始良町上名	山大門	山大門
尼ヶ瀬	あまがせ	始良町上名	山大門	山大門
庵ノ上	あんのうえ	始良町上名	山大門	山大門
庵ノ下	あんのした	始良町上名	山大門	山大門
池平	いけひら	始良町上名	山大門	山大門
池平前迫	いけひらまえさ	始良町上名	山大門	山大門
石掛	いしかけ	始良町上名	山大門	山大門
石堂	いしどう	始良町上名	山大門	山大門
石峯	いしみね	始良町上名	石峯門	地誌備考資料
稻荷脇	いなりわき	始良町上名	山大門	山大門
	いまむらかど	山田郷上名村	今村門	地誌備考資料
芋洗川	いもあらいがわ	始良町上名	山大門	山大門
岩下	いわした	始良町上名	岩下門	地誌備考資料
岩元	いわもと	始良町上名	岩元屋敷	地誌備考資料
上ノ段	うえのだん	始良町上名	山大門	山大門
打木	うちき	始良町上名	山大門	山大門
内ノ子	うちのこ	始良町上名	山大門	山大門
ウツラ	うつら	始良町上名		
宇登戸	うとこ	始良町上名		
江晒	えざらし	始良町上名		
榎ヶ段	えのきがだん	始良町上名		
大園畑	おおぞのばた	始良町上名		

大戸戸	おおとこ？	始良町上名	大戸登？
大戸迫	おおとざこ	始良町上名	大戸のそご
大平	おおひら	始良町上名	大戸のそご
大淵ノ上	おおふちのうえ	始良町上名	大淵上
大峯岡	おおみねおか	始良町上名	大峯おか
小川	おがわ	始良町上名	小川さか
小川内	おがわうち	始良町上名	小川うち
尾奈子	おなっこ	始良町上名	尾奈子
柿穴	かきあな	始良町上名	柿穴
鍛冶脇	かじわき	始良町上名	鍛冶脇
楮田	かった	始良町上名	楮田
葛ヶハエ	かつらがはえ	始良町上名	葛ヶハエ
叶松	かないまつ	始良町上名	叶松
金目迫	かねめざこ	始良町上名	金目迫
上大迫	かみおおさこ	始良町上名	大迫屋敷
唐敷	からしき	始良町上名	唐敷
完磨	かんま？	始良町上名	完磨
上名	かんみょう	始良町の大字	上名
木ノ下	きのした	始良町上名	木ノ下
清水	きよみず	始良町上名	清水
柊木山	くききやま	始良町上名	柊木山
楠ヶ丸	くすがまる	始良町上名	楠ヶ丸
	くらしきかど	山田郷上名村	地誌備考資料
栗瀬戸	くりせと	栗瀬戸	
栗次	くりつぎ	栗次	
黒瀬	くろせ	黒瀬	
小鼓淵	こづみぶち	小鼓淵	
小戸ヶ谷	ことがたに	小戸ヶ谷	

小平	こびら	始良町上名	谷土原貞領	こざほは	瓦戸大			辰迫	たつざこ	始良町上名	谷土原貞領	ニコツ	末尚
郷ノ下	ごうのした	始良町上名	谷土原貞領	さざほは	飯戸大			立石	たていし	始良町上名	谷土原貞領	て老入瑞	傳木二
五反田	ごたんだ	始良町上名	谷土原貞領	さじほは	平大				たなかかど	山田郷上名村	田中門	地誌備考資料	文部
左エケ平	さえがひら	始良町上名	谷土原貞領	えひほは	左エ平	土入鶴大		七夕田	たなばたでん	始良町上名	谷土原貞領	むつの	首根
坂口	さかぐち	始良町上名	谷土原貞領	さかみほは	岡峯大			谷	たに	始良町上名	谷土原貞領	オジの	不復
桜荷床	さくらにとこ	始良町上名	谷土原貞領	さかは	川小			茶セン侯	ちゃせんまた	始良町上名	谷土原貞領	さうの	河復
桜馬場	さくらばば	始良町上名	谷土原貞領	さくらば	内川小			鎮守	ちんじゅ	始良町上名	谷土原貞領	ゆゑの	中復
迫田	さこだ	始良町上名	谷土原貞領	さこは	千葉縣			水流	つる	始良町上名	水流門	地誌備考資料	源通
笹段	ささだん	始良町上名	谷土原貞領	ささひ	穴跡			塔畠町	とうせまち	始良町上名	谷土原貞領	答西郷(和名抄)	岸通
篠原	しのはら	始良町上名	谷土原貞領	さゆひ	越前縣			遠目塚	とおめづか	始良町上名	谷土原貞領	もと人鬼さね	越跡八
篠田野	しのめんの	始良町上名	谷土原貞領	さやひ	田村			徳別当	とくべっとう	始良町上名	谷土原貞領	けいせき	原部
下田	しもだ	始良町上名	谷土原貞領	しもだ	エハセ高			鳥越	とりごえ	始良町上名	鳥越門	地誌備考資料	立赤
霜月田	しもつきでん	始良町上名	谷土原貞領	しもつき	越中			堂前	どうまえ	始良町上名	谷土原貞領	アオホネ	民伊國
修正田	しゅうせいいでん	始良町上名	谷土原貞領	しゅうせい	直目金			中入	なかいり	始良町上名	谷土原貞領	ひじ野	田部東
菖蒲ヶ迫	しょうぶがさこ	始良町上名	谷土原貞領	しょうぶ	直大土			中ノ城	なかのじょう	始良町上名	谷土原貞領	スルヘン	飯で東
白木田	しらきだ	始良町上名	谷土原貞領	しらき	連韻				なかむらかど	山田郷上名村	中村門	地誌備考資料	穂四章
新開	しんかい	始良町上名	谷土原貞領	しんかい	連家			永尾	ながお	始良町上名	谷土原貞領	さむ	真其
新中	しんちゅう	始良町上名	谷土原貞領	しんちゅう	谷土			長迫	ながさこ	始良町上名	谷土原貞領	アツナ	風平
地獄谷	じごくだに	始良町上名	谷土原貞領	じごくだ	不入木				なかにしかど	山田郷上名村	中西門	地誌備考資料	手開
城ヶ平	じょうがひら	始良町上名	谷土原貞領	じょうが	水都			永畠	ながはた	始良町上名	谷土原貞領	ちさひ	大さひ
須田木	すたき	始良町上名	谷土原貞領	すたき	山木			長堀町	ながほりちょう	始良町上名	谷土原貞領	大きさひ	堤平
	せとぐちかど	山田郷上名村	瀬戸口門	地誌備考資料				梨子木ヶ谷	なしのきがたに	始良町上名	谷土原貞領	おおさひ	渠平
瀬戸段	せとだん	始良町上名	土原山	せとだん	木で斜			料木	ななめぎ	始良町上名	谷土原貞領	くろ心	白瀬
瀬戸山	せとやま	始良町上名	土原貞領	せとやま	木屋			鍋口	なべぐち	始良町上名	谷土原山	よのさき	ム
高尾	たかお	始良町上名	谷土原貞領	たかお	火栗			奈良尾	ならお	始良町上名	谷土原山	まちひ	御船
高塚	たかつか	始良町上名	谷土原貞領	たかつ	陽黑			奈良袂	ならたもと	始良町上名	谷土原貞領	おちぐ	飯ヤニ
高峯	たかみね	始良町上名	谷土原貞領	たかみ	陽慈			西池田	にいけだ	始良町上名	谷土原貞領	おちぐ	勇ヤニ
竹下	たけした	始良町上名	谷土原貞領	たけした	谷で頃			西川原	にしかわはら	始良町上名	谷土原貞領	おちぐ	勇ヤニ

荷床	にどこ	姶良町上名	合	こちご式	直天
二本松	にほんまつ	姶良町上名	合	じやア式	西立
濡女	ぬれおんな	姶良町上名	合	じやくめい式	田毛出
野首	のくび	姶良町上名	合	じやくめい式	名
野下	のした	姶良町上名	合	コ式	
野泥	のどろ	姶良町上名	合	づまんさやさ	秀べサ
野中	のなか	姶良町上名	合	ゆこみさ	守
萩原	はぎはら	姶良町上名	合	るぐ	流
萩峯	はぎみね	姶良町上名	合	じやくめい式	田畠
	はしにしかど	山田郷上名村	橋西門	地誌備考資料	
八幡脇	はちまんわき	姶良町上名	合	じやくめい式	屋日嘉
花瀬	はなせ	姶良町上名	合	えこひ式	岩原福
花立	はなたて	姶良町上名	合	えむそ式	前草
馬場尻	ばばじり	姶良町上名	合	ひくわ式	人中
東池田	ひがしいけだ	姶良町上名	合	じんごくめい式	難入申
東ヶ迫	ひがしさこ	姶良町上名	合	じやくめい式	
彦四郎	ひこしろう	姶良町上名	合	ほひ式	乳木
比良	ひら	姶良町上名	合	こちめい式	山見
平尾	ひらお	姶良町上名	合	ふくじめい式	餅田
開キ	ひらき	姶良町上名	合	式却めい式	森木
平田	ひらた	姶良町上名	合	じょくじめい式	山神跡
平段	ひらだん	姶良町上名	合	じょくじめい式	山角
平原	ひらはら	姶良町上名	平原門	地誌備考資料	山之口
深迫	ふかざこ	姶良町上名	合	じやくめい式	湯ノ平
	ふくもとかど	山田郷上名村	福元門	地誌備考資料	陽春院跡
藤崎	ふじさき	姶良町上名	合	じやくめい式	渡リ
二ツ迫	ふたつざこ	姶良町上名	合	じやくめい式	
二ツ保	ふたつまた	姶良町上名	合	じやくめい式	

淵上	ふちがみ	姶良町上名	淵上門	地誌備考資料
平左エ門跡	へいざえもんあと	姶良町上名	大	あ
方ヶ内	ほうがうち	姶良町上名	悉	あ
ホキノコバ	ほきのこば	姶良町上名	地	あ
鉾付	ほこつき	姶良町上名	説	あ
	まえさこかど	山田郷上名村	前迫門	地誌備考資料
政ノ原	まさんばら	姶良町上名	政原	田原
松馬場	まつばば	姶良町上名	松馬	木原
豆次	まめつぎ	姶良町上名	豆次	田原
水小路	みずこうじ	姶良町上名	水小路	林原
宮尾	みやお	姶良町上名	宮尾	木原
宮川内	みやかわうち	姶良町上名	宮川内	山原
宮田	みやた	姶良町上名	宮田	田原
宮田谷	みやたたに	姶良町上名	宮田谷	木原
宮ノ脇	みやのわき	姶良町上名	宮ノ脇	水出
向水流	むかいつる	姶良町上名	向水流	水出
向江平	むかえひら	姶良町上名	向江平	水出
最上田	もがみでん	姶良町上名	最上田	水出
餅田	もちだ	姶良町上名	餅田	谷出
森木	もりき	姶良町上名	森木	田井原
山神跡	やまがみあと	姶良町上名	山神跡	栗原
山角	やますみ	姶良町上名	山角	健原
山之口	やまのくち	姶良町上名	山之口	安山原
湯ノ平	ゆのひら	姶良町上名	湯ノ平	園土
陽春院跡	ようしゅんいんあと	姶良町上名	陽春院跡	園土
渡リ	わたり	姶良町上名	渡リ	耳原

## 北山。

小字数 169

加治木 303-315-24

土勝

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
赤坂	あかさか	始良町北山		
秋木場	あきこば	始良町北山		
鎧田	あぶみだ	始良町北山		
荒木段	あらきだん	始良町北山		
荒田	あらた	始良町北山		
有村	ありむら	始良町北山		
池ノ元	いけのもと	始良町北山		
石ヶ迫	いしがさこ	始良町北山		
石原田	いしはらだ	始良町北山		
井田	いだ	始良町北山		
出水	いでみず	始良町北山		
犬塚	いぬつか	始良町北山		
井野	いの	始良町北山		
猪ノ子	いのこ	始良町北山		
伊良ヶ谷	いらがたに	始良町北山		
岩井田	いわいだ	始良町北山	岩井田門	地誌備考資料
岩塚	いわつか	始良町北山		
岩船	いわふね	始良町北山		
岩山段	いわやまだん	始良町北山		
上園	うえぞの・	始良町北山		
上ノ原	うえのはら	始良町北山		
	うきめんかど	山田郷北山村	浮免門	地誌備考資料
兎耳	うさぎみみ	始良町北山		
後ヶ迫	うしろがさこ	始良町北山		

内籠 内ノ山	うちごしき うちのやま うとかど	始良町北山 始良町北山 山田郷北山村	内籠門 宇都門	地誌備考資料
榎田	えのきだ	始良町北山		
大杉	おおすぎ	始良町北山		
大瀬戸	おおせと	始良町北山		
大塚	おおつか	始良町北山		
大次米田	おおひとりでん	始良町北山		大桑田
大平	おおひら	始良町北山		大吉
大道越	おおみちごえ	始良町北山		立峰
大宮田	おおみやた	始良町北山		大吉
大川平	おこひら	始良町北山		大吉
影平	かげひら	始良町北山		不動
笠間	かさま	始良町北山		柳原
笠松	かさまつ	始良町北山		田本
樺木山	かしきやま	始良町北山		山野
勘場ヶ段	かばがだん	始良町北山		勘場段
梼ヶ段	かばがだん	始良町北山		内野
神掛	かみかけ	始良町北山		飯野
上水流	かみつる	始良町北山		山
狩谷	かりや	始良町北山		山
願成田	がんじょうでん	始良町北山		山
木佐貫	きさぬき	始良町北山		山
	きしづのかど	山田郷北山村	岸園門	地誌備考資料
北野	きたの	始良町北山	北野門	地誌備考資料
北野上	きたのうえ	始良町北山		
北山	きたやま	始良町の大字		
清水	きよみず	始良町北山		

形部塚	ぎょうぶづか	姶良町北山	山北	良飯	刑部塚	けいぶづか	姶良町北山	山北	良飯	白坂	しらさか	姶良町北山	山北	良飯	さみじゅ	謙山
楠八重	くすばえ	姶良町北山	山北	良飯	山内	さんうちのさと	姶良町北山	山北	良飯	新藤	しんどう	姶良町北山	山北	良飯	さちのさと	誠山
九日田	くんちでん	姶良町北山	山北	良飯	山内	さんうちのさと	姶良町北山	山北	良飯	新兵衛木場	しんべえこば	姶良町北山	山北	良飯	さちのさと	誠山
グミノ木	ぐみのき	姶良町北山	山北	良飯	田原	たいわら	姶良町北山	山北	良飯	城戸	じょうど	姶良町北山	山北	良飯	さちのさと	誠山
外戸ノ元	けどのもと	姶良町北山	山北	良飯	越大	こしわら	姶良町北山	山北	良飯	城ノ段	じょうのだん	姶良町北山	山北	良飯	さす	誠土
源十釜	げんじゅうがま	姶良町北山	山北	良飯	瓦瀬大	かわせだい	姶良町北山	山北	良飯	管田	すがた	姶良町北山	山北	良飯	菅田?	誠中
小鹿倉	こかくら	姶良町北山	山北	良飯	眾大	しゆだい	姶良町北山	山北	良飯	鈴渡	すずわたし	姶良町北山	山北	良飯	さくのやぶ	誠入中
小平	こひら	姶良町北山	山北	良飯	田米大	たんべいだい	姶良町北山	山北	良飯	砂坂	すなさか	姶良町北山	山北	良飯	さくのやぶ	誠入中
小俣	こまた	姶良町北山	山北	良飯	平大	ひらだい	姶良町北山	山北	良飯	炭山谷	すみやまたに	姶良町北山	山北	良飯	さむらぶ	誠中
駒立	こまだて	姶良町北山	山北	良飯	鉢瀬大	はちせだい	姶良町北山	山北	良飯	ゼミ	ぜみ	姶良町北山	山北	良飯	さむらぶ	誠中
小牟田	こむた	姶良町北山	山北	良飯	田宮大	たんぐうだい	姶良町北山	山北	良飯	善龜	ぜんがめ	姶良町北山	山北	良飯	ごちやぶ	誠中
小山尻	こやまじり	姶良町北山	山北	良飯	平川大	ひらかわだい	姶良町北山	山北	良飯	高橋	たかはし	姶良町北山	山北	良飯	ごちやぶ	誠中
郷下	ごうした	姶良町北山	山北	良飯	平瀬	ひらせ	姶良町北山	山北	良飯	滝ヶ宇都	たきがうと	姶良町北山	山北	良飯	さむらぶ	誠中
郷兵衛野	ごうべえの	姶良町北山	山北	良飯	間瀬	まんせ	姶良町北山	山北	良飯	滝ノ元	たきのもと	姶良町北山	山北	良飯	ひやぶ	賀水
才田	さいた	姶良町北山	山北	良飯	外瀬	ほかせ	姶良町北山	山北	良飯	竹下	たけした	姶良町北山	山北	良飯	ひやぶ	賀水
下利山	さがりやま	姶良町北山	山北	良飯	山木瀬	さんぎせ	姶良町北山	山北	良飯	鑓	たたら	姶良町北山	山北	良飯	ひやぶ	賀水
桜内	さくらうち	姶良町北山	山北	良飯	朝瀬	あさせ	姶良町北山	山北	良飯	立迫	たてざこ	姶良町北山	山北	良飯	さむらぶ	誠中
桜ヶ迫	さくらがさこ	姶良町北山	山北	良飯	烟瀬	えんせ	姶良町北山	山北	良飯	谷口ノ上	たにぐちのうえ	姶良町北山	山北	良飯	ほぐれ	風田
山花	さんけ	姶良町北山	山北	良飯	揖瀬	いせ	姶良町北山	山北	良飯	谷ノ前	たににまえ	姶良町北山	山北	良飯	さむらぶ	誠中
三重滝	さんじゅうたき	姶良町北山	山北	良飯	潤瀬	じゅんせ	姶良町北山	山北	良飯	狸山	たぬきやま	姶良町北山	山北	良飯	ほぐれ	風田
完踊	ししおどり	姶良町北山	山北	良飯	谷背	たにせ	姶良町北山	山北	良飯	垂ノ口	たれのくち	姶良町北山	山北	良飯	ひやぶ	賀水
宍口	ししぎち	姶良町北山	山北	良飯	宍瀬	しゆせ	姶良町北山	山北	良飯	大丸	だいまる	姶良町北山	山北	良飯	まちの	御漫
下平	したひら	姶良町北山	山北	良飯	黄瀬木	こうせき	姶良町北山	山北	良飯	鎮守田	ちんじゅでん	姶良町北山	山北	良飯	みさじへこむ	矣吾
芝原	しばはら	姶良町北山	山北	良飯	下城	しもじ	姶良町北山	山北	良飯	釣芝	つりしば	姶良町北山	山北	良飯	じゅうさ	大八
下水流	しもつる	姶良町北山	山北	良飯	土瀬	どせ	姶良町北山	山北	良飯	峠ノ口	とうげのくち	姶良町北山	山北	良飯	さす	田早
下ノ城	しものじょう	姶良町北山	山北	良飯	山北	さんぼく	姶良町北山	山北	良飯	戸木	とぎ	姶良町北山	山北	良飯	みさじへこむ	矣吾
下ノ段	しものだん	姶良町北山	山北	良飯	木瀬	こせ	姶良町北山	山北	良飯	唐炭	とずみ	姶良町北山	山北	良飯	かわ	學済
白木田	しらきだ	姶良町北山	山北	良飯			飛松	ひ	とびまつ			姶良町北山	山北	良飯	さくのやぶ	誠入中

鳥淵	とりぶち	始良町北山	山北貞領	ゆちさじ	恩白		馬場牧	ばばまき	始良町北山	山北貞領	ゆじさじ	不田半	
堂ノ迫	どうのさこ	始良町北山	山北貞領	ぞふみ	猶尚		日影	ひかけ	始良町北山	山北貞領	まゆさひ	山田半	
	どうぞのかど	山田郷北山村	堂園門	地誌備考資料			伏木場	ふしこば	始良町北山	山北貞領	じゅうはせ	西夫文	
堂山	どうやま	始良町北山	山北貞領	ちやくじ	貞鉢		藤ヶ段	ふじがだん	始良町北山	山北貞領	さつゆ	舍夫	
土蔵	どぞう	始良町北山	山北貞領	みのりやくじ	廻入鉢		フノ木	ふのき	始良町北山	山北貞領	せゆ	櫻夫	
中籠	なかごしき	始良町北山	山北貞領	式本さ	田普		平四郎	へいしろう	始良町北山	山北貞領	ふさのさむす	元八勝	
	なかのかど	山田郷北山村	中野門	地誌備考資料	別館		別府ヶ尾	べっぷがお	始良町北山	山北貞領	さひむかわす	平で勝	
中ノ城	なかのじょう	始良町北山	山北貞領	ゆちさじ	寒母		方木原	ほうきはら	始良町北山	山北貞領	ふらきわさむ	膳宇村山	
中牧	なかまき	始良町北山	山北貞領	ひきさじ	谷山萬		北山	ほきやま	始良町北山	山北貞領	ひきわさむ	烟で村山	
名川内	なかわうち	始良町北山	山北貞領	ふせ	ラサ		前迫	まえさこ	始良町北山	山北貞領	ふあゆ	穴勝	
長迫	ながさこ	始良町北山	山北貞領	ゆくひんせ	唐善		前田	まえだ	始良町北山	山北貞領	ゆくこゑ	映勝	
長師谷	ながしだに	始良町北山	山北貞領	ながいたん	御高		牧	まき	始良町北山	山北貞領	さひだゑ	平勝	
永田	ながた	始良町北山	山北貞領	よなまき	勘宇代新		牧大迫	まきおおさこ	始良町北山	山北貞領	よなまき	春添	
永野	ながの	始良町北山	山北貞領	よのひき	元入崩		馬立	またて	始良町北山	山北貞領	よのひき	地誌備考資料 蔵宮善	
七ツ島	ななつじま	始良町北山	山北貞領	よじまき	不骨		松ヶ迫	まつがさこ	始良町北山				
ナメリ	なめり	始良町北山	山北貞領	よめり	譽		松山	まつやま	始良町北山				
西ノ山	にしのやま	始良町北山	山北貞領	よしのやま	断立		豆漬	まめつけ	始良町北山				
仁田尾	にたお	始良町北山	山北貞領	よのとう	土へ口谷		丸山	まるやま	始良町北山				
二ノ瀬戸	にのせと	始良町北山	山北貞領	よのせと	頭八谷		廻淵	まわりぶち	始良町北山				
二枚畑	にまいばた	始良町北山	山北貞領	よまいばた	山膳		水ヶ鼻	みずがはな	始良町北山				
ヌイケ迫	ぬいがざこ	始良町北山	山北貞領	よいのざこ	口八筆		南俣	みなみまた	始良町北山				
野崎	のざき	始良町北山	山北貞領	よざき	庚大			みなみぞのかど	山田郷北山村	南園門	地誌備考資料		
箱石免	はこいしめん	始良町北山	山北貞領	よこいしめん	田守幾			みやぞのかど	山田郷北山村	宮園門	地誌備考資料		
八丈	はちじょう	始良町北山	山北貞領	よぢょう	安善			宮原	みやはら	始良町北山			
早田	はやた	始良町北山	山北貞領	よやた	口入勃			宮前	みやまえ	始良町北山			
半次郎田	はんじろうでん	始良町北山	山北貞領	よんじろうでん	木河			向江蘭	むかえぞの	始良町北山			
馬場	ばば	始良町北山	山北貞領	よば	炎鼎			向江平	むかえひら	始良町北山			
	ばばぞのかど	山田郷北山村	馬場園門	地誌備考資料	備象			牟田頭	むたがしら	始良町北山			

木津志

小字数 67

加治木 303-315-24

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
青木ヶ迫	あおきがさこ	姶良町木津志		おっがさつ
赤沢	あかざわ	姶良町木津志		
赤仁田	あかにた	姶良町木津志		
	ありむらかど	山田郷木津志村	有村門	地誌備考資料
池ノ段	いけのだん	姶良町木津志		
石切場ノ上	いしきりばのうえ	姶良町木津志		
岩坂	いわさか	姶良町木津志		
岩瀬戸	いわせと	姶良町木津志		
岩塚	いわつか	姶良町木津志		
	うきめん	山田郷木津志村	浮免	地誌備考資料
後田	うしろだ	姶良町木津志		
内皮後	うちひご	姶良町木津志		
	うちむらかど	山田郷木津志村	内村門	地誌備考資料
榎田	えのきだ	姶良町木津志		
小川内	おがわうち	姶良町木津志	小川内門	地誌備考資料
尾立山	おたてやま	姶良町木津志		
ヲトロシ淵	おとろしぶち	姶良町木津志		
小原ノ下	おばらのした	姶良町木津志	小原門	地誌備考資料
桜ノ木山	かしのきやま	姶良町木津志		桜木山
カツラノ谷	かつらのたに	姶良町木津志		
上木場	かみこば	姶良町木津志		
	かみわきかど	山田郷木津志村	上脇門	地誌備考資料
木津志	きづし	姶良町の大字		
切通	きりとおし	姶良町木津志		

窪迫	くぼさこ	姶良町木津志	透字小 志・木	地誌備考資料
	くりしたかど	山田郷木津志村	栗下門	
桑ノ丸	くわのまる	姶良町木津志	大	
小池	こいけ	姶良町木津志	山田郷木津志	
	こながのかど	山田郷木津志村	小長野門	地誌備考資料
五郎坊	ごろうぼう	姶良町木津志	坂元門	地誌備考資料
	さかもとかど	山田郷木津志村	坂元門	地誌備考資料
桜ヶ迫	さくらがさこ	姶良町木津志	大	
塩俵	しおだわら	姶良町木津志	人井のせべ	
島森	しまもり	姶良町木津志	成のじまじば	
下池田	しもいけだ	姶良町木津志	いぢゅく	
下木場	しもこば	姶良町木津志	ふきば	
下提	しもさげ	姶良町木津志	上提門	地誌備考資料
	しもぞのかど	山田郷木津志村	下蔵門	地誌備考資料
	しもどうぞやしき	山田郷木津志村	下堂園屋敷	地誌備考資料
下ノ段	しものだん	姶良町木津志	ごひさぐ	
下山	しもやま	姶良町木津志	ごくさきや	
首里ノ下	しゅりのした	姶良町木津志	じいのした	
新開	しんかい	姶良町木津志	きそく	
新入塙	しんにゅうづか	姶良町木津志	しんのづか	
	しんむらかど	山田郷木津志村	新村門	地誌備考資料
城ノ口	じょうのくち	姶良町木津志	式のさけは	
管牟田	すがむた	姶良町木津志	菅牟田?	
薄原	すすきはら	姶良町木津志	ごくのさごは	
外皮後	そとひご	姶良町木津志	ごこみく	
園田	そのだ	姶良町木津志	ごくちのなみ	
樋ノ口	たいのくち	姶良町木津志	じじき	志・木
立迫	たてざこ	姶良町木津志	じほらじき	飯財

楠木野	たぶきの	始良町木津志	楠木野門	地誌備考資料
楠木山神	たぶきやまかみ	始良町木津志	大	
堂崎	どうさき	始良町木津志	堂園門	前八宮
	どうぞのかど	山田郷木津志村	地誌備考資料	高尾向
堂ノ尾	どうのお	始良町木津志	山田郷木津志	田口山
	とくむらかど	山田郷木津志村	徳村門	地誌備考資料
	とむらかど	山田郷木津志村	戸村門	地誌備考資料
中村ノ下	なかむらのした	始良町木津志	中村屋敷	地誌備考資料
永田	ながた	始良町木津志		
流合	ながれあい	始良町木津志		
名彦山	なひこやま	始良町木津志		
鍋田	なべた	始良町木津志		
鍋松	なべまつ	始良町木津志		
野中	のなか	始良町木津志		
萩ノ元	はぎのもと	始良町木津志		
橋口	はしごち	始良町木津志		
畠田	はたけだ	始良町木津志		畠ヶ田
	ひがしむらかど	山田郷木津志村	東村門	地誌備考資料
火ノ口	ひのくち	始良町木津志		
	ふくおかかど	山田郷木津志村	福岡門	地誌備考資料
伏木渡	ふしきわたし	始良町木津志		
	ほかやしき	山田郷木津志村	外屋敷	地誌備考資料
	まえむらかど	山田郷木津志村	前村門	地誌備考資料
松坂	まつさか	始良町木津志		
豆漬	まめつけ	始良町木津志		
丸山	まるやま	始良町木津志		
馬渡	まわたり	始良町木津志		
水洗段	みずあらいだん	始良町木津志		水流段?

	みやぞのかど	山田郷木津志村	宮園門	地誌備考資料	淀木郡
宮ノ前	みやのまえ	始良町木津志	良領	心吹方守きふ	軒山木郡
向江脇	むかえわき	始良町木津志	向江脇門	地誌備考資料	御堂
山神宇都	やまがみうと	始良町木津志	木津山	さゆのすそ	
山仁田	やまにた	始良町木津志	木津山	はゆそ	頂へ堂
山ノ口	やまのくち	始良町木津志	木津山	さゆきひよ	

神賀志磨志社	幾屋林中	志斎木 <sup>モ</sup> 良領	武 <sup>モ</sup> ひさきゆふ	不八林中
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	武 <sup>モ</sup> ゆふ	田水
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	ハ森 <sup>モ</sup> ゆふ	合鶴
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	志 <sup>モ</sup> ひこゆふ	山道
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	武 <sup>モ</sup> ゆ	田雞
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	ぐ <sup>モ</sup> る <sup>モ</sup> ゆ	鶴殿
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	ゆゆの	中裡
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	さ <sup>モ</sup> く <sup>モ</sup> ゆ	元 <sup>モ</sup> 蓮
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	さ <sup>モ</sup> く <sup>モ</sup> ゆ	日歸
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	武 <sup>モ</sup> せ <sup>モ</sup> ゆ	田跡
田で賦		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	武 <sup>モ</sup> せ <sup>モ</sup> ゆ	口入大
神賀志磨志社	門林東	林志斎木 <sup>モ</sup> 良領	さゆさひ <sup>モ</sup> ゆ	
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	さ <sup>モ</sup> ゆ	
神賀志磨志社	門岡西	林志斎木 <sup>モ</sup> 良領	さゆゆふ	獨木舟
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	じ <sup>モ</sup> ゆゆふ	
神賀志磨志社	幾屋林	林志斎木 <sup>モ</sup> 良領	さ <sup>モ</sup> ゆゆふ	
神賀志磨志社	門林南	林志斎木 <sup>モ</sup> 良領	さゆさひえ	
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	ゆゆ <sup>モ</sup> 志	獨鶴
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	じ <sup>モ</sup> ゆ <sup>モ</sup> 志	鶴豆
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	まゆみ志	山火
		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	ひ <sup>モ</sup> ゆ志	鶴頭
志斎木		志斎木 <sup>モ</sup> 良領	ひ <sup>モ</sup> ゆさあさみ	獨善水

三拾町 小字数 67 加治木 303-315-22

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
油田	あぶらだ	始良町三拾町		さとう
市井川	ありむらかど	帖佐郷三十町村	有村門	さちゆ
一町田	いちいがわ	始良町三拾町	市井川門	いわ
	いっちょうでん	始良町三拾町		いわ
	いのうえかど	帖佐郷三十町村	井ノ上門	いのうえ
	いまむらかど	帖佐郷三十町村	今村門	いまむら
岩瀬戸	いわせと	始良町三拾町		いわせと
岩根	いわね	始良町三拾町		いわね
	うちかど	帖佐郷三十町村	内門	うちかど
卯月	うづき	始良町三拾町		うづき
大山下り	おおやまさがり	始良町三拾町		おおやまさがり
	おくやかど	帖佐郷三十町村	奥屋門	おくやかど
	おだわらかど	帖佐郷三十町村	小田原門	おだわらかど
折口	おりぐち	始良町三拾町		おりぐち
鏡田	かがみだ	始良町三拾町		かがみだ
	かきうちかど	帖佐郷三十町村	柿内門	かきうちかど
金付	かねつぎ	始良町三拾町		かねつぎ
上水流	かみづる	始良町三拾町		かみづる
	かりやかど	帖佐郷三十町村	仮屋門	かりやかど
	かわなべかど	帖佐郷三十町村	川辺門	かわなべかど
	かわばたかど	帖佐郷三十町村	川畠門	かわばたかど
川原	かわはら	始良町三拾町		かわはら
木島	きじま	始良町三拾町		きじま
木ノ下	きのした	始良町三拾町		きのした

				工合三
	くぼかど	帖佐郷三十町村	久保門	
小池田	くらみつかど	帖佐郷三十町村	藏満門	
	こいけだ	始良町三拾町	小池門	
小字都	こうと	始良町三拾町		
小尾ヶ迫	こおがさこ	始良町三拾町		
御供田	ごきょうでん	始良町三拾町		ごくでん?
	こさこだかど	帖佐郷三十町村	小迫田門	
五反田	ごたんだ	始良町三拾町		
五反畠	ごたんばた	始良町三拾町		
桜木	さくらぎ	始良町三拾町		
迫田	さこだ	始良町三拾町	迫田門	
迫田宇都	さこだうと	始良町三拾町		
三拾町	さんじゅっちょう	始良町の大字		
塩入	しおいり	始良町三拾町		
	じふくかど	帖佐郷三十町村	地福門	
下川畠	しもかわばた	始良町三拾町		
下水流	しもづる	始良町三拾町	下水流門	
	しものかど	帖佐郷三十町村	下野門	
下村	しもむら	始良町三拾町	下村門	
正ヶ橋	しょうがはし	始良町三拾町		
正福	しょうふく	始良町三拾町		
	しんかみかど	帖佐郷三十町村	新上門	
新城	しんじょう	始良町三拾町		
陣ノ尾	じんのお	始良町三拾町		
水流寺	すいりゅうじ	始良町三拾町		
砂走	すなばしり	始良町三拾町		
	せんぽんかど	帖佐郷三十町村	千木門	
高井田	たかいだ	始良町三拾町	たけだ	

高崎	たかさき	始良町三拾町		
竹下	たけした	始良町三拾町		
辰喰	たつぐい	始良町三拾町		
丹後前	たんごまえ	始良町三拾町		
千塙	ちしお	始良町三拾町		
	ちゃえんかど	帖佐郷三十町村	茶園門	
	つじかど	帖佐郷三十町村	辻門	
	つねみかど	帖佐郷三十町村	恒見門	
寺原	てらはら	始良町三拾町		
中須	なかす	始良町三拾町		
	なかのかど	帖佐郷三十町村	中野門	
	ながふくかど	帖佐郷三十町村	長福門	
中間ヶ迫	なかまがさこ	始良町三拾町		
中道	なかみち	始良町三拾町		
鍋谷	なべたに	始良町三拾町		
西玉	にしたま	始良町三拾町		
	はちまんりょうかど	帖佐郷三十町村	八幡領門	
棄田	ひとつでん	始良町三拾町		しとぎでん
平田	ひらた	始良町三拾町		
福人	ふくひと	始良町三拾町		
古川	ふるかわ	始良町三拾町		
	ふるやかど	帖佐郷三十町村	古屋門	
外園	ほかぞの	始良町三拾町		
北辰	ほくしん	始良町三拾町		
前田	まえだ	始良町三拾町		
	まごめかど	帖佐郷三十町村	馬籠門	
樹畠町	ますせまち	始良町三拾町		
	まつえだかど	帖佐郷三十町村	松枝門	

松尾	まつお	姶良町三拾町	三拾町	まちやか	高
豆打ヶ迫	まめうちがさこ	姶良町三拾町	三拾町	まじせき	不計
豆付	まめつけ	姶良町三拾町	三拾町	まじつけ	加知
馬渡	まわたり	姶良町三拾町	馬渡門	まほりんべ	前野門
	みすみかど	帖佐郷三十町村	三角門	まくさ	趣子
	みやわきかど	帖佐郷三十町村	宮脇門	まくわき	宮脇門
無量田	むりょうでん	姶良町三拾町	三拾町	まむじゆでん	無量田
女姓岳	めしょうがたけ	姶良町三拾町	三拾町	まめしょがたけ	女生嶽？にしゅだけ
屋敷ヶ迫	やしきがさこ	姶良町三拾町	三拾町	まやしき	屋敷
山ノ口	やまのくち	姶良町三拾町	三拾町	まやまくち	山中
山元	やまもと	姶良町三拾町	三拾町	まやまもと	山元
横江	よこえ	姶良町三拾町	三拾町	まよこえ	横江
吉野町	よしのまち	姶良町三拾町	三拾町	まよしのまち	吉野町
四反田	よんたんだ	姶良町三拾町	三拾町	まよんたんだ	四反田
六反田	ろくたんだ	姶良町三拾町	三拾町	まろくたんだ	六反田
脇園	わきぞの	姶良町三拾町	三拾町	まわきぞの	脇園

下名				
地名	よみ	大字	門名	初出・その他
麻芋迫	あおてきかど	山田郷下名村	青手木門	地誌備考資料
芦ヶ内	あさみさこ	姶良町下名		木呂土
桜田	あしがうち	姶良町下名		見説
一町田	いすだ	姶良町下名		内川
井ノ尻	いのしり	姶良町下名		尻川
今見山	いまみやま	姶良町下名		西北
岩崎	いまむらやしき	山田郷下名村	今村屋敷	地誌備考資料
	いわさき	姶良町下名		
	うえのかど	山田郷下名村	上ノ門	地誌備考資料
	うちぞのかど	山田郷下名村	内園門	地誌備考資料
	うちむらやしき	山田郷下名村	内村屋敷	地誌備考資料
宇都屋敷	うとやしき	姶良町下名	宇都門	地誌備考資料
上峯	うわみね	姶良町下名		巖峰
大石ヶ迫	おおいしがさこ	姶良町下名		山奥
大内添	おおうちぞえ	姶良町下名		新木戸
大木場	おおこば	姶良町下名		
大平	おおひら	姶良町下名		土駒
奥田	おくだ	姶良町下名		内駒
小倉ヶ迫	おぐらがさこ	姶良町下名		不駒
尾ノ口	おのぐち	姶良町下名		小
尾曲	おまがり	姶良町下名		千尋
鐘突	かねつき	姶良町下名		
鎌作	かまつくり	姶良町下名		

上牛牧	かみうしまき	始良町下名	大	卷	名	谷	原
上鑓	かみたたら	始良町下名					
上西俣	かみにしました	始良町下名					
上船	かみふね	始良町下名					
上呂木	かみろぎ	始良町下名					
狩俣	かりまた	始良町下名					
	かりやかど	山田郷下名村	仮屋門		地誌備考資料		
川内	かわうち	始良町下名					
川原	かわはら	始良町下名					
川骨	かわぼね	始良町下名					
北石	きたいし	始良町下名					
	きたのさこかど	山田郷下名村	北ノ迫門		地誌備考資料		
	きのしたかど	山田郷下名村	木ノ下門		地誌備考資料		
衣振居	きんぶりい	始良町下名					
	くすのきぞのぞ	山田郷下名村	楠木園門		地誌備考資料		
区辺ヶ宇都	くべがうと	始良町下名					
	くぼぞのかど	山田郷下名村	窪園門		地誌備考資料		
供養塚	くようづか	始良町下名					
栗山	くりやま	始良町下名					
桑水流	くわづる	始良町下名					
	こさかかど	山田郷下名村	小坂門		地誌備考資料		
越上	こしうえ	始良町下名					
鼈内	こしきうち	始良町下名					
越下	こしした	始良町下名					
	こじょうかど	山田郷下名村	小城門		地誌備考資料		
小袖	こそで	始良町下名					
權税子	ごんぜいし	始良町下名					
	さかやかど	山田郷下名村	酒屋門		地誌備考資料		

迫田	さこだ	始良町下名	大	卷	名	谷	原
三反田	さんたんだ	始良町下名	大	卷	名	谷	原
敷田	しきでん	始良町下名	大	卷	名	谷	原
下牛牧	しもうしまき	始良町下名	大	卷	名	谷	原
	しもぞのかど	山田郷下名村	下	菌	門		
下鑓	しもたたら	始良町下名	大	卷	名	谷	原
下鍋	しもなべ	始良町下名	大	卷	名	谷	原
下西俣	しもにしました	始良町下名	大	卷	名	谷	原
	しものかど	山田郷下名村	下	ノ	門		
下船	しもふね	始良町下名	大	卷	名	谷	原
下名	しもみょう	始良町の大字	大	卷	名	谷	原
下呂木	しもろぎ	始良町下名	大	卷	名	谷	原
菖蒲迫	しょうぶさこ	始良町下名	大	卷	名	谷	原
新田	しんでん	始良町下名	大	卷	名	谷	原
拾五瀬	じゅうごせ	始良町下名	大	卷	名	谷	原
城光寺	じょうこうじ	始良町下名	大	卷	名	谷	原
	しらさかかど	山田郷下名村	白	坂	門		
	しんぞのかど	山田郷下名村	新	菌	門		
陳ノ尾	じんのお	始良町下名	大	卷	名	谷	原
砂取	すなとり	始良町下名	大	卷	名	谷	原
	せとかど	山田郷下名村	瀬	戸	門		
芹谷	せりたに	始良町下名	大	卷	名	谷	原
蘭田	そのだ	始良町下名	大	卷	名	谷	原
素麵田	そめんでん	始良町下名	大	卷	名	谷	原
	たなかかど	山田郷下名村	田	中	門		
谷ヶ迫	たにがさこ	始良町下名	大	卷	名	谷	原
柵木	たぶき	始良町下名	大	卷	名	谷	原
大尾	だいお	始良町下名	大	卷	名	谷	原

塙田	つかだ	始良町下名	山田郷下名村	水流門	地誌備考資料	田畠
	つるかど					
水流田	つるだ	始良町下名	山田郷下名村	出口門	地誌備考資料	田畠
	でぐちかど					
当敵町	とうせまち	始良町下名	山田郷下名村		答西郷(和名抄)	
十久保	とくぼ	始良町下名				
飛矢	とびや	始良町下名				
	とみたかど	山田郷下名村	富田門	地誌備考資料	田畠	
土手下	どてした	始良町下名				
中入	なかいり	始良町下名				
中宇都	なかうと	始良町下名				
中川原	なかがわら	始良町下名				
中州	なかす	始良町下名				
永畠	ながばた	始良町下名				
永峯	ながみね	始良町下名				
鍋木場	なべこば	始良町下名				
鍋田	なべた	始良町下名				
西田	にしだ	始良町下名				
西田町	にしだまち	始良町下名				
野首	のくび	始良町下名				
野添	のぞえ	始良町下名				
桺木越	はしのきごえ	始良町下名				
八堀	はちほり	始良町下名				
	ひがしかど	山田郷下名村	東門	地誌備考資料	田畠	
樋口	ひぐち	始良町下名				
次米田	ひとつでん	始良町下名				
平瀬	ひらせ	始良町下名				
平田	ひらた	始良町下名				

樋渡	林賀	ひわたし	堤	始良町下名	山田郷下名村	弓ノ山	さるの山	地誌備考資料	長岡
		ふくしげかど							
藤之尾		ふじのお		始良町下名					
風呂		ふろ		始良町下名					
蛇打		へびうち		始良町下名					
		ほかぞのかど		山田郷下名村		外園門		地誌備考資料	
星ヶ山		ほしがやま		始良町下名					
前迫		まえさこ		始良町下名					
前田		まえだ		始良町下名					
		ますだかど		山田郷下名村		増田門		地誌備考資料	
松浦		まつうら		始良町下名					
的場		まとば		始良町下名					
丸山		まるやま		始良町下名					
		みぞうえかど		山田郷下名村		溝上門		地誌備考資料	
乱橋		みだればし		始良町下名					
		みなみぞのかど		山田郷下名村		南園門		地誌備考資料	
蓑尾		みのお		始良町下名					
宮ノ下		みやのした		始良町下名					
宮脇		みやわき		始良町下名					
村田		むらた		始良町下名					
餅田		もちだ		始良町下名					
桃木畠		ももきばた		始良町下名					
森木		もりき		始良町下名					
門口		もんぐち		始良町下名					
築ヶ平		やながひら		始良町下名					
柳ヶ丸		やなっがまる		始良町下名					
山崎		やまさき		始良町下名					
山ノ口		やまのくち		始良町下名					

	よしみずやしき	山田郷下名村	吉水屋敷	地誌備考資料	類別
両社	りょうしゃ	始良町下名	不 <sup>レ</sup> 良田山	さくせじふ	
六ノ坪	ろくのつぼ	始良町下名	不 <sup>レ</sup> 良銀	はいごん	賦文敷
脇	わき	始良町下名	不 <sup>レ</sup> 良銀	さふ	昌風
脇宇都	わきうと	始良町下名	不 <sup>レ</sup> 良銀	さそひへ	氏強

住 吉 小字数 32 加治木 303-315-23

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
石原田	いしはらだ	始良町住吉		
市ノ坪	いちのつぼ	始良町住吉		
	いまむらかど	帖佐郷住吉村	今村門	
岩崎	いわさき	始良町住吉		
	うえのかど	帖佐郷住吉村	上野門	
大瀬戸	おおせと	始良町住吉		
沖ノ宮田	おきのみやた	始良町住吉		
	おくやかど	帖佐郷住吉村	奥屋門	
小田	おだ	始良町住吉		
	おのうえかど	帖佐郷住吉村	尾上門	
	かさかけかど	帖佐郷住吉村	笠掛門	
加治木町	かじきまち	始良町住吉		
上高城	かみたかじょう	始良町住吉		
上佃	かみつくだ	始良町住吉		
	かりやかど	帖佐郷住吉村	仮屋門	
	かわばたかど	帖佐郷住吉村	川畑門	
元日田	がんじつでん	始良町住吉		
	きたぞのかど	帖佐郷住吉村	北園門	
久木田	くきだ	始良町住吉		
	くぼかど	帖佐郷住吉村	久保門	
	ごがつでんかど	帖佐郷住吉村	五月田門	
	こぞのかど	帖佐郷住吉村	小園門	
桜木	さくらぎ	始良町住吉		
迫畠	さこばた	始良町住吉		

	さんがつでんがど	帖佐郷住吉村	三月田門	吉 主	
下高城	しがつでんかど	帖佐郷住吉村	四月田門		
	しもたかじょう	始良町住吉		大 成	吉 主
下佃	しもつくだ	始良町住吉		大 成	吉 主
	しんやかど	帖佐郷住吉村	新屋門	さきと くわ	田端
	しんやしきかど	帖佐郷住吉村	新屋敷門	さきと くわ	秋入市
	すえよしかど	帖佐郷住吉村	末吉門	さきと くわ	御園
住吉	すみよし	始良町の大字		建治2(1276)	御園
早田尻	そうたじり	始良町住吉			
園田	そのだ	始良町住吉			
竹下	たけした	始良町住吉			
立神	たてがみ	始良町住吉			
七夕田	たなばたでん	始良町住吉			
塙田	つかだ	始良町住吉			
	つつぐちかど	帖佐郷住吉村	筒口門		
	てらぞのかど	帖佐郷住吉村	寺園門		
トウベ	とうべ	始良町住吉			
	なかぞのかど	帖佐郷住吉村	中園門		
拠松	なげまつ	始良町住吉			
	ななたんだかど	帖佐郷住吉村	七反田門		
	にがつでんかど	帖佐郷住吉村	二月田門		
野添	のぞえ	始良町住吉			
早馬	はやめ	始良町住吉			
火迫	ひざこ	始良町住吉			
	ひらかど	帖佐郷住吉村	比良門		
	ふくもとかど	帖佐郷住吉村	福元門		
古川	ふるかわ	始良町住吉			
弁用	べんよう	始良町住吉			

前田	まえた	始良町住吉	吉 主	吉 主
百田	みすみかど	帖佐郷住吉村	三角門	
	ももた	始良町住吉	大 成	吉 主
山下	やました	始良町住吉	大 成	吉 主
	よしむらかど	始良町住吉村	吉村門	吉 主
芳元町	よしもとちょう	始良町住吉	吉村門	吉 主
	よりまつかど	帖佐郷住吉村	拠松門	吉 主
	わきかど	帖佐郷住吉村	脇門	吉 主
		頭寺門真領	式 セイ	田原
		頭寺門真領	式 セイ	来市
		門脇門	林頭寺職持	さくらふくわ
		門口内	林頭寺職持	さくらふくわ
			頭寺門真領	式 セイ
			門裡土	林頭寺職持
			門裡土	林頭寺職持
			頭寺門真領	式 セイ
			門口丈持	林頭寺職持
			門口丈持	林頭寺職持

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
青木	あおき	始良町寺師		
赤瀬戸	あかせと	始良町寺師		
穴堀ノ谷	あなほりのたに	始良町寺師		
鎧川原	あぶみがわら	始良町寺師		
	あべきかど	帖佐郷寺師村	精木門	
池田	いけだ	始良町寺師		
市来	いちき	始良町寺師		
	いなどめかど	帖佐郷寺師村	稻留門	
犬五郎	いぬごろう	始良町寺師		
	いのくちかど	帖佐郷寺師村	井ノ口門	
イラケ谷	いらがたに	始良町寺師		
岩下	いわした	始良町寺師		
岩元	いわもと	始良町寺師		
	うえのかど	帖佐郷寺師村	上野門	
	うちむらかど	帖佐郷寺師村	内村門	
宇都	うと	始良町寺師		
大迫	おおさこ	始良町寺師		
大筋	おおすじ	始良町寺師		
大戸	おおと	始良町寺師		
尾ノ上	おのうえ	始良町寺師		
小原田	おはらだ	始良町寺師		
蒲牟田	かまむた	始良町寺師		
上木場	かみこば	始良町寺師		
	かみのくちかど	帖佐郷寺師村	神之口門	

	かみみやじかど	帖佐郷寺師村	神宮路門	不 <sup>レ</sup> 跡
茅ヶ平	かやがひら	始良町寺師		不 <sup>レ</sup> 跡
	かりやかど	帖佐郷寺師村	仮屋門	山立
川内口	かわうちぐち	始良町寺師		勝宇斯波
	かわばたかど	帖佐郷寺師村	川畑門	時
北迫	きたざこ	始良町寺師		
桑ヶ迫	くわがさこ	始良町寺師		
軍ヶ迫	ぐんがさこ	始良町寺師		頃寺
講田	こうだ	始良町寺師		星敷
小瀬戸	こせと	始良町寺師		勝宇で異歎
御供田	ごくでん	始良町寺師		不 <sup>レ</sup> 跡
五反田	ごたんだ	始良町寺師		横中
坂下	さかした	始良町寺師		
酒田	さかた	始良町寺師		白是
坂元	さかもと	始良町寺師		
桜谷	さくらたに	始良町寺師		田端
塩入	しおり	始良町寺師		塩見奈
下木場	しもこば	始良町寺師		西
下前田	しもまえだ	始良町寺師		
	しもみやじかど	帖佐郷寺師村	下宮地門	冰支
白水	しらみず	始良町寺師		田丸八
十六	じゅうろく	始良町寺師		勇東
拾石	じゅっこく	始良町寺師		田米太
	しんかど	帖佐郷寺師村	新門	田平
善入	ぜんにゅう	始良町寺師		現平
園田	そのだ	始良町寺師		姫園
鷹尾	たかお	始良町寺師		庄 <sup>レ</sup> 黒尾
高崎	たかさき	始良町寺師		

滝ノ下	たきのした	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ	平		ふくどめかど	帖佐郷寺師村	福留門	るじのちゆ	次へ翻
竹下	たけした	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ	平		ふくもとかど	帖佐郷寺師村	福元門	らいわん	
立山	たてやま	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ	口内川		ふたまた	始良町寺師			
近道宇都	ちかみちうと	始良町寺師	門番	さうさそひ			船ヶ字都	始良町寺師			
佃	つくだ	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ			房那木	始良町寺師			
	つずらのかど	帖佐郷寺師村	黒葛野門	ひやこすゑひ			前田	始良町寺師			
	つるどめかど	帖佐郷寺師村	鶴留門	ひやこすゑひ			前畠	始良町寺師			
寺師	てらし	始良町の大字	門番	建治2(1276)			前平	始良町寺師			
飛屋	とびや	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ			牧口	始良町寺師			
鳥居ヶ字都	とりいがうと	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ			松葉	始良町寺師			
道下	どうした	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ			松山	始良町寺師			
中州	なかす	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ			馬渡	始良町寺師			
	なかにしかど	帖佐郷寺師村	中西門	ひやこすゑひ			万徳	始良町寺師			
長迫	ながさこ	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ			蓑田	始良町寺師			
	ななつだにかど	帖佐郷寺師村	七ツ谷門	ひやこすゑひ			三森ヶ字都	始良町寺師			三森字都
鍋田	なべた	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ			宮田	始良町寺師			
奈良迫	ならさこ	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ			宮田ケ平	始良町寺師			
西	にし	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ			舞毛野	始良町寺師			
	にしおかど	帖佐郷寺師村	西野門	ひやこすゑひ			餅田	始良町寺師			
走水	はしりみず	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ		・	柳ヶ丸	始良町寺師			
八反田	はったんだ	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ	木白	・	屋根添	始良町寺師			
東俣	ひがしまた	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ	六十	・	山下	始良町寺師			
次米田	ひとつでん	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ	吾益		山下	始良町寺師			
平田	ひらた	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ	人善		山田越	始良町寺師			
平原	ひらはら	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ	田園			よしむらかど	帖佐郷寺師村		
樋渡	ひわたし	始良町寺師	門番	ひやこすゑひ			諂木	始良町寺師			
屏風ヶ迫	びょうぶがさこ	始良町寺師	屏風迫	ひやこすゑひ			ろぎ	始良町寺師			
	ふきさこかど	帖佐郷寺師村	福貴迫門	ひやこすゑひ	御高						

脇ノ丸	わきのまる	門	始良町寺師	脇ノ丸門		
	わだかど	門	帖佐郷寺師村	和田門		

第一

畠宇	はたけ	畠宇	はたけ	畠宇	はたけ
木難	もず	木難	もず	木難	もず
田舎	いなか	田舎	いなか	田舎	いなか
高瀬	たかせ	高瀬	たかせ	高瀬	たかせ
平瀬	ひらせ	平瀬	ひらせ	平瀬	ひらせ
口野	くちの	口野	くちの	口野	くちの
葉野	はの	葉野	はの	葉野	はの
山野	さんの	山野	さん	山野	さん
鶴原	つるはら	鶴原	つるはら	鶴原	つるはら
耕氏	こうし	耕氏	こうし	耕氏	こうし
田蓑	たぬみ	田蓑	たぬみ	田蓑	たぬみ
畠宇森三	はたけもりさん	畠宇	はたけ	畠宇	はたけ
門田宮	もんぢやうぐ	門田	もんぢやう	門田	もんぢやう
平田宮	ひらぢやうぐ	平田	ひらぢやう	平田	ひらぢやう
櫻井	さくらい	櫻井	さくらい	櫻井	さくらい
田植	たん	田植	たん	田植	たん
門水森	もんみずもり	門水	もんみず	門水	もんみず
水門	みずもん	水門	みずもん	水門	みずもん
中門	なかもん	中門	なかもん	中門	なかもん
西門	にしもん	西門	にしもん	西門	にしもん
門持吉	もんじよ	門持	もんじよ	門持	もんじよ
持門	じよもん	持門	じよもん	持門	じよもん

豊留 小字数 24 加治木 303-315-23

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
油田	あぶらだ	始良町豊留		式太末 田館
	いとうかど	始良町豊留村	伊藤門	
内古川	うちふるかわ	始良町豊留		内古川不當
榎田	えのきだ	始良町豊留		榎入宮
貝柄下	かいがらした	始良町豊留		貝の字
小森川原	こもりかわはら	始良町豊留		小森川字
島廻	しまめぐり	始良町豊留		島川口向
	しもとよどめが	帖佐郷豊留村	下豊留門	島川田窓
	しんかど	帖佐郷豊留村	新門	
	すえひろかど	帖佐郷豊留村	末広門	末広字
園田	そのだ	始良町豊留		田鳴
堤ノ下	つつみのした	始良町豊留		
水流	つる	始良町豊留		
	とくしげかど	帖佐郷豊留村	徳重門	
豊留	とよどめ	始良町の大字		建治2(1276) 豊富
豊留川原	とよどめかわはら	始良町豊留		
	ながとみかど	帖佐郷豊留村	永富門	
	なかとよどめが	帖佐郷豊留村	中豊留門	
	にじとよどめが	帖佐郷豊留村	西豊留門	
	にしべっとうが	帖佐郷豊留村	西別当門	
	にしむろたかど	帖佐郷豊留村	西室田門	
野辺川原	のべかわはら	始良町豊留		
	ひさしげかど	帖佐郷豊留村	久重門	
樋ノ口	ひのくち	始良町豊留		

樋渡	ひわたし	姶良町豊留						
古川	ふるかわ	姶良町豊留						
別当川	べっとうがわ	姶良町豊留						
別当後	べっとううしろ	姶良町豊留	別当門					
前田	まえだ	姶良町豊留						
	ますみつかど	帖佐郷豊留村	増満門					
宮下川原	みやしたかわら	姶良町豊留						
宮ノ後	みやのうしろ	姶良町豊留						
宮ノ前	みやのまえ	姶良町豊留						
	みやわきかど	帖佐郷豊留村	宮脇門					
向江川原	むかえかわはら	姶良町豊留						
室田川原	むろたかわはら	姶良町豊留	室田門					
	もりみつかど	帖佐郷豊留村	盛満門					
屋敷添	やしきぞえ	姶良町豊留						
柳田	やなぎた	姶良町豊留						

中津里子 小字数 27

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
愛宕迫	あたござこ	姶良町中津野		
	いのうえかど	帖佐郷中津野村	井ノ上門	
	いまむらかど	帖佐郷中津野村	今村門	
江籠尻	えごじり	姶良町中津野		
	おおくぼかど	帖佐郷中津野村	大窪門	
	おおぞのかど	帖佐郷中津野村	大園門	
尾頭	おがしら	姶良町中津野		
梶原田	かじはらでん	姶良町中津野		
上錦	かみにしき	姶良町中津野		
上蓑	かみみの	姶良町中津野		
	かめさわかど	帖佐郷中津野村	亀沢門	
	かりやかど	帖佐郷中津野村	仮屋門	
	くぼかど	帖佐郷中津野村	久保門	
小岩崎	こいわざき	姶良町中津野		
	こじょうかど	帖佐郷中津野村	古城門	
五反田	ごたんだ	姶良町中津野		
	こむぎたかど	帖佐郷中津野村	小麦田門	
崎園原	さきぞのばら	姶良町中津野		
下蓑	しもみの	姶良町中津野		
瀬戸上	せとうえ	姶良町中津野		
佃田	つくだ	姶良町中津野		
テイコ	ていこ	姶良町中津野		弟子
	どうぞのかど	帖佐郷中津野村	堂園門	
中兼	なかがね	姶良町中津野		

中城	なかじょう	姶良町中津野	大字小	建治2(1276)中津乃
中津野	なかつの	姶良町の大字	大字	
中津野川原	なかつかわぬ	姶良町中津野	大字	
七反田	ななたんだ	姶良町中津野	大字	
	にしむらかど	帖佐郷中津野村	西村門	西村門
蓮木川原	はすきかわはら	姶良町中津野	福元門	福元門
	ふくもとかど	帖佐郷中津野村	堀之内門	堀之内門
前田	ほりのうちかど	帖佐郷中津野村	堀之内門	堀之内門
松木川原	まえだ	姶良町中津野	堀之内門	堀之内門
	まつきかわはら	姶良町中津野	堀之内門	堀之内門
	みなくちかど	帖佐郷中津野村	水口門	水口門
宮下川原	みやしたかわぬ	姶良町中津野	水口門	水口門
	みやぞのかど	帖佐郷中津野村	宮園門	宮園門
宮脇	みやわき	姶良町中津野	宮園門	宮園門
麦ノ瀬	むぎのせ	姶良町中津野	柳迫門	柳迫門
モッタイ	もったい	姶良町中津野	柳迫門	柳迫門
	やなぎさこかど	帖佐郷中津野村	柳迫門	柳迫門
山中	やまなか	姶良町中津野	柳迫門	柳迫門
竜毛	りゅうげ	姶良町中津野	柳迫門	柳迫門
両社牟田	りょうしゃむた	姶良町中津野	柳迫門	柳迫門
	わきぞのかど	帖佐郷中津野村	脇園門	脇園門

永瀬類		小字数 22	加治木 303-315-22	
地名	よみ	大字	門名	初出・その他
石永見	いしながみ	姶良町永瀬		
	うちむらかど	帖佐郷永瀬村	内村門	
	うちやまと	帖佐郷永瀬村	内山門	
戎田	えびすでん	姶良町永瀬		
踊橋	おどりばし	姶良町永瀬		
苧袴	おばかま	姶良町永瀬		
	かみながせかど	帖佐郷永瀬村	上永瀬門	
	かみにしかど	帖佐郷永瀬村	上西門	
上野添	かみのぞえ	姶良町永瀬		
源入	げんにゅう	姶良町永瀬		
御供田	ごきょうでん	姶良町永瀬		ごくでん?
崎園	さきぞの	姶良町永瀬		
下仮屋	しもかりや	姶良町永瀬		
	しもながせかど	帖佐郷永瀬村	下永瀬門	
下野添	しものぞえ	姶良町永瀬	下野門	
十三田	じゅうさんだ	姶良町永瀬		
	しんやかど	帖佐郷永瀬村	新屋門	
諏訪免	すわめん	姶良町永瀬		
早田尻	そうたじり	姶良町永瀬		
佃	つくだ	姶良町永瀬		
中野添	なかのぞえ	姶良町永瀬		
中山	なかやま	姶良町永瀬		
永瀬	ながせ	姶良町の大字		
	にしわきかど	帖佐郷永瀬村	西脇門	建治2(1276) 永世

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
稻荷脇	いなりわき	姶良町鍋倉	じろひ	吉日
岩子	いわこ	姶良町鍋倉	さかねむ	武代縣
岩崎	いわさき	姶良町鍋倉	えあさき	御嶽不
岩瀬戸	いわせと	姶良町鍋倉	いわせと	谷昌興
岩淵	いわぶち	姶良町鍋倉	いわぶち	武本
大谷	おおたに	姶良町鍋倉	おおたに	達道
小原町	おばるまち	姶良町鍋倉	さひまち	平苗
仮屋馬場	かりやばば	姶良町鍋倉	さくさま	口押
亀泉院	きせんいん	姶良町鍋倉	くじのせんいん	不入院院
桐ノ木	きりのき	姶良町鍋倉	きりのき	田木
草水	くさみず	姶良町鍋倉	くさみず	蘿入宮
小宇都	こうと	姶良町鍋倉	こ字うさ	御根本
小戸越	こどごえ	姶良町鍋倉	こどごえ	不入頭葉
坂ノ下	さかのした	姶良町鍋倉	さかのした	武代勝
篠目山	しのめやま	姶良町鍋倉	しのめやま	源山
下川	しもかわ	姶良町鍋倉	しもかわ	元山
下川畑	しもかわばた	姶良町鍋倉	しもかわばた	谷入郡
諏訪前	すわまえ	姶良町鍋倉		
總禪寺	そうぜんじ	姶良町鍋倉		
園田	そのだ	姶良町鍋倉		
滝ノ下	たきのした	姶良町鍋倉		
垂ノ内	たれのうち	姶良町鍋倉		
茶園ヶ迫	ちゃえんがさこ	姶良町鍋倉		
鍋倉	なべくら	姶良町の大字		建治2(1276) 加治木

納屋町	なやまち	始良町鍋倉	大字小	西餅田	小字数	119	加治木 303-315-22
橋ノ口	はしのくち	始良町鍋倉					
桺ノ谷	はしのたに	始良町鍋倉	大字	西餅田			
八幡ノ下	はちまんのした	始良町鍋倉					
日吉	ひよし	始良町鍋倉	日吉丸?	青木水流	あおきづる	始良町西餅田	田嶋西門
深ヶ丸	ふかがまる	始良町鍋倉	こじま	雨乞前	あまごいまえ	始良町西餅田	雨乞門
不動前	ふどうまえ	始良町鍋倉	ちとうま	荒田	あらだ	始良町西餅田	
風呂谷	ふろたに	始良町鍋倉	ふろたに	伊藤山	いとうやま	始良町西餅田	
本丸	ほんまる	始良町鍋倉	ほんまる	井ノ上	いのうえ	始良町西餅田	
房屋敷	ぼうやしき	始良町鍋倉	ぼうやしき	岩根川畑	いわねかわばた	始良町西餅田	
前平	まえひら	始良町鍋倉	まえひら	岩根前田	いわねまえだ	始良町西餅田	
町口	まちぐち	始良町鍋倉	まちぐち	内雨乞	うちあまごい	始良町西餅田	
松尾ノ下	まつおのした	始良町鍋倉	まつおのした	内楠元	うちくすもと	始良町西餅田	
松木田	まつきだ	始良町鍋倉	まつきだ	梅木畑	うちむらかど	帖佐郷西餅田村	内村門
宮ノ脇	みやのわき	始良町鍋倉	みやのわき	上場	うめきばた	始良町西餅田	
本屋地	もとやじ	始良町鍋倉	もとやじ	大橋	うわば	始良町西餅田	
薬師ノ下	やくしのした	始良町鍋倉	やくしのした	小倉畑	おおはし	始良町西餅田	
柳ヶ丸	やなぎがまる	始良町鍋倉	やなぎがまる				
山添	やまぞえ	始良町鍋倉	やまぞえ				
山元	やまもと	始良町鍋倉	やまもと				
湯ノ谷	ゆのたに	始良町鍋倉	ゆのたに				

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
青木水流	あおきづる	始良町西餅田	田嶋西門	田嶋西門
雨乞前	あまごいまえ	始良町西餅田	雨乞門	雨乞門
荒田	あらだ	始良町西餅田		
伊藤山	いとうやま	始良町西餅田		
井ノ上	いのうえ	始良町西餅田		
岩根川畑	いわねかわばた	始良町西餅田		
岩根前田	いわねまえだ	始良町西餅田		
内雨乞	うちあまごい	始良町西餅田		
内楠元	うちくすもと	始良町西餅田		
梅木畑	うちむらかど	帖佐郷西餅田村	内村門	内村門
上場	うめきばた	始良町西餅田		
大橋	うわば	始良町西餅田		
小倉畑	おぐらばた	始良町西餅田		
		帖佐郷西餅田村		
		柿内門		
		梅門		
		柏木門		
		柏木山野		宮島町に編入
		かしわぎさんや		
		上一丁畑		宮島町に編入
		かみいっちょうど		
		上今別府		
		かみいまべっぷ		
		上川屋		
		かみかわや		
		上龜泉院		
		かみきせんいん		
		上木月田		
		かみきつきだ		
		上クミ迫		
		かみぐみざこ		

			日	月	火	水	木	金	土	日	月
上桜木	かみさくらぎ	始良町西餅田									
上笛原	かみささばる	始良町西餅田									
上田中山野	かみたなかさや	始良町西餅田									
上田中前	かみたなかまえ	始良町西餅田									
上楠木	かみたぶき	始良町西餅田									
上俵原	かみたわらばる	始良町西餅田									
上中重	かみなかじゅう	始良町西餅田									
上長迫	かみながさこ	始良町西餅田									
上橋ノ口	かみはしのくち	始良町西餅田									
上深田	かみふかだ	始良町西餅田									
上松原	かみまつばら	始良町西餅田									
上松原町	かみまつばらちょう	始良町西餅田									
	かみもりかど	帖佐郷西餅田村	上森門								
	かめざわかど	帖佐郷西餅田村	亀沢門								
	かわぞえかど	帖佐郷西餅田村	川添門								
川原畠	かわはらばた	始良町西餅田									
楠元	くすもと	始良町西餅田	楠元門	※							
楠元原	くすもとばる	始良町西餅田									
口ノ坪	くちのつぼ	始良町西餅田			口坪						
クミ迫	ぐみざこ	始良町西餅田									
	くらみつかど	帖佐郷西餅田村	蔵溝門								
小宇都	こうと	始良町西餅田									
小瀬戸	こせと	始良町西餅田									
小松田	こまつだ	始良町西餅田									
権現前	ごんげんまえ	始良町西餅田									
	さかもとかど	帖佐郷西餅田村	坂元門								
塩入	しおいり	始良町西餅田									
篠目原	しのめばる	始良町西餅田									

下一丁畠	しもいっちょうど	始良町西餅田		宮島町に編入
下今別府	しもいまべっぷ	始良町西餅田		
下川屋	しもかわや	始良町西餅田		
下龜泉院	しもきせんいん	始良町西餅田		
下木月田	しもきつきだ	始良町西餅田		
下笛原	しもささばる	始良町西餅田		
下田中山野	しもたなかさや	始良町西餅田		
下田中前	しもたなかまえ	始良町西餅田		
下楠木	しもたぶき	始良町西餅田		
下俵原	しもたわらばる	始良町西餅田		
下中重	しもなかじゅう	始良町西餅田		
下長迫	しもながさこ	始良町西餅田		
下橋ノ口	しもはしのくち	始良町西餅田		
下深田	しもふかだ	始良町西餅田		
	しもまえぞのがど	帖佐郷西餅田村	下前園門	
下松原	しもまつばら	始良町西餅田		
下松原町	しもまつばらちょう	始良町西餅田		
正福田	しょうふくだ	始良町西餅田		
新開	しんかい	始良町西餅田		
	しんかど	帖佐郷西餅田村	新門	
	しんくらかど	帖佐郷西餅田村	新倉門	
十文字	じゅうもんじ	始良町西餅田		
十石迫	じゅっこくざこ	始良町西餅田		
砂ヶ崎	すなござき	始良町西餅田		
諏訪前	すわまえ	始良町西餅田	諏訪門	
	すわわきかど	帖佐郷西餅田村	諏訪脇門	
瀬戸	せと	始良町西餅田		
瀬戸下	せとした	始良町西餅田		

瀬戸原	せとばる	姶良町西餅田	西餅田	畠	はたばく	畠下	はたばく
ソイナシ	そいなし	姶良町西餅田	西餅田	ふ	へまへき	畠上	はたじや
外俵原	そとたわらばる	姶良町西餅田	西餅田	す	くまき	畠川	はたかわ
高樋	たかひ	姶良町西餅田	西餅田	み	みまき	畠東	はたひが
高樋川水流	たかひかわづる	姶良町西餅田	西餅田	う	ちまき	畠木	はたひが
立迫	たちざこ	姶良町西餅田	西餅田	る	めまき	畠道	はたぢ
辰喰	たつぐい	姶良町西餅田	西餅田	た	つばみ?	畠山中田	はたぢ
建昌城	たてまさじょう	姶良町西餅田	西餅田	え	まき	畠中田	はたまき
楠木ノ下	たぶきのした	姶良町西餅田	西餅田	き	ふみ	木野	はたみ
楠下	たぶした	姶良町西餅田	西餅田	さ	ねきはき	畠下	はたけ
太良山野	たらさんや	姶良町西餅田	西餅田	そ	むりゆみ	重中	はたら
俵原	たわらばる	姶良町西餅田	西餅田	こ	まき	自強	はたわら
月形	つきがた	姶良町西餅田	西餅田	さ	くわき	口人跡	はつきが
月ノ木前	つきのきまえ	姶良町西餅田	西餅田	月	木前	田築	はつきま
佃田	つくだ	姶良町西餅田	西餅田	つ	くわき	引の木大吉	はつくだ
土橋	つちはし	姶良町西餅田	西餅田	さ	きまき	難船	はつちは
寺下	てらした	姶良町西餅田	西餅田	た	れきまき	西難舟	はてらし
寺前	てらまえ	姶良町西餅田	西餅田	さ	ふくまき	田難玉	はてらま
戸越	とごえ	姶良町西餅田	西餅田	ハ	くみん	開港	はとごえ
	とみながかど	帖佐郷西餅田村	富永門				
	とみよしかど	帖佐郷西餅田村	富吉門				
中一丁畠	なかいっちょう	姶良町西餅田	西餅田	ひ	宮島町に編入	字文十	はなかい
中木月田	なかきつきだ	姶良町西餅田	西餅田	こ	さく	字正十	はなかき
	ながくらかど	帖佐郷西餅田村	永倉門	お	さく	曲に移	はながく
中島	なかしま	姶良町西餅田	西餅田	だ	まき	前甚	はなかしま
中田中前	なかたなかまえ	姶良町西餅田	西餅田	ま	まき	まき	はなかたな
中俵原	なかたわらばる	姶良町西餅田	西餅田	さ	まき	司磨	はなかたわ
中中重	なかなかじゅう	姶良町西餅田	西餅田	さ	まき	不可	はなかなか

中長迫	なかながさこ	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	中原門	さ
中松原	なかはらかど	帖佐郷西餅田村	西餅田	さ	せきさ	中原門	さ
ナタ原	なかまつばら	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	中原門	さ
西楠元原	なたばる	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	中原門	さ
西ノ妻	にしくすもとぬ	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	中原門	さ
西餅田	にしのつま	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	中原門	さ
野中	にしもちだ	姶良町の大字	大字	さ	せきさ	建治2(1276) 餅田	さ
野屋敷	のなか	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	葉迫門	さ
萩原	のやしき	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	葉迫門	さ
羽迫	はぎはら	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	葉迫門	さ
羽迫前	はざこまえ	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	葉迫門	さ
原田	はらだ	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	葉迫門	さ
春田	はるた	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	葉迫門	さ
馬場尻	ばばじり	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	葉迫門	さ
平田	ひらた	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	葉迫門	さ
平前	ひらまえ	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	葉迫門	さ
樋渡	ひわたし	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	葉迫門	さ
	ふくしまかど	帖佐郷西餅田村	富島門				
	ふくむらかど	帖佐郷西餅田村	福村門				
	ふちわきかど	帖佐郷西餅田村	淵脇門				
ホダカ宇都	ほだかうと	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	福島門	さ
堀込	ほりごめ	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	福村門	さ
	まえさこかど	帖佐郷西餅田村	前迫門				
	ますみつかど	帖佐郷西餅田村	増満門				
松木田	まつきだ	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	増満門	さ
溝添	みぞぞえ	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	増満門	さ
室前	むろまえ	姶良町西餅田	西餅田	さ	せきさ	増満門	さ

	もちだかど	帖佐郷西餅田村	餅田門	ちやくたんむら	餅田門
百田	ももた	始良町西餅田	餅田門	ももたんむら	餅田門
森	もり	始良町西餅田	餅田門	もり	餅田門
	もりしげかど	帖佐郷西餅田村	森重門	もりしげかど	餅田門
	もりながかど	帖佐郷西餅田村	森永門	もりながかど	餅田門
森ノ下	もりのした	始良町西餅田	餅田門	もりのした	餅田門
弥五郎	やごろう	始良町西餅田	餅田門	やごろう	餅田門
	やまもとかど	帖佐郷西餅田村	山元門	やまもとかど	餅田門
横手前	よこてまえ	始良町西餅田	餅田門	よこてまえ	餅田門
横八田	よこはった	始良町西餅田	餅田門	よこはった	餅田門
	よしみつかど	帖佐郷西餅田村	吉満門	よしみつかど	餅田門
	よしもりかど	帖佐郷西餅田村	吉盛門	よしもりかど	餅田門
六反田	ろくたんだ	始良町西餅田	餅田門	ろくたんだ	餅田門
	わきかど	帖佐郷西餅田村	脇門	わきかど	餅田門
	わきたかど	帖佐郷西餅田村	脇田門	わきたかど	餅田門

東餅田		小字数 123	加治木 303-315-32	
地名	よみ	大字	門名	初出・その他
石塚	あいおいかど	帖佐郷東餅田村	相生門	川古上
市来崎	ありむらかど	帖佐郷東餅田村	有村門	高宮上
市ノ坪	いしづか	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
市ノ坪	いちきざき	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
上森ノ辺田	いちのつぼ	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
江籠	いまかわかど	帖佐郷東餅田	今川門	日入山
老松	いまふるかわが	帖佐郷東餅田	今古川門	日入山
大小路口	うわもりのべた	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
大小路	えご	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
大坪	おいまつ	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
大坪尻	おおしうじ	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
大ドラ	おおつぼ	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
加祢ヶ原	おおつぼじり	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
上一町田	かねがはら	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
上川添	かみいっちょうでん	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
上木流	かみかわぞえ	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
上九十本	かみきながれ	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
上鍬カキ	かみくじゅっぽ	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
上大門口	かみくわかき	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
上野崎	かみだいもんぐ	始良町東餅田	始良町東餅田	日入山
	かみとびたかど	帖佐郷東餅田村	上飛田門	日入山
	かみのざき	始良町東餅田		日入山

上古川	かみふるかわ	姶良町東餅田	田 東
上宮島	かみみやじま	姶良町東餅田	宮島町に編入
上牟田	かみむた	姶良町東餅田	
上山ノ口	かみやまのくち	姶良町東餅田	
上八日町	かみようかまち	姶良町東餅田	
上渡口	かみわたしぐち	姶良町東餅田	
	かわぞえかど	帖佐郷東餅田村	川添門
坂屋崎	かりやざき	姶良町東餅田	
願成寺	がんじょうじ	姶良町東餅田	
願成寺内	がんじょうじうち	姶良町東餅田	
	きたうえかど	帖佐郷東餅田村	北上門
北五反畑	きたごたんばた	姶良町東餅田	
北主税山野	きたちからさんや	姶良町東餅田	
北野崎	きたのざき	姶良町東餅田	
北浜田	きたはまだ	姶良町東餅田	
北宮島	きたみやじま	姶良町東餅田	宮島町に編入
北牟田原	きたむたばる	姶良町東餅田	
北山ノ口	きたやまのくち	姶良町東餅田	
	くぼかど	帖佐郷東餅田村	久保門
クヨ原	くよはら	姶良町東餅田	
蔵跡	くらあと	姶良町東餅田	
	くらみつかど	帖佐郷東餅田村	蔵満門
	くらわきかど	帖佐郷東餅田村	倉脇門
九郎太郎	くろうたろう	姶良町東餅田	
五反畑	ごたんばた	姶良町東餅田	
西郷	さいごう	姶良町東餅田	
神畑	さかきばた	姶良町東餅田	
塩入	しおいり	姶良町東餅田	

塩釜内	しおがまうち	姶良町東餅田	田東
下一町田	しげたかど	帖佐郷東餅田村	重田門
下川添	しもいかわぞえ	姶良町東餅田	
下木流	しもきながれ	姶良町東餅田	
下九十ホ	しもくじゅっぽ	姶良町東餅田	
下鍬カキ	しもくわかき	姶良町東餅田	
下塩入	しもしおいり	姶良町東餅田	
下大門口	しもだいもんぐち	姶良町東餅田	
	しもとびたかど	帖佐郷東餅田村	下飛田門
下中須	しもなかす	姶良町東餅田	
下古川	しもふるかわ	姶良町東餅田	
下松原	しもまつばら	姶良町東餅田	
下宮島	しもみやじま	姶良町東餅田	宮島町に編入
下牟田	しもむた	姶良町東餅田	
下餅原	しももちはら	姶良町東餅田	
下森ノ辺田	しももりのべた	姶良町東餅田	
下八日町	しもようかまち	姶良町東餅田	
下横堤	しもよこどて	姶良町東餅田	
下渡口	しもわたしぐち	姶良町東餅田	
	すえよしかど	帖佐郷東餅田村	末吉門
高木	たかぎ	姶良町東餅田	高木門
高樋	たかひ	姶良町東餅田	※
谷村	たにむら	姶良町東餅田	
	たれわきかど	帖佐郷東餅田村	垂脇門
主税山野	ちからさんや	姶良町東餅田	
主税山野	ちからさんや	姶良町東餅田	
水流	つる	姶良町東餅田	

鶴田	つるだ	始良町東餅田	西東門良飯	さとうまみじ	内益田
寺村	てらむら	始良町東餅田	西東門良飯	ふく式ひじ	田西一不
出口	でぐち	始良町東餅田	出口門	あらさまにさじ	西山ノロ
十日町	とおかまち	始良町東餅田	西東門良飯	あすかみさじ	野崎
十日町頭	とおかまちら	始良町東餅田	西東門良飯	よなまきさじ	野崎尻
	とくしげかど	帖佐郷東餅田村	徳重門	わくまきこじさじ	浜山野
	とよたかど	帖佐郷東餅田村	豊田門	よのかいこさじ	浜田
堂田	どうでん	始良町東餅田	西東門良飯	じりはじさじ	浜村
中一町田	なかいっちょうでん	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	東
中老松	なかおいまつ	始良町東餅田	西東門良飯	ひやうじさじ	東総禪寺～
中鍬カキ	なかくわかき	始良町東餅田	西東門良飯	かねさじ	東道丁原
中須	なかす	始良町東餅田	西東門良飯	かわるみさじ	東主税山野
中主税山野	なかちからさんや	始良町東餅田	西東門良飯	さほぐまさじ	東浜田
中野崎	なかのざき	始良町東餅田	西東門良飯	もしりゆみさじ	東原
中ノ丸	なかのまる	始良町東餅田	西東門良飯	みづみさじ	東松原
中松原	なかまつばら	始良町東餅田	西東門良飯	さひささき	東三角
中宮島	なかみやじま	始良町東餅田	西東門良飯	宮島町に編入	東宮島
中牟田	なかむた	始良町東餅田	西東門良飯	さまむでしさじ	東餅田
中牟田原	なかむたばる	始良町東餅田	西東門良飯	すらこみさじ	東山ノロ
中八日町	なかようかまち	始良町東餅田	西東門良飯	さつじ式ひさじ	東米増
	ながよしかど	帖佐郷東餅田村	永吉門	よかじ式ひさじ	ふろかど
中渡口	なかわたしぐち	始良町東餅田	西東門良飯	よゆ式	ほりのうちかど
七反田	ななたんだ	始良町東餅田	西東門良飯	よゆ式	まえだかど
並木口	なみきぐち	始良町東餅田	西東門良飯	さゆき式	ますみつかど
	にしそのかど	帖佐郷東餅田村	西園門	よなまきくわ式	まつしたかど
西谷村	にしたにむら	始良町東餅田	西東門良飯	よみちさゆき	松原
西主税山野	にしちからさんや	始良町東餅田	西東門良飯	よみちさゆき	馬渡
西道丁原	にしどうじょうぬ	始良町東餅田	西東門良飯	るぐ	まわたり

西七反田	にしななたんだ	始良町東餅田	西東門良飯	さとうまみじ	内益田
西浜田	にしはまだ	始良町東餅田	西東門良飯	ふく式ひじ	田西一不
西山ノロ	にしやまのくち	始良町東餅田	西東門良飯	あらさまにさじ	西山ノロ
野崎	のざき	始良町東餅田	西東門良飯	あすかみさじ	野崎
野崎尻	のざきじり	始良町東餅田	西東門良飯	よなまきさじ	野崎尻
浜山野	はまさんや	始良町東餅田	西東門良飯	わくまきこじさじ	浜山野
浜田	はまだ	始良町東餅田	西東門良飯	よのかいこさじ	浜田
浜村	はまむら	始良町東餅田	西東門良飯	じりはじさじ	浜村
	はるぐちかど	帖佐郷東餅田村	春口門	ひみちばさじ	東
	ひがし	始良町東餅田	西東門良飯	ひやうじさじ	ひがし
	ひがしそぜんさんや	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	東総禪寺～
	ひがしどうじょうぬ	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	東道丁原
	ひがしちからさんや	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	東主税山野
	ひがしはまだ	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	東浜田
	ひがしばる	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	東原
	ひがしまつばら	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	東松原
	ひがしみすみ	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	東三角
	ひがしみやじま	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	東宮島
	ひがしちもちだ	始良町の大字	西東門良飯	ひみちばさじ	東餅田
	ひがしやまのくち	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	東山ノロ
	ひがしょねます	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	東米増
	ふろかど	帖佐郷東餅田村	風呂門	ひみちばさじ	ふろかど
	ほりのうちかど	帖佐郷東餅田村	堀之内門	ひみちばさじ	ほりのうちかど
	まえだかど	帖佐郷東餅田村	前田門	ひみちばさじ	まえだかど
	ますみつかど	帖佐郷東餅田村	増満門	ひみちばさじ	ますみつかど
	まつしたかど	帖佐郷東餅田村	松下門	ひみちばさじ	まつしたかど
	まつばら	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	松原
	まわたり	始良町東餅田	西東門良飯	ひみちばさじ	馬渡

三角	みすみ	姶良町東餅田	三角門	三 角 門	田風計
南石塚	みなみいしづか	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
南加祐ヶ原	みなみかねがはら	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
南總禪寺	みなみそうぜんじ	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
南谷村	みなみたにむら	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
南主税山野	みなみちからさや	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
南浜山野	みなみはまさや	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
南浜田	みなみはまだ	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
南宮島	みなみみやじま	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
南牟田原	みなみむたばる	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
南山ノ口	みなみやまのくち	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
雀ヶ山	むめがやま	姶良町東餅田	雀ヶ山？	さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
餅原	もちはら	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
	やなぎかど	帖佐郷東餅田村	柳門	さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
横堤	よこどて	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
	よしはらかど	帖佐郷東餅田村	吉原門	さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
	よねざわかど	帖佐郷東餅田村	米沢門	さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
米増	よねます	姶良町東餅田		さ 宮 島 町 に 編 入	田風計
	よねみつかど	帖佐郷東餅田村	米満門	さ 宮 島 町 に 編 入	田風計

平 松				
地 名	よみ	大 字	門 名	初出・その他
芦刈	あしかり	姶良町平松		
荒平	あらひら	姶良町平松		平松水田坪付帳
池島	いけじま	姶良町平松		平松水田坪付帳
池島前	いけじままえ	姶良町平松		
池田	いけだ	姶良町平松		平松水田坪付帳
池田古河	いけだふるかわ	姶良町平松		
石丸	いしまる	姶良町平松		
出水	いずみ	姶良町平松	出水門	宗門改
	いちいやまれき	重富郷平松村	櫟山屋敷	宗門改
一町田	いっちょうでん	姶良町平松		
五ツ町	いつつまち	姶良町平松		
井樋田	いびでん	姶良町平松		
井料	いりょう	姶良町平松		
井料	いりょう	姶良町平松		
岩下	いわした	姶良町平松		
	いわやかど	重富郷平松村	岩屋門	宗門改
上ノ原	うえのはら	姶良町平松		
後迫	うしろざこ	姶良町平松		平松水田坪付帳
後原	うしろばら	姶良町平松		
内新開	うちしんかい	姶良町平松		
内玉	うちだま	姶良町平松		
内古河	うちふるかわ	姶良町平松		
梅木畠	うめきばた	姶良町平松	梅木屋敷	宗門改
	うめだかど	重富郷平松村	梅田門	宗門改

大字都	おおうと	姶良町平松						
大瀬戸	おおせと	姶良町平松						
大園原	おおぞのばる	姶良町平松	大そのの門	平松水田坪付帳				
大坪	おおつぼ	姶良町平松						
大縁	おおみどり	姶良町平松		平松水田坪付帳				
	おがわかど	重富郷平松村	小川門	宗門改				
奥屋敷	おくやしき	姶良町平松						
扇子平	おこびら	姶良町平松						
	おりぐちかど	重富郷平松村	折口門	宗門改				
蟹田	かにた	姶良町平松		平松水田坪付帳				
蟹原	かにはら	姶良町平松						
	かみいしはらがど	重富郷平松村	上石原門	宗門改				
	かみきょうでんがど	重富郷平松村	上京田門	宗門改				
上水流	かみづる	姶良町平松	上つるの門	水田坪付帳・宗門改				
上福元水流	かみふくもとづる	姶良町平松						
上星原	かみほしはら	姶良町平松						
	かみむらかど	重富郷平松村	上村門	宗門改				
狩川	かりかわ	姶良町平松	狩川門	水田坪付帳・宗門改				
板屋園	かりやぞの	姶良町平松	かり屋の門	水田坪付帳・宗門改				
	かわきたかど	重富郷平松村	川北門	宗門改				
川窪	かわくぼ	姶良町平松		平松水田坪付帳				
	かわじかど	重富郷平松村	川路門	宗門改				
川原田	かわはらだ	姶良町平松						
神崎	かんざき	姶良町平松		平松水田坪付帳				
	きしたかど	重富郷平松村	木下門	宗門改				
	きたさこかど	重富郷平松村	北迫門	宗門改				
北園	きたぞの	姶良町平松		平松水田坪付帳				
	きたはらかど	重富郷平松村	北原門	宗門改				

北俣	きたまた	姶良町平松						
北村園	きたむらぞの	姶良町平松	北村の門	水田坪付帳・宗門改				
狐塚	きつねづか	姶良町平松						
京田原	きょうでんばる	姶良町平松	下ぎやてん門	水田坪付帳・宗門改				
	きよふじかど	姶良町平松村	清藤門	宗門改				
切通	きりとおし	姶良町平松						
車田	くるまだ	姶良町平松		平松水田坪付帳				
桑原田	くわはらだ	姶良町平松		平松水田坪付帳				
化粧ヶ宇都	けしょうがうと	姶良町平松						
	こじょうかど	重富郷平松村	小城門	宗門改				
小新開	こしんかい	姶良町平松						
小瀬戸	こせと	姶良町平松						
小牧	こまき	姶良町平松						
	さかぐちかど	重富郷平松村	坂口門	宗門改				
	さかのうえかど	重富郷平松村	坂之上門	宗門改				
	さかもとやしき	重富郷平松村	坂元屋敷	宗門改				
	さこだかど	重富郷平松村	迫田門	宗門改				
差柳	さしやなぎ	姶良町平松		平松水田坪付帳				
山花	さんけ	姶良町平松						
山草院	さんそういん	姶良町平松		平松水田坪付帳				
山野田	さんやだ	姶良町平松						
塩入	しおいり	姶良町平松						
	しもいしはらがど	重富郷平松村	下石原門	宗門改				
下水流	しもづる	姶良町平松		平松水田坪付帳				
下飛山	しもとびやま	姶良町平松						
下真方	しもまがた	姶良町平松						
下山ノロ	しもやまのくち	姶良町平松						
新開	しんかい	姶良町平松		平松水田坪付帳				

城ヶ宇都	じょうがうと	姶良町平松		
城下	じょうした	姶良町平松		平松水田坪付帳
城瀬	じょうせ	姶良町平松	しやうせの門	水田坪付帳・宗門改
城瀬山下	じょうせやまは	姶良町平松		平松水田坪付帳
次郎丸	じろうまる	姶良町平松		
	すえながやしき	重富郷平松村	末永屋敷	宗門改
	すえひろかど	重富郷平松村	末広門	宗門改
杉園迫田	すぎそのさこだ	姶良町平松	杉その 屋敷	平松水田坪付帳
	すぎもりかど	重富郷平松村	杉森門	宗門改
	すわかど	重富郷平松村	諏訪門	宗門改
諏訪原	すわばる	姶良町平松	すわら 原屋敷	平松水田坪付帳
	せがわかど	重富郷平松村	瀬川門	宗門改
外古河	そとふるかわ	姶良町平松		
岳前	たけまえ	姶良町平松		
豎野	たての	姶良町平松	たて野の門	平松水田坪付帳
谷木水流	たにきづる	姶良町平松		
	たにぐちかど	重富郷平松村	谷口門	宗門改
	たねやしき	重富郷平松村	種子屋敷	宗門改
水流	つる	姶良町平松		平松水田坪付帳
	つるかど	重富郷平松村	水流門	宗門改
	つるたかど	重富郷平松村	鶴田門	宗門改
飛山	とびやま	姶良町平松		平松水田坪付帳
	とみさわかど	重富郷平松村	富沢門	宗門改
鳥越	とりごえ	姶良町平松		
中島	なかじま	姶良町平松		平松水田坪付帳
中洲	なかす	姶良町平松		
中村	なかむら	姶良町平松	中村の門	水田坪付帳・宗門改
永池	ながいけ	姶良町平松		平松水田坪付帳

永池原	ながいけばる	始良町平松	始良町平松	吉子	道星
永迫	ながさこ	始良町平松	始良町平松	おさむ	駿田
	ながさわかど	重富郷平松村	長沢門	宗門改	勝宇八呂
	ながよしかど	重富郷平松村	永吉門	宗門改	效北
七反田	ななたんだ	始良町平松	始良町平松	平松水田坪付帳	火
西中原	にしなかはら	始良町平松	始良町平松	平松水田坪付帳	鳳星
	にしほらかど	重富郷平松村	西原門	宗門改	田
西原田	にしほらだ	始良町平松	始良町平松	式	歐
西宮田	にしみやた	始良町平松	始良町平松	式	真
仁礼木	にれき	始良町平松	始良町平松	ち	木
野中	のなか	始良町平松	始良町平松	ち	木
萩原	はぎはら	始良町平松	始良町平松	い	木
蓮池	はすいけ	始良町平松	始良町平松	改	木
八反房	はったんぼう	始良町平松	始良町平松	ひ	木
原口原	はらぐちばる	始良町平松	はるくの門	水田坪付帳・宗門改	田
馬場ヶ迫	ばばがさこ	始良町平松	始良町平松	ひ	木
東原田	ひがしほらだ	始良町平松	始良町平松	ひ	木
平田	ひらた	始良町平松	始良町平松	平松水田坪付帳	田
平松	ひらまつ	始良町の大字	始良町平松	平松水田坪付帳	田
平松原	ひらまつばら	始良町平松	始良町平松	ひ	木
	ひろたかど	重富郷平松村	広田門	宗門改	高
福ヶ野	ふくがの	始良町平松	始良町平松	吉子	曲宮
	ふくさこかど	重富郷平松村	福迫門	宗門改	福岡入宮
	ふくどめかど	重富郷平松村	福留門	宗門改	前林
	ふくみつかど	重富郷平松村	福満門	宗門改	申目
福元水流	ふくもとづる	始良町平松	福元門	宗門改	
	ふくややしき	重富郷平松村	福屋敷	宗門改	
船ヶ脇	ふながわき	始良町平松	始良町平松	吉子	

古屋敷	ふるやしき	始良町平松	平松水田坪付帳
触田原	ふれだばる	始良町平松	
風呂ノ宇都	ふろのうと	始良町平松	平松水田坪付帳
北枝	ほくし	始良町平松	
鋒丸	ほこまる	始良町平松	
星原	ほしはら	始良町平松	ほし原の門 水田坪付帳・宗門改
前田	まえだ	始良町平松	前田門 宗門改
前畠	まえはた	始良町平松	
真方	まがた	始良町平松	
	ますどめやしき	重富郷平松村	増留屋敷 宗門改
	ますみつやしき	重富郷平松村	増満屋敷 宗門改
	まつおかど	重富郷平松村	松尾門 宗門改
松木田	まつきだ	始良町平松	
松木古河	まつきふるかわ	始良町平松	
	まつさこかど	重富郷平松村	松迫門 宗門改
	まとばかど	重富郷平松村	的場門 宗門改
	みぞぐちかど	重富郷平松村	溝口門 宗門改
	みぞぞえかど	重富郷平松村	溝添門 宗門改
南園	みなみその	始良町平松	
峯高	みねたか	始良町平松	
	みやしたかど	重富郷平松村	宮下門 宗門改
宮島	みやじま	始良町平松	みや嶋屋敷 水田坪付帳・宗門改
宮ノ河路	みやのかわじ	始良町平松	
	みやわきかど	重富郷平松村	宮脇門 宗門改
村前	むらまえ	始良町平松	
	むろやかど	重富郷平松村	室屋門 宗門改
目串	めぐし	始良町平松	平松水田坪付帳
	もとまえはらが	重富郷平松村	本前原門 宗門改

森山宮田	もりながかど	重富郷平松村	森永門	宗門改
山下	もりやまみやた	始良町平松	森山門	宗門改
山ノ口	やすだかど	重富郷平松村	安田門	宗門改
山丸	やました	始良町平松		平松水田坪付帳
湯尻	やまのくち	始良町平松	山の口の門	水田坪付帳・宗門改
	やまのやしき	重富郷平松村	山野屋敷	宗門改
	やままる	始良町平松		
	ゆじり	始良町平松		
	よしなかかど	重富郷平松村	吉中門	宗門改
	よしはらかど	重富郷平松村	吉原門	宗門改
	よしむらかど	重富郷平松村	吉村門	宗門改
六ヶ所前	ろくがしょまえ	始良町平松		
六反田	ろくたんだ	始良町平松		平松水田坪付帳
脇田	わきた	始良町平松		

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
今瀬カヒ	いませがい	姶良町深水		
榎田	えのきだ	姶良町深水		
	おおさこかど	帖佐郷深水村	大迫門	
上京田	かみきょうでん	姶良町深水		
川原田	かわはらだ	姶良町深水		
川原	かわはら	姶良町深水		
鞍掛	くらかけ	姶良町深水		
小峯崎	こみねざき	姶良町深水		
下京田	しもきょうでん	姶良町深水		
	しんかみかど	帖佐郷深水村	新上門	
外川原	そとかわはら	姶良町深水		
恒見田	つねみでん	姶良町深水		
野辺川	のべがわ	姶良町深水		
袴田	はかまだ	姶良町深水		
深水	ふかみず	姶良町の大字		建治2(1276) 深見
筆ナシ	ふでなし	姶良町深水		
前田	まえだ	姶良町深水		
	ますみつかど	帖佐郷深水村	増溝門	
溝上	みぞうえ	姶良町深水		
耳取	みみとり	姶良町深水		
	みやうちかど	帖佐郷深水村	宮内門	
宮宇都	みやうと	姶良町深水		
	みやたかど	帖佐郷深水村	宮田門	
向江川原	むかえかわはら	姶良町深水		
	わきぞのかど	帖佐郷深水村	脇園門	

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
青木田	あおきだ	姶良町船津		
一町畠	いっちょうばた	姶良町船津		
井手丸	いでまる	姶良町船津		
	いふくかど	重富郷船津村	居福門	宗門改
	いまむらかど	重富郷船津村	今村門	宗門改
牛ヶ瀬	うしがせ	姶良町船津		
王子原	おうじばる	姶良町船津		
	おおさこかど	重富郷船津村	大迫門	宗門改
大坪	おおつぼ	姶良町船津		
起地	おきち	姶良町船津		
椿	かこい	姶良町船津		
	かみかごかど	重富郷船津村	上籠門	宗門改
上水流	かみづる	姶良町船津		
上柳	かみやなぎ	姶良町船津		
川崎	かわさき	姶良町船津		
	きよながかど	重富郷船津村	清永門	宗門改
	きよふじかど	重富郷船津村	清藤門	宗門改
黒間瀬	くろませ	姶良町船津		
香ヶ迫	こうがさこ	姶良町船津		
小尻掛	こじりかけ	姶良町船津		
小松	こまつ	姶良町船津	小松門	宗門改
	さこむらかど	重富郷船津村	迫村門	宗門改
	しまはたかど	重富郷船津村	嶋畠門	宗門改
下水流	しもづる	姶良町船津		

		姓	名	姓	名	姓
下宮田	しもみやた	始良町船津	さとう	姓字小	姓	合表
拾石迫	じゅっこくざこ	始良町船津				
城ヶ崎	じょうがさき	始良町船津	だい	姓	え	合
諏訪原	すわばる	始良町船津				
立迫	たてざこ	始良町船津	重富郷	真領	武	木
立元	たてもと	始良町船津	重富郷	真領	木	吉
	たなかかど	重富郷船津村	田中門	宗門改	武	井
大丸	だいまる	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
	つねみかど	重富郷船津村	恒見門	宗門改	木	吉
轟木	とどろき	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
	とめながかど	重富郷船津村	留永門	宗門改	木	吉
鳥越	とりごえ	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
	なかしまかど	重富郷船津村	中嶋門	宗門改	木	吉
中水流	なかづる	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
永迫	ながさこ	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
	にしかど	重富郷船津村	西門	宗門改	木	吉
袴田	はかまだ	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
萩ノ宇都	はぎのうと	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
桜川原	はしかわはら	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
	はすきかど	重富郷船津村	蓮木門	宗門改	木	吉
鉢窪	はちくぼ	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
早田	はやた	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
馬場ヶ迫	ばばがさこ	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
樋ノ口	ひのくち	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
	ひらたかど	重富郷船津村	平田門	宗門改	木	吉
平原	ひらはら	始良町船津	重富郷	宗門改	木	吉
	ふくざこかど	重富郷船津村	福迫門	宗門改	木	吉
	ふくしげかど	重富郷船津村	福重門	宗門改	木	吉

		姓	名	姓	名	姓
二俣	ふたまた	始良町船津	さとう	姓字小	姓	合
船津	ふなつ	始良町の大字	さとう	姓字小	姓	合
船津原	ふなつばら	始良町船津	さとう	姓字小	姓	合
外園	ほかぞの	始良町船津	さとう	姓字小	姓	合
北辰原	ほくしんばら	始良町船津	さとう	姓字小	姓	合
前田	まえだ	始良町船津	さとう	姓字小	姓	合
	まえやまかど	重富郷船津村	増田門	宗門改	木	吉
	ますだかど	重富郷船津村	増田門	宗門改	木	吉
	まつしまかど	重富郷船津村	松嶋門	宗門改	木	吉
宮田	みやた	始良町船津	田原門	真領	木	吉
杣ノ瀬	むくのせ	始良町船津	田原門	真領	木	吉
室迫	むろざこ	始良町船津	森永門	宗門改	木	吉
	もりながかど	重富郷船津村	森山門	宗門改	木	吉
	もりやまかど	重富郷船津村	森山門	宗門改	木	吉
柳迫	やなぎさこ	始良町船津	柳迫門	武	吉	木
袖ヶ谷	ゆのきがたに	始良町船津	袖ヶ谷門	武	吉	木
	よねもりかど	重富郷船津村	米森門	宗門改	木	吉
門根高	林田御製詩神	門根高	林田御製詩神	門根高	林田御製詩神	門根高
		田原門	真領	木	吉	木
門中田	田原門	田原門	真領	木	吉	木
門見跡	林田御製詩神	門見跡	林田御製詩神	門見跡	林田御製詩神	門見跡
		田原門	真領	木	吉	木
門瀬木	田原門	田原門	真領	木	吉	木
門谷富	林田御製詩神	門谷富	林田御製詩神	門谷富	林田御製詩神	門谷富
		田原門	真領	木	吉	木
門關西	田原門	田原門	真領	木	吉	木
		田原門	真領	木	吉	木

增田

小字数 22 加治木 303-315-22

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
	いけのうえかど	帖佐郷増田村	池ノ上門	
江籠尻	えごじり	姶良町増田		號文
小川	おがわ	姶良町増田		田舎
上竜毛	かみりゅうげ	姶良町増田		
川畑	かわばた	姶良町増田		
	きしづのかど	帖佐郷増田村	岸園門	
隈元	くまもと	姶良町増田		隈入本
小丸	こまる	姶良町増田		山本
郷屋	ごうや	姶良町増田		
酒田	さかた	姶良町増田		
迫田	さこだ	姶良町増田		
下竜毛	しもりゅうげ	姶良町増田		
園田	そのだ	姶良町増田		谷田
	たかはたかど	帖佐郷増田村	高畠門	
	たかふさかど	帖佐郷増田村	高房門	
竹下	たけした	姶良町増田		
田中	たなか	姶良町増田	田中門	
	つねみかど	帖佐郷増田村	恒見門	
露越	つゆごえ	姶良町増田		
水流	つる	姶良町増田	水流門	
	とみたにかど	帖佐郷増田村	富谷門	
西供田	にしきょうでん	姶良町増田		
西園前	にしづのまえ	姶良町増田	西園門	
武反田	にたんだ	姶良町増田		

平田	ひらた	始良町増田	元宇小	元	元
蛭田	ひるた	始良町増田			
	ふくみつかど	帖佐郷増田村	福満門	え	春
増田	ますだ	始良町の大字			
	みなみかど	帖佐郷増田村	南門	るうちのえ	栗葉
	みやわきかど	帖佐郷増田村	宮脇門	おちは	袖原
	やなぎづるかど	帖佐郷増田村	柳鶴門	るねづる	原瀬
横代	よこしろ	始良町増田		るじゆう	黄木土
吉野町	よしのまち	始良町増田		さくよまち	口山川
		元祖伊良領		るじゆ	元木
		元祖伊良領		ゆうさく	金白
		元祖伊良領		るじゆゆう	栗金白
		元祖伊良領		おうち	側地
		元祖伊良領		うそのち	勝宇八郎
		元祖伊良領		じじ	武田
		元祖伊良領		きさく	義
		元祖伊良領		るじゆふ	源木中
		元祖伊良領		さおゆふ	荒中
		元祖伊良領		るじゆふじ	栗衛西
		元祖伊良領		さくのじ	口入藤
		元祖伊良領		るじゆふじ	栗衛東
		元祖伊良領		さひ	平
		元祖伊良領		さをさひ	男平
		元祖伊良領		さへ	田勝
		元祖伊良領		さおゆふ	栗代節
		元祖伊良領		さも	伊
		元祖伊良領		さくそのさま	勢入唐
		元祖伊良領		さゆ	田富

## 脇元

小字数 26 田原町脇元

ささひ

田平

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
榎原	えのきばる	始良町脇元		
尾崎	おざき	始良町脇元		
蟹原	かにばる	始良町脇元		
上水流	かみづる	始良町脇元		
北山口	きたやまぐち	始良町脇元		
下水流	しもづる	始良町脇元		
白金	しらかね	始良町脇元		
白金原	しらかねばる	始良町脇元		
洲崎	すさき	始良町脇元		
滝ノ宇都	たきのうと	始良町脇元		
田尻	たじり	始良町脇元		
轟	とどろき	始良町脇元		
中水流	なかづる	始良町脇元		
中原	なかはら	始良町脇元		
西溝原	にしみぞばる	始良町脇元		
橋ノ口	はしのくち	始良町脇元		
東溝原	ひがしみぞばる	始良町脇元		
平	ひら	始良町脇元		
平俣	ひらまた	始良町脇元		
堀田	ほった	始良町脇元		
前ヶ原	まえがはら	始良町脇元		
町	まち	始良町脇元		
町ノ後	まちのうしろ	始良町脇元		
宮田	みやた	始良町脇元		

旧塩屋 脇元 渡瀬	もとしおや わきもと わたせ	始良町脇元 始良町の大字 始良町脇元	建治2(1276)蒲生
-----------------	----------------------	--------------------------	-------------

## 始良の門名

合計 479

大山	16門	西餅田	35門
上名	40門	東餅田	31門
北山	12門	春花	24門
木津志	24門	平松	62門9屋敷
三十町	36門	深水	6門
下名	31門	船津	24門
住吉	27門	触田	22門(鹿児島郡)
寺師	25門	増田	13門
豊留	16門	脇元	不明
中津野	17門	鍋倉	加治木より編入
永瀬	9門	辺川	12門(加治木へ)

帖佐郷——深水・三十町・永瀬・中津野・鍋倉・豊留・増田・  
住吉・西餅田・東餅田・寺師 (計11ヶ村)

山田郷——木津志・上名・下名・大山・北山・辺川 (計6ヶ村)

重富郷——平松・船津・春花・触田 (計4ヶ村)

『始良町郷土誌』pp. 269 ~ 279 にもとづいて作成。

1986年8月

## 始良の門名

あ行 71門

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
雨乞前	あいおいかど	帖佐郷東餅田村	相生門	
	あおてきかど	山田郷下名村	青手木門	地誌備考資料
	あたりぞのかど	重富郷春花村	当園門	宗門改
	あべきかど	帖佐郷寺師村	精木門	
	あまごいまえ	始良町西餅田	雨乞門	
	ありむらかど	山田郷木津志村	有村門	地誌備考資料
	ありむらかど	帖佐郷三十町村	有村門	
	ありむらかど	帖佐郷東餅田村	有村門	
	いけのうえかど	帖佐郷増田村	池ノ上門	
	いしみね	始良町上名	石峯門	地誌備考資料
石峯	いずみ	始良町平松	出水門	宗門改
	いずみかど	山田郷大山村	出水門	地誌備考資料
	いちいがわ	始良町三拾町	市井川門	
	いちいやまやき	重富郷平松村	樅山屋敷	宗門改
	いとうかど	始良町豊留村	伊藤門	
出水	いなどめかど	帖佐郷寺師村	稻留門	
	いのうえかど	帖佐郷三十町村	井ノ上門	
	いのうえかど	帖佐郷中津野村	井ノ上門	
	いのくちかど	帖佐郷寺師村	井ノ口門	
	いふくかど	重富郷船津村	居福門	宗門改
市井川	いふくかど	重富郷触田村	居福門	宗門改
	いまかわかど	帖佐郷東餅田村	今川門	
	いまふるかわがど	帖佐郷東餅田村	今古川門	
	いまむらかど	山田郷大山村	今村門	地誌備考資料

	いまむらかど	山田郷上名村	今村門	地誌備考資料
	いまむらかど	帖佐郷三十町村	今村門	
	いまむらかど	帖佐郷住吉村	今村門	
	いまむらやしき	山田郷下名村	今村屋敷	地誌備考資料
	いまむらかど	帖佐郷中津野村	今村門	
	いまむらかど	重富郷船津村	今村門	宗門改
岩井田	いわいだ	始良町北山	岩井田門	地誌備考資料
	いわがみかど	重富郷春花村	岩神門	宗門改
岩下	いわした	始良町上名	岩下門	地誌備考資料
	いわしたかど	重富郷触田村	岩下門	宗門改
岩元	いわもと	始良町上名	岩元屋敷	地誌備考資料
	いわやかど	重富郷平松村	岩屋門	宗門改
	うえのかど	山田郷下名村	上ノ門	地誌備考資料
	うえのかど	帖佐郷住吉村	上野門	
	うえのかど	帖佐郷寺師村	上野門	
	うえのかど	重富郷触田村	上之門	宗門改
	うきめん	山田郷大山村	浮免	地誌備考資料
	うきめん	山田郷木津志村	浮免	地誌備考資料
	うきめんかど	山田郷北山村	浮免門	地誌備考資料
	うちかど	帖佐郷三十町村	内門	
	うちかどやしき	山田郷大山村	内門屋敷	地誌備考資料
	うちごしき	始良町北山	内籠門	地誌備考資料
	うちぞのかど	山田郷下名村	内園門	地誌備考資料
	うちむらかど	山田郷木津志村	内村門	地誌備考資料
	うちむらやしき	山田郷下名村	内村屋敷	地誌備考資料
	うちむらかど	帖佐郷寺師村	内村門	
	うちむらかど	帖佐郷永瀬村	内村門	
	うちむらかど	帖佐郷西餅田村	内村門	

うちむらかど	重富郷触田村	内村門	宗門改
うちやまかど	帖佐郷永瀬村	内山門	
うとかど	山田郷北山村	宇都門	地誌備考資料
うとやしき	始良町下名	宇都門	地誌備考資料
梅木畑	始良町平松	梅木屋敷	宗門改
うめきばた	始良町平松	梅田門	宗門改
うめたかど	重富郷平松村	梅田門	
おおくぼかど	帖佐郷中津野村	大窪門	
おおさこかど	帖佐郷深水村	大迫門	
おおさこかど	重富郷船津村	大迫門	宗門改
おおぞのかど	帖佐郷中津野村	大園門	
おおぞのばる	始良町平松	大その門	平松水田坪付帳
おがわうち	始良町木津志	小川内門	地誌備考資料
おがわかど	重富郷平松村	小川門	宗門改
おくやかど	帖佐郷三十町村	奥屋門	
おくやかど	帖佐郷住吉村	奥屋門	
おだわらかど	帖佐郷三十町村	小田原門	
おのうえかど	帖佐郷住吉村	尾上門	
おばらのした	始良町木津志	小原門	地誌備考資料
おりぐちかど	重富郷平松村	折口門	宗門改

始良の門名内 (2) か行 88門

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
	かきうちかど	帖佐郷三十町村	柿内門	
	かきうちかど	帖佐郷西餅田村	柿内門	
	かこいかど	帖佐郷西餅田村	梅門	
	かさかけかど	帖佐郷住吉村	笠掛門	
柏木	かしわぎ	始良町西餅田	柏木門	
	かねだかど	重富郷春花村	金田門	宗門改
	かみいしはらかど	重富郷平松村	上石原門	宗門改
	かみいまむらかど	重富郷春花村	上今村門	宗門改
上大迫	かみおおさこ	始良町上名	大迫屋敷	地誌備考資料
	かみかごかど	重富郷船津村	上籠門	宗門改
	かみきょうでんかど	重富郷平松村	上京田門	宗門改
	かみづるやしき	山田郷大山村	上水流屋敷	地誌備考資料
上水流	かみづる	始良町平松	上つるの門	水田坪付帳・宗門改
	かみとびたかど	帖佐郷東餅田村	上飛田門	
	かみながせかど	帖佐郷永瀬村	上永瀬門	
	かみにしかど	帖佐郷永瀬村	上西門	
	かみのくちかど	帖佐郷寺師村	神之口門	
	かみはたかど	山田郷大山村	上畠門	地誌備考資料
	かみみやじかど	帖佐郷寺師村	神宮路門	
	かみむらかど	重富郷平松村	上村門	宗門改
	かみもりかど	帖佐郷西餅田村	上森門	
	かみわきかど	山田郷木津志村	上脇門	地誌備考資料
	かめさわかど	帖佐郷中津野村	亀沢門	
	かめざわかど	帖佐郷西餅田村	亀沢門	

狩川	かりかわ	始良町平松	狩川門	水田坪付帳・宗門改
	かりやかど	帖佐郷三十町村	仮屋門	
	かりやかど	山田郷下名村	仮屋門	地誌備考資料
	かりやかど	帖佐郷住吉村	仮屋門	
	かりやかど	帖佐郷寺師村	仮屋門	
	かりやかど	帖佐郷中津野村	仮屋門	
	かりやぞのかど	重富郷春花村	仮屋園門	宗門改
仮屋園	かりやぞの	始良町平松	かり屋の門	水田坪付帳・宗門改
	かわきたかど	重富郷平松村	川北門	宗門改
	かわじかど	重富郷春花村	川路門	宗門改
	かわじかど	重富郷平松村	川路門	宗門改
	かわぞえかど	帖佐郷西餅田村	川添門	
	かわぞえかど	帖佐郷東餅田村	川添門	
	かわなべかど	帖佐郷三十町村	川辺門	
	かわばたかど	帖佐郷三十町村	川畠門	
	かわばたかど	帖佐郷住吉村	川畠門	
	かわばたかど	帖佐郷寺師村	川畠門	
	きしづのかど	山田郷北山村	岸園門	地誌備考資料
	きしづのかど	帖佐郷増田村	岸園門	
	きしたかど	重富郷平松村	木下門	宗門改
	きたうえかど	帖佐郷東餅田村	北上門	
	きたさこかど	重富郷平松村	北迫門	宗門改
	きたぞのかど	帖佐郷住吉村	北園門	
北野	きたの	始良町北山	北野門	地誌備考資料
	きたのさこかど	山田郷下名村	北ノ迫門	地誌備考資料
	きたはらかど	重富郷平松村	北原門	宗門改
	きたむらぞの	始良町平松	北村の門	水田坪付帳・宗門改
北村園	きのしたかど	山田郷下名村	木ノ下門	地誌備考資料

京田原	きょうでんかど	重富郷春花村	京田門	宗門改
	きょうでんばる	始良町平松	下ぎやてん門	水田坪付帳・宗門改
	きよながかど	重富郷船津村	清永門	宗門改
	きよふじかど	始良町平松村	清藤門	宗門改
	きよふじかど	重富郷船津村	清藤門	宗門改
	きよみずかど	重富郷春花村	清水門	宗門改
	くいなかかど	重富郷触田村	格中門	宗門改
	くすのきぞのど	山田郷下名村	楠木園門	地誌備考資料
楠元	くすもと	始良町西餅田	楠元門	※
	くぼかど	帖佐郷三十町村	久保門	
	くぼかど	帖佐郷住吉村	久保門	
	くぼかど	帖佐郷中津野村	久保門	
	くぼかど	帖佐郷東餅田村	久保門	
	くぼぞのかど	山田郷下名村	窪園門	地誌備考資料
	くぼたかど	重富郷触田村	窪田門	宗門改
	くらしきかど	山田郷上名村	蔵敷門	地誌備考資料
	くらみつかど	帖佐郷三十町村	蔵満門	
	くらみつかど	帖佐郷西餅田村	蔵満門	
	くらみつかど	帖佐郷東餅田村	蔵満門	
	くらもとかど	重富郷触田村	蔵元門	宗門改
	くらわきかど	帖佐郷東餅田村	倉脇門	
	くりしたかど	山田郷木津志村	栗下門	地誌備考資料
	くろいしかわが	重富郷触田村	黒石川門	宗門改
小池田	こいけだ	始良町三拾町	小池門	
	こいすみかど	重富郷触田村	小出水門	宗門改
	こさかかど	山田郷大山村	小坂門	地誌備考資料
	こさかかど	山田郷下名村	小坂門	地誌備考資料
	こさこだかど	帖佐郷三十町村	小迫田門	

小松	こじょうかど	帖佐郷中津野村	古城門	地誌備考資料
	こじょうかど	山田郷下名村	小城門	
	こじょうかど	重富郷平松村	小城門	宗門改
	こぞのかど	帖佐郷住吉村	小園門	
	こながのかど	山田郷木津志村	小長野門	地誌備考資料
	こまつ	始良町船津	小松門	宗門改
	こむぎたかど	帖佐郷中津野村	小麦田門	
	ごがつでんかど	帖佐郷住吉村	五月田門	
糸門院	糸門院	林屋平蔵富重	ひじゆうきゆぢ	
	糸賀若膳若助	林谷不藏田山	ひやうせき	
	糸門院	林谷春藏富重	ひやうし	
	糸門院	林田辰三郎身銀	ひやうし	
	糸門院	林田辰蔵富重	ひやうし	
	糸門院	林田辰蔵富重	ひやうし	
	糸門院	林吉左衛門身銀	ひやうし	
	糸門院	林吉左衛門身銀	ひやうし	
	糸門院	林田辰東蔵身銀	ひやうし	
	糸門院	林島朝日藏富重	ひやうし	
	糸門院	門原辰不	もんはらしんぶ	
	糸門院	門原通不	もんはらしどうぶ	
	糸賀若膳若助	志野木四郎身銀	ひちよし	
	糸賀若膳若助	林谷不藏田山	ひやうせき	
	糸賀若膳若助	林志政木藏田山	ひやうし	
	糸賀若膳若助	門前水不	もんぜんすいぶ	
	糸賀若膳若助	門前三郎身銀	ひじまき	
	糸賀若膳若助	門前水不	もんぜんすいぶ	
	糸賀若膳若助	門前水不	もんぜんすいぶ	
	糸賀若膳若助	門前通不	もんぜんしどうぶ	
	糸賀若膳若助	門前豊	もんぜんとよ	

始良の門名 (3) さ行 62門

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
迫田	さかぐちかど	重富郷春花村	坂口門	宗門改
	さかぐちかど	重富郷平松村	坂口門	宗門改
	さかのうえかど	重富郷平松村	坂之上門	宗門改
	さかもとかど	山田郷木津志村	坂元門	地誌備考資料
	さかもとかど	帖佐郷西餅田村	坂元門	
	さかもとやしき	重富郷平松村	坂元屋敷	宗門改
	さかやかど	山田郷下名村	酒屋門	地誌備考資料
	さこかど	重富郷春花村	迫門	宗門改
	さこだ	始良町三拾町	迫田門	
	さこだかど	重富郷平松村	迫田門	宗門改
下提	さこむらかど	重富郷船津村	迫村門	宗門改
	さんがつでんが	帖佐郷住吉村	三月田門	
	しがつでんかど	帖佐郷住吉村	四月田門	
	しげたかど	帖佐郷東餅田村	重田門	
	しまはたかど	重富郷船津村	嶋島門	宗門改
	しもいしはらが	重富郷平松村	下石原門	宗門改
	しもかりやかど	重富郷春花村	下仮屋門	宗門改
	しもさげ	始良町木津志	上提門	地誌備考資料
	しもぞのかど	山田郷下名村	下蔵門	地誌備考資料
	しもぞのかど	山田郷木津志村	下蔵門	地誌備考資料
下水流	しもづる	始良町三拾町	下水流門	
	しもづるかど	山田郷大山村	下水流門	地誌備考資料
	しもとびたかど	帖佐郷東餅田村	下飛田門	
	しもとよどめが	帖佐郷豊留村	下豊留門	

地名	よみ	山田郷木津志村	下堂園屋敷	地誌備考資料
下野添	しもどうぞやき	帖佐郷永瀬村	下永瀬門	
	しもながせかど	山田郷下名村	下ノ門	地誌備考資料
	しものかど	帖佐郷三十町村	下野門	
	しものぞえ	始良町永瀬	下野門	
	しもまえぞのが	帖佐郷西餅田村	下前園門	
	しもみやじかど	帖佐郷寺師村	下宮地門	
	しもむら	始良町三拾町	下村門	
	しらさかかど	山田郷下名村	白坂門	地誌備考資料
	しんかど	帖佐郷豊留村	新門	
	しんかど	帖佐郷寺師村	新門	新名門
下村	しんかど	帖佐郷西餅田村	新門	
	しんかみかど	帖佐郷三十町村	新上門	
	しんかみかど	帖佐郷深水村	新上門	
	しんくらかど	帖佐郷西餅田村	新倉門	
	しんぞのかど	山田郷下名村	新薦門	地誌備考資料
	しんむらかど	山田郷木津志村	新村門	地誌備考資料
	しんやかど	帖佐郷住吉村	新屋門	
	しんやかど	帖佐郷永瀬村	新屋門	
	しんやしきかど	帖佐郷住吉村	新屋敷門	
	じふくかど	帖佐郷三十町村	地福門	
城光寺	じょうこうじ	始良町下名	城光寺門	地誌備考資料
	じょうせ	始良町平松	しやうせ門	水田坪付帳・宗門改
	すえながやしき	重富郷平松村	末永屋敷	宗門改
	すえひろかど	帖佐郷豊留村	末広門	
	すえひろかど	重富郷平松村	末広門	宗門改
	すえよしかど	帖佐郷住吉村	末吉門	
	すえよしかど	帖佐郷東餅田村	末吉門	
城瀬				

杉園迫田	すぎそのさこだ	姶良町平松	杉の原屋敷	平松水田坪付帳
	すぎもりかど	重富郷平松村	杉森門	宗門改
	すわかど	重富郷平松村	諏訪門	宗門改
諏訪原	すわばる	姶良町平松	すの原屋敷	平松水田坪付帳
諏訪前	すわまえ	姶良町西餅田	諏訪門	
	すわわきかど	帖佐郷西餅田村	諏訪脇門	
	せがわかど	重富郷平松村	瀬川門	宗門改
	せとかど	山田郷下名村	瀬戸門	地誌備考資料
	せとぐちかど	山田郷上名村	瀬戸口門	地誌備考資料
	せんぽんかど	帖佐郷三十町村	千本門	

姶良の門名 (4) た行 54門				
地名	よみ	大字	門名	初出・その他
高木	たかぎ	姶良町東餅田	高木門	
	たかはたかど	帖佐郷増田村	高畠門	
	たかふさかど	帖佐郷増田村	高房門	
豎野	たての	姶良町平松	たて野の門	平松水田坪付帳
田中	たなか	姶良町増田	田中門	
	たなかかど	山田郷下名村	田中門	地誌備考資料
	たなかかど	山田郷上名村	田中門	地誌備考資料
	たなかかど	重富郷船津村	田中門	宗門改
	たにぐちかど	山田郷大山村	谷口門	地誌備考資料
	たにぐちかど	重富郷平松村	谷口門	宗門改
	たねやしき	重富郷平松村	種子屋敷	宗門改
	たばたかど	重富郷春花村	田畠門	宗門改
楠木野	たぶきの	姶良町木津志	楠木野門	地誌備考資料
	たぶちかど	重富郷春花村	田淵門	宗門改
	たれわきかど	帖佐郷東餅田村	垂脇門	
	だいぐうじかど	重富郷触田村	代宮司門	宗門改
	ちゃえんかど	帖佐郷三十町村	茶園門	
	つきがたかど	重富郷春花村	月形門	宗門改
	つきさこかど	重富郷春花村	月迫門	宗門改
佃	つくだ	姶良町大山	佃門	地誌備考資料
	つじかど	帖佐郷三十町村	辻門	
	つずらのかど	帖佐郷寺師村	黒葛野門	
	つつぐちかど	帖佐郷住吉村	筒口門	
	つねみかど	帖佐郷三十町村	恒見門	

	つねみかど	重富郷船津村	恒見門	宗門改
	つねみかど	帖佐郷増田村	恒見門	
	つねみやしき	山田郷大山村	常見屋敷	地誌備考資料
水流	つる	始良町上名	水流門	地誌備考資料
水流	つる	始良町増田	水流門	
	つるかど	山田郷下名村	水流門	地誌備考資料
	つるかど	重富郷平松村	水流門	宗門改
	つるたかど	重富郷平松村	鶴田門	宗門改
	つるどめかど	帖佐郷寺師村	鶴留門	
	てらそのかど	帖佐郷住吉村	寺園門	
出口	でぐち	始良町東餅田	出口門	
	でぐちかど	山田郷下名村	出口門	地誌備考資料
	とくしげかど	帖佐郷豊留村	徳重門	
	とくしげかど	帖佐郷東餅田村	徳重門	
	とくむらかど	山田郷木津志村	徳村門	地誌備考資料
	とみさわかど	重富郷平松村	富沢門	宗門改
	とみたかど	山田郷下名村	富田門	地誌備考資料
	とみたかど	山田郷大山村	富田門	地誌備考資料
	とみたにかど	帖佐郷増田村	富谷門	
	とみながかど	帖佐郷西餅田村	富永門	
	とみもりかど	重富郷春花村	富森門	宗門改
	とみよしかど	帖佐郷西餅田村	富吉門	
	とむらかど	山田郷木津志村	戸村門	地誌備考資料
	とめながかど	重富郷船津村	留永門	宗門改
	とよたかど	帖佐郷東餅田村	豊田門	
	とりごえ	始良町上名	鳥越門	地誌備考資料
	どうぞのかど	帖佐郷中津野村	堂園門	
鳥越	どうぞのかど	山田郷北山村	堂園門	地誌備考資料

	どうぞのかど	山田郷木津志村	堂園門	地誌備考資料
	どうちかど	重富郷春花村	堂地門	宗門改
	火門宗	門跡中	林幹臣御富重	当夜の火火式
	火門宗	門園中	林吉吉歌辻	当夜の子火式
	火門宗	門留邊中	林留邊歌辻	当夜の火火式
	火門宗	門西中	林頭寺歌辻	当夜の火火式
	林實寺御志	門西中	林洛土駿田山	当夜の火火式
	林實寺御志	門裡中	林山北廣田山	当夜の火火式
	林實寺御志	門裡中	林唐十三歌辻	当夜の火火式
	林實寺御志	門裏中	林田耕西歌辻	当夜の火火式
	火門宗	門中	林田耕西歌辻	当夜の火火式
	火門宗	門中	林田耕富重	当夜の火火式
	火門宗	門林中	林介土駿田山	当夜の火火式
	火門宗	門林中	志野木四貴儀	式のさび夜式
	火門宗・勘付社木水	門の林中	勘付社木水	さび夜式
	火門宗	門食水	林田耕西歌辻	当夜の火火式
	火門宗	門食水	林介春歌富重	当夜の火火式
	火門宗	門所是	林介平歌富重	当夜の火火式
	火門宗	門富水	林留邊歌辻	当夜の火火式
	火門宗	門膳是	林唐十三歌辻	当夜の火火式
	火門宗	門吉水	林田耕東歌辻	当夜の火火式
	火門宗	門吉水	林介平歌富重	当夜の火火式
	火門宗	門吉水	林田耕富重	当夜の火火式
	火門宗	門田元才	林吉吉歌辻	当夜の火火式
	火門宗	門谷次才	林頭寺歌辻	当夜の火火式
	火門宗	門田良二	林吉吉歌辻	当夜の火火式
	林實寺御志	門西	林山大駿田山	当夜の火

始良の門名 (5) な行 34門

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
	なかしまかど	重富郷船津村	中嶋門	宗門改
	なかぞのかど	帖佐郷住吉村	中國門	
	なかとよどめが	帖佐郷豊留村	中豊留門	
	なかにしかど	帖佐郷寺師村	中西門	
	なかにしかど	山田郷上名村	中西門	地誌備考資料
	なかのかど	山田郷北山村	中野門	地誌備考資料
	なかのかど	帖佐郷三十町村	中野門	
	なかはらかど	帖佐郷西餅田村	中原門	
	なかまかど	重富郷触田村	中間門	宗門改
	なかむらかど	山田郷上名村	中村門	地誌備考資料
中村ノ下	なかむらのした	姶良町木津志	中村屋敷	地誌備考資料
中村	なかむら	姶良町平松	中村の門	水田坪付帳・宗門改
	ながくらかど	帖佐郷西餅田村	永倉門	
	ながさこかど	重富郷春花村	永迫門	宗門改
	ながさわかど	重富郷平松村	長沢門	宗門改
	ながとみかど	帖佐郷豊留村	永富門	
	ながふくかど	帖佐郷三十町村	長福門	
	ながよしかど	帖佐郷東餅田村	永吉門	
	ながよしかど	重富郷平松村	永吉門	宗門改
	ながよしかど	重富郷触田村	永吉門	宗門改
	ななたんだかど	帖佐郷住吉村	七反田門	
	ななつだにかど	帖佐郷寺師村	七ツ谷門	
	にがつでんかど	帖佐郷住吉村	二月田門	
	にしかど	山田郷大山村	西門	地誌備考資料

	にしかど	重富郷船津村	西門	宗門改
西園前	にしそのかど	帖佐郷東餅田村	西園門	
	にしそのまえ	姶良町増田	西園門	
	にしとよどめど	帖佐郷豊留村	西豊留門	
	にしのかど	帖佐郷寺師村	西野門	ごちね
	にしはらかど	重富郷平松村	西原門	宗門改
	にしべっとうがど	帖佐郷豊留村	西別当門	きべうのじぬ
	にしむらかど	帖佐郷中津野村	西村門	くわら
	にしむろたかど	帖佐郷豊留村	西室田門	くわむろだ
	にしわきかど	帖佐郷永瀬村	西脇門	くわい
片山を西並み	門口元	片山大瀬田山	さへひやま	
片門院・跡付田木水	門のあらお	片平郷奥銀	さねさつさお	通口原
	門口寺	片田郷東勝寺津	さねさつるお	
片資き御詔書	門圓勝親	片山北瀬田山	さねのすゑお	
片資き御詔書	門東	片谷不瀬田山	さねじゆ	
	門東	片瀬木瀬田津	さねじゆ	
片資き御詔書	門持東	片志東木瀬田山	さねさひじゆ	
	門道人	片留豐勝寺津	さねじゆ	
	門道社	片吉主職寺津	さねさひ	
片門院	門田平	片野傳職富道	さねださひ	
片資き御詔書	門堤平	片土郷奥銀	さおさひ	瑞平
片門院	門田直	片谷平穂富道	さねださひ	
	門直貴	片面歩職寺津	さねこちき	
片資き御詔書	門岡勝	片志東木瀬田山	さねいは	
片門院	門道勝	片傳平穂富道	さねこち	
片門院	門直勝	片野傳職富道	さねこち	
片資き御詔書	門直勝	片谷不瀬田山	さねじゆ	
片門院	門直勝	片志春穂富道	さねじゆ	

始良の門名 (6) な行 51門

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
羽迫	はざこ	始良町西餅田	葉迫門	
	はしにしかど	山田郷上名村	橋西門	地誌備考資料
	はしのくちかど	重富郷春花村	橋之口門	宗門改
	はすきかど	重富郷船津村	蓮木門	宗門改
	はたなかかど	山田郷大山村	畠中門	地誌備考資料
	はちまんりょうかど	帖佐郷三十町村	八幡領門	
	はまいしかど	山田郷大山村	浜石門	地誌備考資料
原口原	はらぐちばる	始良町平松	はるくちの門	水田坪付帳・宗門改
	はるぐちかど	帖佐郷東餅田村	春口門	
	ばばぞのかど	山田郷北山村	馬場園門	地誌備考資料
	ひがしかど	山田郷下名村	東門	地誌備考資料
	ひがしかど	帖佐郷永瀬村	東門	
	ひがしむらかど	山田郷木津志村	東村門	地誌備考資料
	ひしげかど	帖佐郷豊留村	久重門	
平原	ひらかど	帖佐郷住吉村	比良門	
	ひらたかど	重富郷船津村	平田門	宗門改
	ひらはら	始良町上名	平原門	地誌備考資料
	ひろたかど	重富郷平松村	広田門	宗門改
	ふきさこかど	帖佐郷寺師村	福貴迫門	
	ふくおかかど	山田郷木津志村	福岡門	地誌備考資料
	ふくさこかど	重富郷平松村	福迫門	宗門改
ふくしけかど	ふくざこかど	重富郷船津村	福迫門	宗門改
	ふくしけかど	山田郷下名村	福重門	地誌備考資料
	ふくしけかど	重富郷春花村	福重門	宗門改

ふくしけかど	重富郷船津村	福重門	宗門改
ふくしまかど	帖佐郷西餅田村	福島門	
ふくどめかど	帖佐郷寺師村	福留門	
ふくどめかど	重富郷平松村	福留門	宗門改
ふくながかど	重富郷春花村	福永門	宗門改
ふくみつかど	重富郷平松村	福満門	宗門改
ふくみつかど	帖佐郷増田村	福満門	
ふくむらかど	帖佐郷西餅田村	福村門	
ふくもとかど	帖佐郷住吉村	福元門	
ふくもとかど	帖佐郷寺師村	福元門	
ふくもとかど	帖佐郷中津野村	福元門	
ふくもとかど	山田郷上名村	福元門	地誌備考資料
福元水流	ふくもとづる	始良町平松	福元門
	ふくもとかど	重富郷触田村	福元門
	ふくややしき	重富郷平松村	福屋敷
淵上	ふちがみ	始良町上名	淵上門
	ふちわきかど	帖佐郷西餅田村	淵脇門
	ふるやかど	帖佐郷三十町村	古屋門
触田	ふれた	重富郷触田村	
	ふろかど	帖佐郷東餅田村	風呂門
別当後	べっとううしろ	始良町豊留	別当門
	ほかぞのかど	山田郷下名村	外園門
	ほかやしき	山田郷木津志村	外屋敷
星原	ほしさら	始良町平松	ほし原の門
	ほりのうちかど	帖佐郷中津野村	堀之内門
	ほりのうちかど	帖佐郷東餅田村	堀之内門
	ほりのうちかど	重富郷触田村	堀之内門

姶良の門名 (7) ま行 63門

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
前田	まえさこかど	帖佐郷西餅田村	前迫門	
	まえさこかど	山田郷上名村	前迫門	地誌備考資料
	まえだ	姶良町平松	前田門	宗門改
	まえだかど	帖佐郷東餅田村	前田門	
	まえむらかど	山田郷木津志村	前村門	地誌備考資料
	まえやまかど	重富郷船津村	前山門	宗門改
	まごめかど	帖佐郷三十町村	馬籠門	
	ますだかど	山田郷下名村	増田門	地誌備考資料
	ますだかど	重富郷船津村	増田門	宗門改
	ますどめやしき	重富郷平松村	増留屋敷	宗門改
	ますみつかど	帖佐郷豊留村	増満門	
	ますみつかど	帖佐郷西餅田村	増満門	
	ますみつかど	帖佐郷東餅田村	増満門	
	ますみつやしき	重富郷平松村	増満屋敷	宗門改
	ますみつかど	帖佐郷深水村	増満門	
	ますみつかど	重富郷触田村	増満門	宗門改
馬立	またて	姶良町北山	馬立門	地誌備考資料
	まつえだかど	帖佐郷三十町村	松枝門	
	まつおかど	重富郷平松村	松尾門	宗門改
	まつさこかど	重富郷平松村	松迫門	宗門改
	まつしたかど	帖佐郷東餅田村	松下門	
	まつしまかど	重富郷船津村	松嶋門	宗門改
	まつばやしかど	帖佐郷寺師村	松林門	
	まとばかど	重富郷平松村	的場門	宗門改

馬渡 三角	まわたり みすみ みすみかど	姶良町三拾町 姶良町東餅田 帖佐郷住吉村 帖佐郷三十町村 山田郷下名村 重富郷平松村 重富郷平松村 帖佐郷中津野村 帖佐郷増田村 山田郷下名村 山田郷北山村 帖佐郷深水村 重富郷平松村 始良町平松 帖佐郷中津野村 山田郷北山村 山田郷木津志村 重富郷触田村 始良町寺師 山田郷大山村 帖佐郷深水村 帖佐郷豊留村 帖佐郷三十町村 重富郷平松村 帖佐郷増田村 始良町木津志 始良町豊留 重富郷平松村	馬渡門 三角門 三角門 三角門 溝上門 溝口門 溝添門 水口門 南門 南園門 南園門 宮内門 宮下門 みやじま みやぞのかど みやぞのかど みやぞのかど みやぞのかど みやた みやたかど みやたかど みやわきかど みやわきかど みやわきかど みやわきかど むかえわき むろたかわはら むろやかど
宮島	みぞうえかど	帖佐郷下名村	溝上門
	みぞぐちかど	重富郷平松村	溝口門
	みぞぞえかど	重富郷平松村	溝添門
	みなくちかど	帖佐郷中津野村	水口門
	みなみかど	帖佐郷増田村	南門
	みなみぞのかど	山田郷下名村	南園門
	みなみぞのかど	山田郷北山村	南園門
	みやうちかど	帖佐郷深水村	宮内門
	みやしたかど	重富郷平松村	宮下門
	みやじま	始良町平松	みや嶋屋敷
	みやぞのかど	帖佐郷中津野村	宮園門
	みやぞのかど	山田郷北山村	宮園門
	みやぞのかど	山田郷木津志村	宮園門
	みやぞのかど	重富郷触田村	宮園門
	みやた	始良町寺師	宮田門
	みやたかど	山田郷大山村	宮田門
	みやたかど	帖佐郷深水村	宮田門
	みやわきかど	帖佐郷豊留村	宮脇門
	みやわきかど	帖佐郷三十町村	宮脇門
	みやわきかど	重富郷平松村	宮脇門
	みやわきかど	帖佐郷増田村	宮脇門
	むかえわき	始良町木津志	向江脇門
	むろたかわはら	始良町豊留	室田門
	むろやかど	重富郷平松村	室屋門
向江脇 室田川原			地誌備考資料

	もちだかど	帖佐郷西餅田村	餅田門	ひ式はま	地誌 第三
	もとまえはらがど	重富郷平松村	本前原門	ほくぜんはら	
	もりしげかど	帖佐郷西餅田村	森重門	もりしげ	
	もりながかど	帖佐郷寺師村	森永門	もりなが	
	もりながかど	帖佐郷西餅田村	森永門	もりなが	
	もりながかど	重富郷平松村	森永門	もりなが	
	もりながかど	重富郷船津村	森永門	もりなが	
	もりみつかど	帖佐郷豊留村	盛満門	もりみつ	
	もりみつかど	重富郷触田村	森満門	もりみつ	
	もりやまみやた	始良町平松	森山門	もりやま	
森山宮田	もりやまかど	重富郷船津村	森山門	もりやま	

始良の門名(8) や行 29門

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
	やすだかど	重富郷平松村	安田門	宗門改
	やなぎかど	帖佐郷東餅田村	柳門	
	やなぎさこかど	帖佐郷中津野村	柳迫門	
	やなぎづるかど	帖佐郷増田村	柳鶴門	
	やなぎもとかど	重富郷触田村	柳元門	宗門改
	やましたかど	重富郷春花村	山下門	宗門改
山之口	やまのくち	始良町上名	山之口門	地誌備考資料
	やまのくちかど	重富郷春花村	山之口門	宗門改
山ノロ	やまのくち	始良町平松	山の口の門	水田坪付帳・宗門改
	やまのくちかど	重富郷触田村	山之口門	宗門改
	やまのやしき	重富郷平松村	山野屋敷	宗門改
	やまもとかど	帖佐郷西餅田村	山元門	
	よしなかかど	重富郷平松村	吉中門	宗門改
	よしはらかど	帖佐郷東餅田村	吉原門	
	よしはらかど	重富郷平松村	吉原門	宗門改
	よしみずやしき	山田郷下名村	吉水屋敷	地誌備考資料
	よしみつかど	帖佐郷西餅田村	吉満門	
	よしむらかど	始良町住吉村	吉村門	
	よしむらかど	帖佐郷寺師村	吉村門	
	よしむらかど	重富郷平松村	吉村門	宗門改
	よしむらかど	重富郷触田村	吉村門	宗門改
	よしもりかど	帖佐郷西餅田村	吉盛門	
	よねざわかど	重富郷春花村	米沢門	宗門改
	よねざわかど	帖佐郷東餅田村	米沢門	

よねまるかど	重富郷触田村	8	米丸門	宗門改	合
よねみつかど	帖佐郷東餅田村		米満門		
よねもりかど	重富郷船津村		米森門	宗門改	合
よねもりかど	重富郷触田村		米森門	宗門改	
よりまつかど	帖佐郷住吉村		拵松門	宗門改	

始良の門名 (9) わ行 7門

地名	よみ	大字	門名	初出・その他
脇ノ丸	わきかど	帖佐郷住吉村	脇門	さゝのま中
	わきかど	帖佐郷西餅田村	脇門	さゝきのま中
	わきぞのかど	帖佐郷中津野村	脇園門	さゝくわのま中
	わきぞのかど	帖佐郷深水村	脇園門	さゝくわのま中
	わきたかど	帖佐郷西餅田村	脇田門	さゝたけいじえ
	わきのまる	始良町寺師	脇ノ丸門	さゝさねじえ
	わだかど	帖佐郷寺師村	和田門	さゝさねじえ

近門宗	門跡吉	林田緑西裏邊津	さやぐるじえ
近門宗	門跡吉	林吉平裏邊津	さやさひじえ
近門宗	門跡吉	林賀平裏邊津	さやさひじえ
近門宗	門跡吉	林谷平裏邊津	さやさひじえ
近門宗	門跡吉	林田緑西裏邊津	さやぐるじえ
近門宗	門跡吉	林谷春裏邊津	さやさひじえ
近門宗	門跡吉	林田緑東裏邊津	さやぐるじえ

# 地名研究会報

第15号

昭和62年3月1日

鹿児島地名研究会

I. 第15回例会 昭和61年11月30日(日) 姶良町上名の現地巡検

(出会い者) 江之口汎生・霧島一浩・西園一俊・富永清志・肥後芳尚・平田信芳・松浪由安・松田 誠

(計8名) 姶良町文化財審議委員の谷口純男氏に案内していただいた。

当日の成果については「石の鹿児島」18、で公表した。本号の末尾にコピーを付けてある。

## 塔畠町(とうせまち)

谷口 塔畠町の所に昔の五輪塔があります。

平田 ほほう、かわいい五輪塔が二つあるよ。

谷口 この付近から上が塔畠町です。この五輪塔については、兄弟喧嘩をして殺されたんだと、ここの人たちは言います。

江之口 喧嘩でん、したたろでや。

松田 ここに五輪塔があることは、昔は田圃でなかったと言いがなっとでは。

江之口 それはわからんな。ここで喧嘩でもしたたろでや。

谷口 ここの人たちはそう言うんです。兄弟喧嘩をして殺されたんだと。

西園 そういう感じがする。

平田 兄弟喧嘩をして殺されたんだって?

西園 兄弟喧嘩かどうか、わからんな。

谷口 年号でも入っておればわかるんですが。

西園 全然それはないのですね?

谷口 田圃の中にであることから、地の神として祀っているようです。

西園 田之神として?

谷口 そうです。

平田 これは桃木野石だね。

霧島 桃木野石とは?

平田 加治木の桃木野で採った石。これは古そうだね。

谷口 1554年まで渋谷氏の一族がここに住んでいました。

江之口 本田先生がおいやはよかったです。

平田 この五輪塔は上と下が違う。上は桃木野石だけ、下は?

松田 これと上と合いますか?

平田 合わないよ。

谷口 もともとは田の中にあったらしいです。整地したもんですから、ここに移したと言っているようです。

江之口 ここはいわゆる塔畠になるわけですね。

谷口 そうです。ここから道路の所まで。

平田 田圃の大きさについて、この辺では「セマチ」という言い方をしますか?

谷口 そうですね。セマチということも言いますね。ヒトセマチということもありますね。

平田 フタセマチとか。「セマチ」とは一反のことですか?

谷口 いや、そうじゃないようです。

江之口 セマチというのは、一つの、何ちうの、群落というか、そいを言うでやね。セマチが広かとか狭かとか言うでや。

谷口 ヒトセマチとかフタセマチと言いますよ。

平田 広かとか狭かとか言うの?

江之口 だから広ければ大セマチになるし、狭け

1

れば小ゼマチと言うでやね。

谷口 ウゼマチと言いますよ。

江之口 宮之城に「ウゼマチ」という所があつてやね。なんちうの?一つの囲いとか。

谷口 田圃の区画を言う。

平田 区画の言い方ですか?

江之口 それが狭いとか大きいと言うでやね。

平田 大ゼマチとか?

江之口 川内でも、どこでも。

谷口 ウゼマチと言いますね。

平田 ウゼマチ?コゼマチとは言わんのだな?

谷口 コゼマチもありますよ。

平田 コゼマチ?

江之口 オオゼマチは宮之城にある。地名が。

平田 ああ、そうね。

江之口 そこに田之神がある。

平田 そうすると、トウゼマチと言った場合は数詞の「十」になるのかな?

谷口 「トウ」は、石の塔。

平田 塔があるから塔畠町?

谷口 塔畠町と書いてあるでしょう。下名の方は当畠町。

平田 五輪塔があったから塔畠町になった。なるほどな。

谷口 それは、ちょっとわかりません。

平田 それにしても理解に苦しむ。

谷口 こんな所に町があるはずがないですよね。

江之口 だけど、セマチ・セマチと言うじゃないですか。

平田 セマチが主になるんじゃないですか。だけど、その隣に比良町というのある。

松田 これは比良町(ヒラチ)と言わずに「ヒラ」と言ってるようです。

谷口 ヒラですよ、ここはヒラです。

平田 その上の方が?

谷口 この並びを。

肥後 その上が上之段(ウエンジン)?

谷口 比良町と書いてあるのは、私が町誌に載せる以前に作ったものですから。

江之口 ヒラと言うの?

平田 マチはいらん。

谷口 普通は「ヒラ」と言いますね。

平田 このマチは、読まないですね。

谷口 比良という苗字もあります。それからですね、皆さんの地図で川原というのがあるでしょう。左の修正田(ショウセイテン)の下に、川原がありますね。そこに大きな井戸があったそうです。昔から。

平田 奈良袂(ナラヘト)の所に?

谷口 はい。奈良袂の北の方です。そこに井戸があって、水を汲みあげていたと言っています。そして、開田をする時につぶしてしまった。昭和27年、私は山田小学校にいました。ちょうど此処を整地する時に、岩の中に入っていたと言って大きな骨を持って来られたことがありました。今もあるかわからりませんが。

江之口 その井戸というのは普通の井戸ですか?

谷口 普通の井戸です。大きな石で積みあげた。

江之口 井戸があっけ?

西園 (地図を見ながら) この辺にならせんですか?

谷口 はい、川の向こうです。新しい家がある、あの下の方です。

平田 答西(トウセ)については、家のそばで土器の破片でも見付けた方が早いね。

谷口 それからですね。黒島神社の橋は古いのです。これは、えーと、天明年間ですか。

平田 石橋があるのですか?

谷口 石橋があります。鹿児島の五大石橋よりも古いで。

平田 それは見に行かにゃならんな。遠いのです

か?

谷口 いいえ、ここを真直ぐ行けば。

平田 ジャー、そこへ行きましょうか。その橋を見に。

江之口 ジャッծん、この辺は平田とか開キとか新開とか、川原もそうだろうが、開墾地名が多い。後でものすごく手が入っている感じですね。

谷口 鈴木三郎と関係があれば、和銅年間から開墾したということですね。だから、ここを上名といい下名と言うのですね。名田を上と下に分けて上名・下名と。このような考えも起きるわけです。だから、ここを山田——

江之口 黒島神社というのは棟札があったわけじゃないでしょう。多分、伝承でしょう。和銅年間の創建というのは。

谷口 いや、住吉神社を開いた人が弟をここに住ませた。書いたものがあればわかりますけど、書いたものはないのです。多分難題です。

江之口 和銅年間というのも多いですよ。

松田 あんまり、そげん言うてん。

江之口 古いのは大概和銅・和銅と言うておる。

平田 和名抄の例では「答」は皆「トウ」と読んでいますし、「西」は「セ」としか読まないので、「トウセ」と読むわけです。「トウセ」と読む地名なんて現実にないと思っていたら、姶良町の地名を打ち込む時に二箇所も出て来たもんだから、トウセの地名が残っているなどの感じを持ったわけです。「セマチ」という言い方がどんなものか?フタセマチとかイツセマチとかナナセマチとかトウセマチというものが出て来れば、数詞が付くのだがと思っているのですが。そんな例があるのかな?

谷口 薩摩郡の方では一つの田圃を「セマチ」ということもありますね。

平田 山田という地名が付いている所は古くから開発された所のようですから、答西郷というのが

あっても不思議ではない。

谷口 ここへですね、諏訪神社があつたりしたと言うのは、古くから開けていたことを示すんじゃないでしょうか。その上の山に神社の跡があるて、石塔・石碑がありますから。

平田 ジャー、その古そうな橋の所へ行って見ましょうか。

黒島(くろしま)神社

平田 この石橋ですね。あー、天明四歳。

西園 この石碑はいつですか?

平田 天明四年。これは古い。

江之口 1770年代だね。天明四年が入っている。相良の名が入っている。

平田 きれいに掃除をして、文字を写しておけば江之口 こげなども記録しておけば、よかじやがねー。先生、川内は石塔編があつでね。

平田 わかってる。

江之口 あれを各市町村がしてくれれば、よかじやがね。どこもせんでやね。

平田 奉寄進石橋一流。面白いな。ちゃーんと名前が書いてあるよ。これを読めば何かわかるかも。ついでだ、これを読んで帰ろうや。

江之口 書けば暇がいっと。

平田 書いた方が早い。

江之口 先生がそれに打っ込めば、あとが大変だ

平田 松田さんが地元だから、そのうちゆっくり写してもらおうかな。

山田城跡

谷口 これは文禄年間、1526年頃。

平田 その頃は大永じゃないですか。

谷口 大永ですね、1527年頃、渋谷氏に滅ぼされ渋谷氏の所領になったわけです。

平田 もう一時になりました。腹がすきました。お急ぎの人はどうぞ。そろそろ解散しましょう。

### 天福寺（てんぶくじ）磨崖仏

谷口 硬灰岩。やわらかいでしょう。

平田 これを石として使いますか?

谷口 いいえ、使えない。

平田 摩崖仏専用？

谷口 ここを子安觀音と言ってるようです。もう  
わかりませんよね（磨滅甚大）。その真ん中が釈  
尊。慶長十年という年号がまだ見えています。

平田 寛延三年（墓石を見ながら）。

谷口 寛延というのは1740年代じゃないですか。

西蘭 慶長といふのはどこに？

谷口 この並びにあります。義弘は慶長十二年に  
加治木に移りますから。文祿之役で連れて来た陶工  
も一応は帖佐に住んだわけで、瀬戸の方に5年ぐら

い研修に行ってるんじゃないですか。竜門寺焼の芳仲がですね。

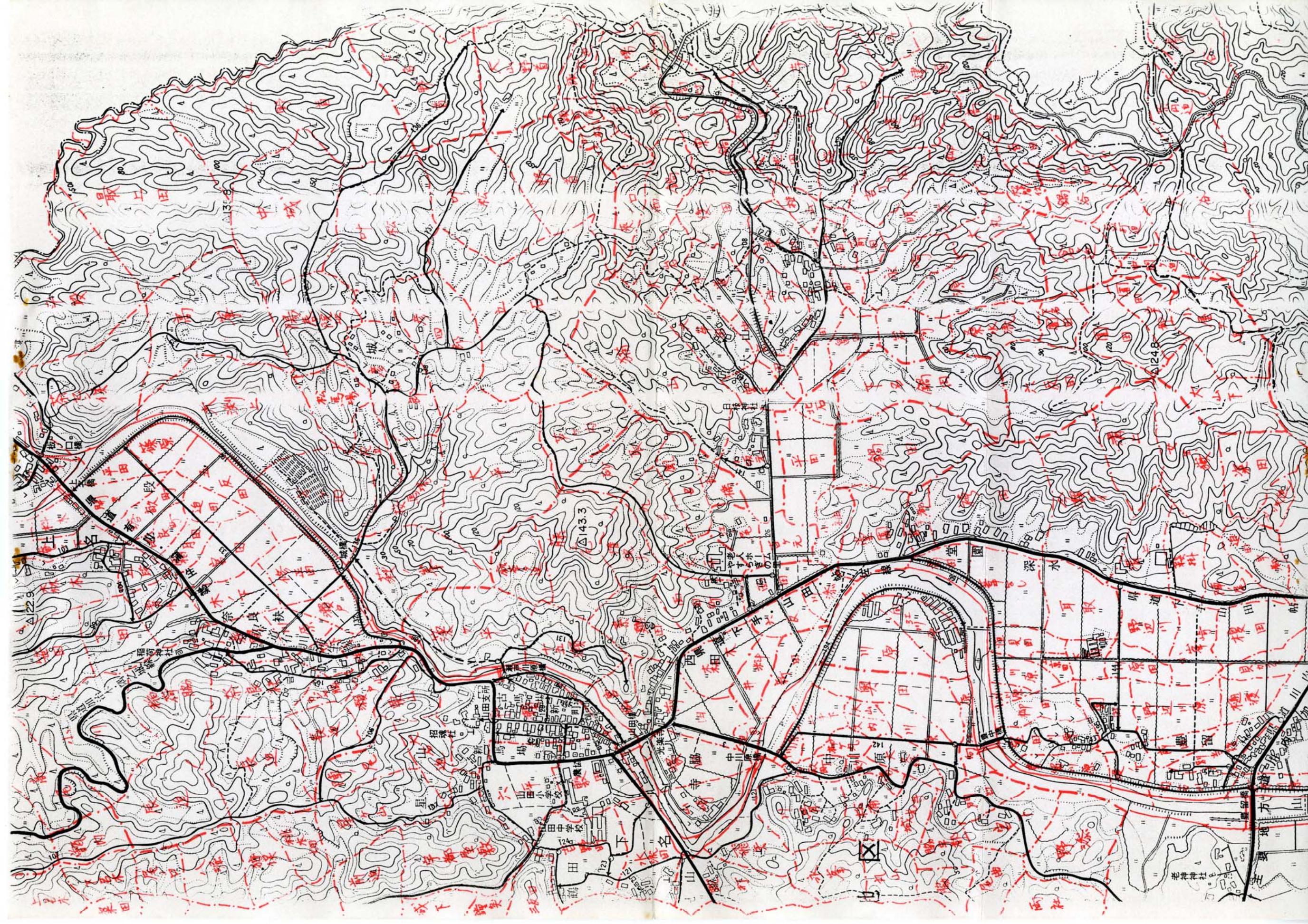
平田 帖佐焼の人などは、ここに葬られたのですか？

谷口 そうじゃないです。ここには墓があったかどうか。ここに墓を作っていますけども、実際は、先程見ました隠れ念佛あったあたりにいかっています。さっき、人家を尋ねたでしょう。あそこは星ヶ山と言います。星山仲次という名前の家系文書があるんですよ。ですから、あちらの方で亡くなったんじゃないかと思います。

平田 星ヶ山をとって苗字としたんですね。

谷口 はい

(以下略)



# 地名研究会報

第16号

昭和62年6月7日

鹿児島地名研究会

I. 第16回例会 昭和62年3月1日(日) 於教職員互助組合会館

(出席者) 青柳俊二・池田信夫・小川亥三郎・片岡八郎・唐鍊祐祥・霧島一浩・木場武則  
鮫島裕子・中村明蔵・肥後芳尚・平田信芳・二見剛史・本田碩孝・松田 誠・  
松浪由安・山崎盛隆・板山さん (計17名)

II. 覧藩名勝考説会 P. 46~P. 53

(問題となった地名および事項) 榎之浦・僧都・紫尾山・瀧・カセ・大伴旅人・南方神社・諏訪神社・  
竹田・法隆寺・羽月

## 榎之浦(つきのうら)

平田 『阿久根の地名』を見ると、榎之浦は榎木の浦と船が着くとを掛けて説明していますが、もう一つ月がきれいに見える場所というのも考えられます。榎木が生えている所によった植生地名と船着場の着きの浦とを掛けて難しい「榎」の字をあてたのじゃないかと思います。日本人は懸詞が非常に好きですから。

## 僧都(そうず)

平田 『隼人文化第17号』に書きましたが、「僧都」というのは、覧があって水がたまって来ると、はねて落ちる仕掛けがありますね。あれを言いますから、それがある所に僧都という地名がよく付くのであって、なにも俊寛僧都に限る必要はない。僧都という地名が俊寛僧都に結び付くのであれば、鹿児島県いたる所に俊寛僧都関係の地名が出て来ることになる。

二見 喜界にもあります。

平田 鬼界島に流されたわけですから。果たして平安の末期の喜界島がこちらの勢力範囲であったかということは疑問です。硫黄島のことを鬼界島といふんじゃないの。中村さん、あの時代は?

中村 平家物語では、どうも硫黄島のような。

火山があるというような感じ。喜界島のような平坦な所ではないと思います。

## 紫尾山(しべさん)

平田 ここで問題にするとすれば紫尾。紫尾というのは難しそうですね。来る途中ふと考えたんですけども、「シビヤマ」とは言わず、「シビサン」と言いますね。そういう言い方は富士山(フジサン)という言い方に似てる。霧島山(キシマヤマ)と言ってキリシマダケとは言わないですね。開聞岳(カレンダケ)と言って、「カイモンヤマ」とは言いませんから、そういう山の呼び名は時代的な背景があるんじゃないかなということです。「シビ」は柴引(シハキ)が訛ったんだとか、それから死人山(シビトヤマ)が訛ったんだというような解釈が紹介されていましたが、紫尾という意味は、一体なんですかね。当て字にしてもおかしいし。

二見 伊佐郡というのは広かったんですね。

平田 伊佐郡ですか。

二見 鶴田村からですか。

平田 この伊佐郡というのは、中世にひょっこり出て来る郡です。

中村 和名抄の伊作郡にあてるのは、明らかに誤りですね。

平田 和名抄の読みは「イサク」です。それ（伊作）とこれ（伊佐）とは同じではないわけですね。伊佐郡は現在の薩摩郡の範囲も含んでいたんじゃないですか。

二見 南伊佐とか言いますね。それから紫尾村というのがありますが、鶴田郷にあったんですか。

平田 紫尾神社というのは行ったことがないのであっちの方は知らないのですが、上と下にあるというわけですね。上が上宮で、下が下宮としてあります。あの辺に詳しい本田先生とか江之口さんが今日は来とらんからなー。

二見 伊佐郡鶴田郷というのは、今の薩摩郡の鶴田でしょう。

平田 そうです。

二見 そうすると、出水や薩摩の方に紫尾神社があると書いてあります。

平田 そりゃ、山の東側と西側でどうから、それぞれ祀る場所があるんじゃないですか。

中村 二見先生、霧島を祀る神社というのは霧島の周辺にいっぱいありますよ。霧島の名前の付いた神社が。宮崎県側にもかなり霧島という名の神社があります。

小川 紫尾山側の紫尾神社は、床下から温泉が湧いている。その湯気でしづくが落ちる。そんなことから来てるのかなと思ったりします。

平田 国語辞典を見て来る暇がなかったんですがシビと付くのは、寺院の屋根の上に付けられるシビと鮎のシビがありますね。その他に、シビという意味のものがありますかね。

片岡 ヒビ割れのヒビはシビにはならんですか？ 割れ目。

平田 割れ目ですか。

片岡 なんか女性を連想する割れ目があって、ヒビ割れがシビと訛ったんじゃないかな。勝手にそんなことを考えてますが。モッショム岳を回った時に、

ちょこっとそんなことを考えたもんですから。ちょうど女性の性器だったもんですから。

平田 それはあり得ると思います。有名なのでは東京と横浜の間の保土ヶ谷ですね。ツビはありますか？ そう言った性器の呼び名が残って、いつの間にか難しい字が付くということも考えられますけど。紫尾の場合は？

片岡 どっかの角度から見れば、ちょっと丸味が見えるんじゃないですか。紫尾神社に行った時、ちょっとその辺をうろうろしてみたんです。そういうように見える所はありませんでした。

平田 それからもう一つ、藤原仲麻呂が紫微中台という官職名を採ります。一体、紫尾というのはなんだろうかな。

二見 高尾野の方は柴引という字を書いてますね 平田 シバヒキですね。

二見 鶴田の方はシビ？

平田 シバは柴立とか柴引とか、いろいろ例があるシバでしょうから。

### 灘（すくい）・カセ

平田 50ページの6行目。大灘・小灘とありますが、この「スケイ」というのは何だろうか？ 次の行の「カセトウ」。「カセ」というのは一体なにか。加世田という地名とか、カセダ打ちという行事がありますが、「カセ」が一向にわかりません。

小川 「スケイ」というのは垣漁と同じ。島の方に垣漁というのがある。海岸に垣根を作つて、潮が満ちて来ると、魚がその辺にばたばたしている。

平田 なるほど、あっちの方にはスケイ漁というやつがあるわけですね。

小川 それから来とるのでしょうか。

平田 あっちの方には、スケイ漁という海の中に石垣を築く漁法がありますね。なるほど。

片岡 穏。サンズイに鹿でスケイと読む。

平田 そうですね。

片岡 米之津の方にもありますよ。スキを作ると言っている。

小川 そうですね。

平田 まあ、それも隼人の古代的な漁法でしょうね。

小川 あっちの方には、スクイ漁が多いですね。

平田 なるほど。一つ手がかりが得られたようです。「カセ」はどうですか。さっぱりわかりませんが。カセというのも、いろいろ意味があり、手かせ足かせのかせ。鹿の古語をカセと言い、カセ杖の表現もあります。鹿児島県には鹿に関係のありそうなのがいろいろ出て来ます。獅子島も、鹿に由来するのでしょうかから。

### 大伴旅人

二見 大伴旅人はどういうふうに動いているのでしょうか。何か調べる手だては？

平田 続日本紀と万葉集だけだと思います。720年の隼人の反乱では、大伴旅人は征隼人將軍。

二見 歌人というよりも武人と言った存在ではないのですか。

平田 そうです。大伴旅人が大宰帥として来たことによって、歌が盛んになり、それが母胎になって万葉集が、その息子の家持によってまとめられることになるんじゃないでしょうか。

### 万葉集？

平田 大伴旅人や大伴家持の動きは、万葉集をやられる方々よってある程度整理されていると思います。万葉集関係の注釈などを集められたら大伴旅人の動きはわかるんじゃないでしょうか。その方が早いようです。

二見 比売城（姫城）の辺まで来たというのを聞いたことがあるんですが、何を見たら載っているんですか？

平田 大伴旅人は果たして国分まで来たんだろうか。副將軍が隼人征討のため来はいるが。

二見 今の城山公園あたりがなかなか陥ちなかつたと、旅人が歌いでいる歌があるとか。

平田 それは総指揮官ですから大宰府のあたりに居て歌いたかも知れませんけど。

二見 そういう意味ですかね。旅人の歌があるということは何かあるんじゃ？

平田 薩摩之迫門あたりまでは来た可能性もあるでしょうし、また歌枕も成立する頃ですから、来ていなくても、有名な地名を勝手に折込む歌のテクニックはあります。

二見 旅人を送ったことは、何か意味が？

平田 実際に黒之瀬戸の流れを見て、こういう歌を詠んだと思いますので、あの辺まで来ていることは確かでしょうね。感じからいうと。大伴旅人が乗りこんで来るのは隼人を抑えるために大伴氏の総帥のお出ましが必要だったのでしょうか。

### 南方神社（みなみかたじんしゃ）

鮫島 南方神社というのが、地図で見たら、鹿児島県下に13あります。それで——

平田 昔は諏訪神社と言っています。明治になってから南方神社と言えさせられるのじゃないですか。

鮫島 13あるようですが。

平田 13というのは少ないんじゃないかな。神社の種類を、春日神社とか住吉神社とか熊野神社とか数えてみたら、もっと多いですよ。

鮫島 地図で数えたら南方神社が一番多いようです。この地図では。

平田 ああ、その地図では。

鮫島 載っているのは有名なしかないでしょうねけど、諏訪神社というのが一番多い。長野県の諏訪神社、あれから来たのでしょうか？

平田 そうです。

鮫島 あれの下の段が南方神社というと、そのように書いてあるんですが。

平田 諏訪神社の祭神が建御名方主神。そのミナ

カタを南方と付けたのかなと思うたりしますけど。それは兼ねたんでしょうね。南方神社と呼ぶようになるのは、わりと新しいんじゃないですか？古くからそうは言ってないようです。

鮫島 それから四天王というんですか、東西南北に配置する神様から、南が来たのかと思って。東方とか西方とか。その神様から来たんだと書いてあるのを見たんですが。

平田 なるほどね。

鮫島 鹿児島が南の国だから、南を守る神様ということから来たとも書いてあったようです。

平田 それはあり得るでしょうね。それから、麓には必ず諏訪と八幡を配置しますからね。

唐鑑 南方神社と諏訪神社のこと。上の方が諏訪で、下の方が福ヶ迫諏訪ともいう。今の長田神社のことです。その分化した形が考えられます。

平田 上諏訪と下諏訪という考え方？

唐鑑 諏訪神は二神ですか、二つの神がある。鹿児島の場合も諏訪の方が古いんです。福ヶ迫諏訪が今の長田神社ですね。普賢院というのが、長田神社の神宮寺ですか。それから南方神社にも、やっぱりお寺があって、そこでいろんな祭儀をやるんですね。そういう関係で廃仏毀釈の時につぶされあるいは名前を変えしていく。鹿屋もそうです。五代院が諏訪の神宮寺。それもつぶされています。

平田 ジャー、廃仏毀釈の時に名前を変えた？

唐鑑 こちらでは神社はほとんどお寺が管理していますから、ほとんど一緒につぶされたんじゃないでしょうか。ですから、その時一緒に移されたんじゃないでしょうか。

平田 ああ、そうですか。

唐鑑 まあ、そういうこともあったんじゃないでしょうか。さっき言った上と下の関係、諏訪神が動いているようです。

中村 もう一つですね、うろ憶えなんですが、島津氏が信濃国と関係があり、それで鹿児島には多いと云われています。

鮫島 あの、薩摩義士との関係？岐阜県の治水工事の時の。

中村 いえいえ、そういうことじゃなくて、もっと遡るんですね。島津氏が荘園を持っていたのか、そんな関係だったろうと思うんですね。

唐鑑 それで、そういう関係のものがこちらに来て、諏訪神も九州に来た？

中村 ちょっと、僕もうろ憶えではっきり説明出きないので、やっぱり、島津氏のなにか出自に関係のある、ある種の荘園があそこにもあった。長野県にあった。

片岡 島津氏が二つに分かれている。

平田 いや、分かれるのは越前島津。島津忠久が初めの頃、信濃国に領地を持っており、薩摩に下って来てから、諏訪神をこちらに勧請して、広まって行くわけです。

唐鑑 稲荷神と諏訪神というのは、こちらに多いですね。島津氏との関係で。

竹田と武田

鮫島 違う質問ですが、竹田神社というのが加世田にあるんですね。それは日新公を祀っている。竹田というのは、普通の竹ですね。竹田神社所在地の地名というのは、武田。何故、竹という字が付いたのかということです。

平田 地名を漢字で表す場合はいろんな表し方をしますから。

鮫島 竹藪がそばにあったから竹田と付いたかなと思って。

平田 それもあり得るでしょうけど。

鮫島 地名は武田なんです。昔からそうなのに、何故、武田神社としなかったのか。

平田 竹と武は同じように「タケ」と読みますが

竹と書くとあっさりしそうだから重々しいのを書いてみたり、重々しいのは嫌いだから軽いので書いてみたり、役人が書けずにあて字を当てたりしますから、どれが本来のものだったかななかか言いきれないと。地名を考える場合には、まず「音」を重視し、また漢字の意味を踏まえた地名の命名があることも当然あり得ると理解していると思います。

法隆寺

鮫島 もう一つ、法隆寺というお寺が鹿児島県に二つあります。川内市に薩摩国分寺跡、国分市に大隅国分寺跡がありますが、どちらも国分寺跡のそばに法隆寺があるのです。なぜ法隆寺があるのか？それが不思議なんですけど。法隆寺というのは奈良にある聖徳太子が作った寺ですが、なぜ薩摩国と大隅国に法隆寺という寺があるのか判らなくて。

平田 それは私も知りません。

鮫島 法隆寺との関係は？

平田 肥後先生、どうですか、国分の法隆寺は。

肥後 国分市で、町の真ん中ですか？

平田 そうです。その法隆寺が、いつ出来たかということですが。そんなに古いことじゃないんじゃないですか。廃仏毀釈後だと思いますが。

肥後 ええ、そんなに古いもんじゃありません。

平田 廃仏毀釈後ですよ。たまたま大隅国府の所在地と薩摩国府の所在地に法隆寺というのがあるとしても、昔からあった寺じゃないようです。

鮫島 ああ、そうなんですか。

平田 最近のお寺の名前の付け方は、ちょっと判

## 日頃疑問の地名

りません。国家的な立場で宗教統制が出来ない時期ですから。お坊さんが勝手にいい名前をお寺に付けたんじゃないでしょうか。それが偶然一致したと見てもいいのじゃないですか。

鮫島 でも、国分寺のそばだから。明治以降にしても、お寺があるのは事実ですから。

池田 私どもは川内なんですが、川内に法隆寺というのがあるんですか？

鮫島 この地図に載っているんです。

平田 待てよ、川内に法隆寺というのがありますか？

木場 あるとすれば、最近ですから、はー（笑）

平田 川内の主がご存知ないです。

二見 （地図をのぞいて）ありますね。南方神社もある。

羽月（はつき）

平田 後半にそう言った問題をテーマにしようとされていたんですが、今日の範囲ではその他に大口・羽月があります。大口も新しい地名で、なぜ大口なのか見当がつきません。羽月も意味がわかりません。

？ 羽月なんですが、出水地名研究会の時、市来さんが江戸時代の地図を持って来られまして、歴代の地図の説明があったんですが、その時の地図に「葉月」が書いてありました。

平田 ははあ、八月という意味ですね。葉月ならば八月のお祭り、そこらあたりに手がかりがある。じゃー、前半は以上で終りにします。

おられますので自己紹介も兼ねてやります。平田です。今日で16回目の例会になりましたが、地名研究会の世話役をしております。会長を置けば会則を作らなければいけないので、会長を置かずして世話役

としました。現在発掘調査をやったり、南日本新聞の夕刊に週1回「石の鹿児島」を連載したり、いろいろなことをやっています。暇な時は角川の地名大辞典の小字一覧を眺めていますが、いろいろな疑問が湧いて来ます。そのうちの一つ、「ミドリ」。小緑・大緑が多いのですが、美鳥・見取・美止利なども同類で各地にあります。一体なんだろうかと考えていますが、その手がかりがつかめません。もう一つは尼包（あゆみ）。雨包・雨堤・天堤など、県下全部を拾ったら50例は超えるだろうと思います。現場を一つも見ていませんが、尼さんを包むというのは一体どうしたことだろうか、変な地名だなと考えています。どなたか、お聞きになったことはありませんか。小川先生、何かご存知では？

小川 今の話で、ミドリから。私が十五・六年前に一度発表したことがありますから。

平田 ああ、そうですか。

小川 大口辺に多いのですが、早く言えば湿田を意味します。

平田 湿田ですか。

小川 ええ、湿田。湿田とか湿地ですね。これは日本の古語でして、元の形は「水泥」と書きます。

平田 ミドロですね。

小川 水泥（みどり）。これが語源です。これは「大言海」などにも出ております。

平田 ミドロが語源。やっぱり、出して見るんですね。有難うございました。

小川 それから尼包（あゆみ）ですが、いつも石が湿っているのです。どんな干抜の時も水が切れず、マンネリ石とか鬱石とか、谷山の奥の方にあるんですが、ああいう種類の石を言います。

池田 宮崎県に山の名前であります。天包山（てんぱい）とかアマツツミヤマという。

木場 アマツツミヤマと言いますね。

平田 アマツツミがテンボウに変ったわけですね

池田 いいえ、両方言ってるようです。アマツツミヤマともテンボウサンとも言っている。

小川 私が宝島に行った時、宝島の人達に湿田を何というか聞いてみた。湿田を「ミドリ」という、宝島では。これは、ほんとの古語ですね。近世の頃まではよく使われていたようです。

平田 はい、有難うございました。

本田 関連して、奄美大島では今でも泉の出る所を「ミデュリ」と言っています。

小川 奄美の方にあるミドリというのは、ノロが水浴びをした所だと解釈されているようです。

本田 ノロの水を浴びる所を、泉から来たというのじゃないですか。こっちでは湿田のことを牟田と言いますね。同じように向うでもムタなんです。これに対して、ミドリというのは、奇麗な水が涌き出す所を言っているようです。

肥後 どうも有難うございました。次、どなたか

平田 順番に自己紹介を兼ねて出してください。

中村 中村です。あんまり考えもしないで来たんですから、問題提起はございませんので通過させてください。

鮫島 はじめて参りました鮫島と申します。仏教のことによく関心を持って来ました。神仏分離令とか廃仏毀釈の地とか、どうしてそうなったのかなど。小さい時から地図を見るのが好きで、暇な時は地図を見ています。たまたま南方神社の数を数えてみたら13もあったから、不思議だなあと考えました。生れはこっちじゃないので、小さい頃から京都とか奈良とかあっちこっち回ってお寺にも関心があります。この地図を見たら法隆寺が載っていたんで、不思議に思って来たんです。

二見 私は溝辺に住んでいます。鹿児島女子大学に勤めております。二見と申します。生れは鹿児島市ですが、本筋が溝辺でございまして、昔の姶良郡山田村の飛地です。網掛川をずっとのぼった一番

行きどまった所なんすけども、そこに竹山という所があります。竹山で育ちましたが、そこを「タカヤマ」と訛っています。地名とか人名に興味を持ちながら育ってきました。私もこちらの鮫島さんと同じように地図を見るのが好きで、小学校5年生の時は夏休み中地図を眺めていた思い出があります。うちの大学の四本健光先生が地名研究会があるから出てみないかということで来ています。自分の名前の二見とか、育った所の竹山とか、こういうのをもとに自分のルーツを探してみようかというのが直接の動機となっています。

小川 指宿に住んでいます小川と申します。私は30年ぐらい前から地名を研究していたわけですけれども、その頃は地名研究などは私一人みたいなものでした。最近は非常に盛んになって大変喜んでおります。地名は判らんことだらけで、果てしがないです。判らんことばかりですが、やって行けば楽しみもあります。

青柳 下伊敷の方に住んでいます。鹿児島は道端を細かく見て行けば、いろんな遺跡というか、墓とか塔とか功績碑とか、いろいろあるようです。地名的なものも多い。徹底的なことが判らないもんだから、その意味で参加させて頂きました。質問ですけど、いっぱいあるんですけど。

最初気が付きましたのは、吉野に花棚・花倉、伊敷の上の方に花野という地名があります。花（ケ）というのに、なにか共通性があるのではないかということなんです。ご存知でしたら教えてください。

平田 それはこの地名研究会の第1回例会でも問題になりました。海の方から花倉・花棚・花野と並んでいる。この「ケ」というのは単なる接頭語なのか、非常に難しい内容をもっている地名です。姶良の方に春花（ハス）、奄美大島の方には花天間（ハチハ）とか、まだいくらでもあります。古い時代の内容をもった言葉で、この「ケ」が解明出来たらというよ

うな非常に難しい内容のものです。皆目わかりません。そういう状態です。それでよろしいでしょうか

青柳 何かヒントになるようなことはないですか。吉野の郷土史によると、花倉は島津の殿様の狩場ですか、狩倉だという。そういうことだろうかなとは思ったんですが、「狩」だったならばカクラとなるのが本当で、狩倉と書いて鹿児島の言葉遣いで「ケクラ」と読めるのかなと疑問になったんですけど。

平田 そこは難しいじゃないですか。鹿倉山（からやま）・狩倉（から）・皆倉（かくら）などいろいろありますが、「カイ」が「ケ」になって「ケクラ」と変るという、今、疑問に出されたようなことは第1回例会でも論議されました。皆、同じような疑問を持っているわけです。「カイ」が「ケ」というふうに変って來るのであれば、これは變って來たに違いないのですけども、「カリ」が「カイ」になってそれが「ケ」になる可能性はある。そして「花」というあて字をあてたと考えられるんでしょうが、現段階ではクイッショニマーク。ただ解決の方法としては、鹿児島県にある「ケ」の付く地名・「狩」の付く地名・狩倉とか皆倉とか、そういうものをリストアップして地図の上に落して見ると、何か手掛かりがあるかも知れない。その作業を誰もやっておりません。それをやってみて、何も得られなかつたにせよ、そういう作業をしてこういうことだったという一つのステップは踏むことになるとは思うのです。そういうことを、まだ誰もやっておりませんので、青柳さん、一つ頑張って花倉・「ケ」を整理して頂けたら有難いと思うんですが。非常に難しい問題です。

本田 本田碩孝といいます。伊集院小学校に勤めています。民話の方を勉強していまして地名伝承の方から地名にも少し関心を持っています。出身が徳之島だから、それに比べながら何か得ら

れないとおもいました。伊集院の地名の由来は昔イスの木がたくさんあって、それがイジュウインになったんだと伊集院郷土史に書いてあります。それも研究者がそう言ったということを書いてないんですが、これが伊集院の地名の由来として定着しつつあるのに疑問を持っているところなんです。この地名研究会報の第1号でしたか、「イシウ」という石が生まれるという方から来たのじゃないかなとの提起がしてありましたけれども、そのようなのが、いろんな方面で出て来れば有難いと考えています。現在、麦生田(まいた)という所に住んでいるんですが富多(ツンダ?)というのが麦生田に变成了んじゃないかという説を、ちょっと見たことがあります。そのように地名がなくなるということ、新しい読み方が生まれるということなどについて関心があります。いろんな小字がどんどん消えて行くのも残念に思っています。そのようなことを勉強させて頂きました。

平田 ちょっと質問します。ツツミダが麦生田に变成了というの?

本田 その字はよく読めないので「ツツミダ」とかいうーー

平田 ツツミ?

本田 ツツミかツツンか、よく判りませんけど。振り仮名が付けてないもんですから。結局、和名抄か何かにその名前はあったんで、それが現在の地名に比定できないんですね。3号線にチエストという所があるんですけども、あの村近をそのように言ってたから、そこから来たんじゃないかと書いたのがありました。

唐鑑 鹿屋地方では、麦田という所は湿田じゃなく、麦作が出来る所を言います。

平田 麦作が出来る所が麦田。なるほどね。

板山 私は今日初めて参加させて頂きました。昨日、新聞を見てこの会があることを知りました。

平田先生に電話しまして、誰でも参加して良いということで参りました。歴史が好きで、暇で史跡を見て歩いたり、いろんな会合に参加させてもらっています。私の郷里は吹上町です。会報14号に花熟里と載っていますが、私はこれをてっきり花の熟する里と思っていました。これはすぐそばの部落です。昔から「ケジュクリ」という珍しい名前で、よく聞かれます。南薩方面へバスに乗って帰る時も、花熟里という停留所はですね。何と読むですかと聞かれことがあります。珍しい地名だなあと、今更私もこの会で知ったような次第です。

平田 お名前は?

板山 板山です。現在、鷹崎町に住んでいます。平田橋を渡った所に住んでいます。

名突(なづ)

片岡 片岡八郎でございます。生まれつきエッチなことが好きで、十日ぐらい前、ネパールに行ってきました。ネパールというのは、お釈迦さまが生まれた所なんですが、仏教は非常に衰えておりましてほとんどラマ教・ヒンドゥー教のお寺なんです。インド全体で考えても、4億の人口の中で、仏教徒は300~600万と、ほんとに僅かなものなんだとそうです。そのわけを私なりに考えたら、仏教は魅力がない。これはラマ教の歡喜仏(写真を提示)。シヴァ神が女性を抱いている図。これは曼陀羅の中の拡大です。仏陀;お釈迦さまが女性を抱いている。こう言った土俗的なものに皆が寄りそい、仏教の方から遠去かって行くんじゃないかと、勝手な解釈をしたわけですが。民俗の研究でも、地名の研究でも、何かエッチなことをすぐしりぞける風があるんじゃないかな。これは人間の根源的なものじゃないか。先程保土ヶ谷というのが平田先生から出ましたが、ホトの付く地名はないだろうかと探してみましたが、出水に太野(みの)という所がありました。何かそうそう言った女性自身の姿の見える格好の地名じゃないかと思います。

いかと思って、行って探したんですけど、どうもそう言った地形じゃなくて、がっかりして来ましたが。奄美にヘトノ。これもフトノなのか。現地に行っていますから判りませんが、女性性器を象徴するようなものかどうかと、いつもそんなことばかり考えているもんですから、時々お叱りを受けるんじゃないかな。最近ちょっと書いたのが「ワイセツがなんで悪いか」と。これはコピーを持って来ていますので、後でご希望の方は。

ふだん疑問に思っていることは沢山あるんですが今ちょっと思い出したのが梅ヶ瀬の観音さんがある名突坂(なづか)。名突観音・名突坂という地名は、何か突然出て来たような名前のような気がして、何故名突?

平田 ナツツですか、ナツキじゃないのですね。

片岡 ナツツ。

平田 ナツツと言うのですか。

片岡 ナツツザカという。ナツツ観音、と。

平田 ナツツ。初めて聞きました。

本田 先程の関連で、奄美のフトノについて。徳之島町の湯之川内という所なんですが、前代朝潮の出身地です。ここでは、女性はホマです。だから性交することをホママギュルと言うんです。それからすると、むしろ女陰に関係するとすれば母間(母)というのが近くなんですが、それの方が字としてはあとの方につながるのではないかと思います。

片岡 母の間ですか。

本田 はい。

武大明神

唐鑑 唐鑑です。図書館に勤めております。不思議な名刺を持っている唐鑑と言います。先祖は諏訪神の子分だったようです。私の家は百引の諏訪、十郎門。諏訪から山伏を出すんですけれども。

図書館において、いろんな質問があります。例えば、新潟の小千谷の人から、武大明神という所

で山田某という人が死んだのだが、その死んだ場所と様子が知りたいとかの質問が来て、呆然としておったら、ベテランの人があれを見たらと言ふんです。「靖国神社忠魂志」という本です。靖国神社に葬った人たちを載せたものです。戊辰戦争以後のものを集めております。それを見ると、確かに山田という人が載っております。武大明神岡で亡くなったと書いてあるんです。大明神ヶ岡とはどこだろうと思って、明治の初め頃の地図を調べて見たら、武部神社のことですね。武部神社と名前が付いたのは何時頃のことなんですかね。昨日、あそこに行ってみたら武大明神という小さな祠があるんです。こちらの方が詳しい説明なんです。鹿児島の有名なお菓子屋さんがあり、昔、地蔵さんを置いた。それを盗られたとか盗られていないとか載っているんですけど。90歳ぐらいのお爺さんが居たので聞いてみると昔はやはり武大明神ヶ岡と言っていた、と。武大明神ヶ岡は今は武岡と言いますけど。そこで、よく調べてみると、西南戦争の時の激戦地があるんです。そこで亡くなった、ということです。そんなのやら例のハタモン坂です。片岡先生じゃないけど、屋地とかですね。屋地というのは湿地帯のこと。草がぼうぼう生えているような湿地帯をそう言います。女性の例のそれに似ている陰語みたいなのもあります。それは非常に多くの例に使われているという感じはするのです。

今、悩んでいるのは、鹿児島市のどこかに鬼神母どんというのがあるだろうと調べているところであります。それから、これは私がかねがね気にしているのですが、上町と言ったらどこを指しているか、を教えて頂きたい。

松浪 松浪と申します。現在、隼人町の宮内小学校に勤務しております。以前から中村先生の「隼人文化」の方にもお世話になっておりますが、いつも多くの方々が一生懸命研究なさっていることをば聞

感謝の念を込めて、アリババの皆様へお贈りする「アリババ感謝祭」の開催を、この度は大変喜んで頂いております。アリババの皆様が、アリババの成長に貢献された方々へ感謝の意を込めて、アリババの皆様へお贈りする「アリババ感謝祭」の開催を、この度は大変喜んで頂いております。

先程、名突観音の話が出て参りましたけれども、私は戦時中ずっと市内で育って来ました。昭和20年4月8日の爆撃の後、市内に身寄りが何もなくて知人を頼りまして伊敷の方にずっと世話をになったわけでした。それこそ名突の観音さんの手前の所に新村(しんべい)という部落があります。そこに十二・三年おりました。「ナトッ」というから、名徳だろうかと思っておりました。気を付けて聞いておると、「ナトッ」という。お観音さんと云わずに「ナトッ」と云いよったようです。字を見てみたら「突」を使ってあるようです。ただそれだけで別に何も、その語源についてどうだと云ったようなことは考えませんでした。

それから「武」の話が先程出ましたが、最初の頃は「田毛」を使っていたんじゃないでしょうか。また、武部神社の御祭神は倭武命（ヤトタケルミコト）であり、それと武部とが関係があるんだと聞きました。それから、揖宿の「揖」は愛知県境の揖斐川の揖という字と同じ字を使ってるんだがなぁと思いながら一向に調べてもみない始末です。

### 大小路（うしゅう）

池田 池田と申します。川内に生まれ、川内で育ち、川内に住んでいます。地名研究会の方には初回から参加させて頂いているんですが、会費を納めて話を聞くだけの会員なんです。川内におりますので門前の小僧と申しましょうか、いろんな先生方の話を聞いている間に、私に出来ることはないんだろうかと思って、川内の小字名を拾ってみました。約3000ぐらいあります。地名の勉強は発音から始めるんだという基本がありますが、全部振り仮名を付けてみようかと思ったんですけど、たとえば、川内はセンダイになったり、センデになったり、どっちで分けて行ったらいいのかまちまちで、收拾がつかずに未

解決と言った状態です。普通、鹿児島の人は川内の地名を言う場合は漢字をそのまま読むようですが、川内には川内町（せんだまち）の読み方があります。たとえば大小路（おしょうじ）。これは地元の者にとっては「ウシュッ」です。どちらで判断してよいのか判らないのです。恐らく本来はつまたものなんでしょうけど。どうも方向は川内のようすけど。

先程「ホト」という話がありましたので。記憶に残っているのは宮崎県に「ホドノ」という峠があります。私たちのグループ10名ぐらいが通過したんですが、峠の所で休憩したら、早速、江之口さんが「あっ、ホドノ。古いっじゃ」。私も、ああホドノと思ってよく地形を見たら、確かに山が両方から迫って真ん中が出て来ておりました。確かにホトの形をしているように感じました。あとで、その地名を地元の人々に聞いてみいたら、ホドノという地名はそこにはないということでした。西南之役の西郷さんの敗走路を尋ね歩くのがその時の目的でしたが、地形を見たらすぐホドノという筋づけをしてくれまして、さすがによく勉強している、江之口さんは。なるほどと思ってもう一回注意して見たら地名としてはそうだとも思いました。

先程、アマツツミが出ましたが、天包山(てほざん)という山が宮崎県にあります。宮崎県内の三つの大きな山に入るんだそうです。ある山から見れば、その三つの山が一望に望める所があるんですが、行きましたけど木が立ち茂って山は見えませんでした。その近辺は西南之役の際に戦闘が行われた地でもあるようです。何から勉強していいかも判らずに、いつも江之口さんと喧嘩をしております。

## 久留巣（くるす）

霧島 昨年、新任。後一ヶ月すれば一周年になり新任の肩書きがとれるところなんです。今、川内市育英小学校に勤めております。もともとは齋島の出身です。歴史が好きで、史学科の方に進みました。

子供たちも最近歴史に興味を見せてくれます。昨年の5月に、近くにある石橋が隠れているということでした。石橋の草払いを始めてから石橋に興味を持ちました。今年度は川内あるいは東郷町の石橋を実際に当って、それをいろいろ調査しなければと思っていました。

それともう一つ気になることが久留巣という地名が結構多いようだということ。まだ実際には行ってみませんけど、宮崎県の栗巣町という所で竹筒の中観音様が祀ってあるのが、たまたま出て来たそうです。川内にも五代に久留巣という地名があると聞きました。入来にも久留主というのあります。この中にキリストとの関係がある町があるんじゃないかと思って今興味を持っております。

それから小学校の3年生の教材に古いもの調べと  
いうものがあります。目に見えない古いものに何が  
あるか?行事と地名なんですが。昔からの名残と  
いうのは、もう部落の名前じゃないかと思います。  
今の部落と昔の川内市大字地図・小字地図を子供達  
で見て、調べようかなと考えています

鮫島 加世田市に来てまだ5～6年なんですが、「上くるす」という所があります。「加世田市史」の中にザビエルが来たことに結びつけてあったようです。十字架；クルスが訛って「くるす」になり、それから地名が付いたとあるんですけど、それとは関係ないもんでしょうか。

霧島 川内にも、実際、京泊という所に9~13年間、教会があつたし、宣教師が大村あたりまで行っている。だから可能性はあるんじゃないかと思ってるんですけど。

平田 いや、それは危険だよ。たとえば明智光秀が殺されたのは栗栖。その他、久留主・久留巣などカルスという地名は沢山あります。栗栖は和名抄にも出て来ます。まあ、キリシタン地名というのは恐らく秘密にするでしょうから、バレるようなそんな

より名は付けないはずです。だから、もっと古い。そういう結び付けをすると自分の首をしめることになる。むしろ解釈するすれば、シラス；白い砂に対して黒い砂、クロスとかクルスとかね。そちらの方の比較をしたら、解く手掛かりが出て来るんじゃないかなと思っていますけど。

肥後 それを質問しようかと思っていたのですが地名辞典から拾いあげたのが、その周辺では西別府に「久留須」とその隣に「隠れが迫」という地名があがって来ます。それから栗野町に「久留須山」というのと「久留須」という字名があります。川内にも「久留巣」という所があります。この名前は県下あちこちにあるようですが、私が辞書を引いたのには、栗栖は栗の沢山生えている所。これは栗野町にもあります。これをつきとめていくのも面白いんじゃないかなと思います。

? 川辺や加世田の話が出ましたが、「フランシスコ=ザビエルと鹿児島」という本読んだのですが、その中に、市来あたりの武士でしょうけど、川辺の方で信者になったという届出があったと。そこは何かあったのかなど、ちょっと思ったんですが。

平田 加世田とか市来の人々は海外貿易で活躍しますから、海外との接触も多く、キリストンも多かったでしょうし、弾圧もあったと思います。

肥後 それから出水市に「ヒグル」という字名もあります。加世田には下ぐるす・上ぐるす・下上ぐるす・下中ぐるすなど、ひらがなで書いた字名があります。もともとは漢字を当てるのかも知れませんけど。

木場 川内の木場です。地名とのかかわり合いというの、大字図を作ろうということになってからです。『千台』第13号で取りあげた次第です。川内は6ヶ郷を合併した所であります、大字図を市役所は保管しておりません。私は、戦前、市役所に勤めておりましたが、明治の地租改正の時に作った

いわゆる大字絵図というのが確かにあったのですけど、もうほとんど散逸しております。個人が持つておったのを集めてもらって、ようやく川内の大字図を再現しました。そういうことから、地名とのかかわりが出てきました。消えかかった小字、台帳から消えて行った小字、手分けしてそういうものをなんとか掘り起こして作りあげるということで、そういうものを調べてもらった実績があります。

#### 端山・早馬（はやま）

松田 加治木の松田です。入来商業高校で事務をやっております。現在住んでいる加治木の部落名が端山で、早馬神社が近くにあります。まぁ、子供の神様ということです。昔はそこで馬が踊りよったということです。家よりちょっと北側に加治木高校がありまして、義弘公の屋形の跡になります。加治木のほぼ中心ぐらいじゃないでしょうか。その周囲に小さな川があり、網掛川に流れています。網掛川というのは、昔網に引っかかった地蔵があって、その地蔵さんは天文館のどこかに据えてあるんだそうです。その網掛川もうちから近くなんですが、川沿いに江後（えご）という所があります。江後をどこからいうかと聞いたら、地域的に狭い所でした。7~8mぐらいいの範囲だけが江後という所で、現在は有名無実になっています。端山という字にとらわれるなどということなんですが、どうも漢字にとらわれています。私たちの住んでいる所が、どうも端っこに当たるような気がします。山の端だから端山という。そんなものないかなと、今思っています。今後ともよろしくお願ひします。

風呂

肥後 肥後です。鹿大の農学部に勤務しております。かねて疑問に思っている地名についてということで二・三あげてみたのですが、判らないことばかりです。松田さんが前回あげられた姶良の地名の中に風呂之段（みんばん）というものがクイッショニ=

マークを打ってありましたが、私もこの風呂之段というのに疑問を持っています。さっき話のありました百引にも風呂之段という所があるし、それから方々にあるんですね。垂水にも「ツブロ」という地名、それから炭風呂（すみぶろ）というのもあります。この「ツブロ」というのは恐らく「窯」だと思うんですけども。今までは岩穴；サウナだと思っていたのですが、福山の風呂之段という所に、今はやりの冷泉があって、それを飲んでいるという話を聞いたもんですから、岩風呂と了解していたものがあやしくなりました。皆さんのお知恵を拝借したいと思っております。

平田 風呂という地名は多いですね。

二見 小字じゃないのですが、通称「風呂谷（みんたい）」と言っているのがあります。それは地図には出でていないんですけども、高松城という名前の城が構辺にあり、その一角を風呂谷と言います。切通しが何ヶ所かありますて、その一番先端に近い所ですが、通称風呂谷と言います。水が出そうな所でもなさそうなんですけど。昔、武士があの辺で何かしたのか。とにかく風呂谷という地名が、小字にない地名としてはあります。私も不思議に思っていた所です。

平田 風呂は多い。まだ全部は拾い出してはいませんけどね。拾い出してみれば、何か出るかも。

肥後 現場へ行ってみないとですね。

平田 そうですね。

肥後 二・三ヶ所行ってみようかと思っているんですけど。

唐鑑 風呂迫という地名もあります。苗字もあります。よくある地名。風呂之段というのは、確かにとんど行きづまっていく地形。行きづまったような所、谷頭（ながら）みたいな地形。地形の上から調べてもよい地名だと思っています。

二見 風呂というのはどういう地形を？

唐鑑 なにか行きどまりのような所。風呂敷も、なにか難しい。

平田 風呂場へ敷くから、風呂敷だけど。

二見 ああ、そうなんですか。

#### 上町（かんまち）

唐鑑 上町の呼び名について皆さんのご意見を。

平田 上町・仲町・下町。「鹿児島県地誌」には説明はないですかね。

唐鑑 歴史的に言えば、上町といわれる地区があるて、いわゆる武士階級が住んだ地区。地域的には稻荷川下流のデルタ地帯ですね。そして、下町といふのは何というか、例えば城下の西の方が西田になる。上町と言えば、普通は、皆さん、どこを指しますか。

板山 私が聞いたのは、鶴丸城に向かって堀の一番左の端を、まっすぐ海岸に線を引いて、その左側が上町というと聞きました。ヨシノ橋・新橋から分けていうのもあるようです。

平田 ヨシノ橋・新橋の線からでしょうね。

唐鑑 しかし、上町というたらですね、商業地区だと思うんです。商業地区で、いわゆるその昔の武士の居住地域とは違うと思うんです。勝目市長と谷口先生とそれに今の黎明館長の新納先生の三人で話ををしておられるのを聞いたことがあるんですが、その中で「上武士（みれい）・下女子（しもめ）」ということを言っておられました。上の衆はその昔はよか達の住む所で、下女子というのは要するに女性は下の方がよいということを話されたんですけど。何故、女性は下がいいかという話なんですね。上は、何故女性が悪いかというとですね、坂が多くて足が大きいからだということらしい。笑い話みたいなことなんですが、下女子がいいという話です。それで、昔「上武士・下女子」というと、上の衆は機嫌が悪かったですね。何故かというと、戊辰戦争以後、西南之役ではいろいろと上町の衆は渋って協力しな

かった。それで、上町に行って「上武士さあ」というとですね、喧嘩になった、と。だから、そういう言葉から見ると、武士たちの行動意識にからめて、地域的に上町・下町それに西田町という。それを、われわれは上町と上武士を一緒にして上町という。上町という呼び名は呼び易いので構わないと思うのですが。ただわれわれは昔から上町と言ったのは、いわゆる上町の武士を意識しての呼び名だったということです。これをどう考えればよいでしょうか。

片岡 鹿児島駅前に車町（くるまんちょう）というのがありましたが、あれはクルワ？

平田 クルワが訛った？車がいたんじゃないですか。

片岡 なにかクルワがあったから、そういう名が付いたと聞いたことがあるんですが。

平田 まあ、そうなんんですけどね。

片岡 柳町も柳が生えた町、そういう遊廓。そんな感じの所。上町の中に、何故クルワがと、不思議なんです。上町と言えば、武士の居住地だ。武士が住んでいるという固定概念の所、そのど真ん中に色街があったんですかね。今云われる上町という場合には、一体、そのような意味を考えると、どうなるわけですか。

平田 上・下という考え方、それからわりと新しい時代には上町・仲町・下町という三つの考え方も地域区分として出て来ます。そう言った場合の上町は町人の町じゃなくて地域区分としての町の考え方であって、いわゆる上武士・下女子という感覚で使われたんじゃないですか。

二見 地名に関係するもので、上と下の付くものは多いようなんですが。

平田 上・下に分けるものは多いでしょう。

唐鑑 あれは古いでしょう。

肥後 もう、よろしいでしょうか。時間も来たようですから。

## 『老神申名土』分布

No (社名)	(所在地)	(祭神 創建者 その他)	(創建年代・及び備考)
1大居神明神	祁答院町上手	天照大神・手力雄命・万幡豊秋津姫命 @延宝2(1674)年失火焼失『祁答院郷土誌』 *富森氏先祖が肝属郡高山の四十九所神社(豊受大神)を勧請したとの伝承がある	
2大居神社	東郷町司野	天照大神・手力雄命・豊秋津姫命 @日置島津家久憲が明暦3(1657)年月創建 *司野土族の産土神	『東郷町郷土誌』
3老神藏王社	加世田中之園	伊勢大神・小彦名命・天劔命 @享保3年・寛延3年の棟札 祠掌は土持家 *『神社明細帳』に赤字で「金山神社」とある	『加世田市誌・上』
4老神神社	出水市武本	天照大神カ(出水記)不詳 @『神社明細帳』に「老神大明神」 *安政年間の風面・日面・雨面が残り天乞いの習俗が伝わる。『延喜式』の市来駅付近	
5老神神社	栗野町北方	天照大神カ? 不詳 @ 不詳 大神神社に合祀	
6老神神社	姶良町中津野	猿田彦命 不詳 @「黒島ドンと老神ドン」『姶良町郷土誌』 *年不詳の棟札があり『由来書』が記録されている	『神社誌』
7老神神社	垂水市牛根境	猿田彦命 不詳	『垂水市史・上』
8大井大明神	川内市楠元	猿田彦命・事大主命 /『川内市史・上』@『神社史』に「生神大明神」とある *奉建立大檀那藤原朝臣忠昭延宝9(1681)11月(棟札)『通脇村史』:八体の木像 *「大井神田/三拾(戸)門マわり」『入来文書207P』(天文6=1537年)	
9老神社	垂水市原田	不詳 *「老神川」・・『垂城録』	『隅府温古集』『垂城録』
10老神神社	人吉市老神町	瓊々杵尊・彦火々出見命・他(霧島神) @大同二年創建延徳年間再興(伝承) *現本殿は寛永五年造営で県指定重要文化財	『球磨郡神社記』他
11大炊神神宮	球磨郡岡原村	瓊々杵尊・彦火々出見命・他(霧島神) @大同年中創建永万元年再興(伝承) *『球磨郡神社記』他 「中島霧島神宮」との合併社で正式名は「大炊神霧島神社」	
12老神大明神	串良町岡崎	王子大権現? 祭神不詳 @「十五社大明神十五末社之内」『串良町史』 *弘治式(1556)9月檀那竹田若佐守藤原定種の棟札。「老神免」アリ	
13老神大明神	霧島町入水	鹿島神の父母の神(速速日神)を祭祀 @再興建立馬場丹後守同早馬丞宿仙坊『棟札』 *寛永10(1633)2月再興霧島七所神社の一 /『東襲山村史・止上文書・神社誌』	
14大井上神社	加治木小山田	斎火産靈命・奥津比売・奥津比古 /『神社序提出文書』 * (本地は虚空蔵菩薩) *文明一八年以來の棟札(重造)アリ	『三国名勝団会』『加治木町郷土誌』
15老神大明神鹿屋市田崎	不詳	不詳 不詳 *老神大明神 神鏡一面 下名村老神門	『鹿屋市史・上』 *寛政十三年『鹿屋名勝志』
16老神社	鹿児島吉野町	不詳 不詳	@菅原神社境内社の一 『神社史』
17老神神社	隼人町松永	木像三座・不詳 不詳	『東襲山村史・止上文書・神社史』
18老龜大明神	加治木町木田	不詳 * (本地は虚空蔵菩薩) @元和八年重造/棟札	『加治木町郷土誌』 *現在は位置確認不可(加治木町郷土館)

## 『老神申』地名分布

\*老神: (群馬県利根郡利根村/球磨郡湯前町中央/鹿屋市田崎/出水市武本) \*老神上: (出水市武本)  
\*老神・考神前: (末吉町南之郷) /伝承・信仰の痕跡認められず  
\*老神原: (栗野町北方) [老神神社のあった場所]『栗野町郷土誌』  
\*老神川: (垂水市田上) [胡麻迫より流出田神村本城村境流通り本城川へ流合]『垂城録』  
\*七老神: (荒尾市) [一書ニ龍宮社辨才天堂ト有レドモ不分明]『肥後国誌・上675P』

## 『老神』地名由来

\* § 追神と申ゆらいわ、昔赤城明神と日光権現と御中あしくましまして、神いくさ披成候、日光の御方よ §  
§り、ながれ矢一つ來、明神御手をおわせ給へて、是迄引せ給へけるを、日光方より給かけ奉る、是に §  
§よつて神ををふと書、追神と申しならわし候……『沼田根元記』  
《上記「3」「6」との類似》  
◎「赤城信仰」「老神まつり」「老神温泉=かさ老神」「片目の蛇」「千匹ムカデ」「ムカデと梅樹」  
\*「於箇美=水神」説……『分布一覧』の「4」及び「8」からの推察(検討を要す)  
\*「負神」「笈神」説……柳田国男『箱石と笈の塚』(老掛松/老の坂/峠・境神)

- 上記の形態(習俗)は他でも行われたと思われるが「老神神社」が無いではないか  
 □ 『分布一覧』の「1」の例(豊受大神→天照大神)また「10」「11」はそれ程古く無いのでは?  
 □ 宮之城町湯田八幡縁起  
 ◎時吉住、松下茂八の先祖寿永の昔八幡大菩薩の神鏡を笈中に納め縄をかけて負ひ下り湯田の餅坂に腰を下し休みけるとき餅田太郎右衛門なるもの此神鏡を受け奉り教徳坊に授く然して時の院主大前氏御宮を湯田郷に建立す是れ八幡宮の起源とす松下氏が笈に懸けたりし縄今に松下家に存す 『S・9年刊・宮之城郷土誌337P~』  
 □ 牧園町安楽温泉縁起  
 ◎大永三年所記の社説に昔異人あり熊野三所権現を笈に入れて負ひ来て此地に一宿し明日笈を拳んとせしに動かず重きこと磐の如し。神潛に告て曰く温泉出べし……温泉涌出す因て安楽と名づけしとぞ 『三国名勝図会・桑原郡蹄郷』
- ※※※「オイカミ」命名の発生源(含年代)はどこか?※※※
- \*「老男→老神」説(乙益重隆氏が最近刊行された『えとのす・31号』に発表された)  
 ◎霧島信仰がおこったのは奈良時代以後のことではないかといわれている。しかし私は霧島山信仰はもっと古くからあったと考えている。……この山の神様は各方面から拝んでいて、それぞれの拝所が神社となったとしても不思議ではない。その祭神が現在祀られている神々のほかに、本来は『国造本紀』に見える諸県の君の祖神老男が祀られていたのではないか……球磨川の北側は阿蘇系の神社が分布し、南側には霧島系の神社が分布するという明瞭な信仰圏をなしているとくに霧島系の神社は必ずしも霧島とは呼ばず老神社とか大炊神と称している。球磨郡岡原村には大炊神山という所があり、そこにある神社はすべて大炊神を祀る。『球磨郡神社記』(元禄五年)によると「霧島神社と同体なり」と見える。おそらく本来の霧島の神は老神または大炊神であったことがうかがわれる。從って、諸々の県主の祖神である老男をいろいろな方向から拝んだ霧島の神にあてはめて祀ったのではないかというのが私の考え方である。 『南九州における部族と墓制』

#### 【大小】地名分布

川内市(町名) 石岡市(常陸国府跡) 紙良町東餅田 加治木町(通称=町誌) 宮崎県佐土原町  
 秋田城 南郷村(宮崎=通称) 加世田市津貫 宮崎県平群庄(佐織町史・資料編二)  
 ◎光路・光路山・香路原・七条坂(安芸国府B) ◎舟子山(能登国府)  
 ◎[地名の由来は、この地にあったとされる国府・国分寺に通ずる「大路」「小路」によるとされる] 『角川地名・46』

#### 【芭蕉】地名分布

\*芭蕉 : (川内市城上/根占町川北/出水市上鰐渕/出水市下大川内) \*芭蕉堀 : (吹上町小野)  
 \*芭蕉迫 : (松元町四元/串良町細山田/財部町南俣) \*芭蕉山 : (薩摩町永野)  
 \*芭蕉田 : (東郷町藤川/国分市台明寺) \*芭蕉本 : (輝北町上百引) \*芭蕉野中 : (出水市上上鰐渕)  
 \*芭蕉下 : (根占町川北) \*芭蕉迫 : (出水市武本) \*芭蕉ヶ宇都 : (吉田町東佐多浦)  
 ◎霧島町川北 [七社神社のひとつ] ◆芭蕉田 : (東巣山村史) ◆場集田 : (霧島町郷土誌/小字)  
 ◎芭蕉下(伊仙・前縄) ◎芭蕉增(伊仙・古里) ◎芭蕉作(笠利・喜瀬)  
 ◎芭蕉保(知名・住吉) ◎芭蕉ソ(芋論・那間)

#### 【芭蕉】記載文書・地名由来

★発端は出水市上鰐渕の「芭蕉」字があることから。  
 ◎ここは肥後国境に接し「辺路番所」があり、明治以前は人を住まわせなかった。その場所は現在でも「バンドコイ」と呼んでいる。芭蕉はこの「番所」の転訛か  
 \*はせう 此たんなハ鎌蔵のはせうの門家半分…… / 錦倉市・享徳4年(1455)旦那壳券『米良文書』  
 \*芭蕉谷 兩山ノ間芭蕉叢生ス、ソノ幾百株タルヲ知ラズ…… / 大分県竹田市・『豊後国志』  
 \*芭蕉溝 入田郷矢倉村ニ在り、高サ五丈闊サ三丈其側芭蕉樹多シ故ニ名ヅク…… / 竹田市下矢倉・『豊後国志』  
 ◎[傾斜面の中腹で人家は二戸。湧水棚田。昔味噌つくり時、麦越に歟を早くつける為の「敷物」として、また盆などに仏前・墓前への供物の「容器」として使用した。以前はどこにでもあり、ごく普通に見られた] (薩摩町・社会教育課)  
 ◎[細長い峡谷直下に位置する。棚田。語義不明。ただ「千足」「不動堂」「蓮堂」「堂尾」「堂ノ尾越」等台明寺関係の小字が並ぶので、それと関連があるかも知れない] (吉田町・社会教育課)  
 ◎[谷間の行き止りで崖に取りかこまれ……] (吉田町・社会教育課)  
 ◎[棚田。現在住居は無い。芭蕉が今もはえている] (串良町・社会教育課)  
 : 全体的に「山奥」に多い地名では無いか?: 芭蕉樹説なら住居近くにもあるべき?:  
 \*「馬上免」説(服部英雄氏が『歴史公論・88号』に発表されている。/あくまでも「参考」のため)  
 \$「ばじょう免」は「馬上免」の転訛ではなかろうか。馬上免は中世文書に多く登場することばで馬上検注を\$  
 \$免除された田をいうのである。文献史料からは多く寺社に馬上免が付属していたことがわかる。……単に法\$  
 \$住寺馬上免とされることもあるが、法住寺薬師堂灯油馬上免と記されることもあり(錦倉遺文)油田と馬生\$  
 \$免が隣接している万行保と似たような存在だったのではなかろうか。 『小地名による中世の村の復元』\$

#### 社寺の祭祀に因む地名 鹿児島地名研究会

※※※【データベース】※※※

62・6・7 江之口汎生

\*①『角川地名・小字一覧』よりの抽出 ②見落し、下記以外にも対象となる地名アリ

(地名)	(分布及び類例地名)
二月田	鹿児島川上・小野・草牟田/川内西手・高江/加世田宮原/指宿西方/加治木日木山 /国分上井/鹿屋獅子目・浜田/川辺両添/吹上中原/蒲生久末/溝辺崎森・竹子 /喜入中名/隼人嘉例川/樋脇塔之原
☆二月田前	指宿東方 ☆上二月田・下二月田 東市来養母
三月田	鹿児島川上/加世田宮原/国分向花・上井/川内湯田・五代/隼人嘉例川/川辺清水 /指宿東方/中種子坂井/大隅大谷/輝北市成/南種子島間
四月田	蒲生米丸
五月田	鹿児島岡之原/鹿児島皆与志/隼人西光寺/川辺高田/南種子西之/大隅大谷 ☆五月田(サツキテン) 鹿児島川上
六月田	南種子坂井 *出水市(大字) ☆六月畑 松山尾野見 ☆風月田 蒲生西浦
七月田	(ナシ)
八月田	大隅大谷
九月田	加世田益山/笠沙片浦
十月田	鹿児島草牟田
霜月田	鹿児島川上/大口曾木/川内西手/指宿東方/加治木木田/大隅大谷/中種子坂井 /知覧郡/末吉岩崎 ☆十一月田(シモツキテン) 溝辺竹子
☆霜月田	中霜月田 加世田宮原 ☆霜床田 南種子西之 ☆黒月田 末吉諏訪方
元日田	指宿東方/加世田川畑/鹿屋南町/始良住吉/蒲生久末/知覧郡
六日田	栗野米永
七日田	蒲生久末
七夕田	国分上小川・向花/始良上名・住吉/霧島田口/隼人嘉例川 ☆七夕 開聞仙田
八日田	栗野田尾原 ☆釧迎田 加治木辺川
九日田	鹿児島皆与志・下福元/加世田益山/川内湯田/川辺宮/串木野上名・下名/知覧郡 /吉田本名/中種子野間・坂井/南種子平山・西之/輝北市成/末吉岩崎・諏訪方 /財部南俣/栗野北方/伊集院下谷口/吹上中原/牧園万膳
☆上九日田	串木野上名・下名 ☆西九日田 串木野上名 ☆クンチデン 始良北山
十五夜田	蒲生塗/菱刈市山
節句田	国分敷根・下井
彼岸田	鹿児島皆与志・和田/栗野北方/吉田本名/川辺高田/中種子坂井/松元上谷口 /日吉日置 ☆ヒガン田 牧園宿窪田
☆ヒカン田・下ヒカン田	末吉諏訪方 ☆日觀田 大口大殿 ☆比神田 菱刈市山
夏越田	加世田益山/鹿屋南町/蒲生久末/栗野北方/隼人野久美田
(夏越)	鹿児島小山田/国分広瀬
棄田	川内城上/東町鷹巣/佐多伊座敷/国分福島 ☆シトキデン 知覧永里・輝北諏訪原
☆棄木田	吹上永吉 ☆白棄田 末吉深川
☆次米田	始良寺師/加治木西別府/蒲生白男/福山嘉例川/牧園持松/樋脇塔之原/宮之城二渡/末吉諏訪方 ☆次米田(ヒッテン) 始良寺師 ☆次米田(ジメン)鹿児島川上
☆大次米田(オヒッテン)	始良北山 ☆ミトクデン 知覧厚地
☆米次田(コメギテン)	禪谷院中津川 ☆米次・東米次 阿久根鶴川内 ☆須米田スメン大口青木
神棄田	吹上田尻/隼人内山田
	[諏訪田・仏生田・棄田・繁若田・登明田・祇園田]

★【祭の沿革】★この祭は楠元下・中両部落民を氏子とする「生神様」の神田を中心に繰り広げられるユーモラスな田園劇で、村一番の年中行事として、毎回二月一日に村民挙げて、盛大に続けられてきました。（現在は原則として、2月第一日曜日）

これを伝える文献・記録類が無いため、その由来は定かではありませんが、古者の口伝に依ると、江戸時代初期頃から行われているといいます。途中明治中期になって、それまで毎年実施していたのを改め、四年毎の祭になり、昭和三二年まで継続的に奉納されてきました。

しかしそれ以降社会情勢の激変に拗る過疎化に伴ない、若者の役者確保が困難となり止む無く中断されてしまいましたが、古くから伝えられて来た由緒ある伝統芸能の「火」が消えるのは忍びないと再現を望む声が高まり、昭和五二年再び祭が復活しました。從って今回は、復活3回目の祭になります。

★【生神神社】★この神社はもともと、楠元田の神横の高台、字「宝岩」にあったのですが、昭和四〇年の台風で本殿が倒壊したため、「南方神社」（村社）に合祀されました。昭和十一年刊の『通脇村史』には「大井大明神」とあり1尺6寸の木像の本尊の他に脇侍として6体の座像があったと記されています。また、この神社は地元では「おいかみさま」または「よかんどん」「いきがみさま」と呼んでいますが「作神」であること以外、この神様の「正体」や「来歴」は一筋不明です。しかし出水市武本や鹿屋市田崎など広く各地に「老神」の小字地名があり、また「老神神社」「大井上神神社」が存在する事実を考慮すれば、生神と老神は元来、同じ素姓を持った神様ではなかったか。・とも考えられます。

この老神の正体も、実際のところ不明な部分が多いのですが、一説には『万葉集』や『豊後國風土記』に出る「於箇美」で尾神、於神とも書かれ「竜神」「雨の神」「水神」であると言われます。水が農民にとって、また現代人の我われにとっても、この世を生きてゆくために、最も大切な『自然物』である事は不变です。

ところで、生神神社下帯を古者は「ふっども」と呼びます。この地名は各地の例から考えて「古塘」（ふるとも）であり、古い時代ここに灌漑用の池があったものと想像されます。であれば「老神神社」の正体はその農民にとっては命にも替え難い池を守護し、同時に天の恵みの「水」が涸れるとの無いように願い建立した、「水神様」ではなかったか。・と思われます。

★【祭の式・川賀】★合祀先の南方神社で神事の後、拝殿脇の楠元町農業就業改善センターで宴客、氏子を交じての盛大な祝宴となります。ひと通り酒がまわり気勢が上ると「オセロ」の歌を唄い、各おのが天井から吊るしてある藁の束から藁を抜いて首に結びます。

その後、高さ五メートル程もある「親奴」二本（公民会長）を先頭に二メートルの「子奴」（氏子全員）の集団がこれに続き、北方約1キロの所にある「生神様」の神田へ向います。道すがら「雨乞い」と「疫退散」を祈願して、水で湿した奴棒を沿道の客に勢い良く振り廻しながら進みます。

一方祭の主舞台である「旧生神神社」下の広場に注連縄を張って数坪の神田が創られます。この神田で祭のハイライトである「稻作の生産過程を模した」即興劇が、衆目の中ユーモラスに繰り広げられます。まず「テチヨ」（父親）が鉄をもって出、畔作りや水張りの所作をすると、奴の踊り手や観客たちがその畔を壊し、さかんにイタズラをする。やがてテチヨが準備万端とばかり牛を呼ぶと、デカン（ニセ=青年）が、若者粉するところの面を着けた「牛」を曳き連れての登場となる。

ところがデカンの意に反してこの牛がなかなか言うことを聽かない。デカンは何とかして牛をなだめようと汗だくであるが、牛はますます暴れるばかりで、どうしても仕事にならない。この時のデカンの手綱さばき、所作が爆笑の渦で、やいややの喝采が続く。

やがて、ひと通り田の面をナラメたところで、コビル（昼食）を持った嫁女が付人と一緒に登場。テチヨと仲の良いところを見せつけると、牛はその姿を見て暴れだし、デカンがあとを追う。その後嫁女が客にコビルを振舞い、一方テチヨは残された田をならし、ようやく田植えの準備が完了する。

田の横には椎の枝が二本、鍵形に組まれて置かれている。「庄屋殿」（家所）が神主に代わりお払いを行なうと、奴の連中が、椎の枝を小さく折って持ち、並んでそれを田の面に植えて祭が終る。

★【牛這祭考】★この祭は一般に県下では「打埴祭」、全国的には「田遊び」または「春田打」などとも呼ばれ、広く行なわれているもののひとつです。川内では高江テンジンサ（現在は南方神社）のタロタロ祭、水引射勝神社のジロジロ祭が良く知られています。また東京徳丸北野天神社の田遊び、愛知県小坂井町瓦足神社の御田植祭はこの種の祭としてはあまりにも有名です。

祭の期日も正月から春先にかけて多く行なわれています。これは「予祝行事」と呼ばれ、年の最初である正月、或は実質的な稻作りの初めの二月に模擬（所作）の「田植え」を行なうことで、実際の稻作りの時もこの様に順調に事が運んで欲しい、と願う農民の一途な祈りが込められているのです。

ちなみに建久三年（1192）の『皇太宮年中行事』には「田遊び」の行事が二月一日に行なわれていたことが見えますが、県下に数多いこの種の祭の中で、この期日を最近まで厳守しているのはわずかに三例（有明町白鳥神社の春祭、輝北町太玉神社の御田植祭、それに当地の牛這祭）しか無く、その事からも当地の祭事の「古風」を伺い知ることが出来ます。

楠元の祭の特徴は①藁を抜いて首に掛け。②奴で客に水を掛ける、の二点で、これらの為種（しぐさ）は他所ではあまり見ることが出来ません。②はむろん「水」の大切なことを意味しているのでしょうか、①の意味は、今ではもう分らなくなりました。

## 出水市街の信仰山名

## 『紫尾』考

## 【I】はじめに

『ふるさと流域紀行』で「静かなる山」を意味するアイヌ語の「シビ」

- ① 当地（南九州一帯）が当時、アイヌ人の生活圏（または影響圏）であったか不明
- ② 阿蘇山と対比させているが、根拠があいまい。（火山としては「霧島」「鹿児島」「開聞岳」がある）
- ③ 阿蘇もアイヌ語で解釈するが、『新選字鏡』の「前岸也、久豆礼、又阿須」が、ほぼ定説化

## 【II】分布

（県内） 紫尾宮→出水市上知識  
紫尾ヶ迫（東郷幡谷瀬） 紫尾田（横川町上ノ） 紫尾田原（横川町上ノ） 下木渉（宮之城町広瀬）  
（ “ 南瀬） （寺落院町西牟田） 紫尾谷（宮之城町平川） 鮎峰（笠沙町片瀬）

## 【III】分布

（県外） 志美（石狩） 鮎川（秋田県男鹿） 志比嶽（金沢） 志比内（上川） 志比田町（宮崎市） 鮎立（一関）

## 【IV】出自（『三代実録』）

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 866 貞觀八年四月七日辛巳授   | 薩摩國正六位上紫美神 従五位下 |
| 868 貞觀一〇年三月廿九日壬寅授 | 薩摩國正六位上紫美神 従五位下 |

## 【V】記録文書（雑載）

- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| 1292 正応五年卯月七日 <限南祁答堺紫尾平尾> | 『和泉保道譜状』<br>『平德重覚書』 |
| 1464 寛正五年 <閏八月虎井・柏原・紫尾>   |                     |

## 【VI】由来・諸説

- ① 「紫雲」説 \*空覚上人の夢中に大権現のお告げがあり、目醒めると山に美しい紫の雲がたなびいていた
- ② 「紫紐」説 \*徐福が秦の始皇帝の命で不老不死の妙薬を求めて冠嶽からこの山に来て紫の紐を忘れた。
- ③ 「柴引」説 \*寛永年間に神社の改築があり松材を伐採した所が松ヶ野、雜木を柴山から引き出したので「柴引」。紫尾はこの「シバビキ」の略だと。（口伝・大正四年『神社取調帳』記載）
- ④ 「シビ」説 \*「優美なる山」の意味のアイヌ語
- ⑤ 「シビ」説 \*「静かなる山」の意味のアイヌ語
- ⑥ 「シブ」説 \*今接に紫美とは波と同音にて船泉より出し名也

## 【VII】「紫尾神」考

- |         |   |   |
|---------|---|---|
| ④ 祭神    | @鶴田 :伊弉册尊・事解男・速玉男 /<br>@野田 :上記に同じ /   | 『三国名勝図会』<br>『三国名勝図会』                            |
| ⑤ @上宮   | :上宮権現社は出水の所轄なり /  | 『三国神社伝記』<br>『三国名勝図会』                            |
| ⑥ 神社数   | (『鹿児島縣地誌・下巻』よりの抽出データ)<br>熊野系 19例 日置3・川内6・入来4・大口4・出水2<br>紫尾系 12例 東郷6・宮之城4・出水2 (柏原村に古紫尾神社、切開神社あり) | 『鹿児島地理算考』<br>『柏原村にあり古紫尾権現とも号す、紫尾三所の内、下宮なりと云説あり』 |
| ⑦ 古紫尾神社 | (延宝三年 1675 九月再興ノ棟札アリ創建詳ナラズ)<br>柏原村にあり古紫尾権現とも号す、紫尾三所の内、下宮なりと云説あり                                 | 『三国名勝図会』  |

## 【VIII】考証（アボック社『日本地名索引』による分類）

- |       |  |
|-------|--|
| ① しば→ | 芝・柴・芝川・芝野・芝原・朱倉・柴崎・柴山など155例<br>シバは「芝」や「柴」に通じ、「島」の可能性もある。 |
| ② しひ→ | 鮎峰・志引・志比嶽・鮎川・志比田町・志美など13例<br>シビは                         |
| ③ しぶ→ | 波・波川・波沢・渋谷・渋峰・波見・波沼など89例<br>シブは波み、鉄サビのこと。また、温泉による波みのこと。  |
| ④ しぶ→ | 芝生・柴尾・柴生・忍草など12例<br>シボは「しぶう」に通じ狭くなった地形。土地が「しぶむ」場所        |

山南紫尾村に紫尾祠あり、貞觀年中に授位せられる紫美神則是なり、土俗之を下宮と呼ぶ。下宮は熊野大神なりと称す、社前に嚴島神を祭る、又其側に鉱泉湧出する、往時此の下宮の供僧房を祁答院神興寺と曰ひ練行の徒多かりき峰頂上宮権現社を建つ。紫尾山神社は伊佐郡紫尾村に鎮座す。始め上宮岳に垂跡し給へり。（以上『地名辞書』）

当社の神は孝元天皇の時異国より來たり、上宮嶽に跡を垂れ、下宮の地に紫雲たなびけり、其後空覚上人當山の靈なるを見て、社及び護持の精利を建立せんと欲す・・・

上宮山紫尾神社あり、西方頂上を「宮床」「宮處」と云う。紫尾山は性空上人の開基し所なりといえる旧記あり。性空上人は延喜四年に生れ寛弘四年に入滅したれば今から千年以上を経たり。

江之口氏のレジメ “難解な地名(一) 老神”

No.8 大井大明神 川内楠元

大井神田 三拾(故) 門マカリ [X文書207P] (天文6=1537)

← 二の底、いつへて 別邸のように問答した  
次第でした。

(本田) 江之口さんのレジメ、No.8 大井大明神の所に  
「大井神田 三拾(故)」とあります。江之口さん  
入来文書に“故”的字が あったでどうか。」

(江之口) いいえ。

(本田) 三拾は 卅とおひたでしょう。

(江之口) はい、そうです。

(本田) では、これは三十故ではなくて、三十代(シロ)です。  
この時代までは 地積単位としての‘故’ではなくて、  
何町何反何十代と呼びました。1反=50代でしたし、  
また 1反=360歩でしたから、1代は  $360 \div 50 = 7.2$  歩  
でした。ですから神田の30代は 現代の7故余りで、  
30故=3反と比べたら 大変な開きがあります。

1反が今のように300歩になったのは 豊臣秀吉からで、  
秀吉は部下に戦功賞として 土地を与えるに際し、

1反=360歩を 2割方 ピンハネして 1反=300歩として与え  
ました。その時に 1反=10故といひが きつたさうです。  
ですから秀吉以前と以後とは、名目は同じ量でも 実際  
大差があることに注意する必要があります。

(なお207ページの入来文書を 天文6=1537年としてあるのは  
誤りで、この文書は永正15=1518年前後と推定され  
ています。)